ワークスペース環境管理™ 2411

Workspace Environment Management は、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops™展開に最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これはソフトウェアのみの、ドライバー不要のソリューションです。

リソース管理 - ユーザーに最高の体験を提供するために、Workspace Environment Management はユーザーとアプリケーションの動作をリアルタイムで監視および分析し、その後、ユーザーワークスペース環境で RAM、CPU、および I/O をインテリジェントに調整します。

プロファイル管理 - 最高のログオンパフォーマンスを提供するために、Workspace Environment Management は、一般的に使用される Windows グループポリシーオブジェクト、ログオンスクリプト、および設定を、各仮想マシンまたはサーバーに展開されるエージェントに置き換えます。エージェントはマルチスレッドであり、必要な場合にのみユーザー環境に変更を適用するため、ユーザーは常に可能な限り迅速にデスクトップにアクセスできます。

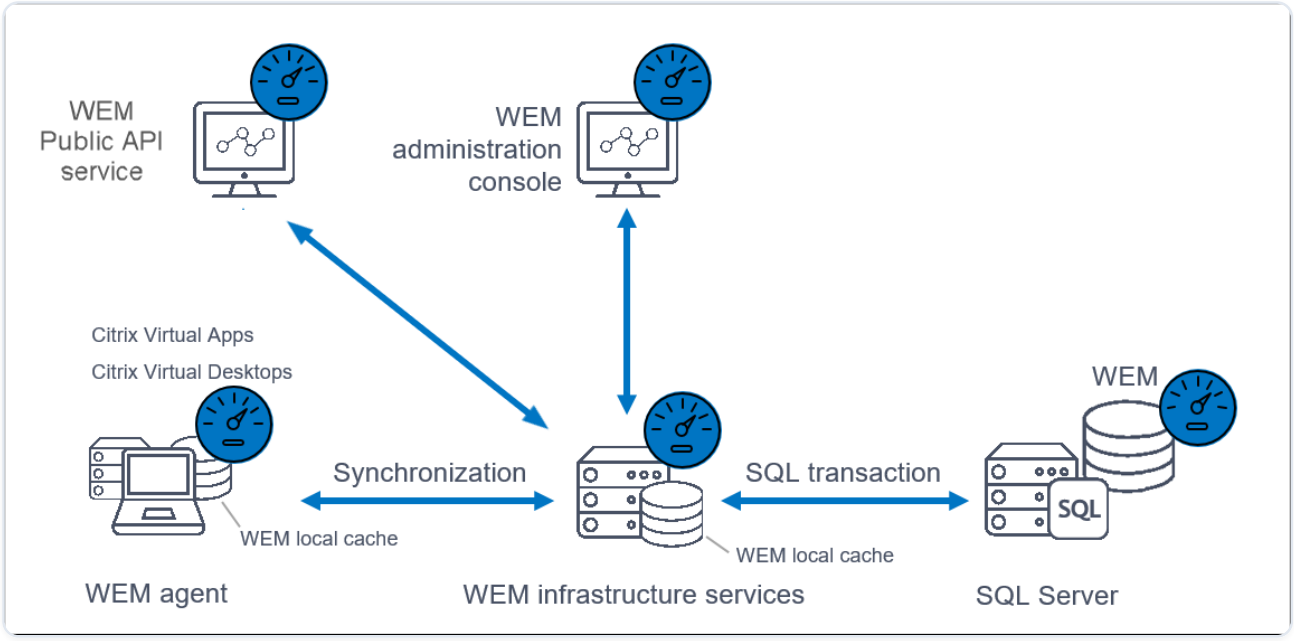
アップグレードについては、展開のアップグレードを参照してください。

現在のリリースをインストールする方法については、インストールと構成を参照してください。

> **注:**
>
> Workspace Environment Management は、Citrix Virtual Apps and Desktops の Current Releases (CR) ライフサイクルに含まれています。詳細については、製品マトリックスを参照してください。

技術概要

Workspace Environment Management (WEM) のアーキテクチャは次のとおりです。



インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスは、マルチセッション OS にインストールされます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

> **注:**
>
> インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos 認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。

> **管理コンソール**。Workspace Environment Management 管理コンソールは、シングルセッションまたはマルチセッション OS にインストールされます。これはインフラストラクチャサービスに接続します。管理コンソールを使用して、Workspace Environment Management のインストールを管理します。たとえば、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

WEM Public API サービス。Workspace Environment Management Public API サービスは、WEM Web コンソールをサポートし、WEM インフラストラクチャサービスと通信するための HTTPS サービスを提供します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。エージェントは Virtual Delivery Agent (VDA) に展開できます。これにより、シングルセッ

ションまたはマルチセッション環境を管理できます。物理 Windows エンドポイントにエージェントを展開することもできます。

注:

- エージェントはインフラストラクチャサーバーにインストールできません。このシナリオでは、エージェントインストーラーが失敗します。
- Transformer 機能はマルチセッション OS ではサポートされていません。

SQL Server データベース。Workspace Environment Management は、設定を保存するために SQL Server データベースを必要とします。必要に応じて、データベースは SQL Server Always On 可用性グループでホストできます。(詳細については、「システム要件」を参照してください。)

Microsoft Active Directory サーバー。Workspace Environment Management は、設定をユーザーにプッシュするために Active Directory へのアクセスを必要とします。

ヒント:

最新の Workspace Environment Management インストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktops のダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、Citrix Virtual Apps and Desktops の最新バージョンの の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

新機能

2411の新機能

> ヒント:

> 最新のWorkspace Environment Managementインストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktopsダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、Citrix Virtual Apps and Desktopsの最新バージョンの**コンポーネント**の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

> このリリースには、ユーザーエクスペリエンスを向上させるための以下の新機能と、問題への対応が含まれています。

ログのエクスポート

この機能を使用すると、インフラストラクチャサービスとWebコンソールのログをGrafanaやSplunkなどのサードパーティプラットフォームにエクスポートできます。設定後、インフラストラクチャサービスとWebコンソールのログは1分以内に指定されたプラットフォームに送信されます。ログのエクスポートが不要になった場合は、いつでも設定を無効にしたり削除したりできます。詳細については、「グローバル構成」を参照してください。

Splunkへのデータエクスポートのサポート

以前は、エージェントレポートをサードパーティプラットフォームにエクスポートする際、Grafanaにのみ制限されていました。

この機能により、Splunkにも簡単にデータをエクスポートできるようになりました。

詳細については、「サードパーティプラットフォームへのエクスポート」を参照してください。

WEM Health CheckツールのWEM Tool Hubへの統合

WEM Health CheckツールがWEM Tool Hubのホームページに統合され、アクセスと使用が容易になりました。このツールは、WEMエージェントまたはインフラストラクチャサーバーでチェックを実行し、WEM展開の潜在的な問題を特定します。詳細については、「WEM Health Checkツール」を参照してください。

柔軟な管理のためのサードパーティプラットフォームへのデータエクスポートのサポート

以前は、レポートのエクスポートはクラウドストレージまたはローカルマシンにのみ制限されており、タスクの結果を効果的に分析および監視する能力が妨げられていました。

この機能により、Grafanaなどのサードパーティプラットフォームにレポートデータを簡単に構成およびエクスポートできるようになりました。この機能強化により、自動的にスケジュールされたか手動で開始されたかにかかわらず、外部分析ツールをシームレスに統合して利用し、包括的なパフォーマンス監視と分析を行うことができます。

詳細については、「レポート」を参照してください。

WEM Tool Hub のプロファイル移行ツール

新しいプロファイル移行ツールを使用すると、さまざまな種類のプロファイルを Citrix® コンテナベースのプロファイルソリューションに移行できます。この機能により、プロファイルの移行プロセスが簡素化され、スムーズな移行とユーザーワークフローへの影響を最小限に抑えることができます。以下の種類のプロファイルがサポートされています。

- **FSLogix プロファイルコンテナ**
- **Citrix ファイルベースソリューション**
- **ローカルプロファイル**

詳細については、「プロファイル移行ツール」を参照してください。

アプリケーションアクセス制御ルールのテストのサポート

テスト環境または本番環境に展開する前に、ローカルマシンでアプリケーションアクセス制御ルールを検証できるようになりました。詳細については、「アプリケーションアクセス制御のルールジェネレーター」を参照してください。

運用作業を軽減するための新しい組み込みスクリプトタスクの追加

管理者が組み込みのスクリプトタスクを直接使用し、運用作業を軽減するのに役立つ、より価値のある組み込みスクリプトタスクが追加されました。この機能は、未登録のVDAの問題を解決し、CDFトレース構成を設定します。詳細については、「スクリプトタスク」を参照してください。

新しいレジストリ値タイプを使用したレジストリおよびGPO設定の構成

- REG_NONE レジストリ値タイプは、文字列、整数、バイナリデータなどの他の事前定義されたデータカテゴリに適合しない設定やパラメータを指定する方法を提供することで、よりカスタマイズされた構成のために導入されました。この柔軟性を利用して、固有または特殊な構成を処理できます。
- REG_NONE レジストリ値タイプは、以下の機能をサポートしています。
  - レジストリエントリの作成/更新アクションにおいて
  - レジストリエントリベースのGPOアクションの作成/更新において
  - レジストリエントリベースのGPOをインポートする場合
  - エージェント側で
  - レガシーコンソールの場合
  - Webコンソールおよびレガシーコンソールからのバックアップと復元の場合
- 詳細については、「GPOの作成」および「グループポリシー設定のインポート」を参照してください。

GPOの表示

WEMグループポリシー設定を表示できるようになりました。GPOを編集せずに、読み取り専用モードでGPOの概要を確認できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

詳細については、「レジストリベースの設定」を参照してください。

WEM選択的リセット機能

WEMは、WEMアクション追跡キャッシュを選択的にリセットするように強化されました。**「キャッシュされたアクションのリセットをユーザーに許可する」を有効にすると、**「キャッシュされたアクションのリセット」**がオンになります。これをクリックすると、新しいウィザードが表示され、リセットが必要なキャッシュされたアクションを選択できます。この機能強化に

より、JSONファイルまたはユーザーグループポリシーオブジェクトの処理履歴をリセットできます。リセット後、アクションは後続のユーザーログオン時に処理されます。

ログオン期間を監視および診断するための新しいインサイトの導入

この機能強化により、プロファイルコンテナとGPP処理のインサイトが導入され、ログオン期間の監視と診断が可能になります。この機能により、ログオンの遅延を引き起こす可能性のある問題を特定し、問題を解決するための推奨事項を提供できます。

詳細については、「Windowsログオン分析」を参照してください。

特権昇格

- この機能強化により、Webコンソールを使用して特権昇格ルールを構成し、ユーザーに割り当てることができます。 ルール構成に必要なファイル情報（パス、発行元、ハッシュ値など）を取得するために、WEM Tool Hubの既存の**ファイル情報ビューア**を使用できるようになりました。
- 詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/manage/configuration-sets/security-web-console.html#privilege-elevation)および(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/manage/configuration-sets/assignment.html#manage-assignments-for-a-target)を参照してください。

WEM Webコンソール用のアプリケーションセキュリティルール

この機能を使用すると、さまざまな種類のアプリケーションセキュリティルールを作成および構成し、Webコンソールでユーザーに割り当てることができます。この機能は、アクション割り当てに使用されるワークフローと同じワークフローを使用します。AppLockerで構成されたルールをインポートして、WEMで管理できるようになりました。WEM Tool Hubを使用して、パス、発行元、ハッシュ値など、ルール構成に必要な情報を取得することもできます。詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/manage/configuration-sets/security-web-console.html#application-security)および(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/reference/wem-tool-hub.html#file-info-viewer)を参照してください。

APIサービス偽装のためのグループ管理サービスアカウントのサポート

- APIサービス偽装にグループ管理サービスアカウント (gMSA) を使用できるようになりました。セキュリティを向上させるために、ドメインアカウントまたはgMSAを使用できます。この機能により、WEM Webコンソール構成ツールの更新されたUIを使用して、WEM APIサービスにgMSAを選択および構成できるようになりました。

- 詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/install-and-configure/web-console.html#configure-and-start-the-web-console)を参照してください。

さまざまなWEM展開のために単一フォレストで複数のSPNを構成する

- 以前は、同じフォレスト内にある個別のドメインに対して、1つのサービスプリンシパル名 (SPN) しか作成できませんでした。
- この機能により、さまざまなドメインにわたるさまざまなWEM展開のために、単一フォレストで複数のSPNを構成できるようになりました。
- 詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/install-and-configure/infrastructure-services.html#create-a-service-principal-name)を参照してください。

拡張されたアプリアクセスコントロール機能でルールジェネレーターを更新

- アプリアクセスコントロール用ルールジェネレーターツールは、**アプリアクセスコントロールポリシーの拡張機能** をサポートするようになりました。このツールを使用すると、リダイレクトルールを作成し、ルール割り当ての除外を構成できます。
- 詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/reference/wem-tool-hub.html#rule-generator-for-app-access-control)を参照してください。

プロファイル管理

Workspace Environment Management™は、*2411*までのProfile Managementのすべての *サポートされているバージョン*をサポートするようになりました。以下の機能がWebコンソールで利用できるようになりました。

- **アプリアクセスコントロールポリシーが拡張されました。**このポリシーを使用すると、ファイル、フォルダー、レジストリキー、および値に対してマシンレベルのリダイレクトを実装するルールを使用できるようになりました。さらに、より正確な制御のために、特定のユーザー、マシン、およびプロセスをルール適用から除外できるようになりました。

  この機能は、各構成セットの**プロファイル > プロファイル管理設定 > アプリアクセス制御**で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。
- **フォルダーリダイレクトポリシーがオプションの追加により強化されました。**
  - リダイレクトルール構成の新しいオプション:
    - **ローカルユーザープロファイルにリダイレクト。**フォルダーをローカルユーザープロファイルにリダイレクトできます。

    - **コンテンツを新しい場所に移動**。リダイレクトターゲットフォルダーを設定または変更する際に、以前のフォルダーから新しいフォルダーにコンテンツを移動するかどうかを決定できます。

  - より安全なアクセス制御のための新しいオプション:

    - **特定のユーザーとグループにアクセスを許可します。** 特定のユーザーまたはグループに、リダイレクトターゲットフォルダーに対する**読み取りと実行**のアクセス許可を付与できます。

  この機能は、各構成セットの**プロファイル > プロファイル管理設定 > フォルダーリダイレクト**で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **UWPアプリの読み込み高速化を有効にする。** UWPアプリの読み込みを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させることができます。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録データをローカルに保存しますが、これは非永続環境では再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは各マシンにVHDXコンテナを作成してそのデータを保存し、ユーザーログオンを改善し、再起動時のデータ損失を防ぎます。

  この機能は、各構成セットの**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定**で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

- **プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに警告する。** プロファイルサイズが設定されたクォータを超過した場合にユーザーに通知できます。デフォルト設定に基づいて、クォータ値と通知メッセージをカスタマイズできます。

  この機能は、各構成セットの**プロファイル > プロファイル管理設定 > 詳細設定**で利用できます。詳細については、「Citrix Profile Management 設定」を参照してください。

修正された問題

Workspace Environment Management™ 2411 には、以下の修正された問題が含まれています。

- Active Directoryとトークンを使用して**WEM tool hub > Application assistance**経由でワークスペースにログインしようとすると、空白のワークスペースウィンドウが表示されます。
- 特定の種類のProfile Managementヘルスチェックを使用している場合、ユーザーは**タスク履歴**ページから**レポート**ページにアクセスできません。
- Profile Managementヘルスチェックツールは、非英語OSでWindowsイベントログのアクセス許可に関する警告を誤って報告します。

- スタートメニューのショートカットを作成し、アプリケーションをスタートメニューにピン留めすると、指定されたパスに作成される代わりに、ショートカットがスタートメニューのルートフォルダーに生成されます。この問題は、Windows Server 2022/2019でのみ発生し、Windows Server 2016では発生しません。

既知の問題

Workspace Environment Management™ 2411 には、以下の既知の問題が含まれています。

このリリースでは、問題は確認されていません。

第三者通知

Workspace Environment Management™ の現在のリリースには、以下のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

ワークスペース環境管理 第三者通知

非推奨

この記事のお知らせは、段階的に廃止されるプラットフォームおよびWorkspace Environment Management™の機能について事前に通知し、お客様がタイムリーなビジネス上の意思決定を行えるようにすることを目的としています。Citrix®は、お客様の使用状況とフィードバックを監視して、それらがいつ廃止されるかを決定します。お知らせは、その後のリリースで変更される可能性があり、廃止されたすべての機能が含まれるとは限りません。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、「製品ライフサイクルサポートポリシー」を参照してください。

非推奨と削除

次の表は、廃止または削除されたプラットフォームおよびWorkspace Environment Management (WEM) の機能を示しています。

*廃止された*項目は、すぐに削除されるわけではありません。Citrixは、このリリースでは引き続きサポートしますが、将来のCurrent Releaseで削除されます。アスタリスク（*）が付いている項目は、次回のCitrix Virtual Apps and Desktops Long Term Service Release (LTSR) リリースまでサポートされます。

*削除された*項目は、Workspace Environment Managementで削除されたか、サポートされなくなった項目です。

項目	発表日	削除日	代替
キャッシュ同期ポートのサポート（Workspace Environment Management 1909以前に適用。Workspace Environment Management 1912以降のキャッシュデータ同期ポートに置き換えられました）。	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912以降にアップグレードしてください。注：Workspace Environment Management 2103以降を使用している場合は、Workspace Environment Managementエージェントを1912以降にアップグレードしてください。
VMware Persona設定のサポート。	1906	**1909**	
以下のOSプラットフォームでのWEMインフラストラクチャサービスのサポート：Windows Server 2008 R2 SP1、およびWindows Server 2012。	4.7	**1808**	
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート: Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、Windows 7 SP1 32ビットおよび64ビット、Windows 8.x 32ビットおよび64ビッ	4.7	**1808**	

項目	発表日	削除日	代替
ト、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、および Windows Server 2012。			
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート: Windows Vista SP2 32ビットおよび64ビット、およびWindows Server 2008 SP2。	4.7	**1808**	
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1からWEM 4.xへのインプレースアップグレード。*	4.5	WEM 3.5.2にアップグレードしてから、WEM 4.xにアップグレードします。	
Windows XP SP3 32ビットおよび64ビットでのすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEMエージェントのサポート: Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
GPOを介した既存の（バージョン4.3以前の）エージェントの	4.3		エージェントをWorkspace Environment

項目	発表日	削除日	代替
サイトへの割り当てとバインドのサポート。			Management 4.3以降にアップグレードしてください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット	4.2	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows Vista SP1 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2	4.2	4.5	
Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.0、または4.5.1上のすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2 にアップグレードしてください。

クイックスタートガイド

このガイドでは、Workspace Environment Management™ (WEM) のインストール方法と構成方法について説明します。段階的なインストールと構成の手順、および推奨されるベストプラクティスが記載されています。

概要

WEM は、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これはソフトウェアのみで、ドライバー不要のソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

Citrix® は、最新バージョンの WEM をインストールすることをお勧めします。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの 3 つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。次の手順では、これらのコンポーネントのインストールと構成方法について詳しく説明します。

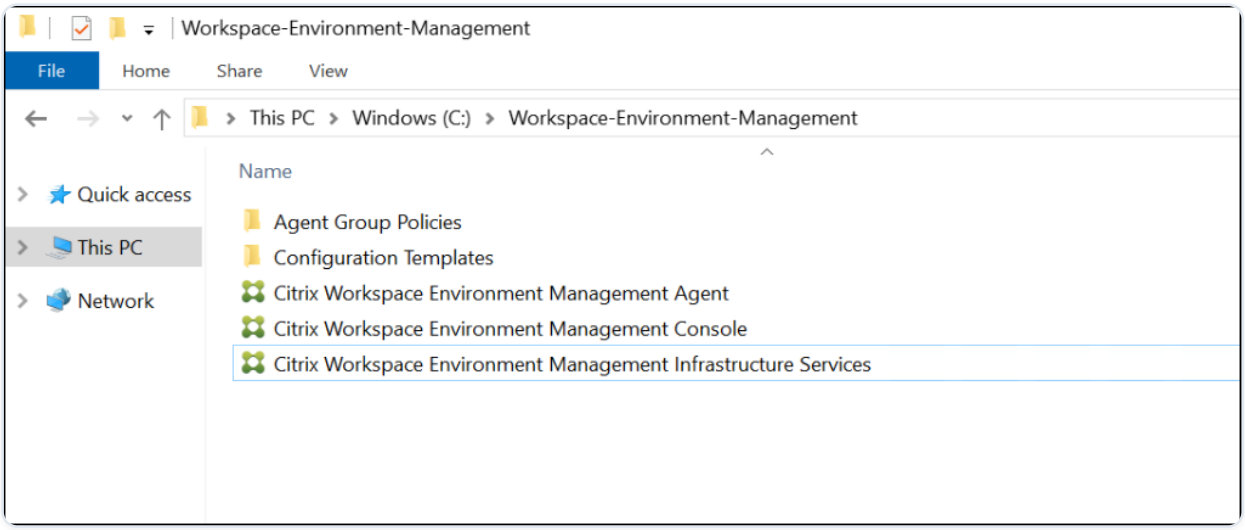
- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Web コンソール
- エージェント

> **注:**
>
> - 上記のコンポーネントをドメインコントローラーにインストールしないでください。

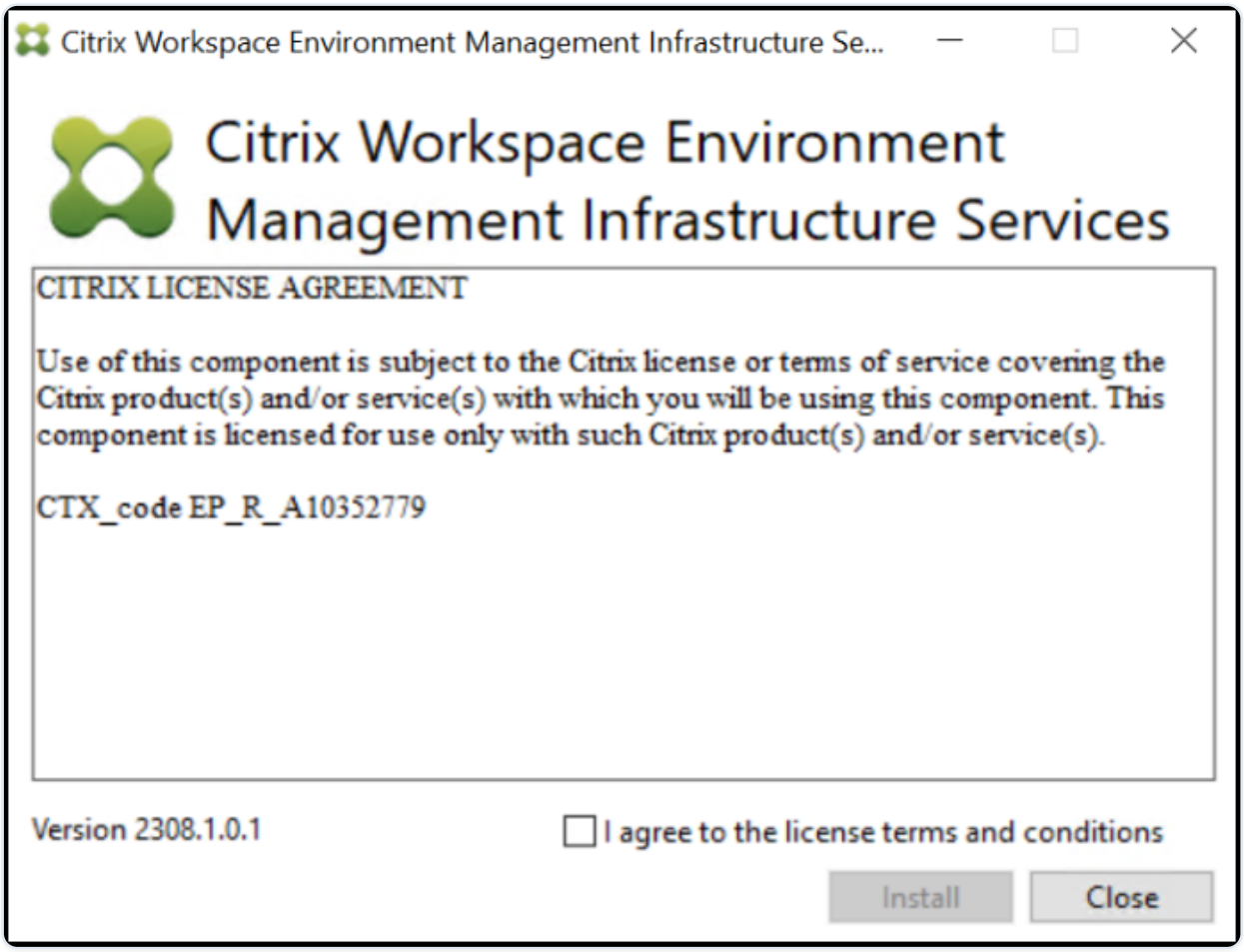
- インフラストラクチャサービスは、Delivery Controller™ がインストールされているサーバーにはインストールしないでください。

ステップ 1: インフラストラクチャサービスをインストールする

1. 最新の WEM インストーラーを Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium Edition Components ダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードします。zip ファイルを任意のフォルダーに展開します。



2. インフラストラクチャサーバーで、**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。
3. 「**インストール**」をクリックします。
4. **次へ**をクリックします。
5. ライセンス契約で「"I agree to the license terms and conditions"」を選択します。

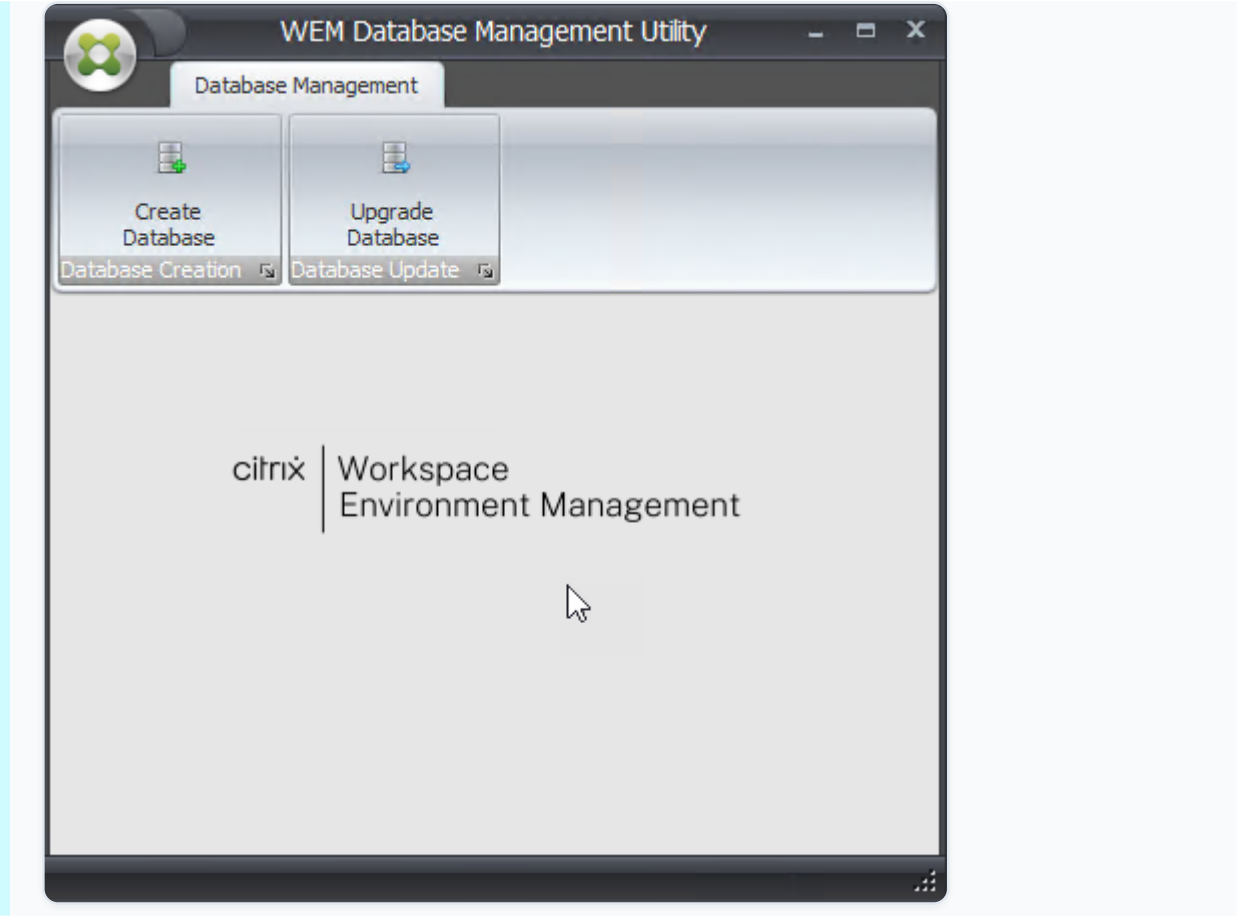


6. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

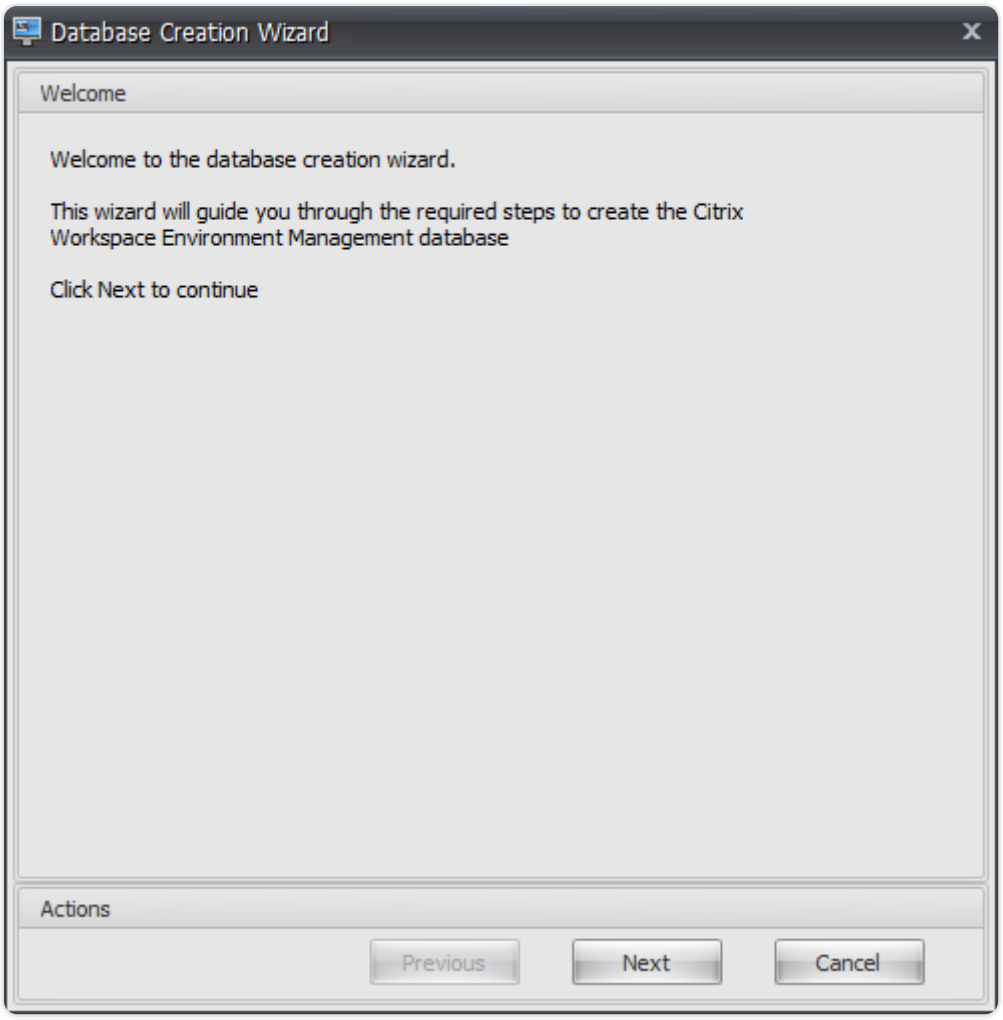
手順2：WEMデータベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、**Create Database**をクリックして、展開用のWEMデータベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

> **注:**
>
> SQL ServerでWindows認証を使用している場合は、システム管理者権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。

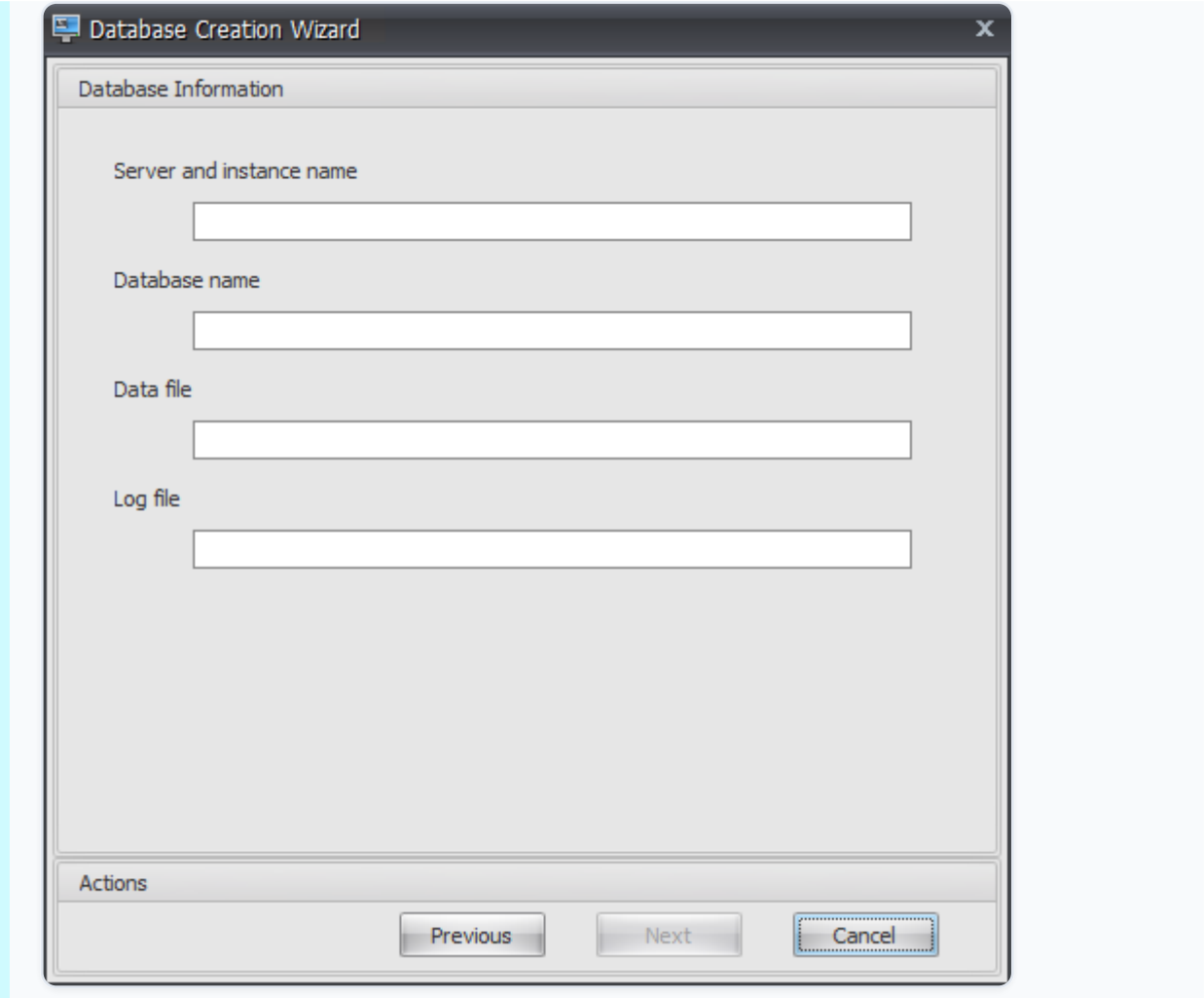


2. ようこそページで、**Next**をクリックします。

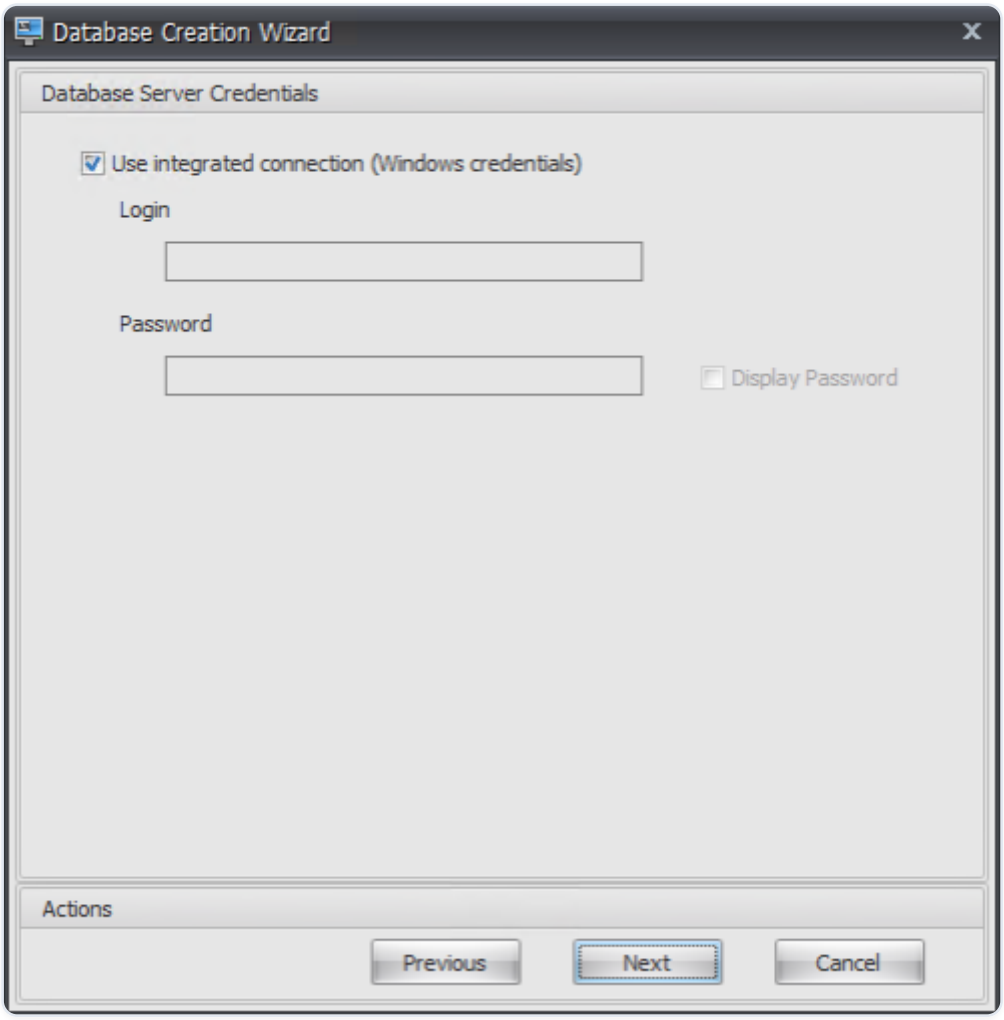


3. データベース情報ページで、必要な情報を入力し、**Next**をクリックします。

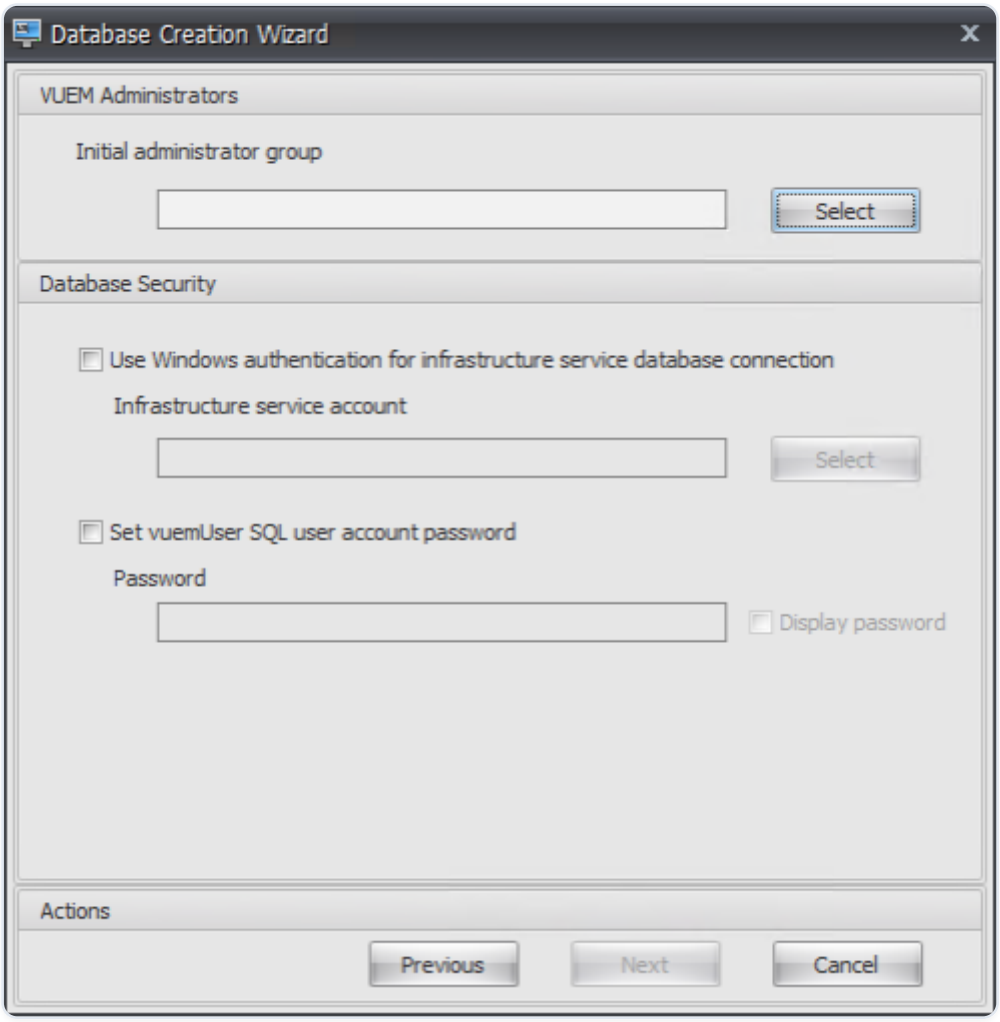
> **注:**
>
> - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動入力されたファイルパスが正しいことを確認してください。



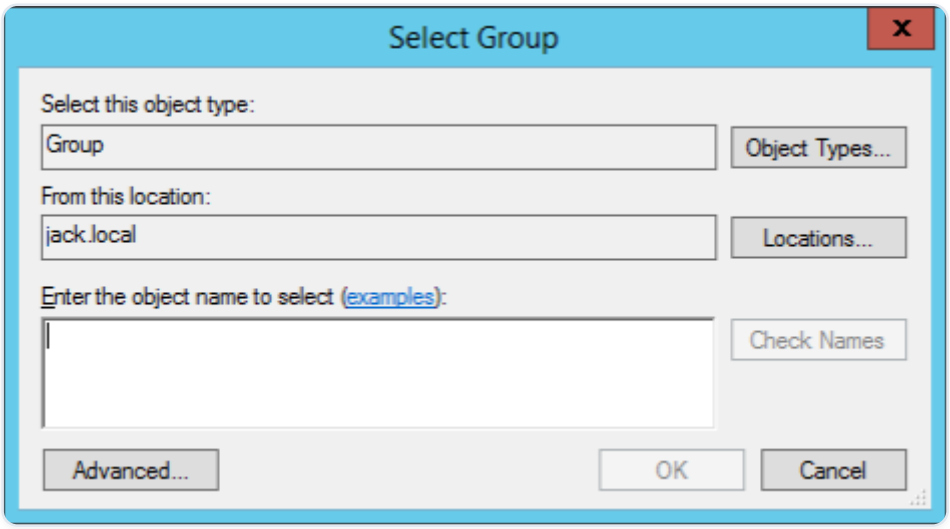
4. データベースサーバー資格情報ページで、必要な情報を入力し、**Next**をクリックします。



5. VUEM管理者で、「**選択**」をクリックします。



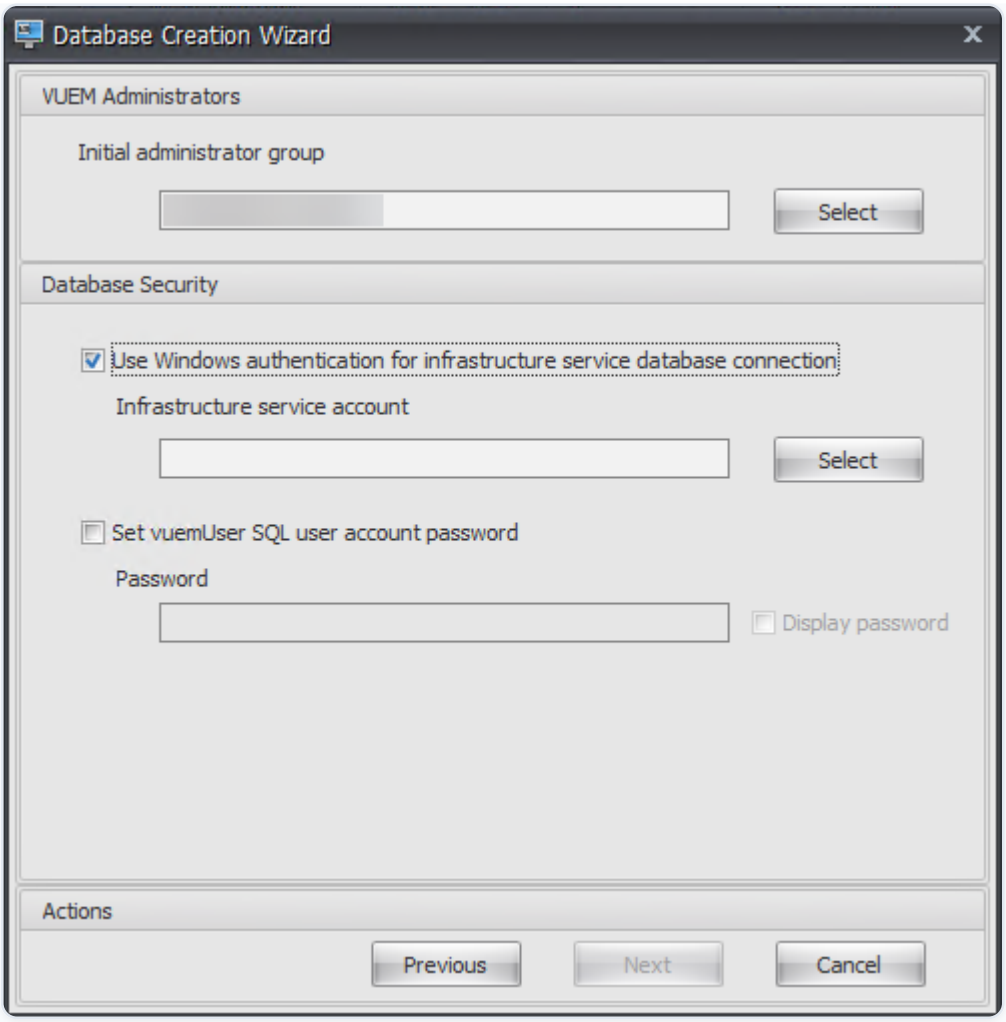
6. 「グループの選択」ウィンドウで、管理コンソールへの管理権限を持つユーザーグループを入力し、「**名前の確認**」をクリックし、その後「**OK**」をクリックします。



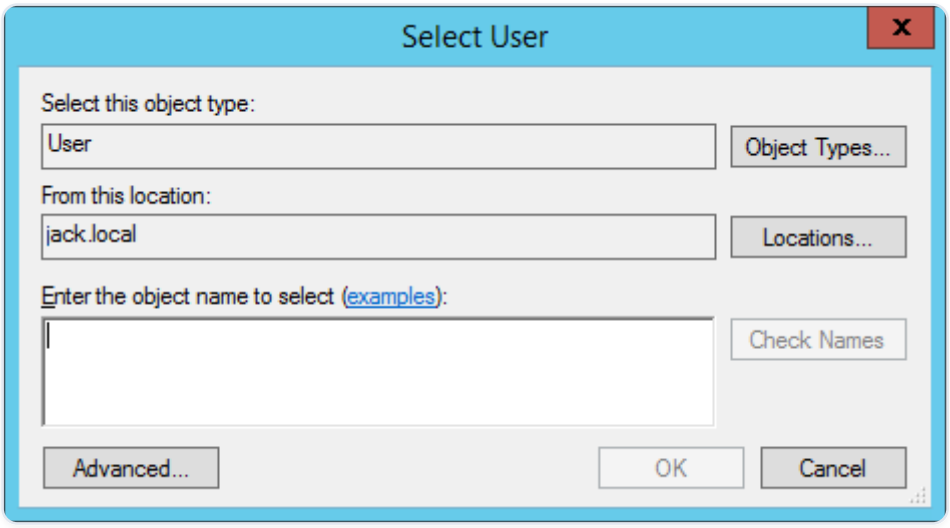
7. 「データベースセキュリティ」で、「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」を選択し、その後「**選択**」をクリックします。

> **注:**

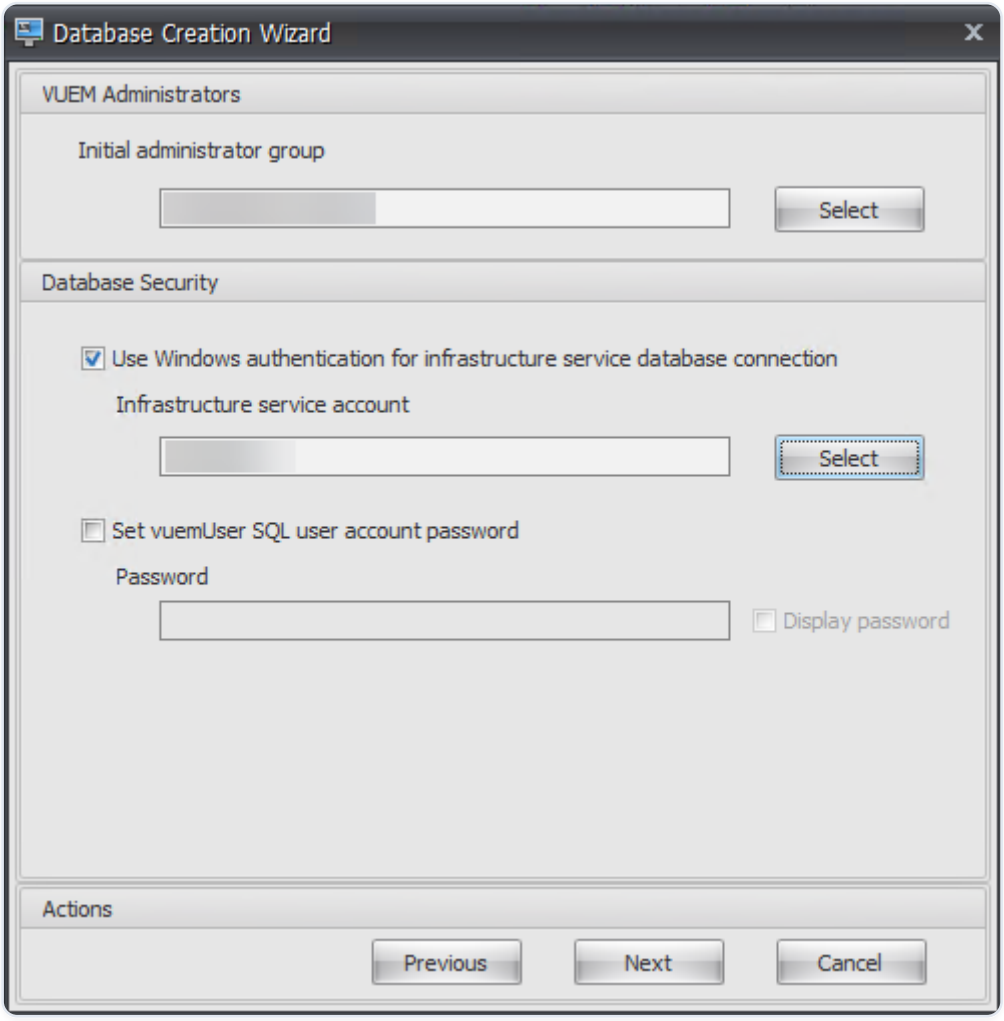
- 「**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**」も「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」も選択しない場合、SQLユーザーアカウントがデフォルトで使用されます。
- 独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを使用するには (たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合)、「**vuemUser SQLユーザーアカウントパスワードを設定する**」を選択します。



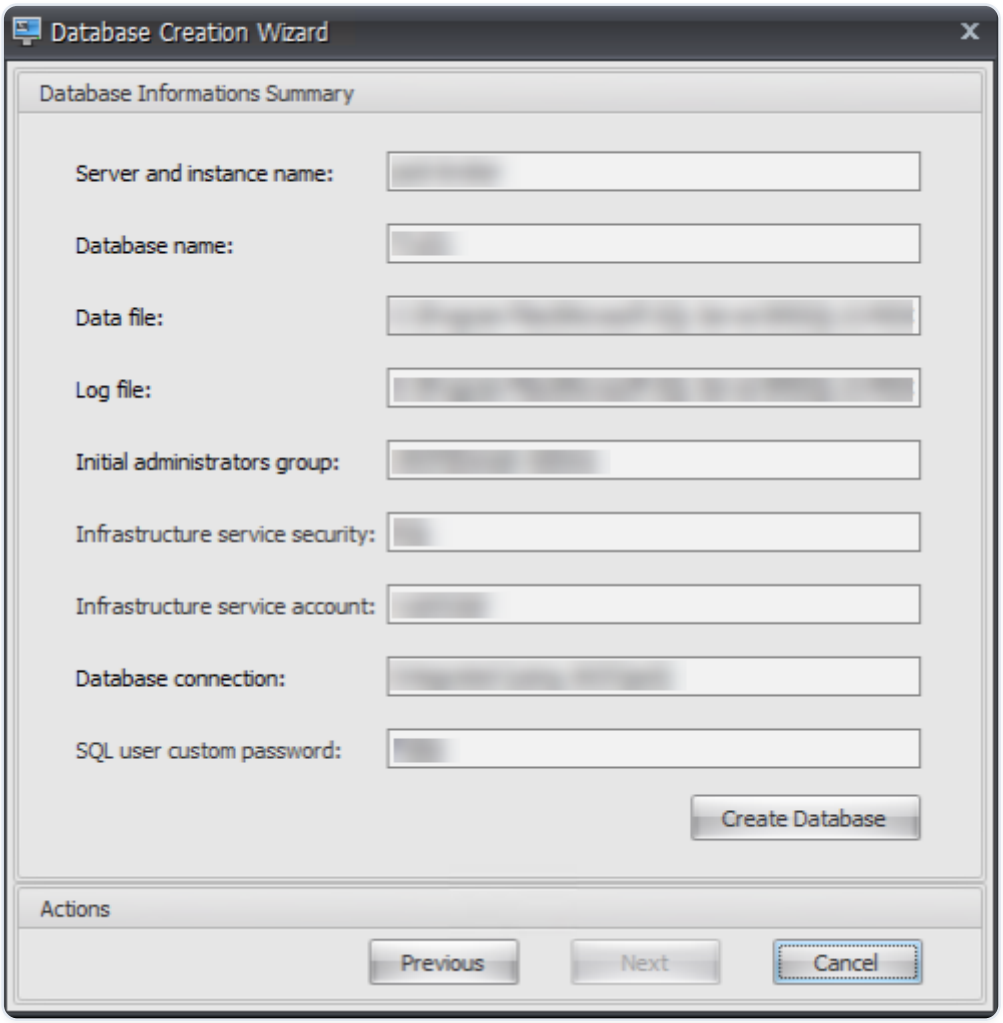
8. 「ユーザーの選択」ウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックし、その後「**OK**」をクリックします。



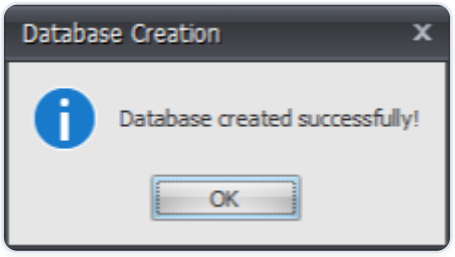
9. **次へ**をクリックします。



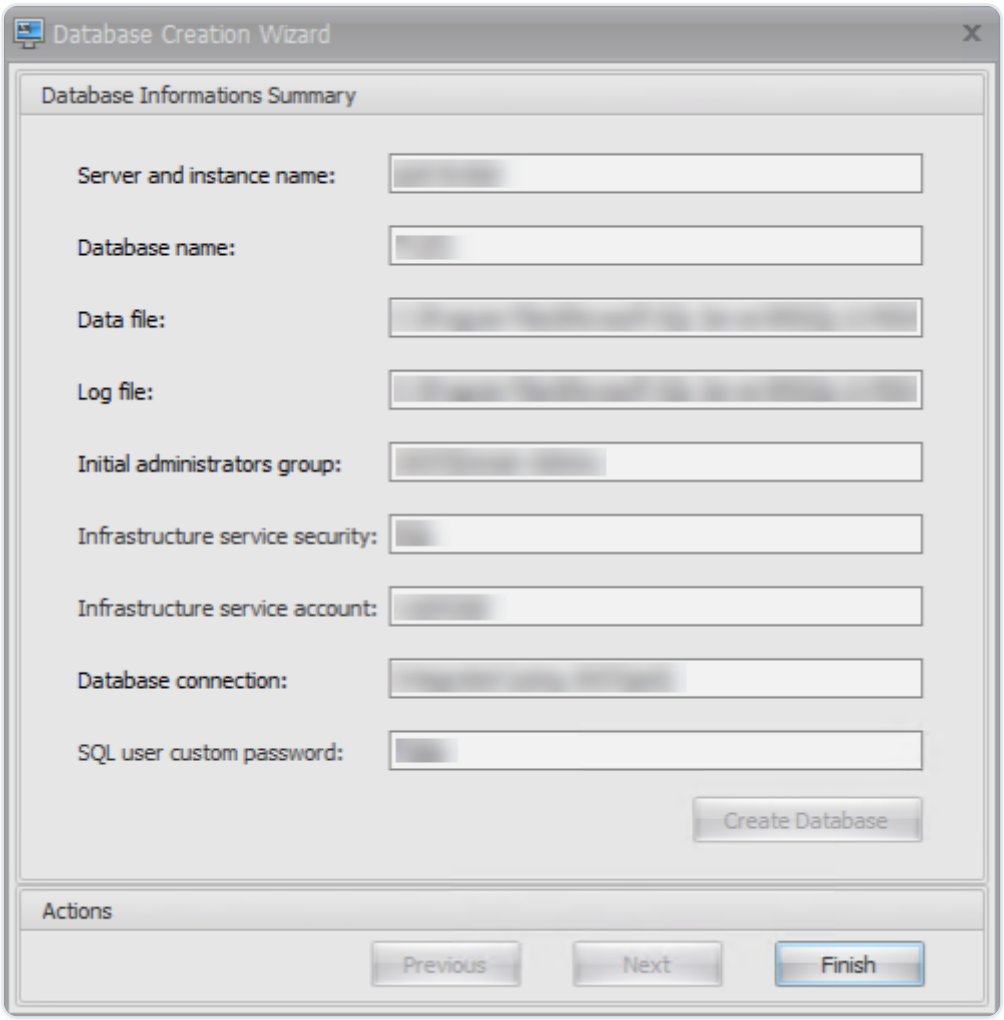
10. 「データベース情報概要」ページで、「**データベースの作成**」をクリックします。



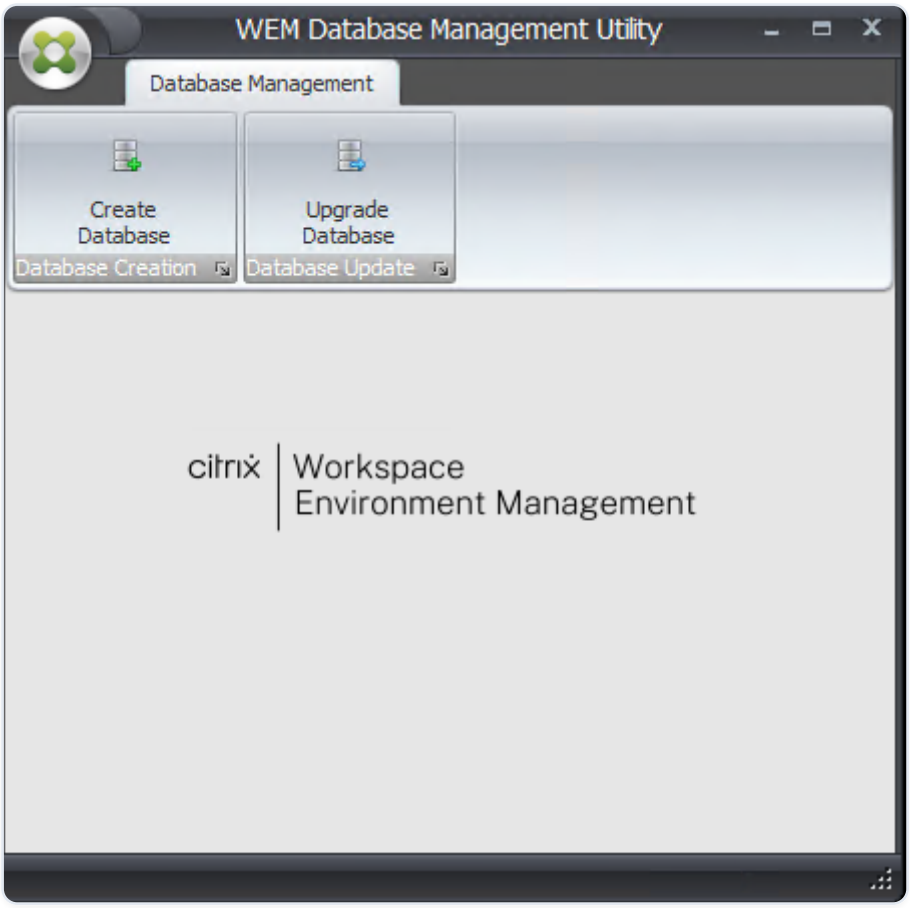
11. **OK**をクリックします。



12. 「データベース情報概要」ページで、**「完了」**をクリックします。

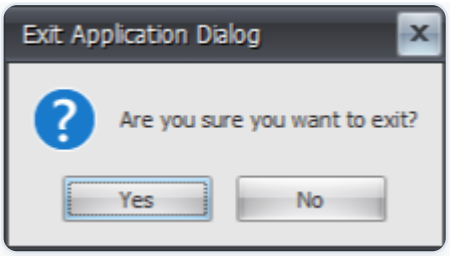


13. **WEMデータベース管理ユーティリティ**を閉じます。



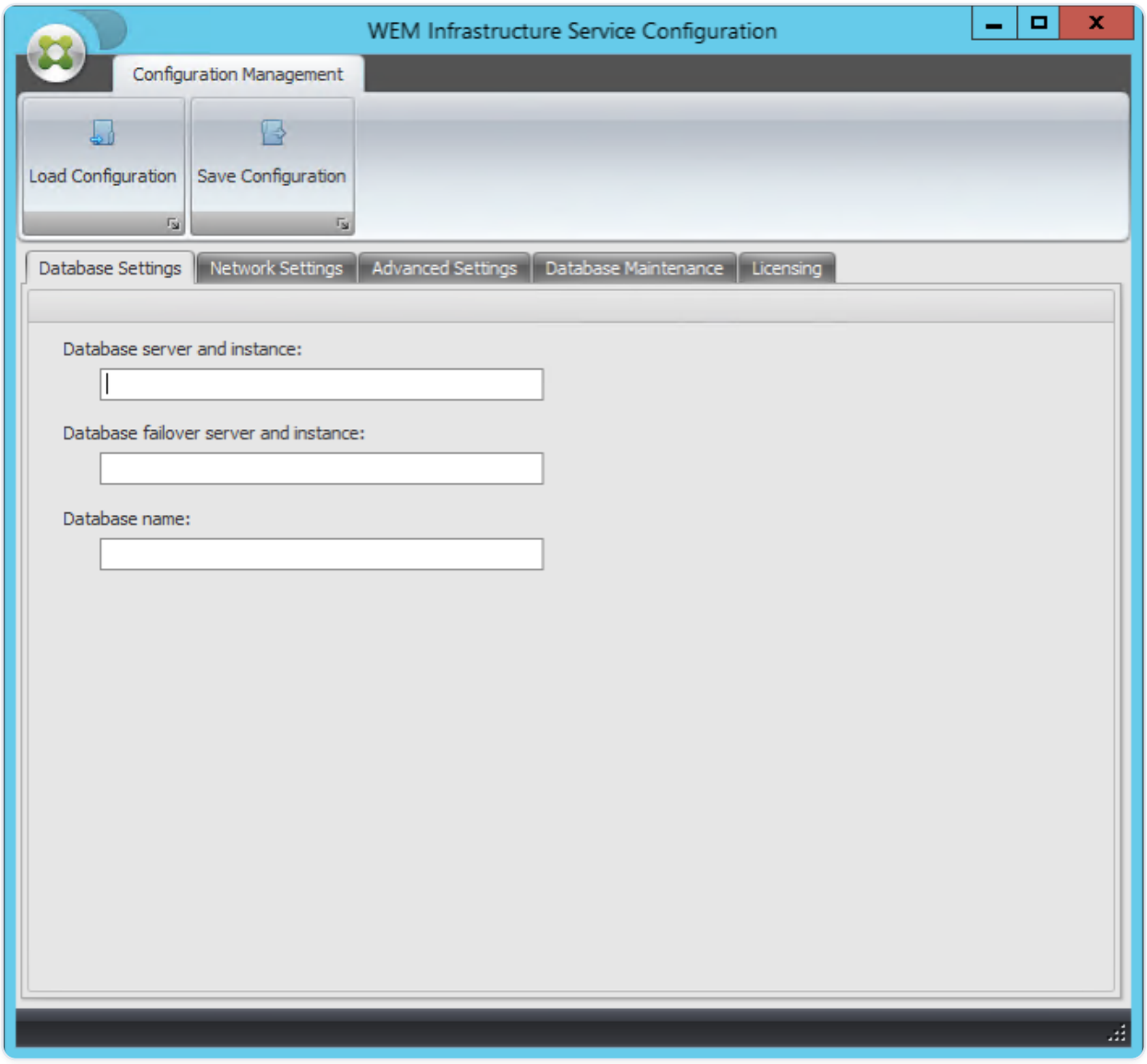
14. 「アプリケーションの終了」ダイアログで、**「はい」**をクリックします。

> **注:**
>
> データベース作成中にエラーが発生した場合は、詳細についてインフラストラクチャサービスインストールフォルダーにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。



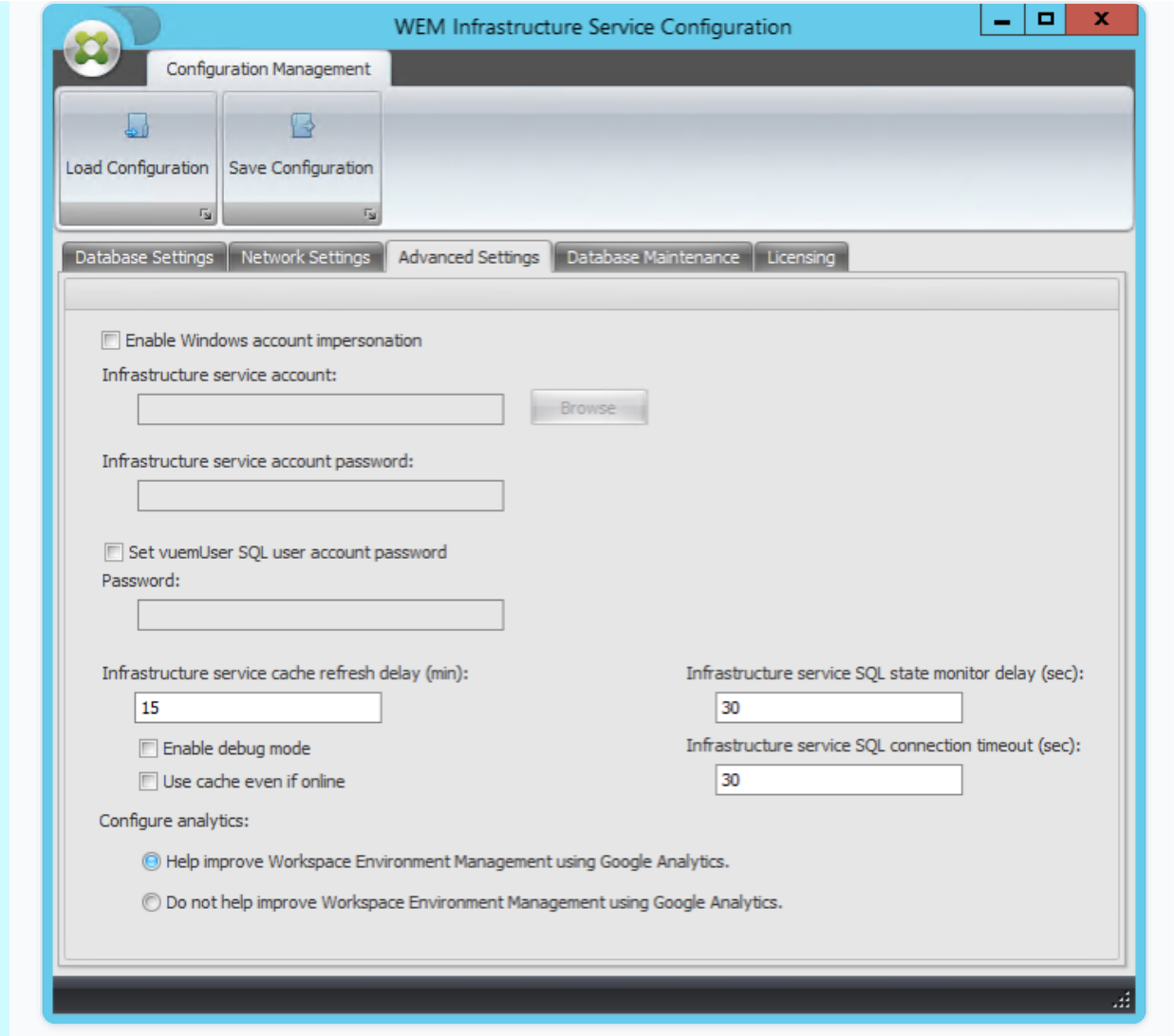
ステップ3：インフラストラクチャサービスを構成する

1. スタートメニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
2. **「データベース設定」**タブで、必要な情報を入力します。

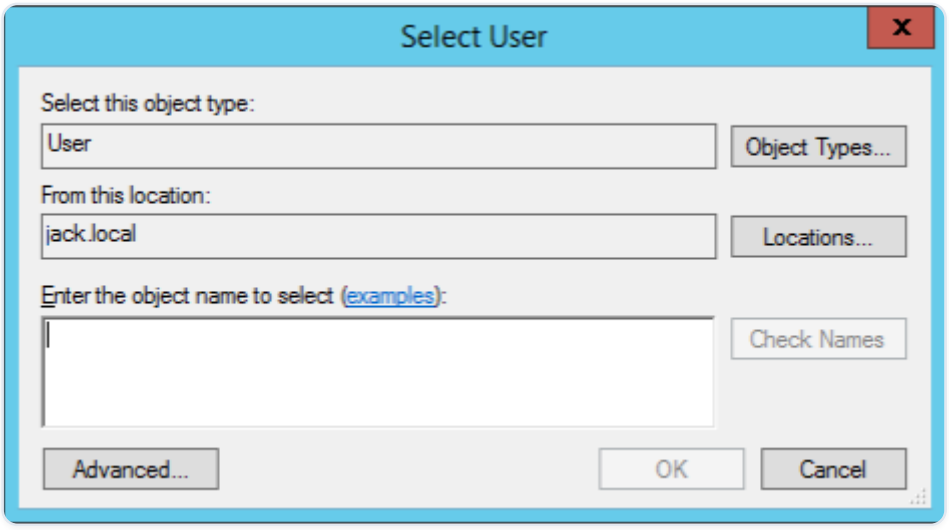


3. **「詳細設定」**タブで、**「Windowsアカウントの偽装を有効にする」**を選択し、**「参照」**をクリックします。

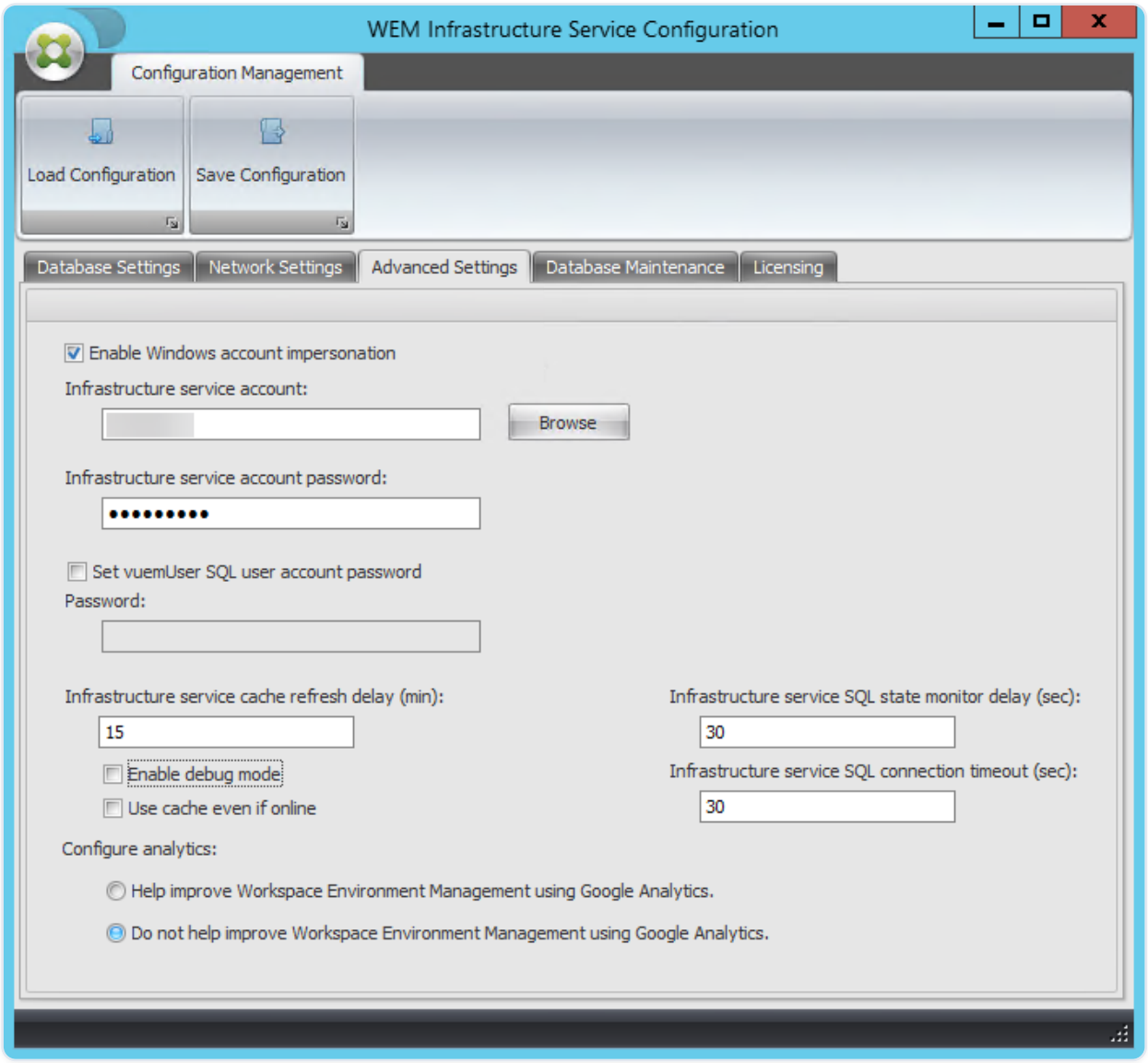
> **注:**
>
> ステップ2でWEMデータベース作成時に行った選択に応じて、**「Windowsアカウントの偽装を有効にする」**または**「vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する」**を選択します。



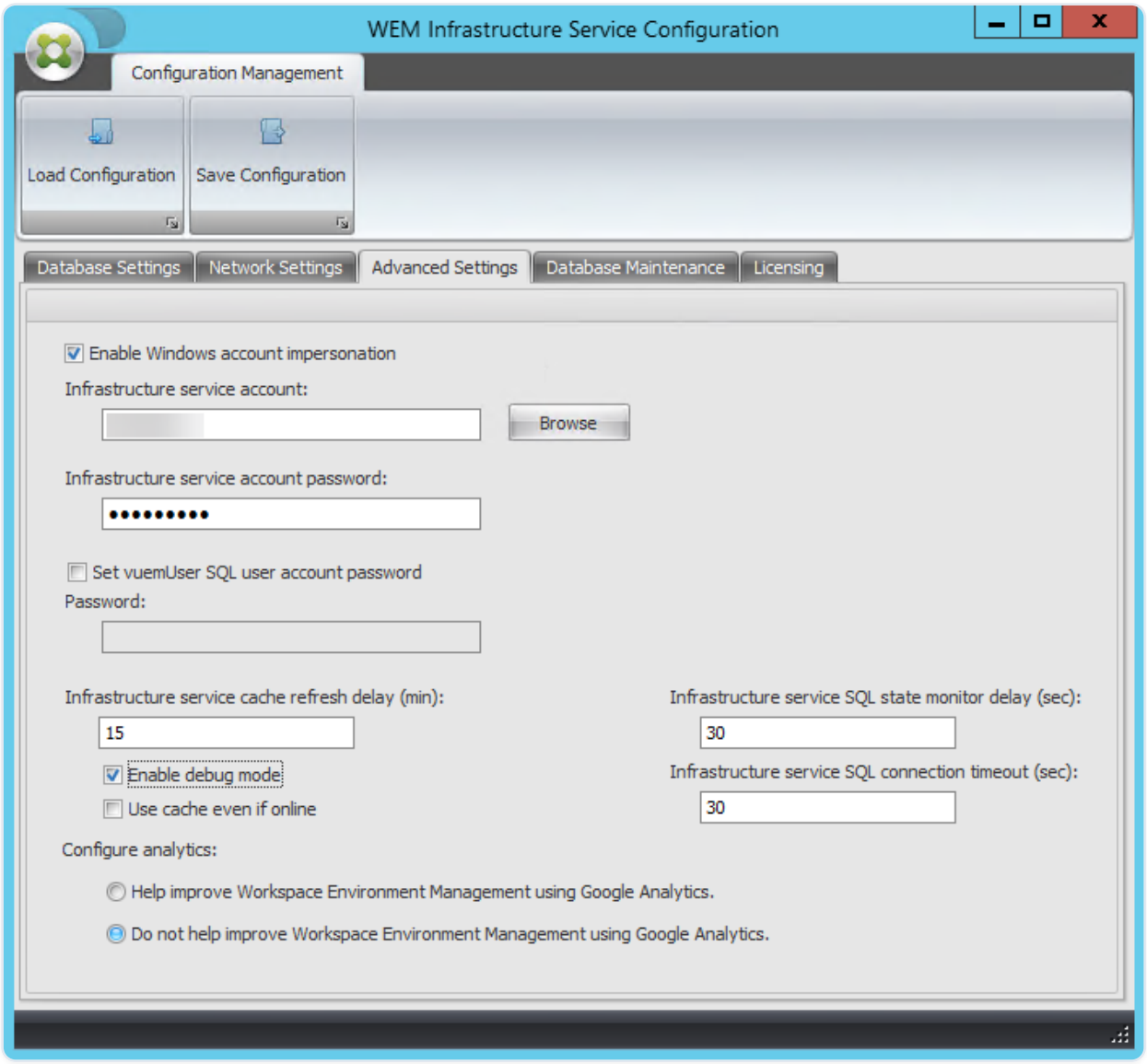
4. ユーザー名を入力し、**「名前の確認」をクリックしてから「OK」**をクリックします。



5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。

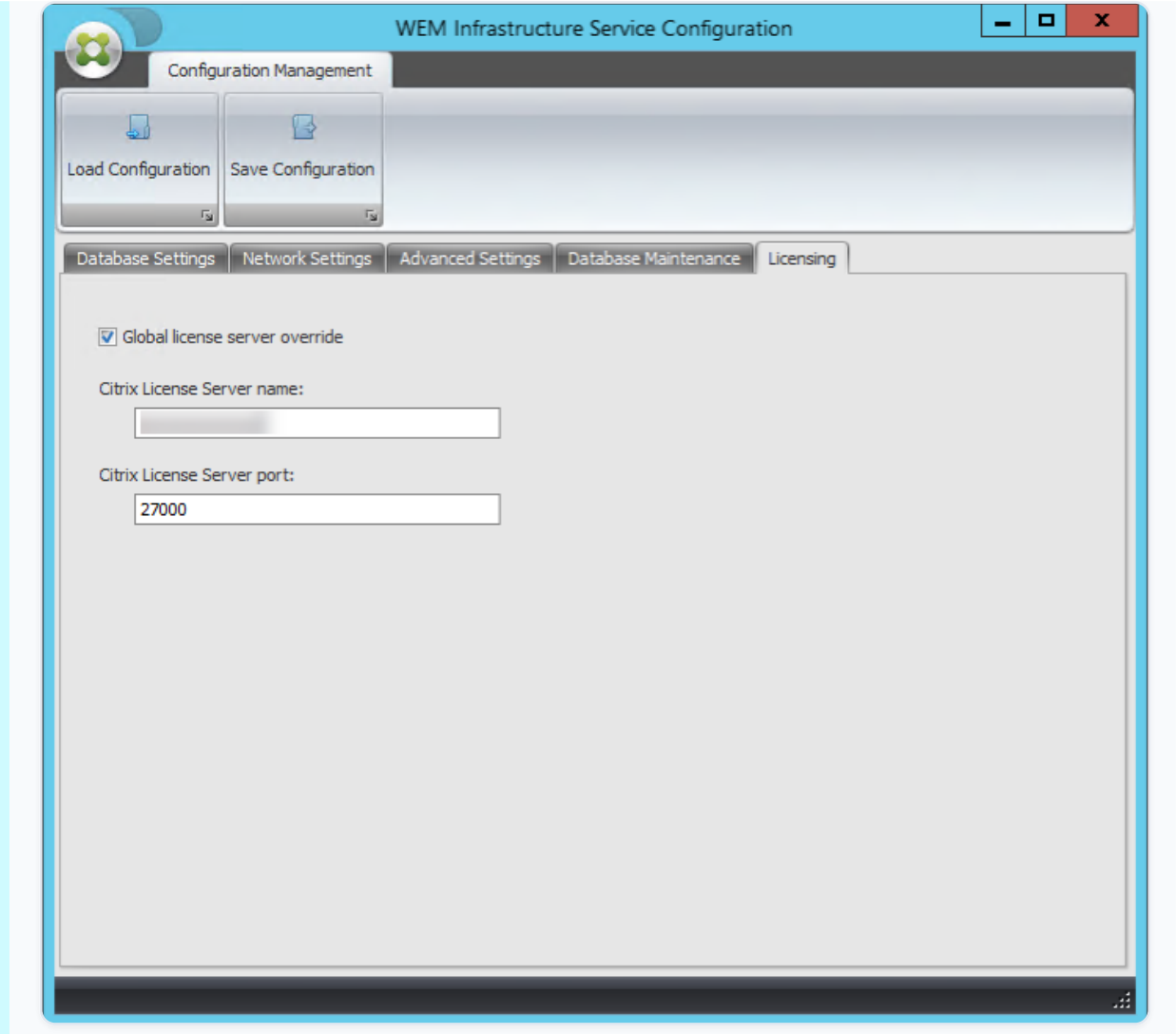


6. **デバッグモードを有効にする**を選択します。

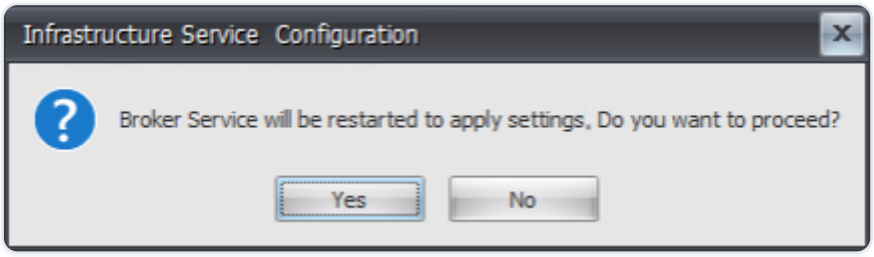


7. **Licensing**タブで、**Global license server override**を選択し、ライセンス情報を入力してから、**Save Configuration**をクリックします。

> **注:**
>
> - Citrix License Server名には、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - Citrix License Serverポートの場合、デフォルトポートは27000です。



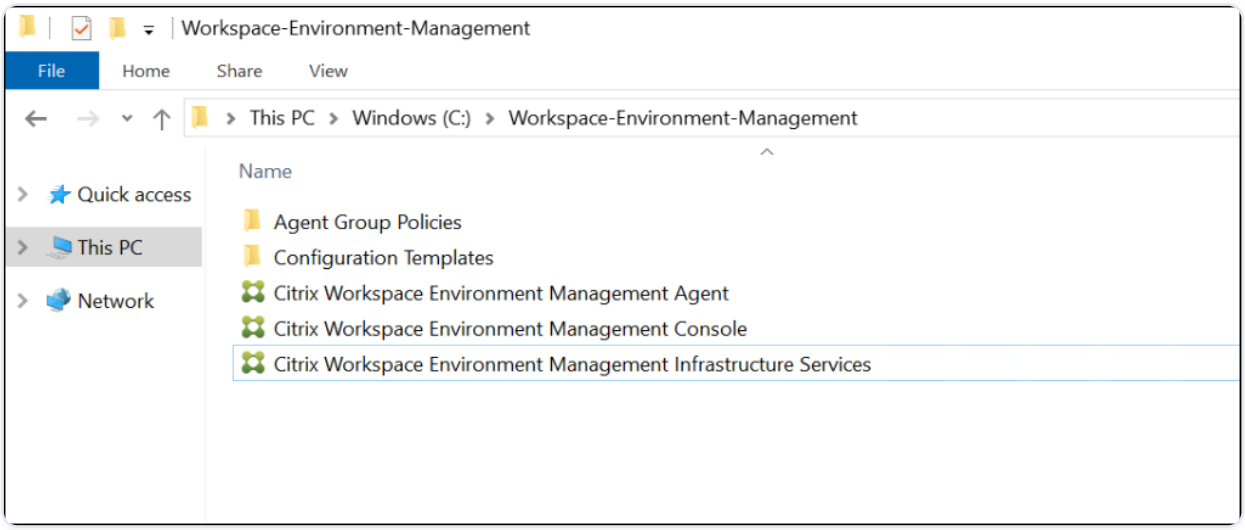
8. **はい**をクリックします。



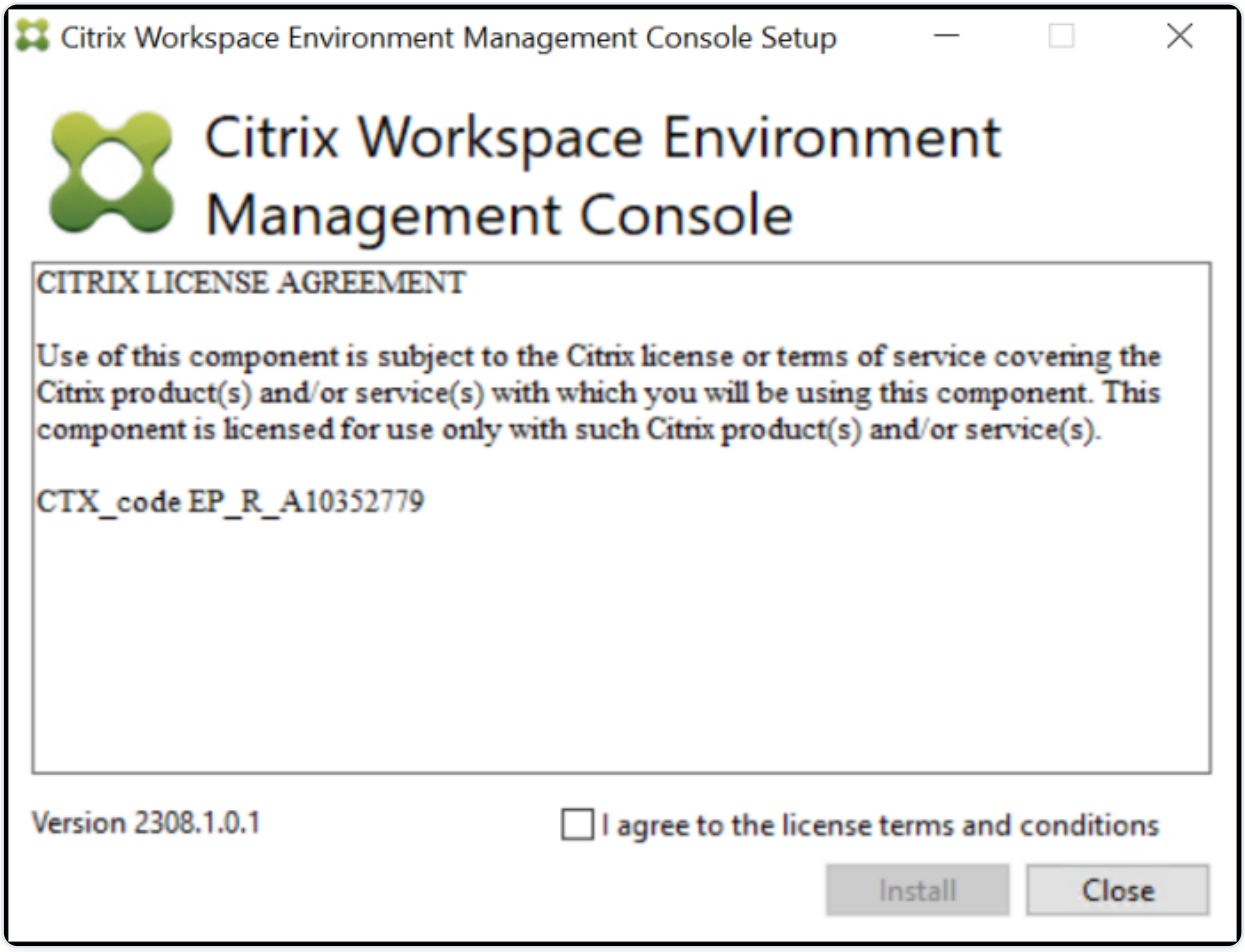
9. **WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを閉じます。

ステップ4：管理コンソールをインストールする

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行してください。



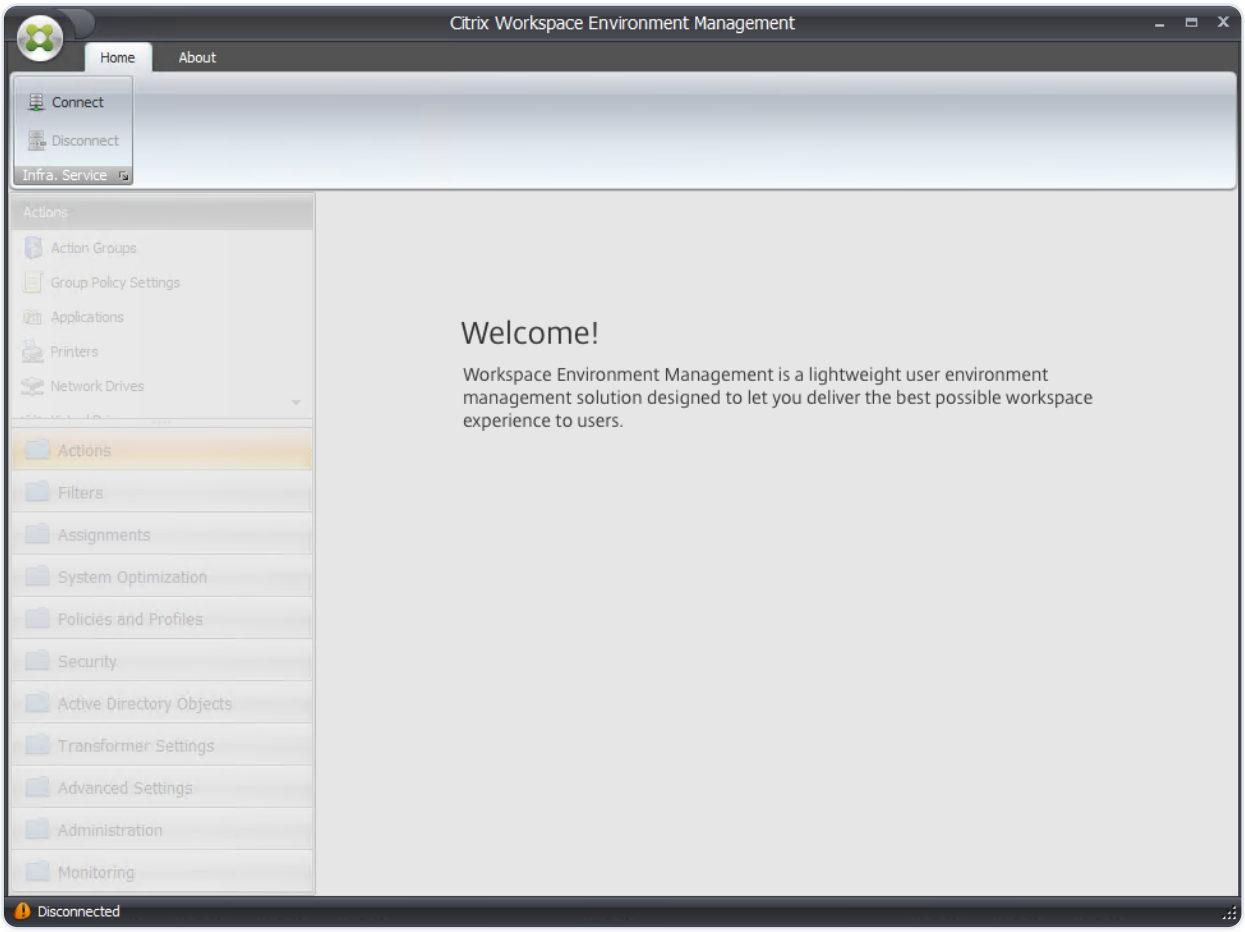
2. 「ライセンス契約」ページで、「ライセンス条項と条件に同意します」を選択します。



3. ウィザードの指示に従って、手順を完了します。

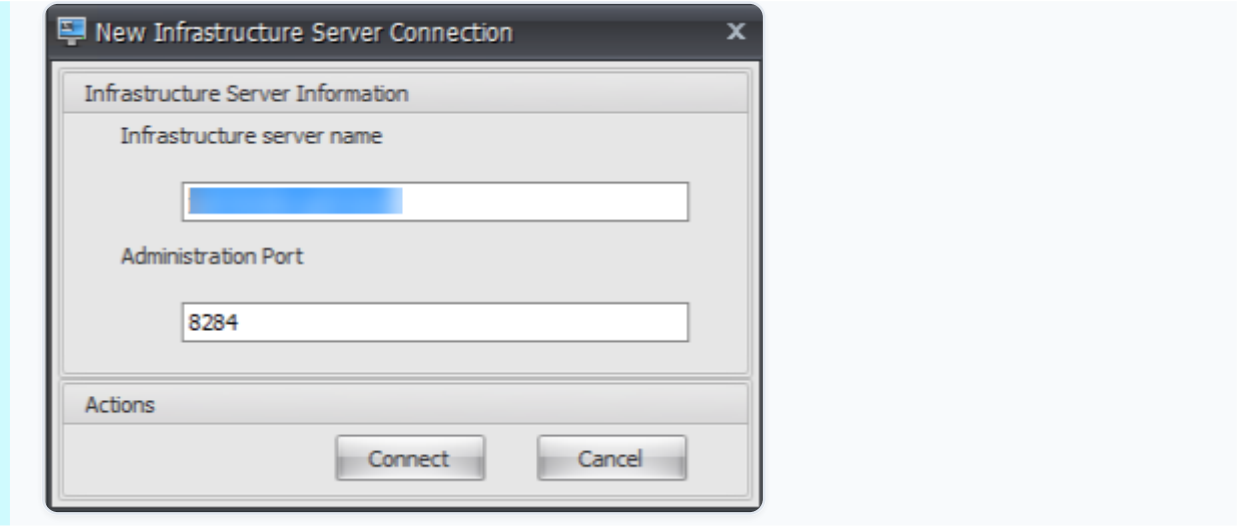
ステップ5：構成セットを構成する

1. **スタート**メニューから**WEM管理コンソール**を開き、**接続**をクリックします。

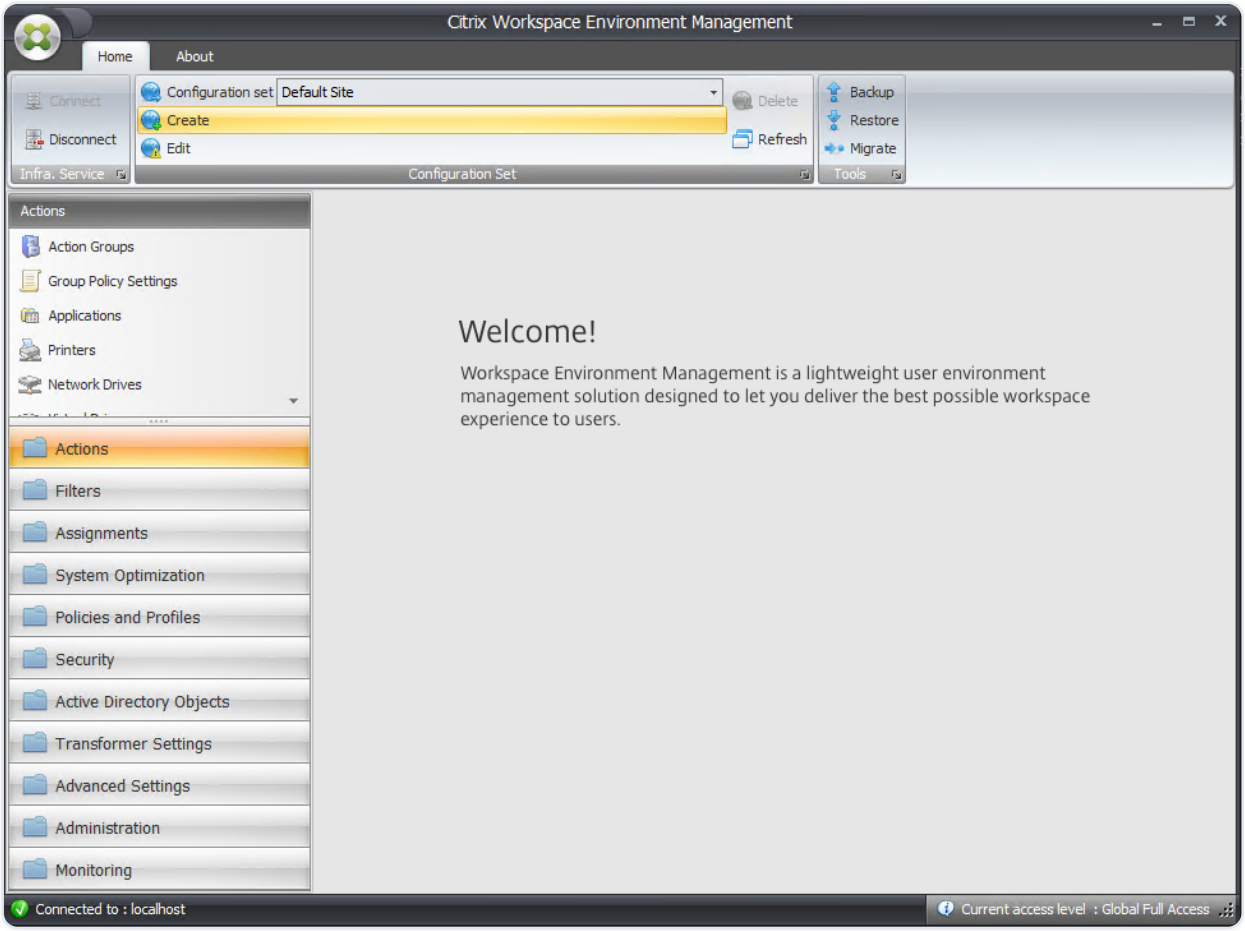


2. ウィンドウで、情報を確認し、**接続**をクリックします。

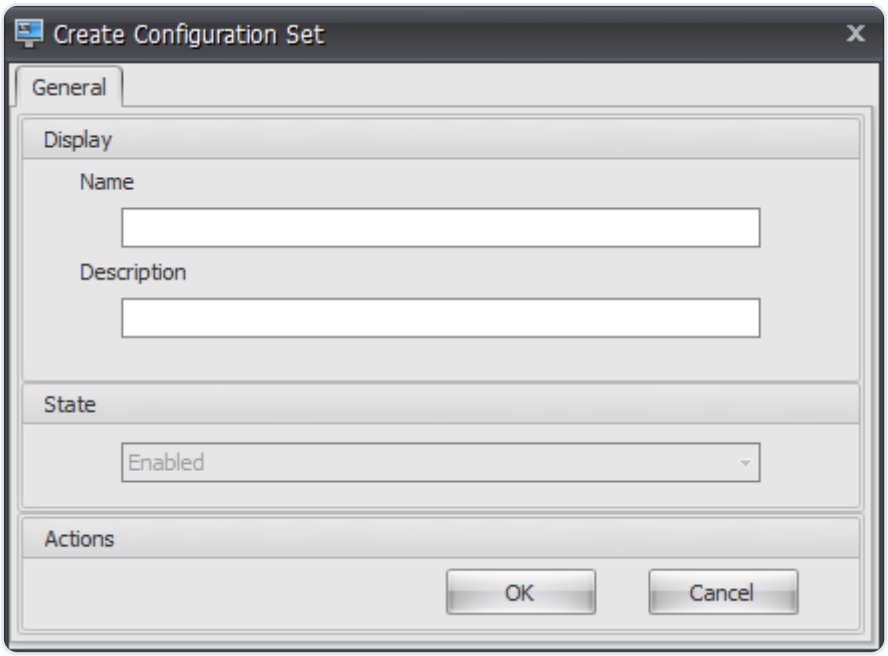
> **注:**
>
> - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - 管理ポートの場合、デフォルトポートは8284です。



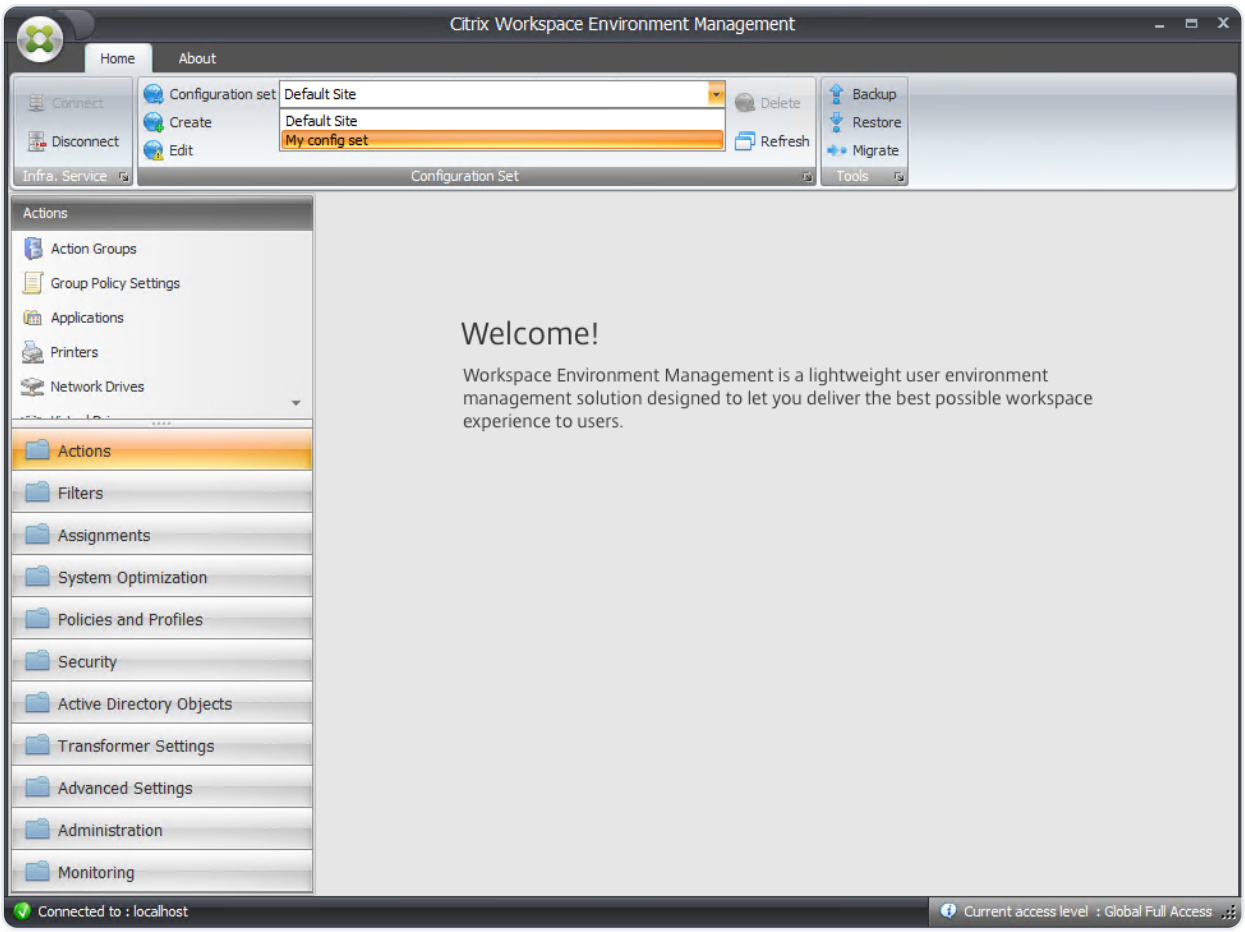
3. **ホーム**タブのリボンで、**作成**をクリックして構成セットを作成します。



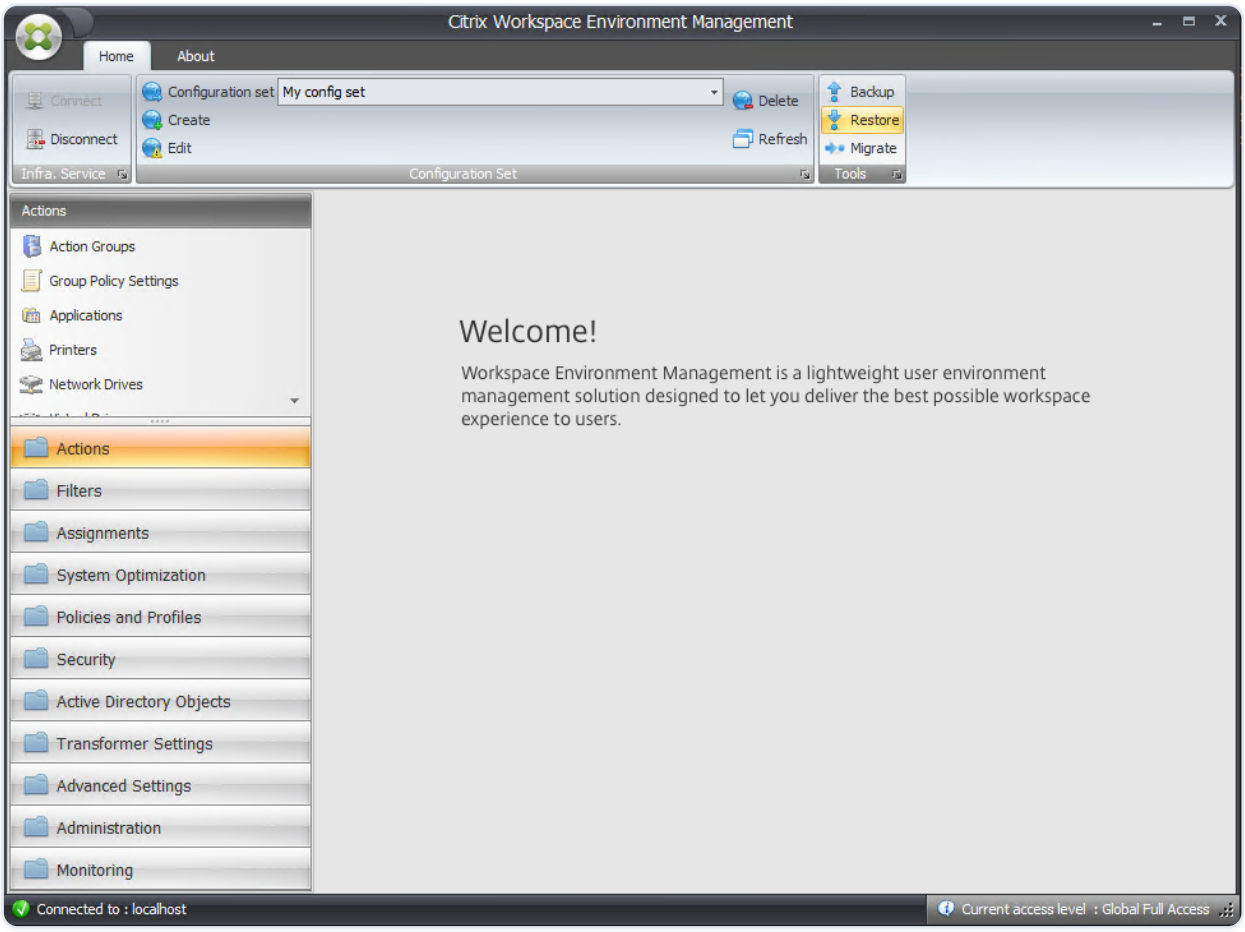
4. ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、**OK**をクリックします。



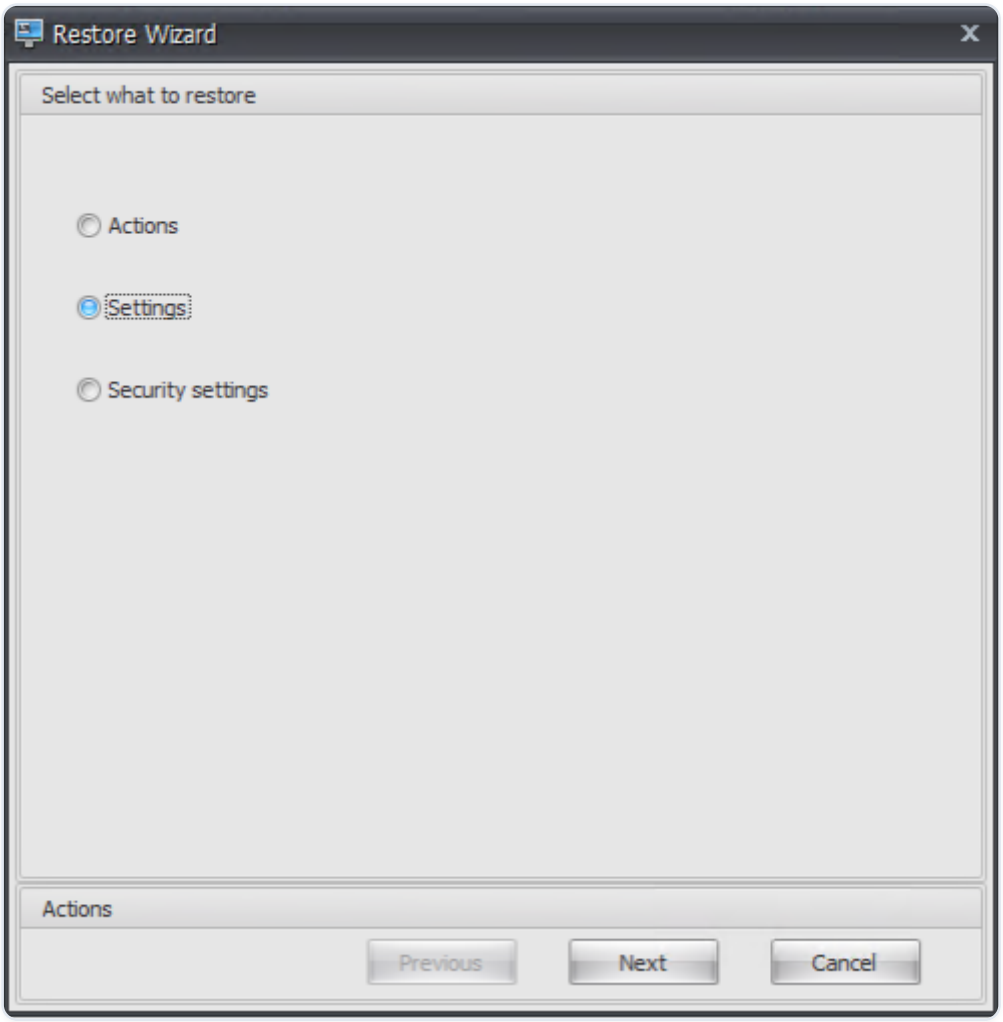
5. リボンで、**構成セット**の下にある、新しく作成した構成セットを選択します。



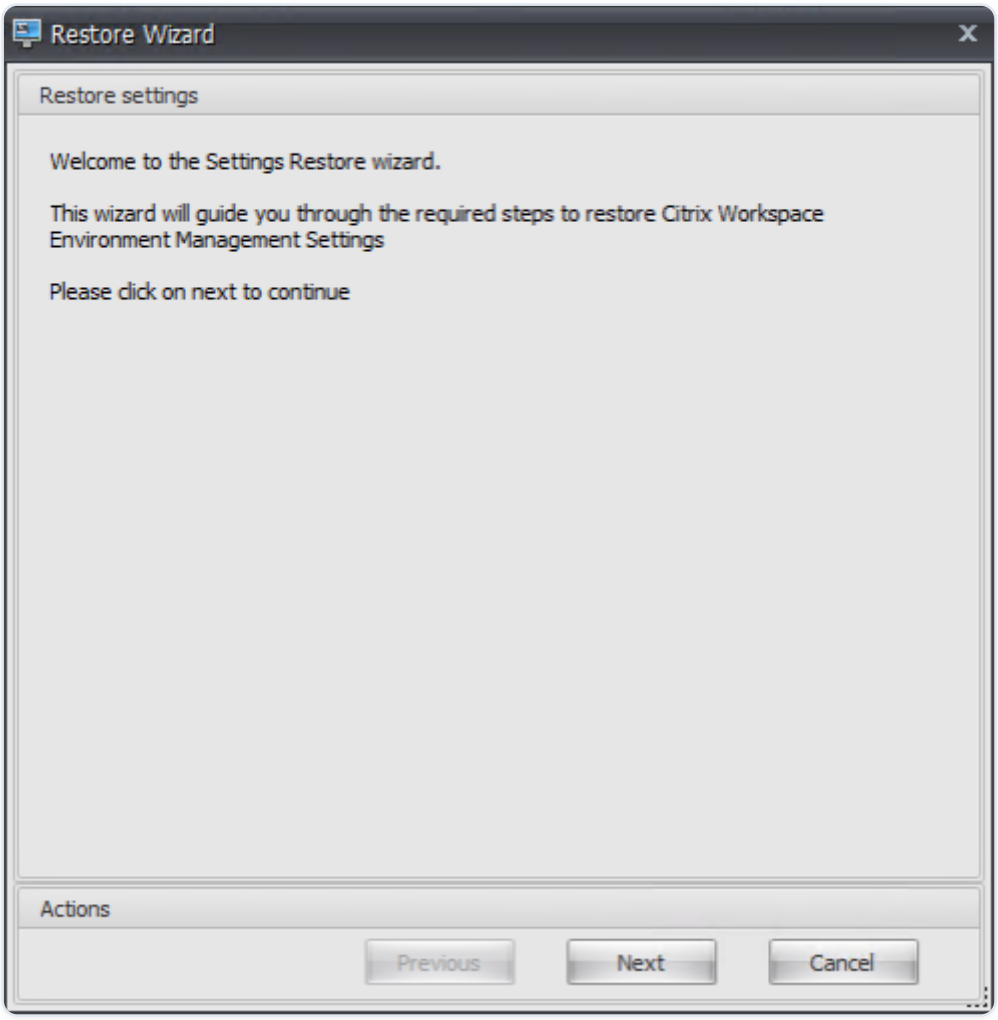
6. リボンで、**バックアップ**の下にある**復元**をクリックします。復元ウィザードが表示されます。



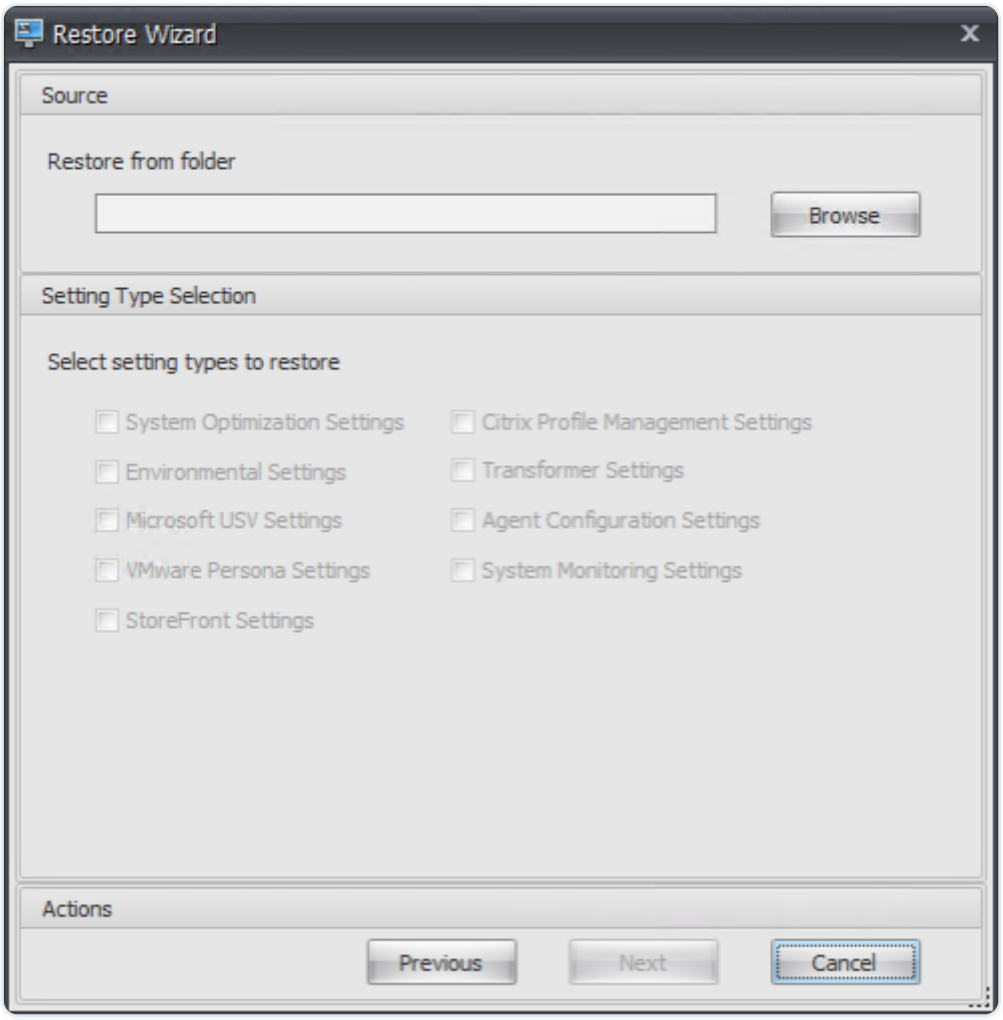
7. ページで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。



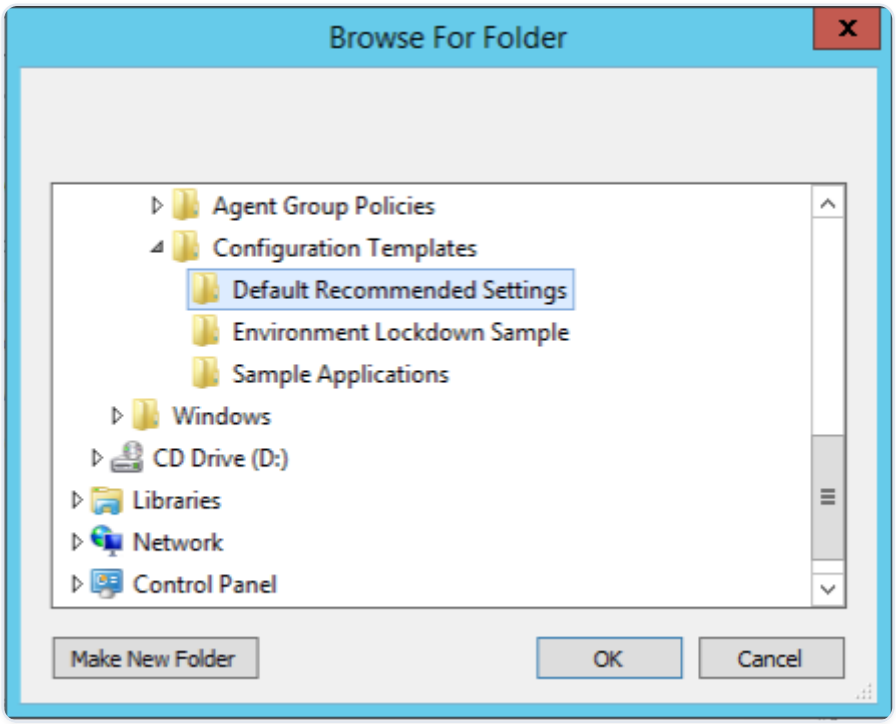
8. ページで、**次へ**をクリックします。



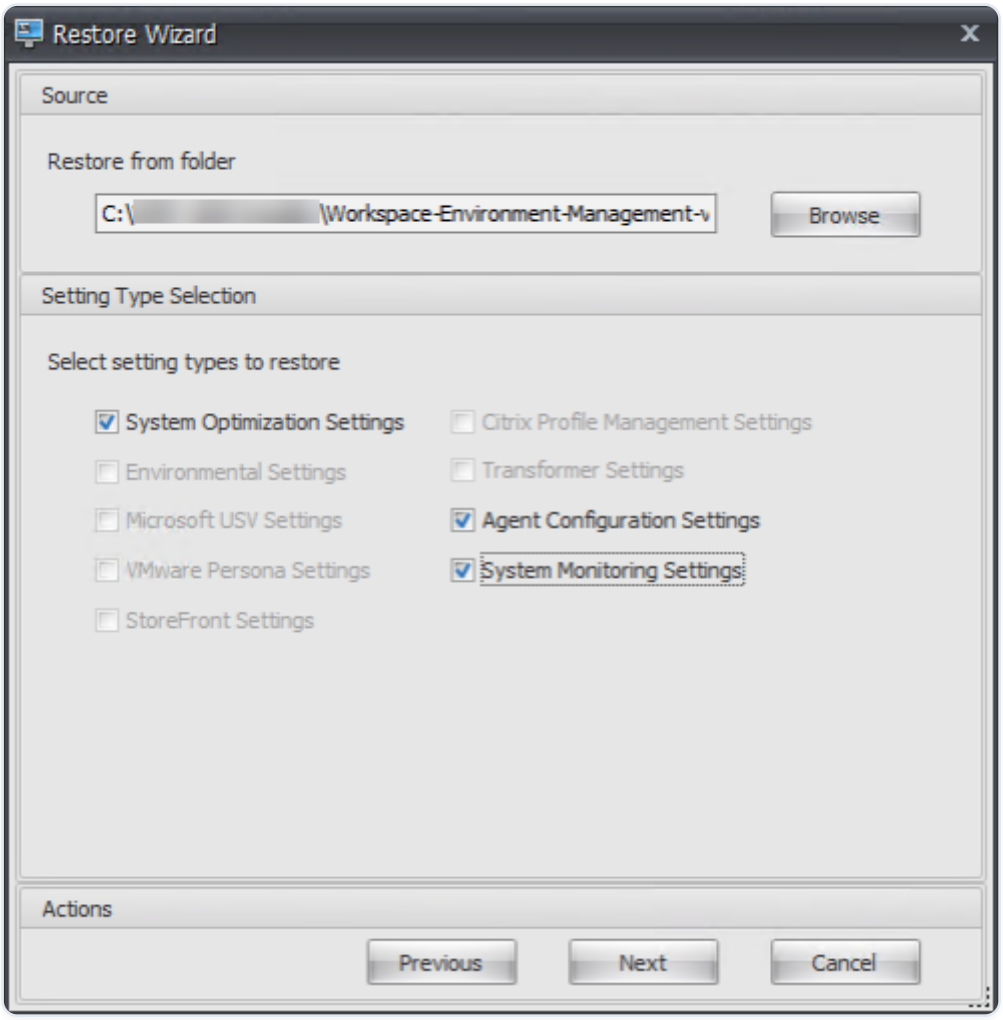
9. ページで、**参照**をクリックします。



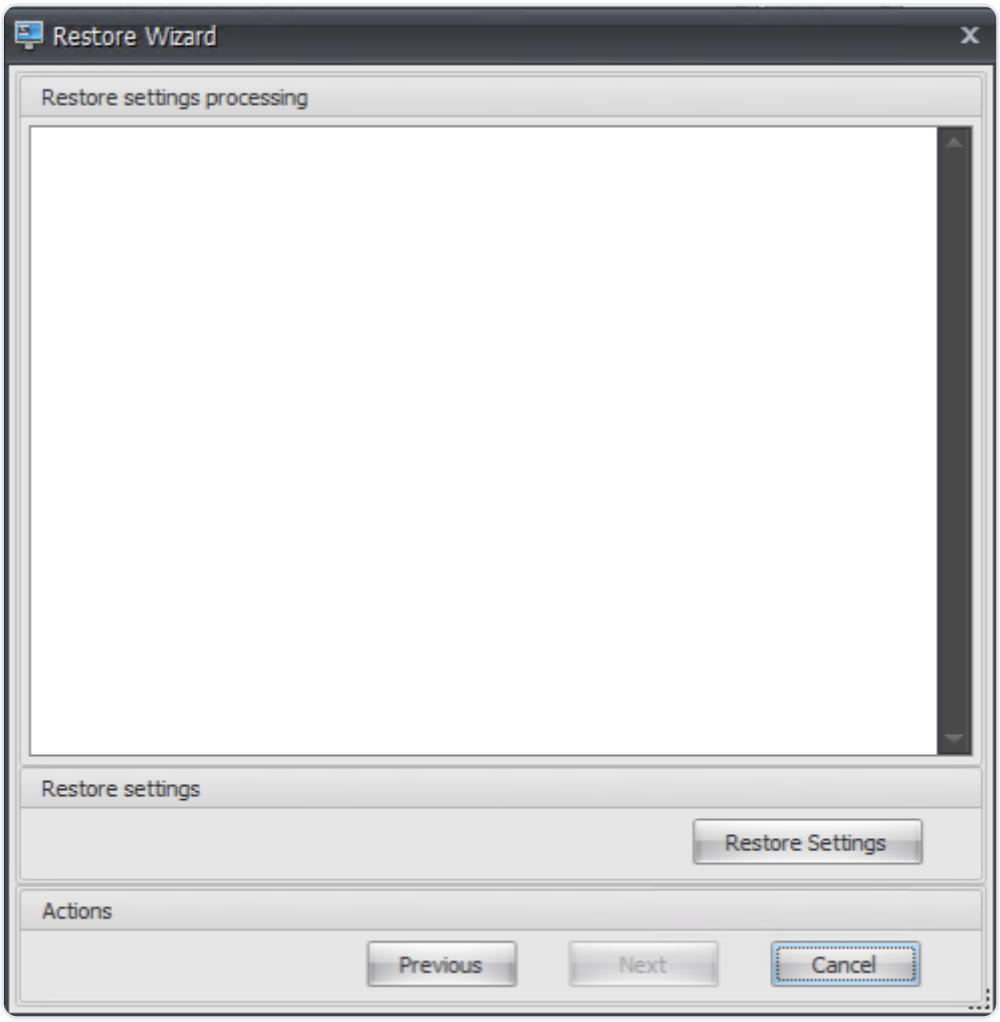
10. ウィンドウで、**デフォルトの推奨設定**フォルダー（Workspace Environment Management に付属）を参照し、**OK**をクリックします。



11. ページで、**システム最適化設定**、**エージェント構成設定**、および**システム監視設定**を選択し、**次へ**をクリックします。



12. ページで、 の下にある**設定の復元**をクリックします。



13. 「**はい**」をクリックします。

    構成セットの構成 13(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-configuring-configuration-sets-13.png)

14. 「**完了**」をクリックします。

    構成セットの構成 14(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-configuring-configuration-sets-14.png)

ステップ 6: グループポリシーテンプレートを追加する (オプション)

オプションで、グループポリシーを構成することを選択できます。WEMエージェントパッケージで提供される**エージェントグループポリシー**管理用テンプレートは、エージェントホスト構成ポリシーを追加します。

1. WEMインストールパッケージに付属の**エージェントグループポリシー**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。

2. .admxファイルを追加します。

   a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。

   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。

   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

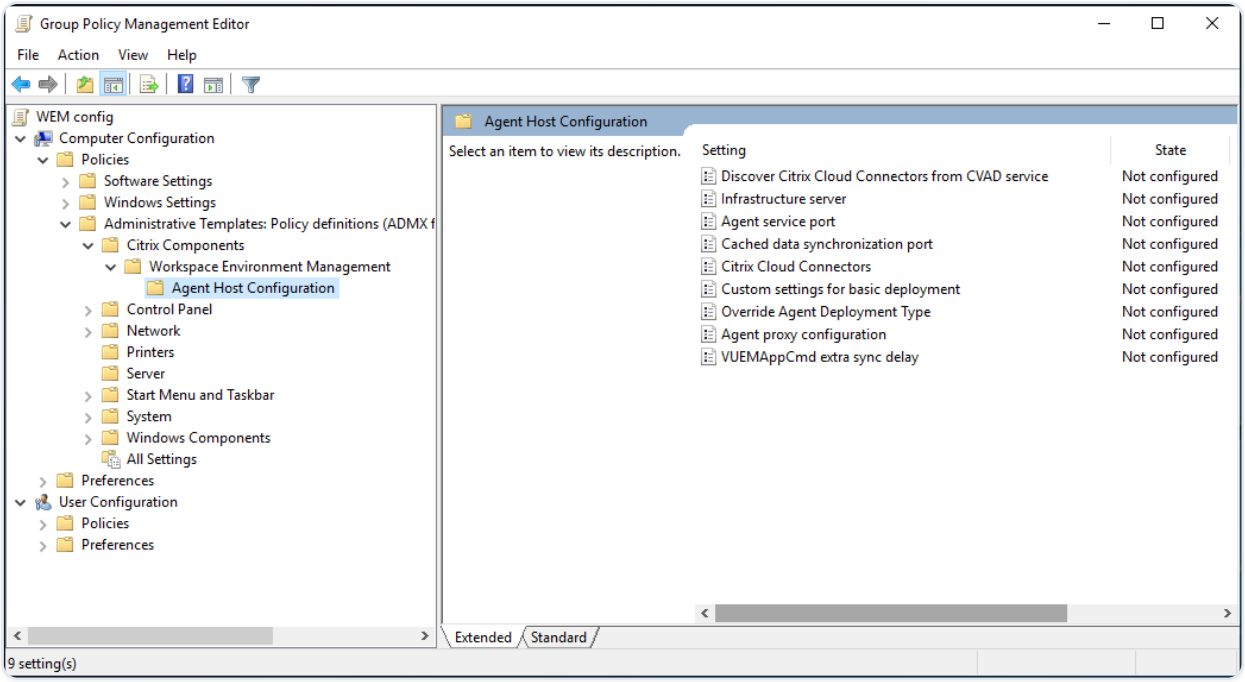
3. .admlファイルを追加します。

   a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。

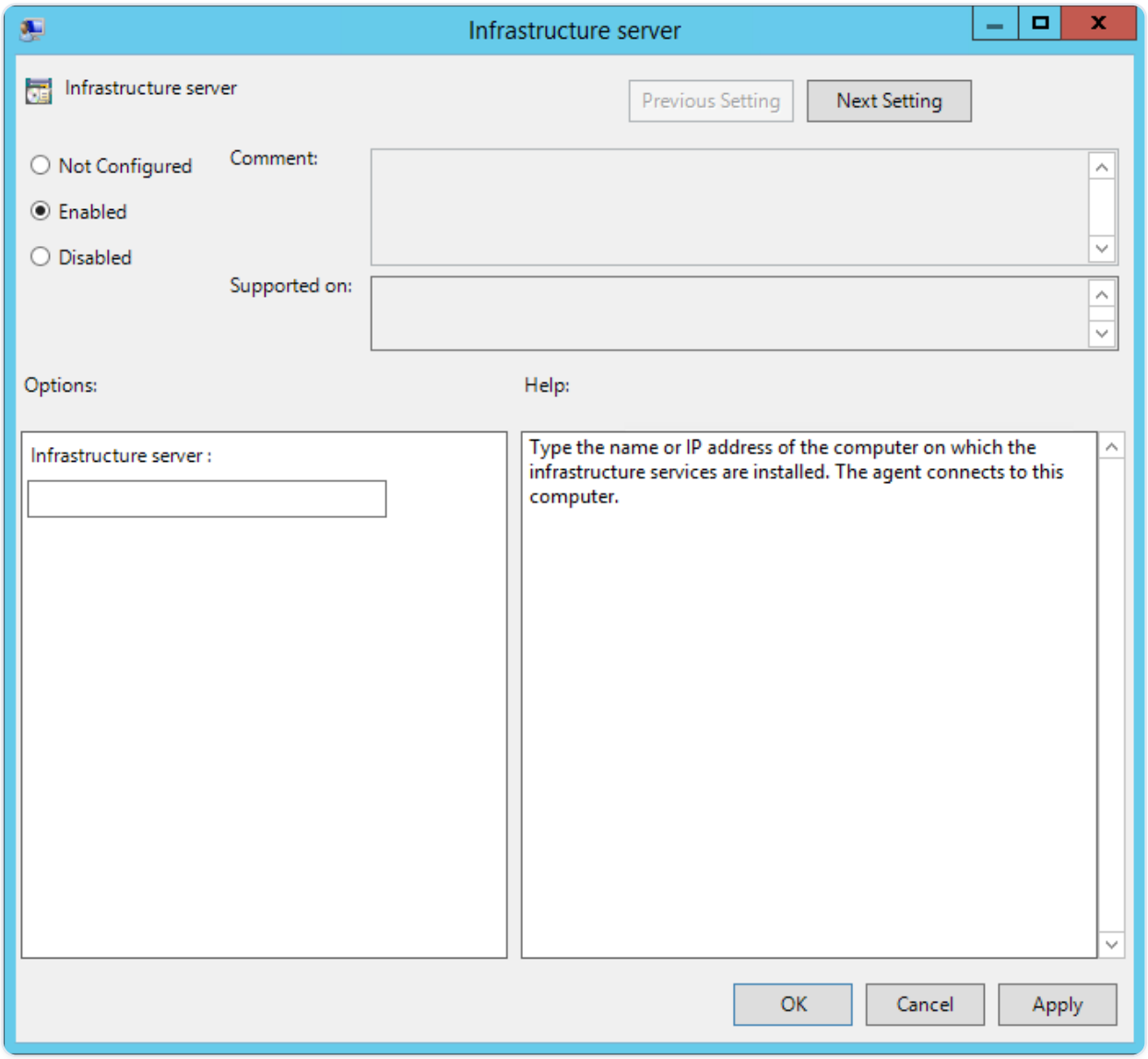
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml*および*CitrixBase.adml*）をコピーします。

   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

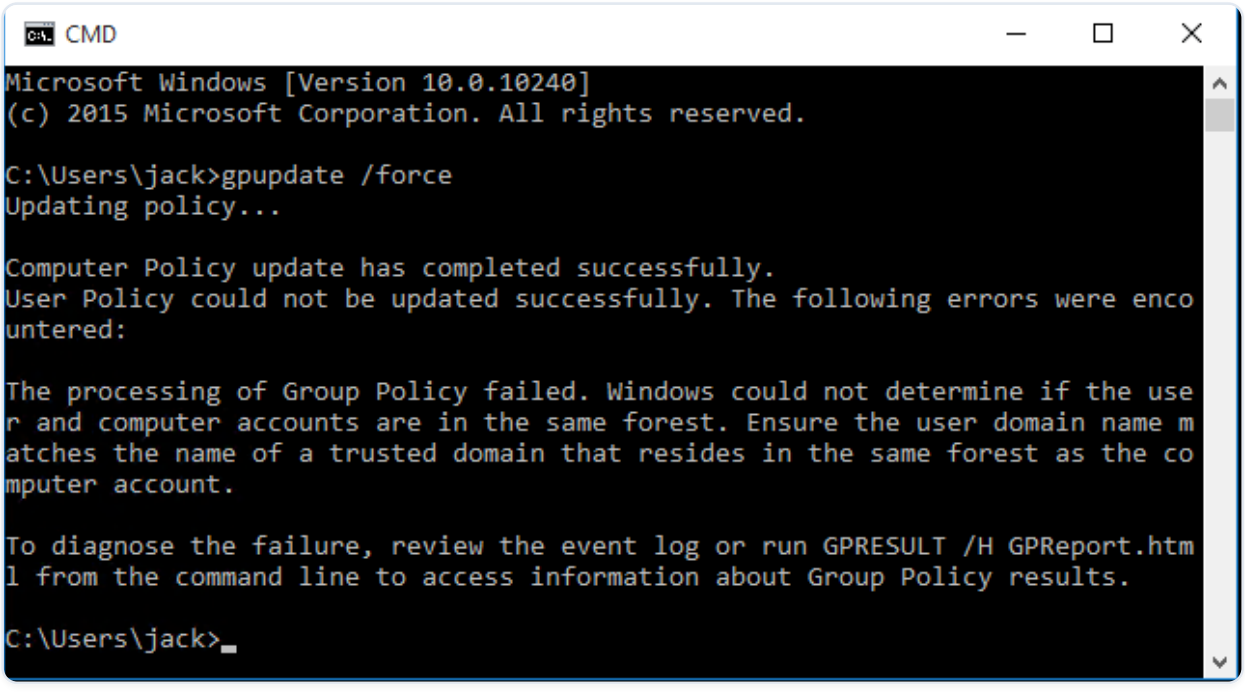
4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Workspace Environment Management > エージェントホスト構成**に移動し、**インフラストラクチャサーバー**をダブルクリックします。



5. 「インフラストラクチャサーバー」ウィンドウで、「**有効**」を選択し、「オプション」の下にインフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターのIPアドレスを入力し、「**適用**」と「**OK**」をクリックします。



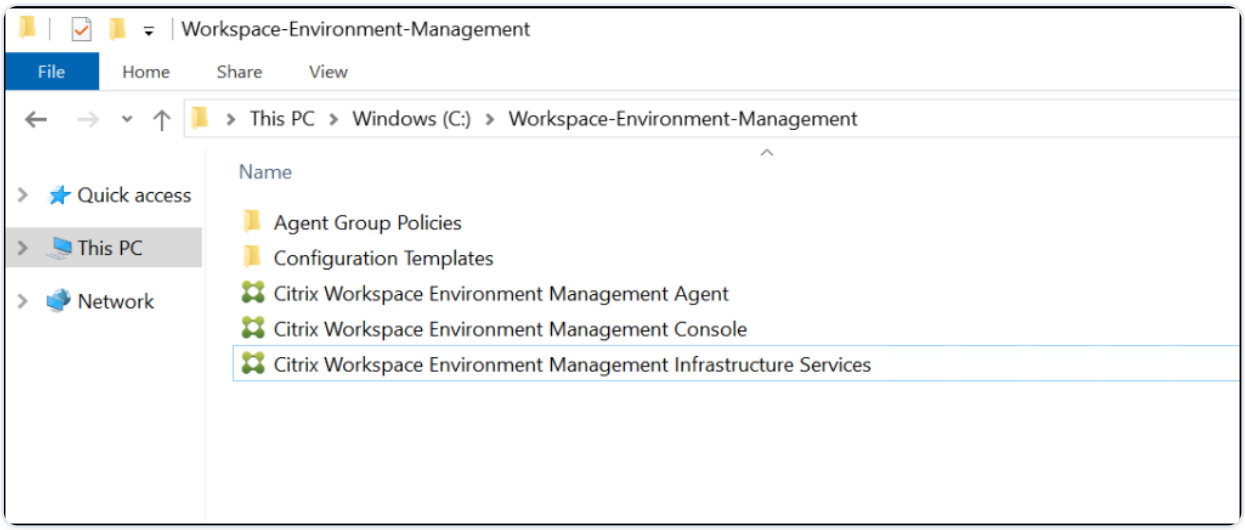
6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開いて`gpupdate /force`と入力します。



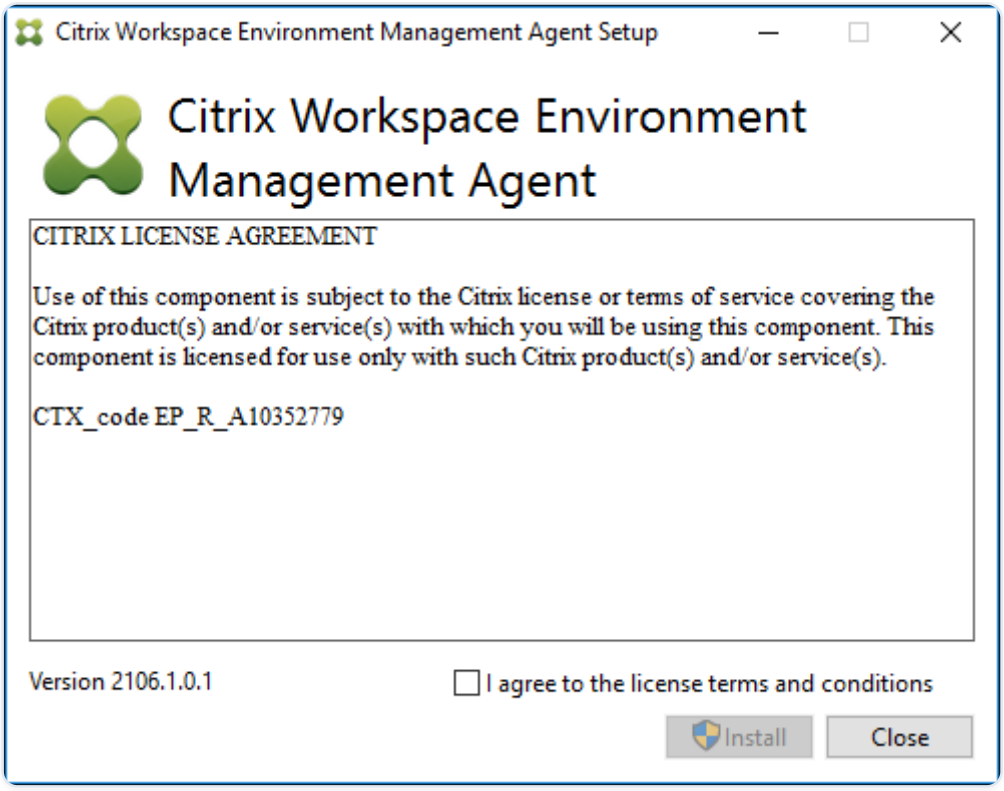
ステップ7：エージェントをインストールする

> **重要：**
>
> WEMエージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。

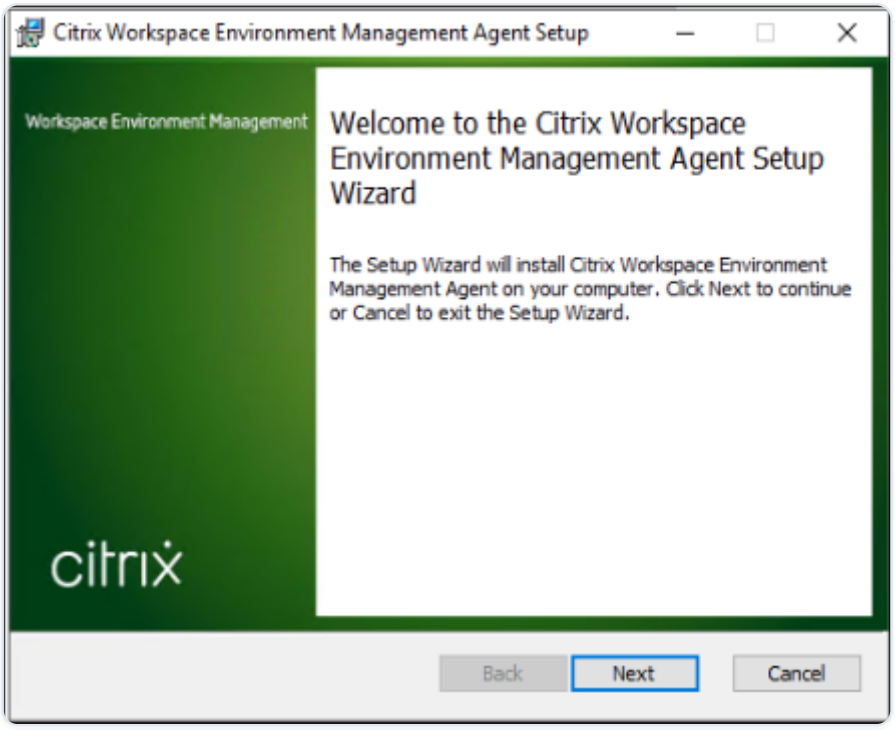
1. お使いのマシンで「**Citrix Workspace Environment Management Agent.exe**」を実行します。



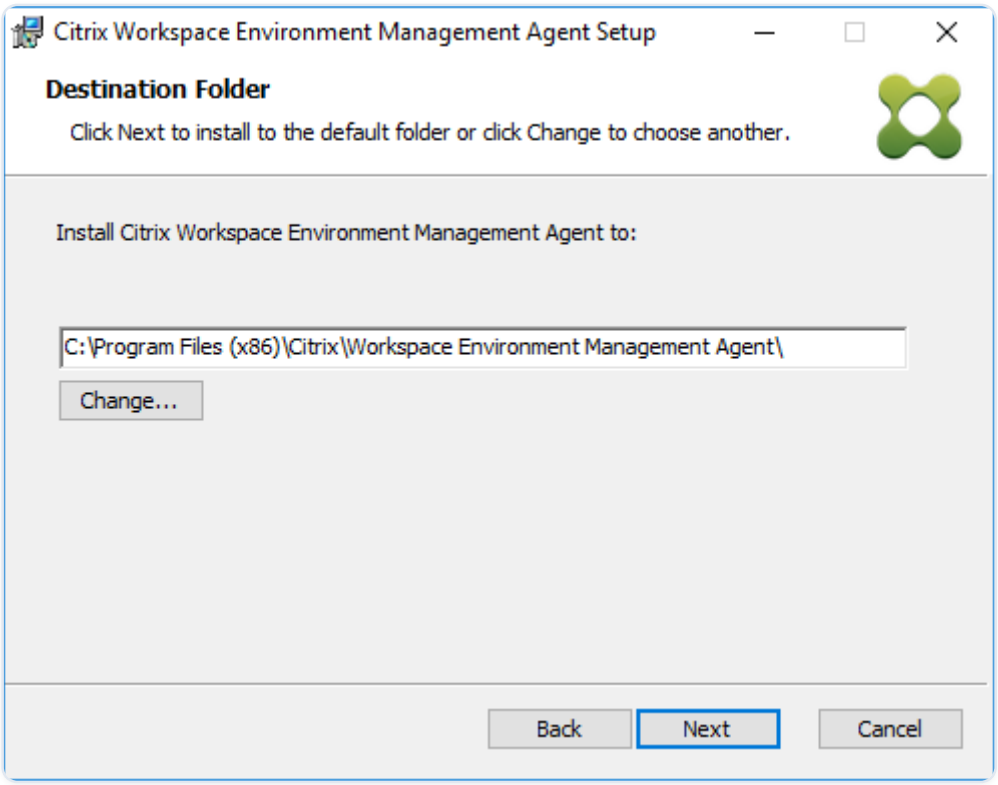
2. 「**ライセンス条項に同意します**」を選択し、「**インストール**」をクリックします。



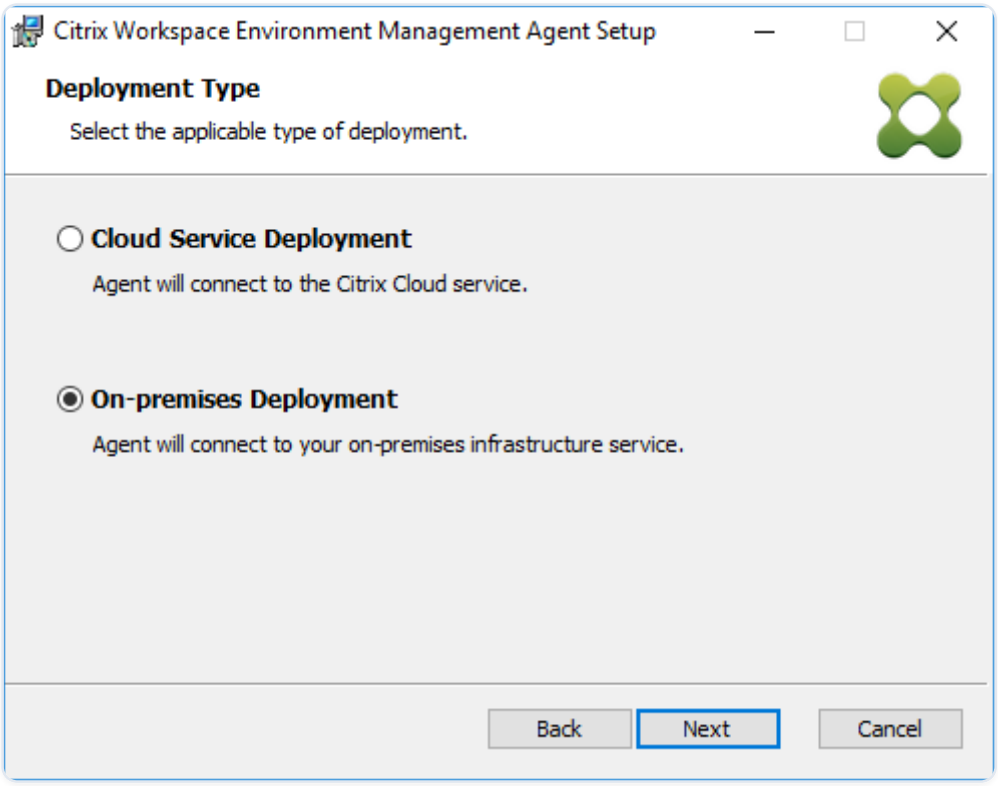
3. 「ようこそ」ページで、「**次へ**」をクリックします。



4. 「インストール先のフォルダー」ページで、「**次へ**」をクリックします。

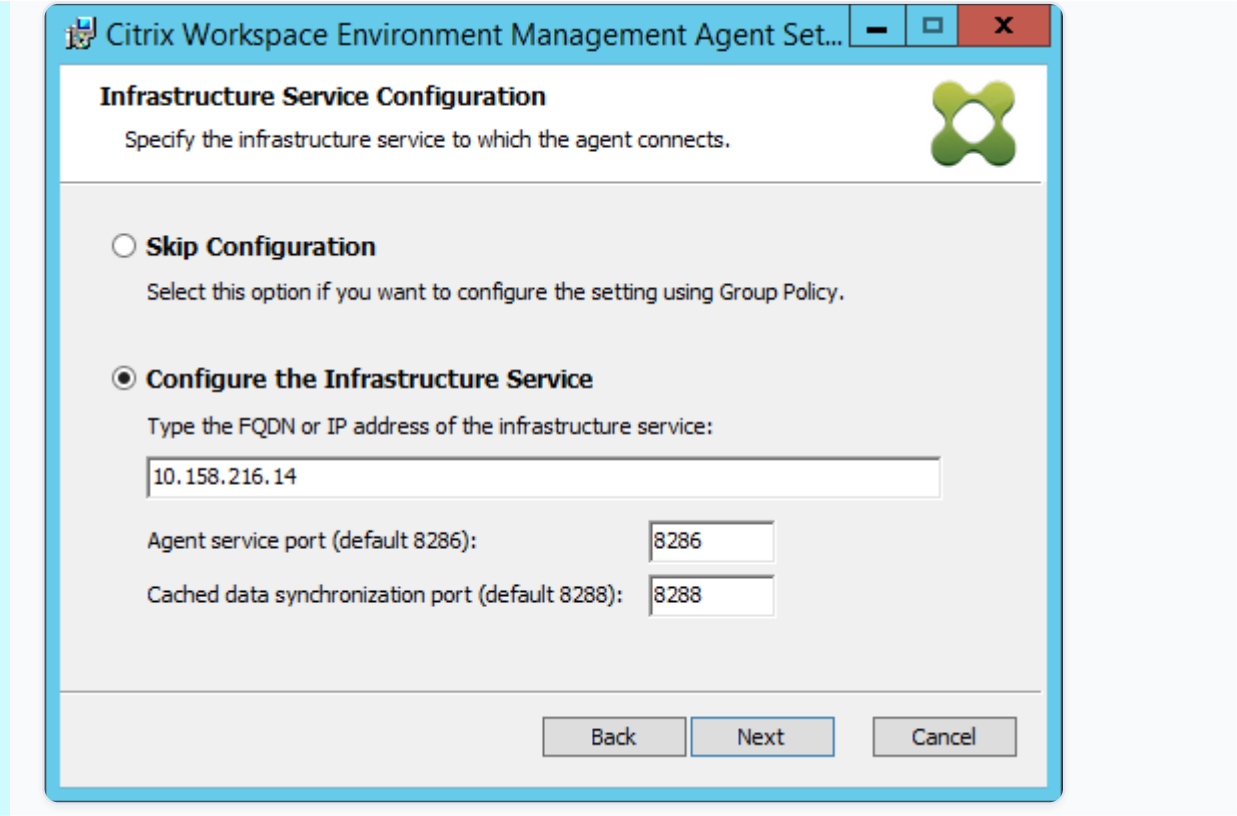


5. 「展開タイプ」ページで、該当する展開タイプを選択し、「**次へ**」をクリックします。この場合は、「**オンプレミス展開**」を選択します。

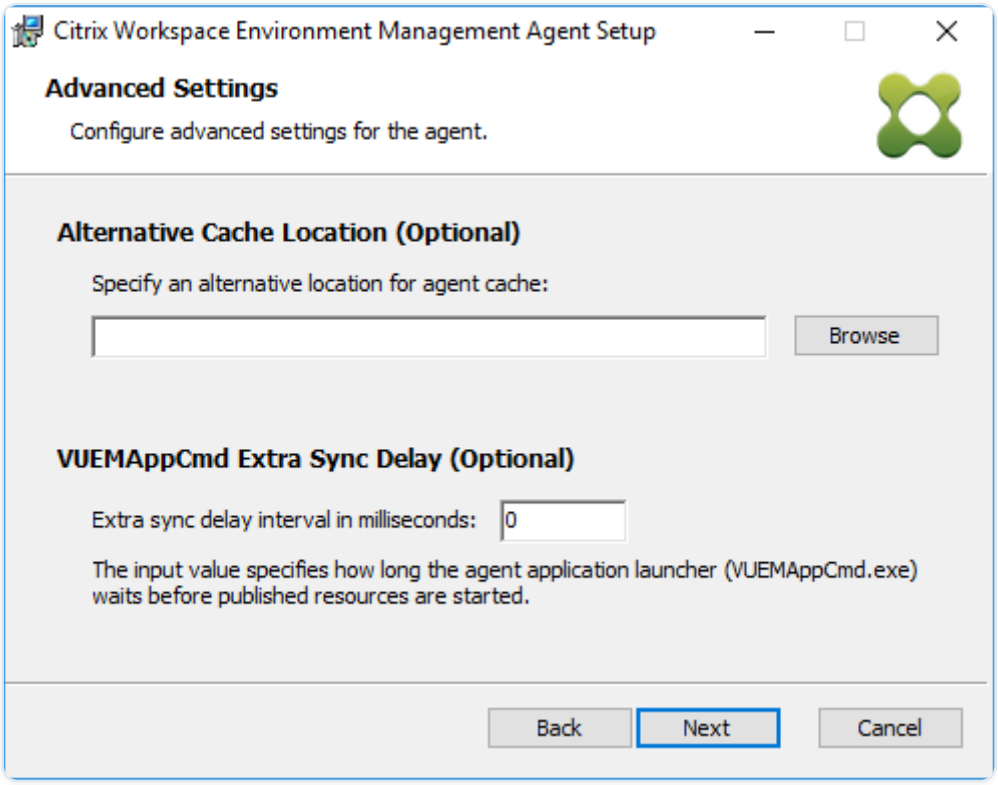


6. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、「**インフラストラクチャサービスを構成**」を選択し、インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、「**次へ**」をクリックします。

> **注:**
>
> エージェントサービスポートのデフォルトポートは8286です。キャッシュデータ同期ポートのデフォルトポートは8288です。詳細については、「ポート情報」(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/reference/ports.html)を参照してください。



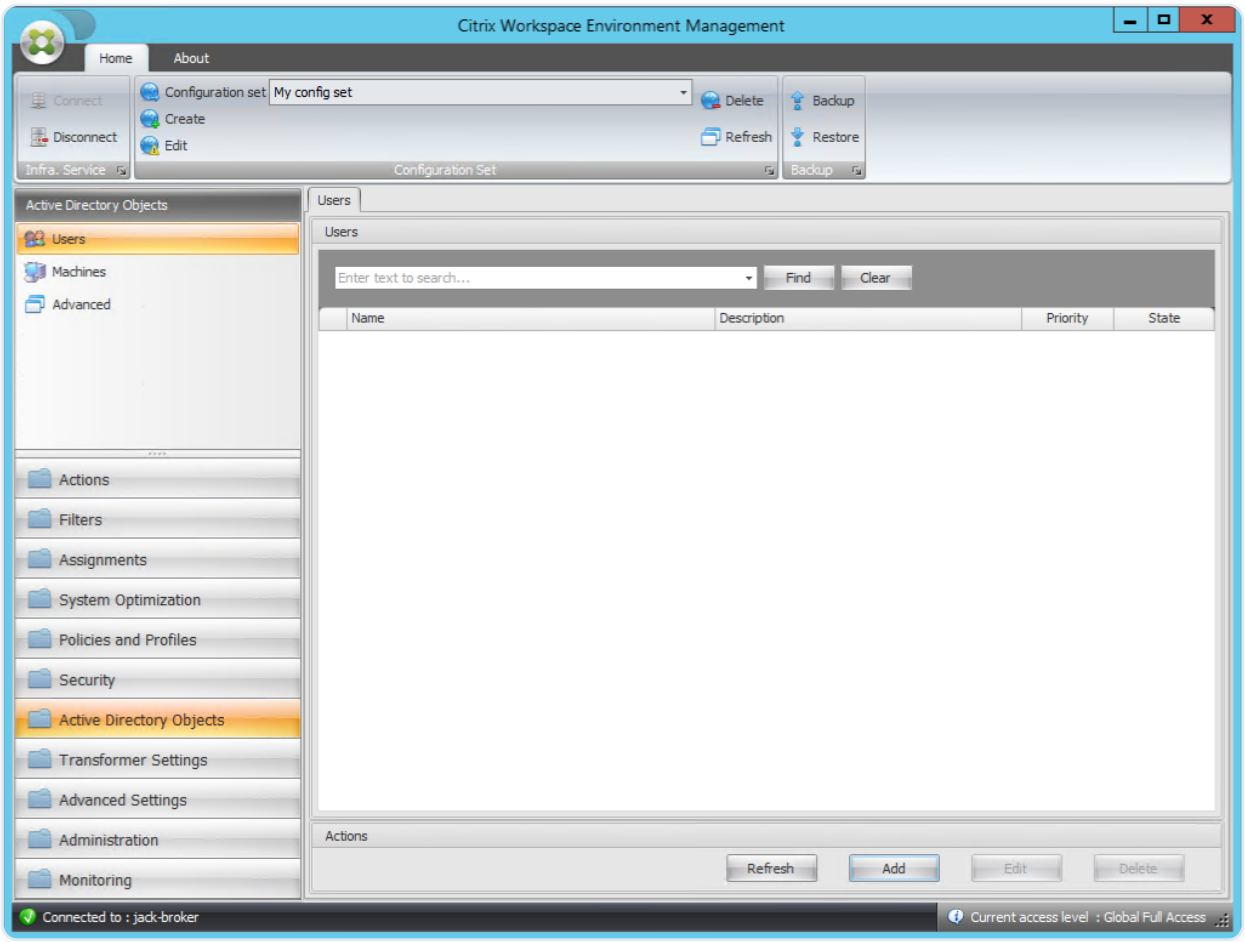
7. 「詳細設定」ページで、「**次へ**」をクリックします。



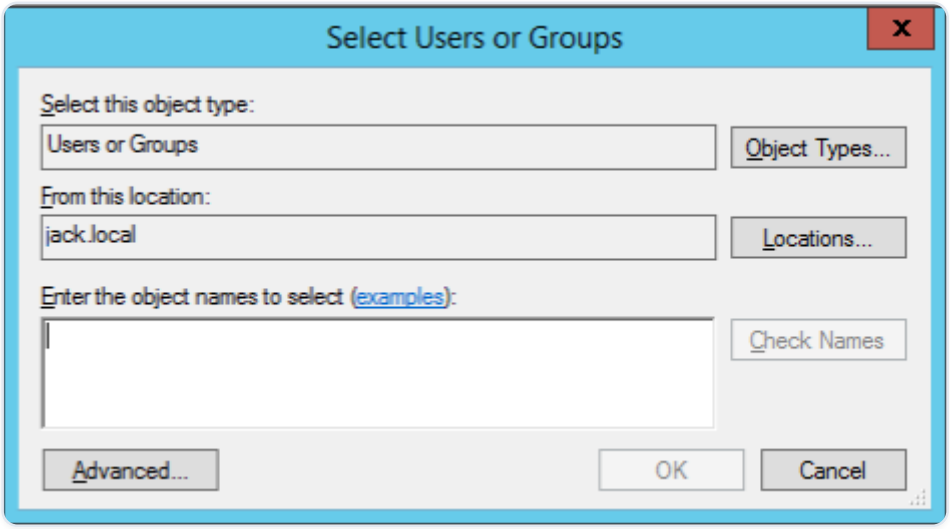
8. 「インストールの準備完了」ページで、「**インストール**」をクリックします。
9. 「**完了**」をクリックして、インストールウィザードを終了します。

ステップ8: 作成した構成セットにエージェントを追加する

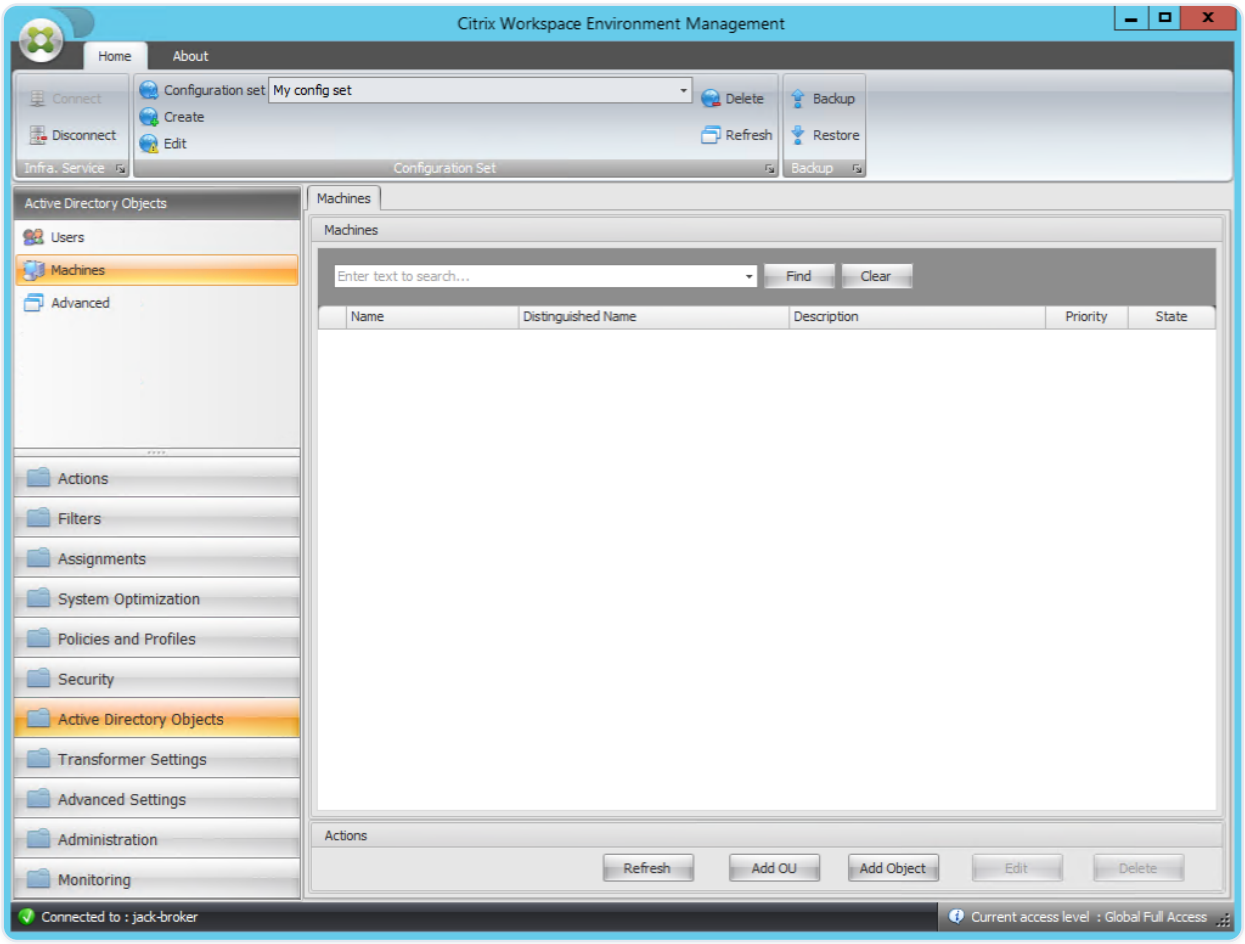
1. 「**スタート**」メニューから「**WEM管理コンソール**」を開き、「**Active Directoryオブジェクト**」をクリックして、「**追加**」をクリックします。



2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックして、「**OK**」をクリックします。



3. 「**マシン**」をクリックします。



4. **マシン**タブで、**OUの追加**または**オブジェクトの追加**をクリックして、作成した構成セットに管理するマシンを追加します。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

.NET Framework 4.8 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス、管理コンソール、およびWebコンソールに必要です。まだインストールされていない場合、インストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management™ エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015–2019 再頒布可能パッケージは、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 Runtime バージョン 98 以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Management サービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

> **注:**
>
> - バージョン 2209 以降のみ、このコンポーネントが必要です。
> - Microsoft Edge WebView2 Runtime をダウンロードしてインストールするには、インターネットアクセスが必要です。

Microsoft SQL Server 2016 SP2 以降。Workspace Environment Management は、データベースを作成するために SQL Server インスタンスへの **sysadmin** アクセスを必要とし、データベースを使用するためにデータベースへの **読み取り/書き込み** アクセスを必要とします。データベースの作成中に、Workspace Environment Management は SQL ログインを作成し、そのログインにデータベースユーザーマッピングを追加します。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセスが *自動的に* 付与されます。SQL Server インスタン

スは、大文字と小文字を区別しない照合順序を使用する必要があります。そうでない場合、データベースの作成またはアップグレードは失敗します。

注:

アップグレード中は、**sysadmin** サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

Microsoft Active Directory。Workspace Environment Management は、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directory への **読み取りアクセス** を必要とします。

注:

- WEM のグローバルカタログは、フォレスト内のすべての Active Directory オブジェクトのコピーを保存する *外部信頼* 関係をサポートしていません。代わりに、*フォレスト信頼* 関係などの他の関係タイプを使用する必要があります。
- WEM は、フォレスト間の片方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix License Server 11.14。Workspace Environment Management には Citrix ライセンスが必要です。Citrix ライセンスは、Citrix License Server で管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops。このリリースの Workspace Environment Management には、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops の サポートされているバージョン が必要です。

Windows 用 Citrix Workspace™ アプリ。Workspace Environment Management 管理コンソールから構成された Citrix StoreFront™ ストアリソースに接続するには、Windows 用 Citrix Workspace アプリが管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにインストールされている必要があります。サポートされているバージョンは次のとおりです。

- 管理コンソールマシン上:
  - Citrix Receiver for Windows のバージョン: 4.9 LTSR, 4.10, 4.10.1, 4.11, および 4.12
  - Citrix Workspace アプリ 1808 for Windows 以降

- エージェントホストマシン上:
  - Citrix Receiver for Windows のバージョン: 4.4 LTSR CU5, 4.7, 4.9, 4.9 LTSR CU1, および 4.10
  - Citrix Workspace アプリ 1808 for Windows 以降

Transformer キオスク対応マシンでは、Citrix Workspace app for Windows をシングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspace app のドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

> **注:**
>
> Workspace Environment Management および関連コンポーネントは、製造元がサポートするオペレーティングシステムバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2025 スタンダード および データセンター エディション
- Windows Server 2022 スタンダード および データセンター エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 スタンダード および データセンター エディション

> **注:**
>
> 異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバープール（インフラストラクチャサーバー）でWorkspace Environment Managementインフラストラクチャサービスを実行することがサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

Webコンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2025 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

エージェント

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン1607以降、32ビットおよび64ビット
- Windows 8.1 ProfessionalおよびEnterpriseエディション、32ビットおよび64ビット
- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、およびUltimateエディション、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2025 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2022 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2019 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2016 スタンダード および データセンター エディション*

- Windows Server 2012 R2 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2008 R2 SP1 スタンダード、エンタープライズ、および データセンター エディション*

* Transformer機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4では、Windows XPがサポートされていました。

> **注:**
>
> MicrosoftのDynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、マルチセッションオペレーティングシステムで実行されているCitrix Workspace Environment Managementエージェントは正しく動作できません。DFSSを無効にする方法については、CTX127135を参照してください。

SQL Server オールウェイズオン

Workspace Environment Management は、Microsoft SQL Server に基づくデータベースの高可用性のため、Always On 可用性グループ (Basic および Advanced) をサポートしています。Citrix® は、Microsoft SQL Server 2017 を使用してこれをテストしました。

Always-On 可用性グループを使用すると、プライマリ SQL Server のハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合にデータベースが自動的にフェールオーバーするため、Workspace Environment Management は期待どおりに動作し続けます。Always-On 可用性グループ機能では、SQL Server インスタンスが Windows Server フェールオーバー クラスター (WSFC) ノードに存在する必要があります。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>` を参照してください。

Always On 可用性グループで Workspace Environment Management (WEM) を使用するには:

1. **WEM Database Management Utility** を開き、WEM データベースを作成します。
    - **vuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードを設定**オプションを選択し、vuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードを入力してください。データベースを可用性グループに追加する際に、このパスワードを指定する必要があります。

- 「サーバーとインスタンス名」には、プライマリ SQL Server の名前を入力します。

> **注:**
>
> WEM データベースはプライマリ SQL Server に作成されます。

2. プライマリ SQL Server に移動し、作成した WEM データベースをバックアップします。
   - **可用性グループへのデータベースの追加 > データベースの選択**ページで WEM データベースを選択するには、パスワード (手順 1 で作成したパスワード) を入力する必要があります。これを行うには、パスワード列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力して、**更新**をクリックします。
   - データベースのバックアップには、**完全**復旧モデルを選択します。
3. SQL Server で、WEM データベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。
4. **vuemUser** ログインは、**Always On HA グループ**のセカンダリ SQL インスタンスに作成する必要があります。詳細については、「インスタンス間でログインとパスワードを転送する - SQL Server」を参照してください。
5. WEM インフラストラクチャサービスマシンに移動し、**WEM Infrastructure Service Configuration** ユーティリティを開きます。
   - **データベースサーバーとインスタンス**。可用性グループリスナーの名前を入力します。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。空のままにします。
   - **データベース名**。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス: 4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の空きディスク領域。インフラストラクチャサービスの規模とサイズに関する考慮事項については、「展開の規模とサイズに関する考慮事項」を参照してください。

管理コンソール: 最小デュアルコアプロセッサ、2 GB RAM、40 MB の空きディスク領域 (インストール中は 100 MB)。

エージェント: 平均 RAM 消費量は 10 MB ですが、安全のため 20 MB を提供することをお勧めします。40 MB の空きディスク領域 (インストール中は 100 MB)。

データベース: Workspace Environment Management データベース用に最低 75 MB の空きディスク領域。

サービスの依存関係

Netlogon。エージェントサービスがログオン前に実行されていることを確認するために、エージェントサービス（「Norskale Agent Host service」）が Net Logon の依存関係リストに追加されます。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Management エージェントとインフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます。

- エージェント
  - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64 ビット OS の場合)
  - `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32 ビット OS の場合)
- インフラストラクチャサービス
  - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`

エージェントおよびインフラストラクチャサービスの場合、「Citrix」インストールフォルダー全体でオンアクセススキャンを無効にする必要があります。オンアクセススキャンを「Citrix」インストールフォルダーで無効にできない場合は、次のプロセスを除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダー内

- WEM インフラストラクチャ サービス.exe
- WEM インフラストラクチャ サービス 設定ユーティリティ.exe
- WEM インフラストラクチャ データベース管理ユーティリティ.exe

エージェントのインストールフォルダー内

- エージェント ログ パーサー.exe
- AgentCacheUtility.exe

- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe
- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

次のコンポーネントをインストールして構成します。

- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Webコンソール
- エージェント

インフラストラクチャサービス

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります: **Citrix WEM Infrastructure Service(NT SERVICE\\Citrix WEM Infrastructure Service)**。これはWorkspace Environment Management (WEM)インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント: LocalSystem、またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバーの管理者ユーザーグループに属する指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスをインストールする

> **重要：**

> - インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。
> - Delivery Controller™がインストールされているサーバーには、インフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

> **使用状況データ収集に関する通知:**

- デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは毎晩WEMの使用状況に関する匿名の分析データを収集し、HTTPS経由でGoogle Analyticsサーバーに即座に送信します。分析データの収集は、Citrix Privacy Policyに準拠しています。
- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集はデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、WEM Infrastructure Service Configurationダイアログの**Advanced Settings**タブで、**Do not help improve Workspace Environment Management™ using Google Analytics**オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。PowerShell SDKモジュールはデフォルトでインストールされます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`。SDKドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例:

- .\Citrix Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス.exe `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services" /log "C:\test\test.log"`
- `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services" /log "C:\test\test.log"`
  - `/quiet`。サイレントモードを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `BrokerLocation`。インフラストラクチャサービスのインストールパスを示します。

サービスプリンシパル名を作成する

重要：

- **ロードバランシング**を使用する場合、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスは、同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。

- **Windows認証**は、ADを使用するSQLインスタンスの認証の特定の方法です。もう1つのオプションは、代わりにSQLアカウントを使用することです。

インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービス用のSPNを作成します。WEMでは、エージェント、インフラストラクチャサービス、ドメインコントローラー間の接続と通信はKerberosによって認証されます。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントとSPNに登録されているアカウントとの間にリレーションシップを構成する必要があります。したがって、Kerberos認証要件に準拠するために、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPNを既知のADアカウントに関連付けるように構成します。

- Windows認証またはロードバランシングを使用しない場合、次のコマンドを使用します。
  - `setspn -C -S [SPN name] [hostname]`

  ここで、`hostname` はインフラストラクチャサーバーの名前です。
- Windows認証またはロードバランシング（Windows認証が必要）を使用する場合、次のコマンドを使用します。
  - `setspn -U -S [SPN name] [accountname]`

  ここで、`accountname` はWindows認証に使用されているサービスアカウントの名前です。
- `[SPN name]` のデフォルト値は `Norskale/BrokerService` です。複数のWEM展開が同じフォレストにある場合、次のレジストリ値を追加して複数のSPNを構成する必要がある場合があります。
  - `setspn -C -S [SPN name] [hostname]` または `setspns -U -S [SPN name] [accountname]`
  - エージェントマシン用: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host
  - インフラストラクチャおよびコンソールマシン用: HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Infrastructure Services
  - 名前: AlternativeSPN
  - 種類: REG_SZ
  - 値: の実際の値

SPNでは大文字と小文字が区別されます。

グループ管理サービスアカウント

WEMにグループ管理サービスアカウント（gMSA）ソリューションを実装できます。gMSAソリューションを使用すると、新しいgMSAプリンシパルに対してサービスを構成でき、パスワード管理はWindowsによって処理されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>` を参照してください。gMSAがサービスプリンシパルとして使用される場合、Windowsオペレーティングシステムは、管理者がパスワードを管理するのではなく、アカウントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更した場合に、インフラストラクチャサービス用に構成したWindowsアカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。

WEM 用の gMSA ソリューションを実装するには、次の手順に従います。

1. 既存の gMSA がある場合は、次の操作を行います。

   a. 次のコマンドを使用して、Citrix WEM SPN をアカウントにバインドします。

      - `setspn -C -S Norskale/BrokerService [gMSA]$`

      ここで、`gMSA` は gMSA アカウントの名前です。

   b. 次のコマンドを使用して、関連するマシンをアカウントに追加します。

      - `Set-ADServiceAccount -Identity [gMSA] -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword [hostname]`

      ここで、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。

2. gMSA がない場合は、ドメインコントローラーに移動して作成し、Citrix WEM SPN をそれにバインドします。次のコマンドを使用します。

   - `New-ADServiceAccount [gMSA] -DNSHostName [hostname 1] -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword [hostname 2], [hostname 3] -KerberosEncryptionType RC4, AES128, AES256 -ServicePrincipalNames Norskale/BrokerService`

   ここで、 は DNS サーバーの名前です。

   ここで、、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。

gMSA の作成の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>` を参照してください。

3. gMSA を手動で構成します。

   a. アカウントがデータベースにアクセスできるようにします。

      i. プライマリ SQL Server で、 > に移動し、 を右クリックして、 を選択します。

      ii. ウィンドウで、 をクリックします。

      iii. ウィンドウで、次のように設定を構成し、 をクリックしてウィンドウを閉じます。

         - **オブジェクトの種類**。「**サービスアカウント**」のみを選択します。
         - **場所**。「**管理されたサービスアカウント**」を選択します。
         - オブジェクト名。手順1で作成したアカウント名を入力します。

      iv. 「**ユーザーマッピング**」ページで、gMSAを適用するデータベースを選択し、そのデータベースのロールメンバーシップとして「**db-owner**」を選択します。

      v. 「**ステータス**」ページで、「**許可**」と「**有効**」のオプションが選択されていることを確認します。

      vi. 「**OK**」をクリックして、「**ログイン - 新規**」ウィンドウを終了します。

   b. 追加したサービスアカウントを使用して、Citrix WEM Infrastructure Serviceを開始します。

      i. インフラストラクチャサーバーで、Windowsサービスマネージャーを開き、Citrix WEM Infrastructure Serviceを右クリックして、「**プロパティ**」を選択します。

      ii. 「**ログオン**」ページで、「**このアカウント**」を選択し、「**参照**」をクリックして、手順3の3番目のサブステップで説明されているとおりに設定を構成します。

      iii. 「**OK**」をクリックして、「**Citrix WEM Infrastructure Serviceのプロパティ**」ウィンドウを終了します。

      iv. Windowsサービスマネージャーで、Citrix WEM Infrastructure Serviceを再起動します。

> **注:**
>
> または、WEM GUIを使用してアカウントを構成することもできます。「WEMデータベースの作成」および「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

負荷分散の構成

ヒント:

「Citrix ADCによる負荷分散」の記事では、WEM管理コンソールおよびWEMエージェントからの受信要求を負荷分散するようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法の詳細が説明されています。

負荷分散サービスでWEMを構成するには：

1. WEMインフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続するためのWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを作成します。
2. WEMデータベースを作成するときは、**インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用**オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウント名を指定します。詳細については、「Workspace Environment Managementデータベースの作成」を参照してください。
3. 各インフラストラクチャサービスがSQL認証ではなくWindows認証を使用してSQLデータベースに接続するように構成します。**Windowsアカウントの偽装を有効にする**オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳細については、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。
4. WEMインフラストラクチャサービスがインフラストラクチャサービスアカウント名を使用するようにSPNを構成します。詳細については、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。

   重要：

   WEM環境を展開する前に、サービスアカウントとマシンアカウントのどちらを使用するかを決定します。WEM環境がすでに展開されている場合、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用している後に受信要求の負荷分散を行う場合は、サービスアカウントではなくマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIPの背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想IPアドレス（VIP）を作成します。エージェントがVIPに接続するときは、VIPでカバーされているすべてのインフラストラクチャサーバーが対象となります。

6. エージェントホスト構成GPOを構成するときは、インフラストラクチャサーバーの設定を個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなくVIPに設定します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。
7. 管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続にはセッション永続性が必要です。（エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は不要です。）各管理コンソールは、VIPを使用するのではなく、インフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Managementデータベースの作成

ヒント:

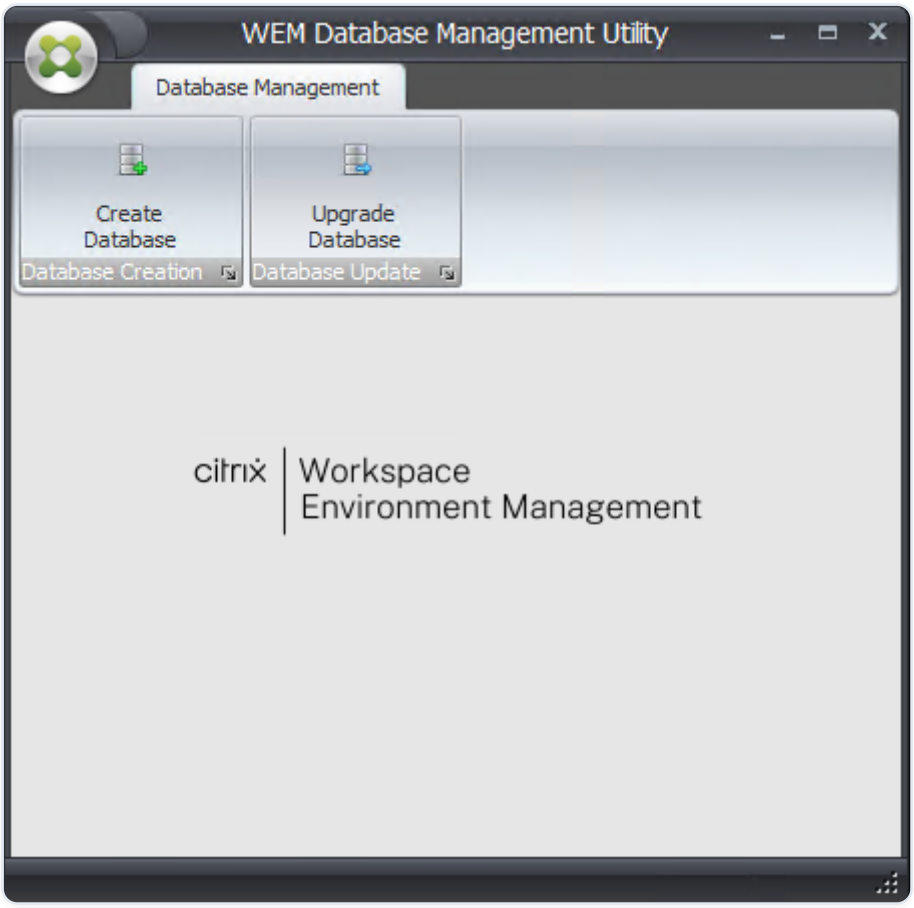
WEM PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDKのドキュメントについては、「Citrix Developer Documentation」を参照してください。

注:

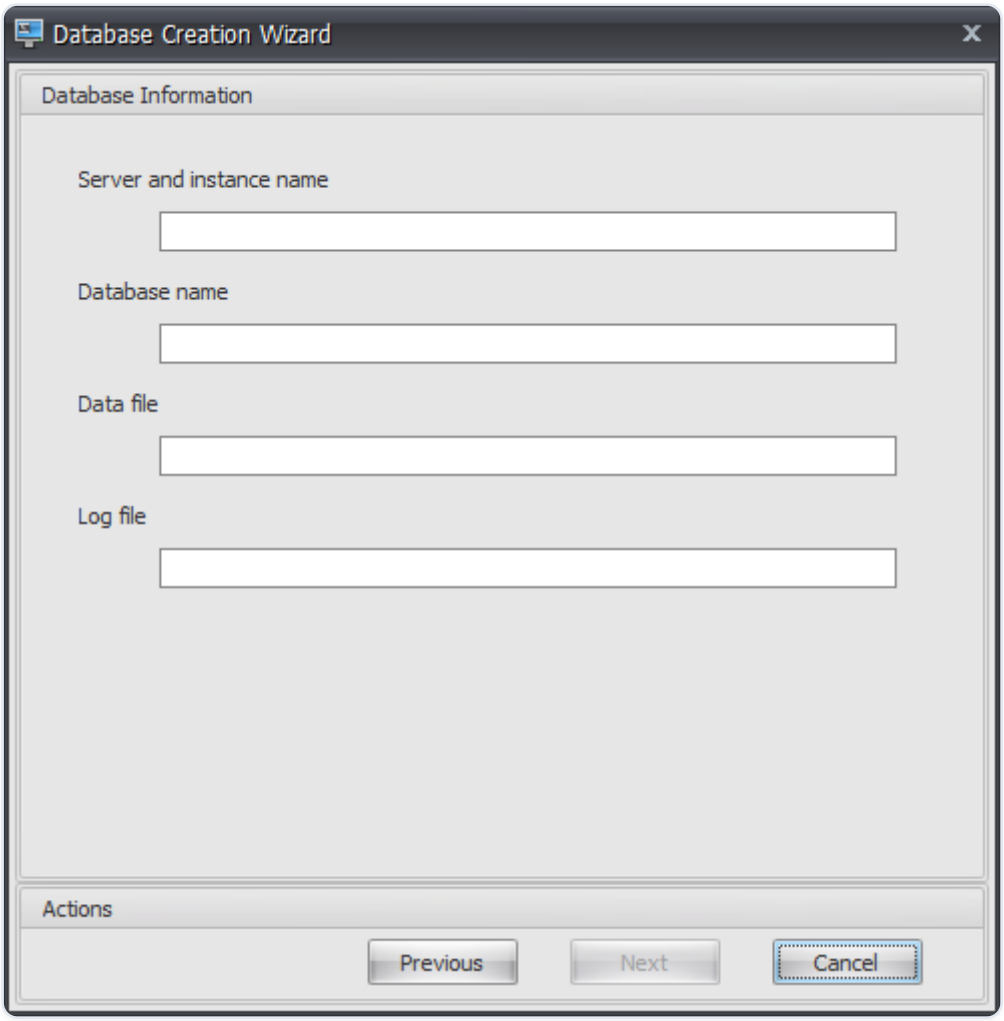
- SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行します。
- Citrixでは、WEMデータベースのプライマリファイル（.mdfファイル）をデフォルトサイズ50 MBで構成することをお勧めします。

データベースを作成するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これはインフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、インストール後すぐに起動します。

1. Database Management Utilityがまだ開いていない場合は、**スタート**メニューから**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Database Management Utility**を選択します。



2. 「**データベースの作成**」をクリックし、「**次へ**」をクリックします。



3. 次のデータベース情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。

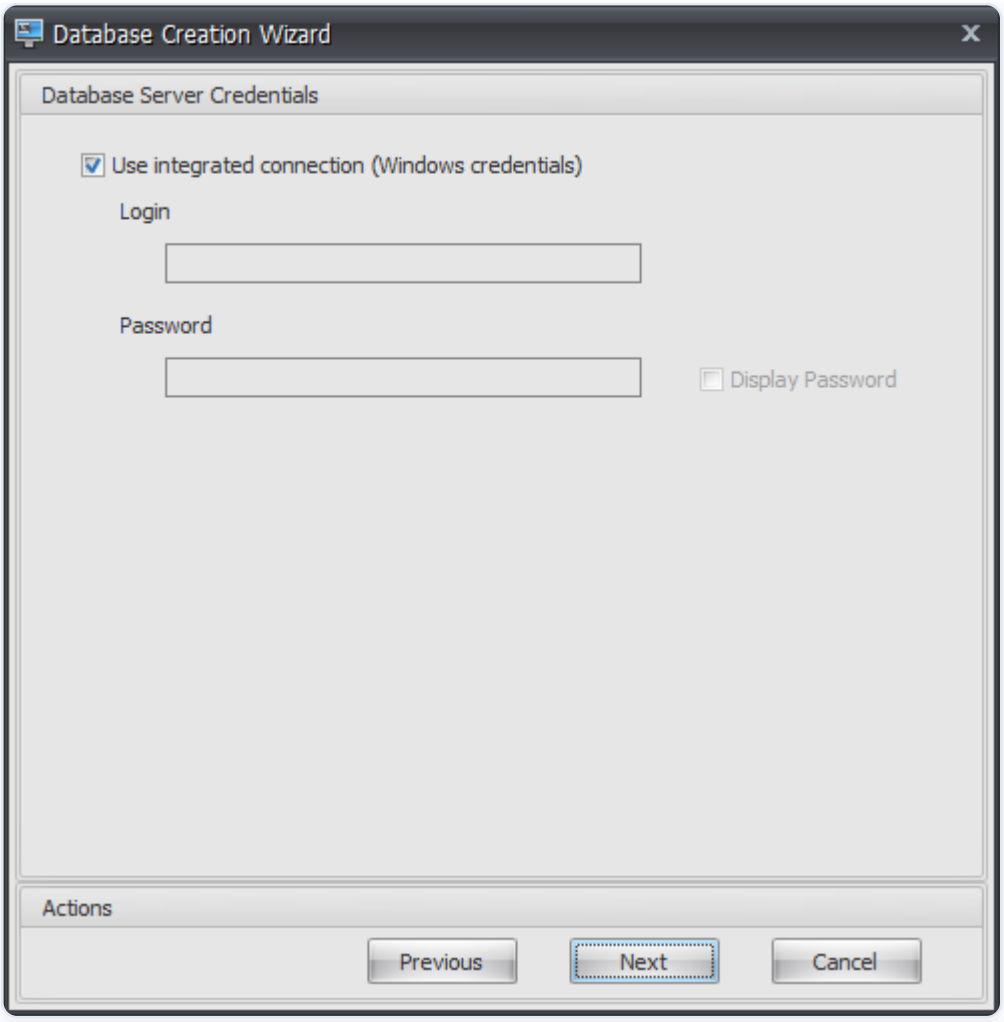
   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされるSQL Serverのアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。サーバーとインスタンス名をマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスとして入力します。完全なインスタンスアドレスを**serveraddress,port\\instancename**として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベース名**。作成するSQLデータベースの名前。

   > **注:**
   >
   > データベース名には、ハイフン (-) やダッシュ (/) などの特殊文字は使用できません。

   - **データファイル**：SQL Server上の**.mdf**ファイルの場所へのパス。
   - **ログファイル**：SQL Server上の**.ldf**ファイルの場所へのパス。

注:

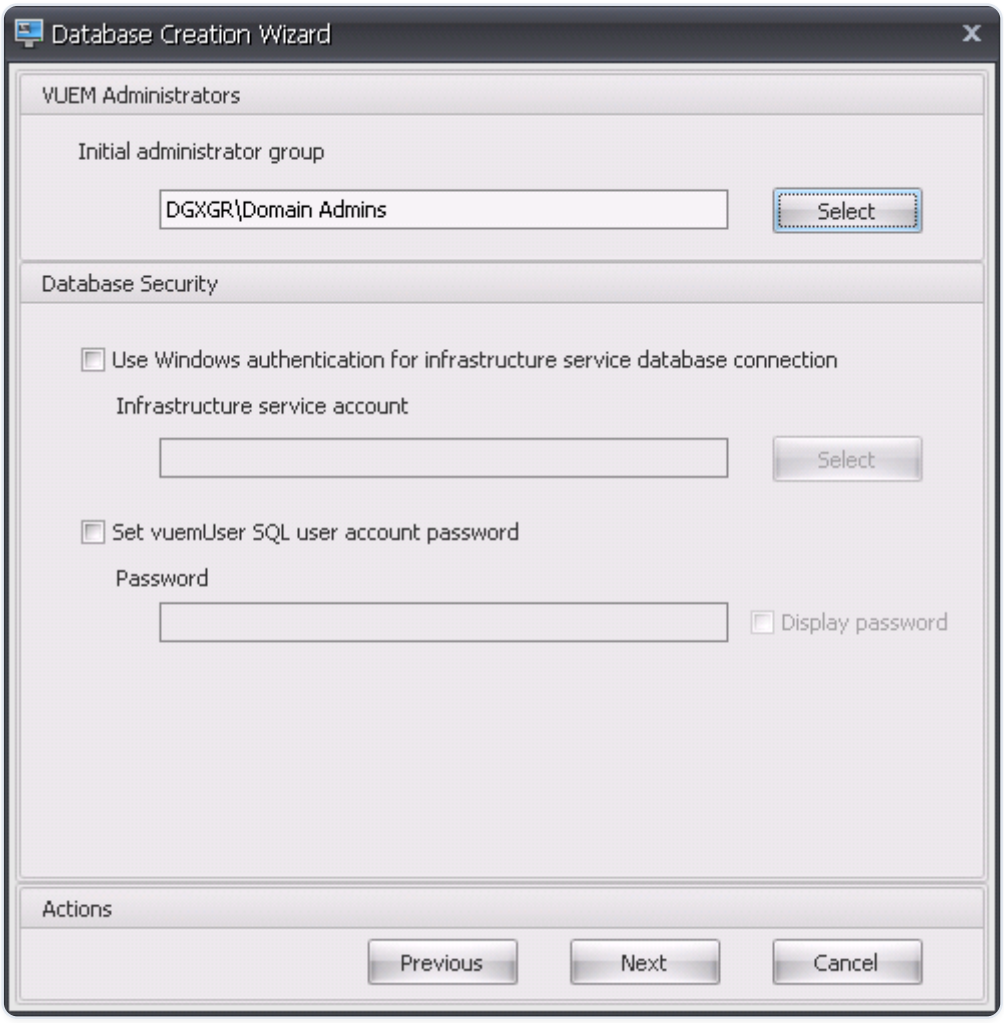
データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルのデフォルトの場所をSQL Serverに照会できません。これらは、MS SQL Serverのデフォルトインストールにおけるデフォルト値に設定されます。これらの2つのフィールドの値がMS SQL Serverのインストールに対して正しいことを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスが失敗します。



4. ウィザードがデータベースの作成に使用できるデータベースサーバーの資格情報を入力し、「**次へ**」をクリックします。これらの資格情報は、データベース作成後にインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用する資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

   オプション「**統合接続を使用**」はデフォルトで選択されています。これにより、ウィザードは実行中のIDのWindowsアカウントを使用してSQLに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するための十分な権限がない場合、十分な権限を

持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして十分な権限を持つSQLアカウントを提供するかのいずれかを選択できます。



5. VUEM管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、「**次へ**」をクリックします。ここで提供する資格情報は、データベース作成後にインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用されます。これらはデータベースに保存されます。

   - **初期管理者グループ**。このユーザーグループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前構成されています。Workspace Environment Management管理者として構成されたユーザーのみが管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定しないと、ご自身で管理コンソールを使用できなくなります。
   - **インフラストラクチャサービスデータベース接続にWindows認証を使用する**。このオプションがオフの場合（デフォルト）、データベースはインフラストラクチャサービスが *vuemUser* SQLユーザーアカウントを使用して接続することを想定しています。vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセスによって作成されます。これには、SQLインスタンスで混合モード認証を有効にする必要があります。

このオプションが選択されている場合、データベースはインフラストラクチャサービスがWindowsアカウントを使用して接続することを想定しています。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したのと同じWindowsアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用することはできません。

gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。デフォルトでは、vuemUser SQLアカウントは、大文字と小文字、数字、句読点を使用する8文字のパスワードで作成されます。独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを入力する場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、このオプションを選択します。

> **重要：**
>
> - Workspace Environment ManagementデータベースをSQL Server Always On可用性グループに展開する予定がある場合は、vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する必要があります。
> - ここでパスワードを設定した場合は、インフラストラクチャサービスを構成するときに同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. 概要ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ**データベースの作成**をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したという通知が表示されたら、**完了**をクリックしてウィザードを終了します。

   データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

インフラストラクチャサービスの構成

> **ヒント:**

> Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用して、インフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDKドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

> インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように、**WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを使用して構成する必要があります。

1. **スタート**メニューから、**Citrix > Workspace Environment Management > WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を選択します。
2. **データベース設定**タブで、次の詳細を入力します。

   - **データベースサーバーとインスタンス**。Workspace Environment Managementデータベースがホストされ ているSQL Serverインスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「serveraddress, port\\instancename」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。データベースミラーリングを使用している場合は、ここにフェールオーバーサーバーアドレスを指定します。
   - **データベース名**。SQLインスタンス上のWorkspace Environment Managementデータベースの名前。

   インフラストラクチャサービス構成データベース設定(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-infra-service-config-dbase.png)
3. **ネットワーク設定**タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - **管理ポート**。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用します。
   - **エージェントサービスポート**。このポートは、エージェントホストがインフラストラクチャサービスに接続するために使用します。
   - **キャッシュ同期ポート**。このポートは、エージェントサービスがそのキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用します。
   - **WEM監視ポート**。

   インフラストラクチャサービス構成ネットワーク設定(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-infra-service-config-network.png)
4. **詳細設定**タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

- **Windowsアカウントの偽装を有効にする**。デフォルトでは、このオプションはクリアされており、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します（データベース作成時に作成されたSQLアカウント *vuemUser* を使用）。代わりにデータベース作成時にWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続時にインフラストラクチャサービスが偽装する同じWindowsアカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。

  gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。
- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定**。データベース作成時に *vuemUser* SQLユーザー用に構成されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。このオプションは、データベース作成時に独自のパスワードを提供した場合にのみ有効にしてください。
- **インフラストラクチャサービスキャッシュ更新遅延**。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分）。インフラストラクチャサービスがSQLに接続できない場合、キャッシュが使用されます。
- **インフラストラクチャサービスSQL状態監視遅延**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーをポーリングする各試行間の時間（秒）。
- **インフラストラクチャサービス SQL 接続タイムアウト**。インフラストラクチャサービスが SQL サーバーとの接続を確立しようとするときに、試行を終了してエラーを生成するまでに待機する時間 (秒単位)。
- **デバッグモードを有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは詳細ログモードに設定されます。
- **オンラインでもキャッシュを使用する**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にキャッシュからサイト設定を読み取ります。
- **パフォーマンスチューニングを有効にする**。接続されているエージェントの数が特定のしきい値 (デフォルトでは 200) を超えるシナリオで、パフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するまでの時間が短縮されます。
  - **ワーカー スレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成するワーカー スレッドの最小数を指定します。ワーカー スレッドの数を 30～3000 の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカー スレッドの最小数は 200 です。
  - **非同期 I/O スレッドの最小数**。スレッドプールがオンデマンドで作成する非同期 I/O スレッドの最小数を指定します。非同期 I/O スレッドの数を 30～3000 の範囲で設定しま

す。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期 I/O スレッドの最小数は 200 です。

重要：

この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断される場合に特に役立ちます。

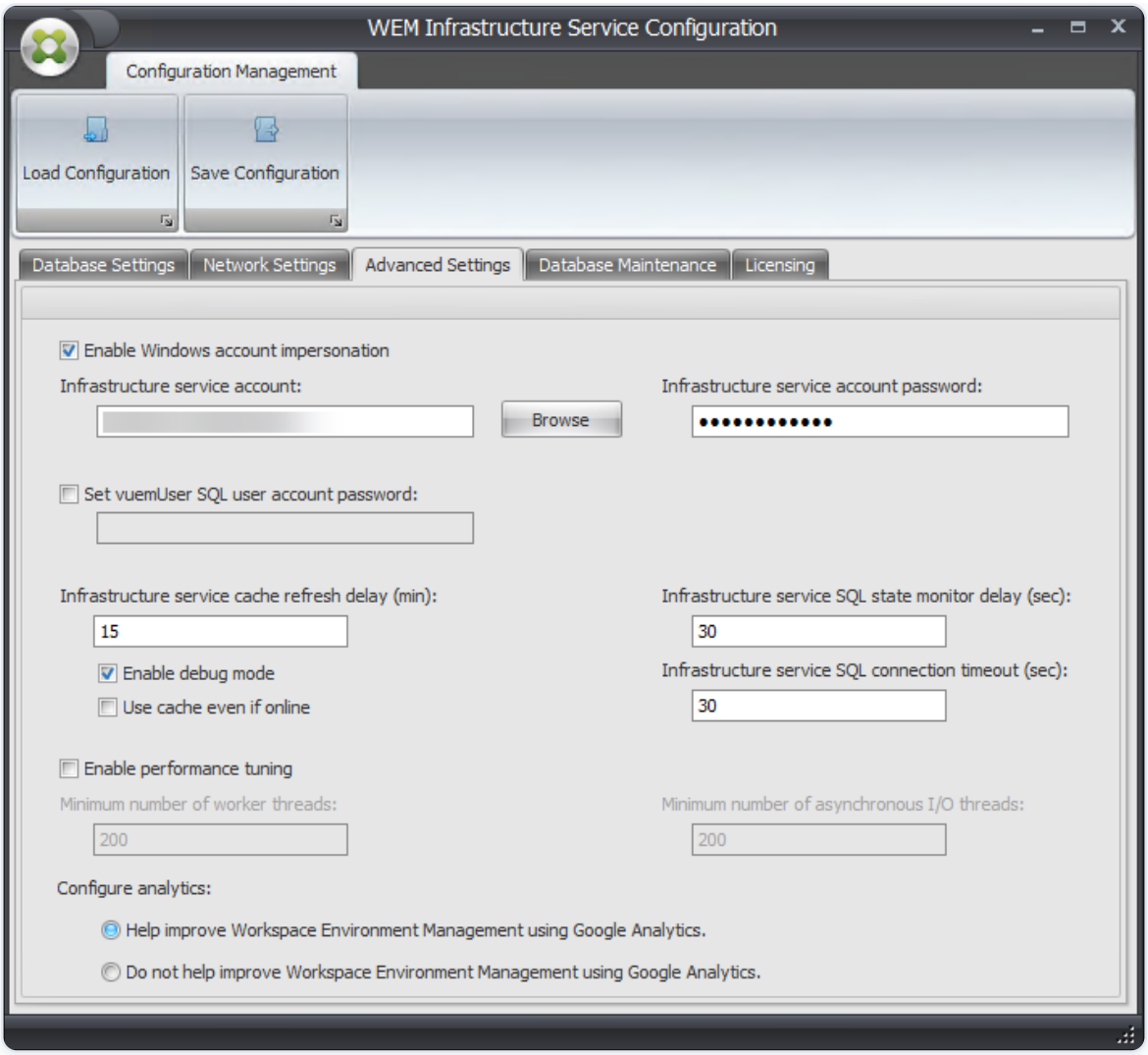
注:

パフォーマンスチューニングを有効にするフィールドで設定した値は、新しい要求が行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前に使用されます。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>` および `<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>` を参照してください。

- **Google Analytics を使用して Workspace Environment Management の改善に協力する**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データを Google Analytics サーバーに送信します。
- **Google Analytics を使用して Workspace Environment Management の改善に協力しない**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データを Google Analytics サーバーに送信しません。

重要：

2212 以降、Workspace Environment Management は、インフラストラクチャサービスをホストするマシンの地域に基づいて、選択するオプションを決定します。マシンが非ヨーロッパ地域にある場合は、最初のオプションが選択されます。マシンがヨーロッパ地域にある場合は、2番目のオプションが選択されます。この動作は、新規インストールにのみ適用されます。

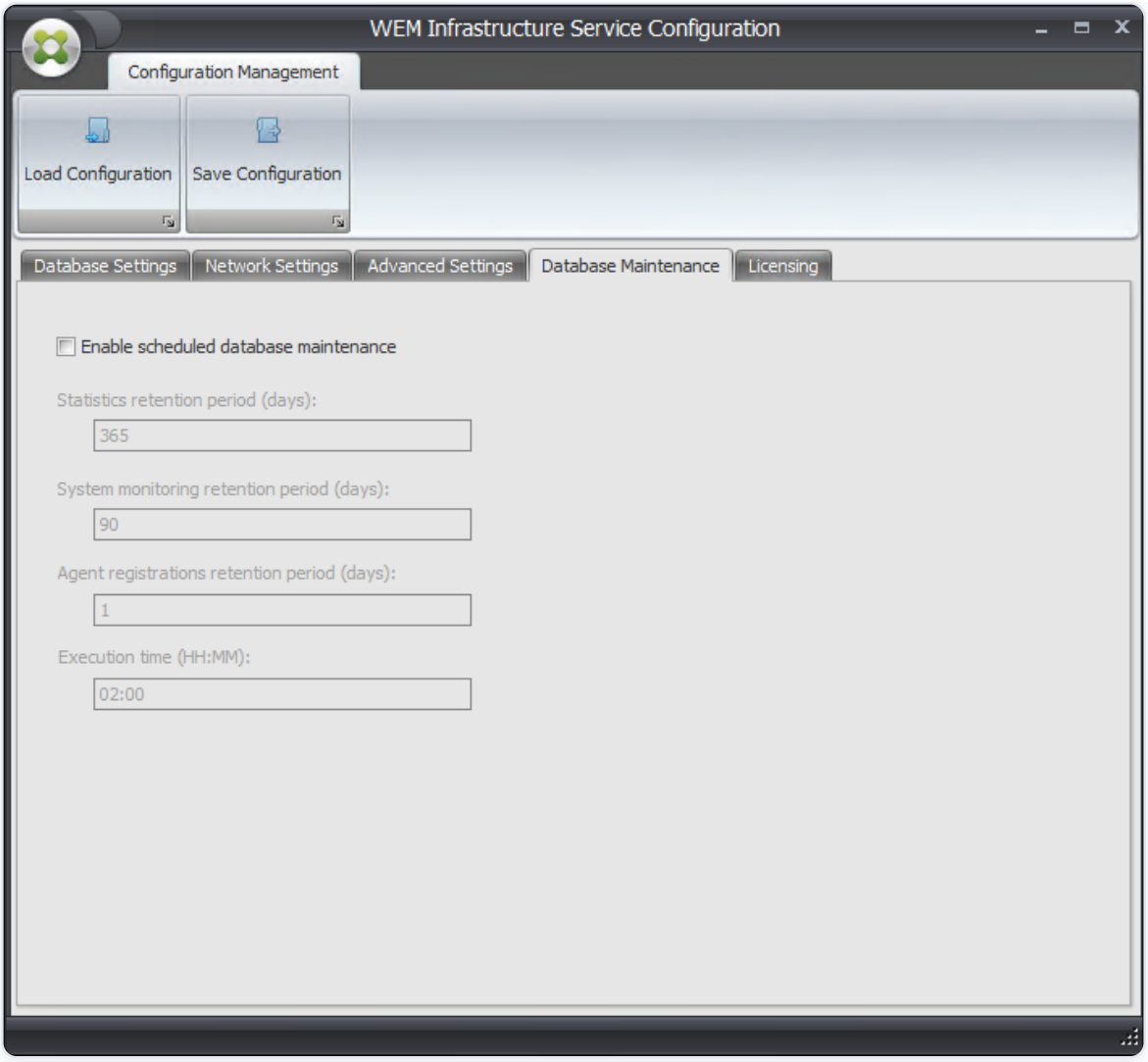


5. **データベースメンテナンス**タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

   - **スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にする**。有効にすると、この設定は古い統計レコードをデータベースから定期的に削除します。
   - **統計保持期間**。ユーザーおよびエージェントの統計が保持される期間を決定します。デフォルトは 365 日です。
   - **システム監視の保持期間**。システム最適化統計が保持される期間を決定します。デフォルトは90日です。
   - **エージェント登録の保持期間**。エージェント登録ログがデータベースに保持される期間を決定します。デフォルトは1日です。
   - **実行時間**。データベースメンテナンスアクションが実行される時間を決定します。デフォルトは02:00です。

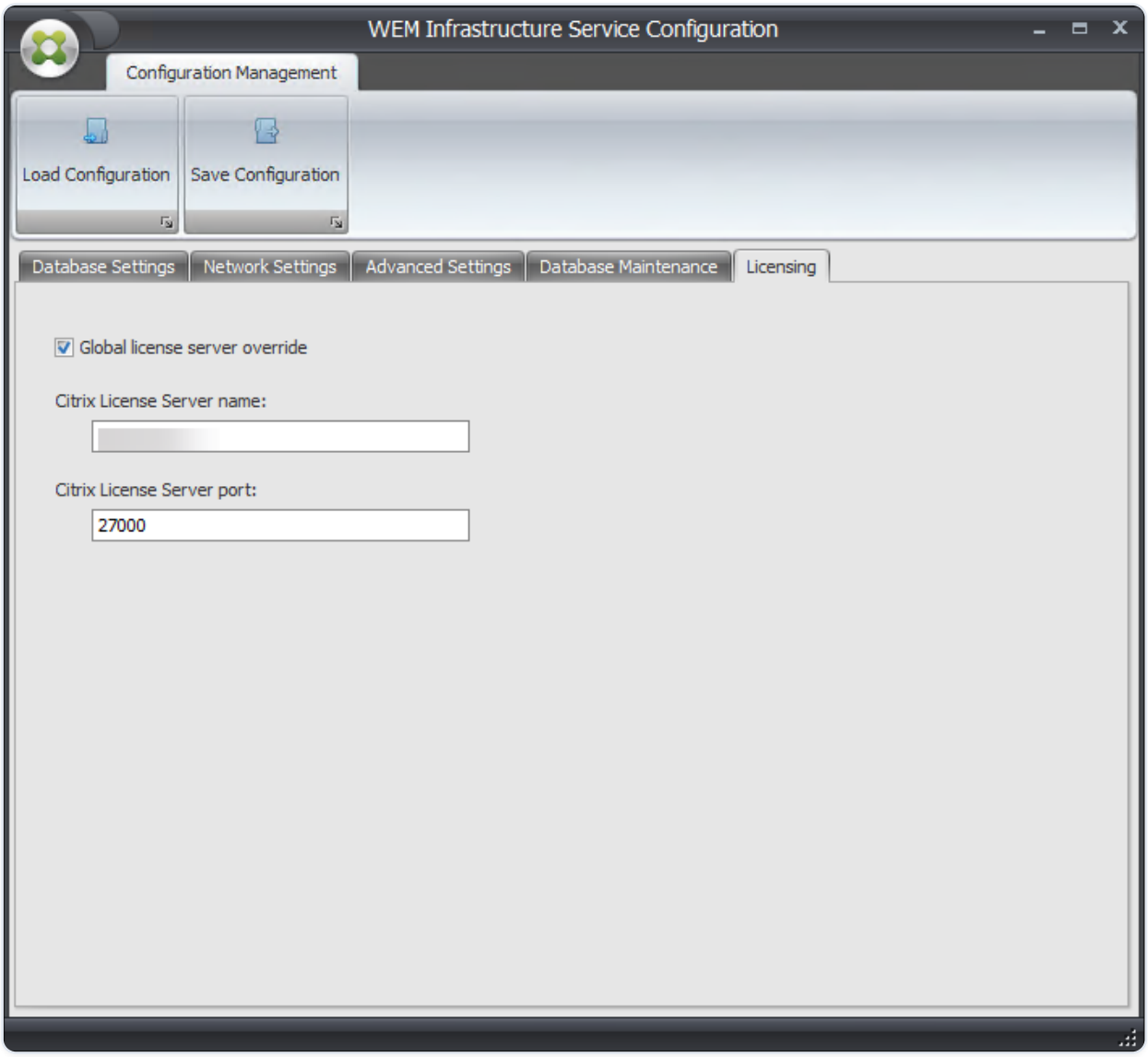
> **ヒント**

ベストプラクティスとして、データベースサイズを削減し、最高のパフォーマンスを達成するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一のWEM展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスのみで有効にしてください。



6. インフラストラクチャサービスの構成中に、オプションで**ライセンス**タブを使用してCitrixライセンスサーバーを指定できます。指定しない場合、管理コンソールが新しいWorkspace Environment Managementデータベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの**バージョン情報**タブでCitrixライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。Citrixライセンスサーバーの情報は、どちらの場合もデータベース内の同じ場所に保存されます。

   - **グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**。このオプションを有効にすると、Workspace Environment Managementで使用されるCitrixライセンスサーバーの名前を入力できます。ここに入力した情報は、Workspace Environment Managementデータベースに既に存在するCitrixライセンスサーバー情報をすべて上書きします。



インフラストラクチャサービスが満足のいくように構成されたら、**構成の保存**をクリックしてこれらの設定を保存し、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを終了します。

管理コンソール

管理コンソールをインストールする

> **注:**
>
> 管理コンソールからWorkspace Environment Managementのアプリケーションショートカットとして Citrix StoreFrontストアで公開されているリソースを割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspaceアプリ for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

> 管理者コンソール環境で **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

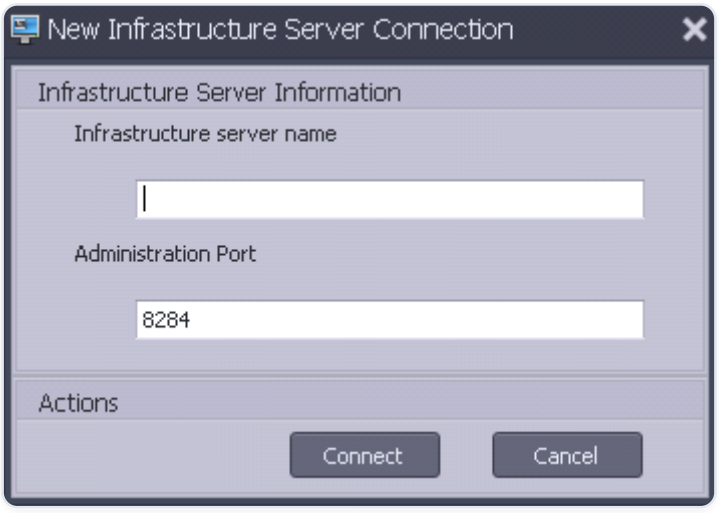
インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例：

- .\Citrix Workspace Environment Management Console.exe `/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console" /log "C:\test\test.log"`
- `/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console" /log "C:\test\test.log"`
  - `/quiet`。サイレントモードを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `ConsoleLocation`。管理コンソールのインストールパスを示します。

インフラストラクチャサーバー接続を作成する

スタートメニューで、**Citrix®>Workspace Environment Management™>WEM Administration Console** を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。

リボンで、**接続**をクリックして**新しいインフラストラクチャサーバー接続**ウィンドウを開きます。

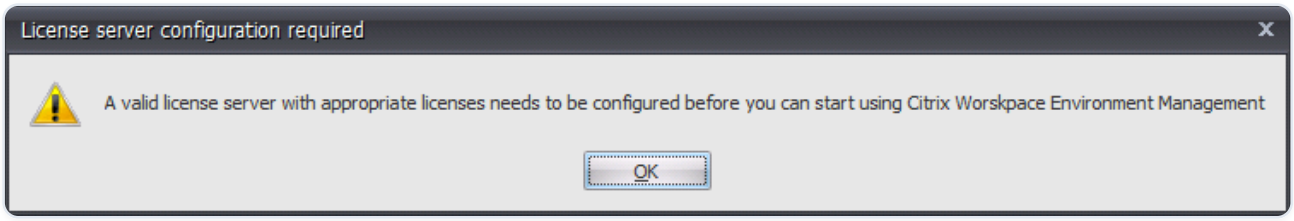


次の値を入力し、**接続**をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーの名前です。管理コンソール環境から入力したとおりに解決できる必要があります。

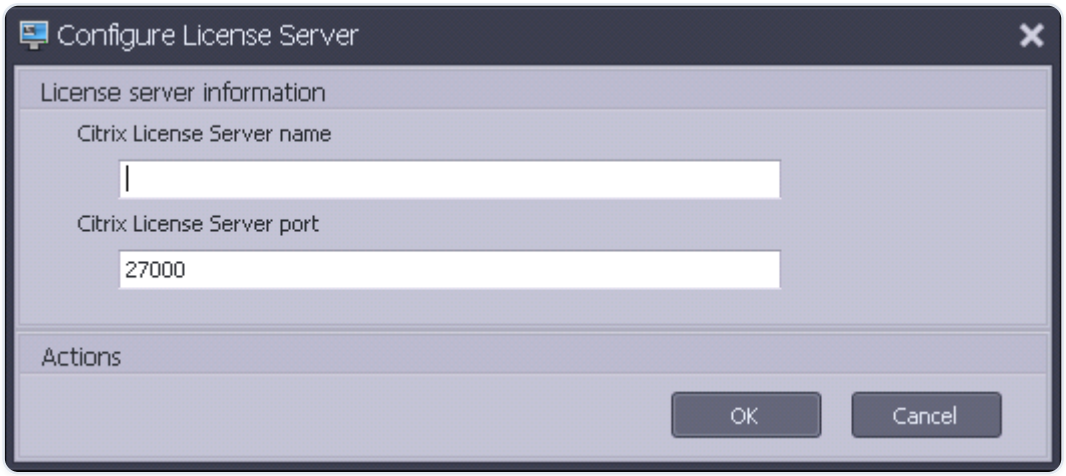
管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。

新しいデータベースに初めて接続すると、有効なライセンスを持つCitrixライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。



ライセンスサーバーでデータベースを構成する

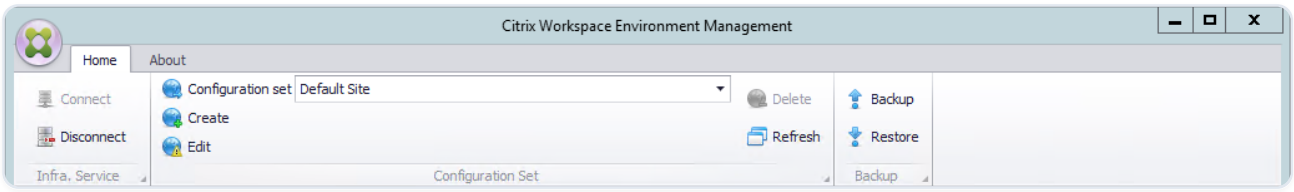
ライセンスサーバーでデータベースを構成するには、管理コンソールのリボンで をクリックし、をクリックして、Citrixライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrixライセンスサーバーのアドレスは、入力されたとおりに管理コンソール環境から解決できる必要があります。



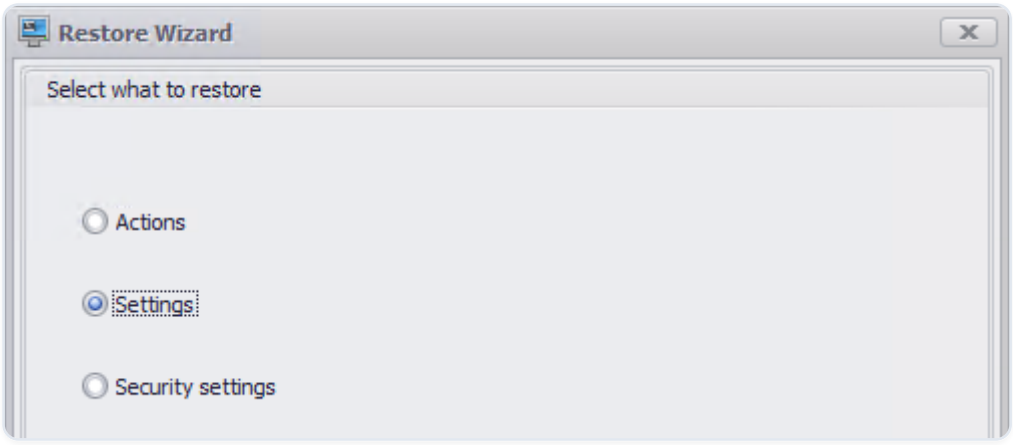
クイックスタート設定のインポート

Workspace Environment Managementには、Workspace Environment Managementデータベースを事前に構成して、すぐに概念実証できる状態にするために使用できるXMLファイルが含まれています。XMLファイルは、Workspace Environment Managementインストーラーパッケージの「Configuration Templates」フォルダーに用意されています。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、 リボンで をクリックします。



で、 を選択し、 をクリックします。



で、クイックスタート設定ファイルを含むフォルダー「Configuration Templates」を選択し、すべての設定タイプを選択します。

Web コンソール

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります: **Citrix WEM Public API Service** (NT SERVICE\\Citrix WEM Public API Service)。これは、Workspace Environment Management (WEM) Webコンソールをサポートし、WEMインフラストラクチャサービスと通信するためのHTTPSサービスを提供します。 アカウント: WEMグローバルフルアクセスを持ち、Webコンソールサービスが実行されているWebコンソールサーバーの管理者ユーザーグループに属する、指定されたドメインユーザーアカウント。 Webコンソールサービスは、WEMインフラストラクチャサービスが実行されているマシンにインストールすることをお勧めします。

Web コンソールサービスのインストール

Webコンソールサービスをインストールするには、**Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe**を実行します。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\\Program Files (x86)\\Citrix\\Workspace Environment Management Web Console`。

次の引数を使用してインストールをカスタマイズできます:

ApiLocation: Webコンソールサービスをインストールするディレクトリ。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例:

- .\Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe `/quiet ApiLocation="C:\WEM\webconsole"` を実行します。
- `.\setup.exe /quiet ApiLocation="path:\to\install" /log="path:\to\log"`
    - setup.exe。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。

- `/quiet`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
- `/log`。ログファイルの場所を示します。
- `ApiLocation="path:\to\install"`。Webコンソールサービスをインストールする場所を指定します。

Web コンソールの構成

インストールパスにある次のツールを使用して、Webコンソールを構成する必要があります。`WEM Web Console Configuration.exe`

前提条件

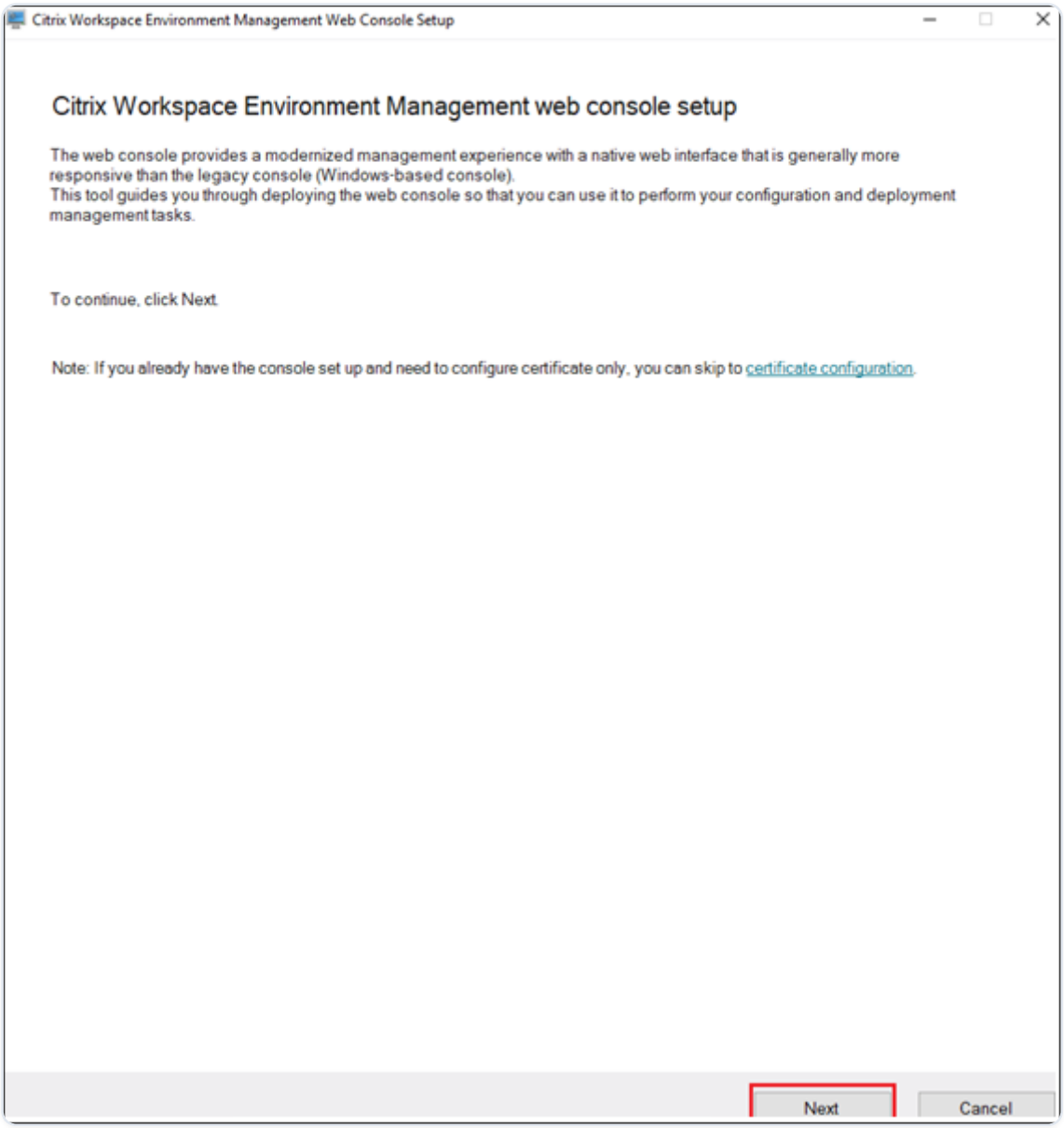
このWebコンソールリリースは、WEM 2303以降の展開と互換性があります。

2303より前の展開の場合、まず2303にアップグレードしてから、Webコンソールを構成します。

Webコンソールの構成と起動

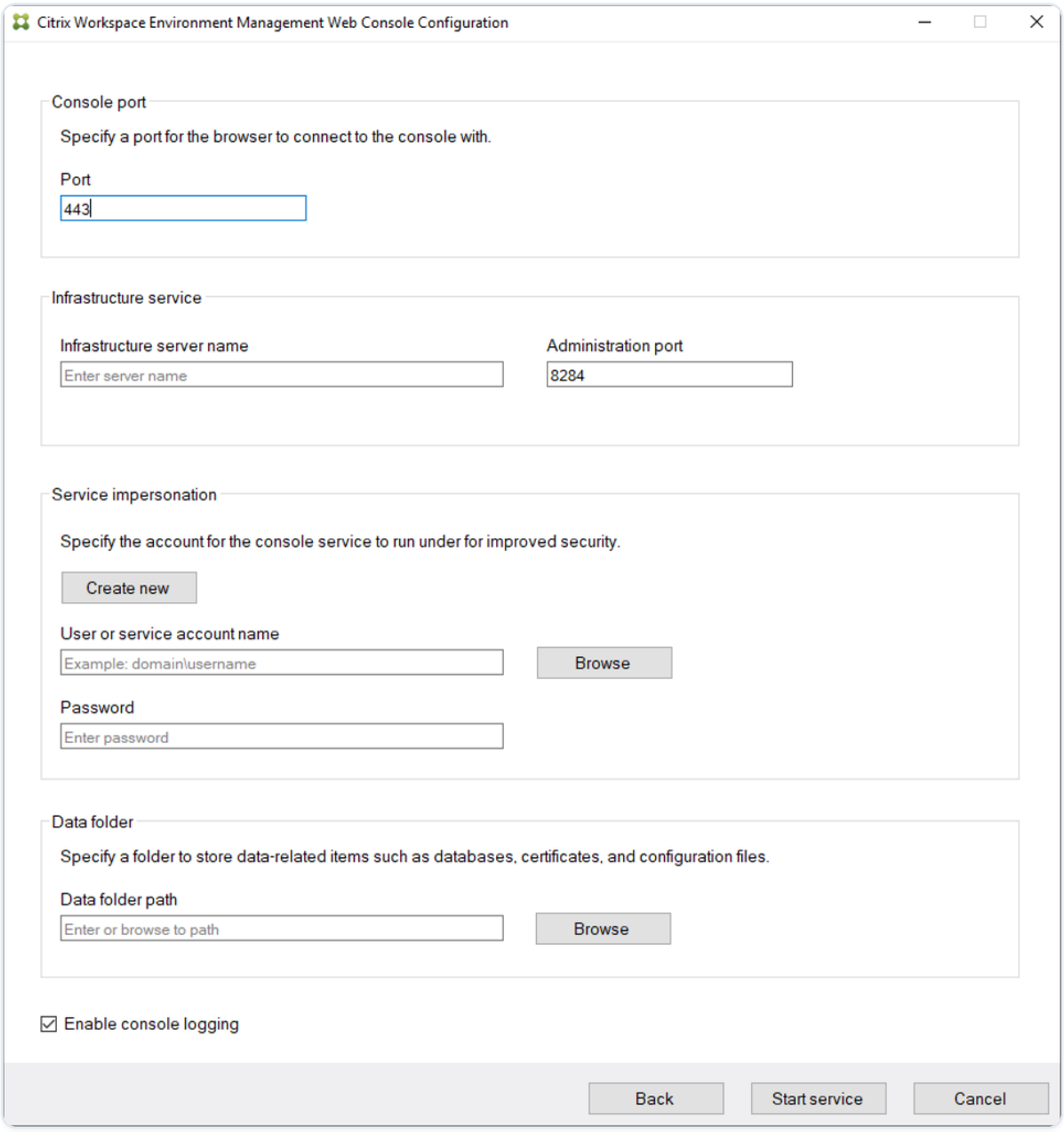
Webコンソールを構成して起動するには、次の手順を実行します。

1. Webコンソールフォルダーで`WEM Web Console Configuration.exe`ツールを起動し、**次へ**をクリックします。



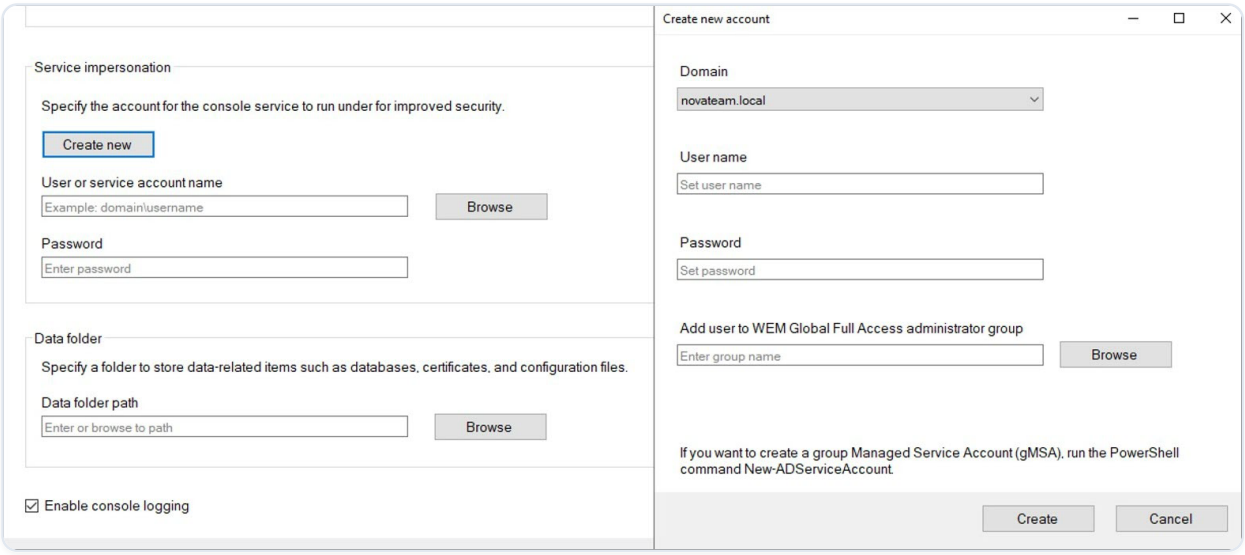
2. ブラウザーがコンソールに接続するためのポートを指定して、コンソールポートを構成します。デフォルトポートは443です。
3. インフラストラクチャサービス情報を指定して、インフラストラクチャサービスを構成します。

    - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
    - 管理ポートには、Webコンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートを入力します。デフォルトポートは8284です。

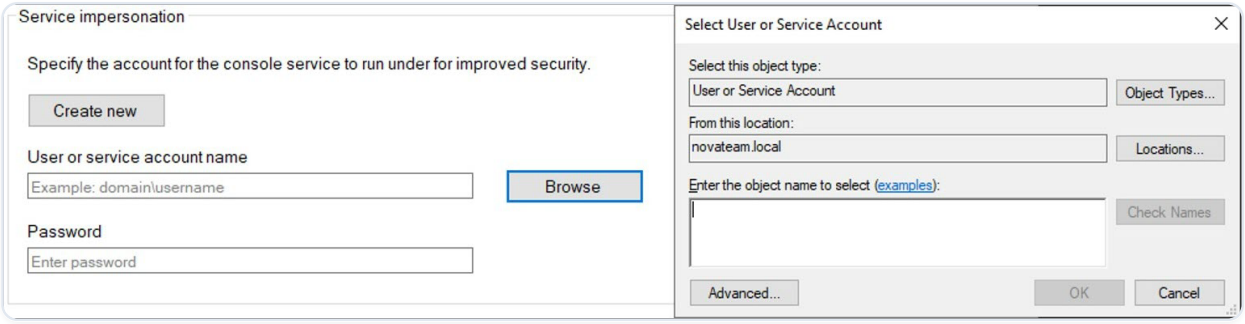


4. Webコンソールサービスがセキュリティを向上させるために特定のアカウントを偽装する場合に、**サービス偽装**を構成します。新しいユーザーを作成するか、既存のユーザーを選択できます。

    - 新しいユーザーを作成し、そのユーザーをWEMグローバルフルアクセス管理者グループに追加します。



- WEMグローバルフルアクセス管理者グループから既存のユーザーを選択します。



5. データベースや構成ファイルなどのデータ関連アイテムを共有するフォルダーを指定して、**データフォルダー**を構成します。

   データフォルダー(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-data-folder.png)

6. **サービスを開始**をクリックします。

   サービスを開始(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-start-service.png)

7. Webコンソールサービスの起動が成功したら、**証明書の構成**をクリックして証明書を構成します。証明書を構成する方法は2つあります。

   - 証明書ファイルを使用するには、**参照**をクリックします。

   証明書の構成(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-configure-certificate-1-a.png)

   - 自己署名証明書を作成するには、**自己署名証明書の作成**をクリックします。

   自己署名証明書の作成(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-configure-certificate-1-b.png)

- **証明書を設定**をクリックします。

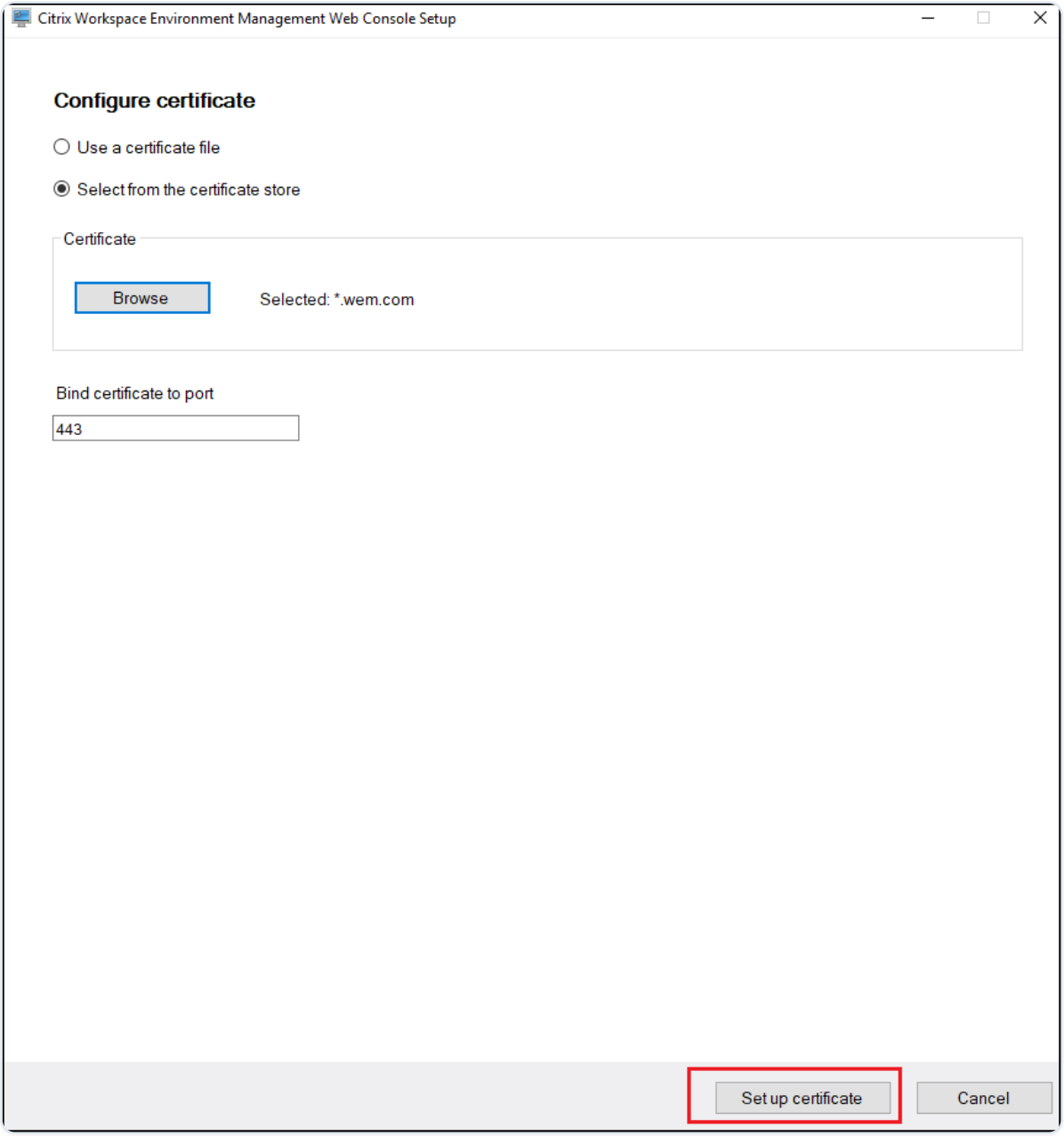
証明書を設定(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-set-up-certificate.png)

- 証明書が正常に構成されたら、**完了**をクリックします。

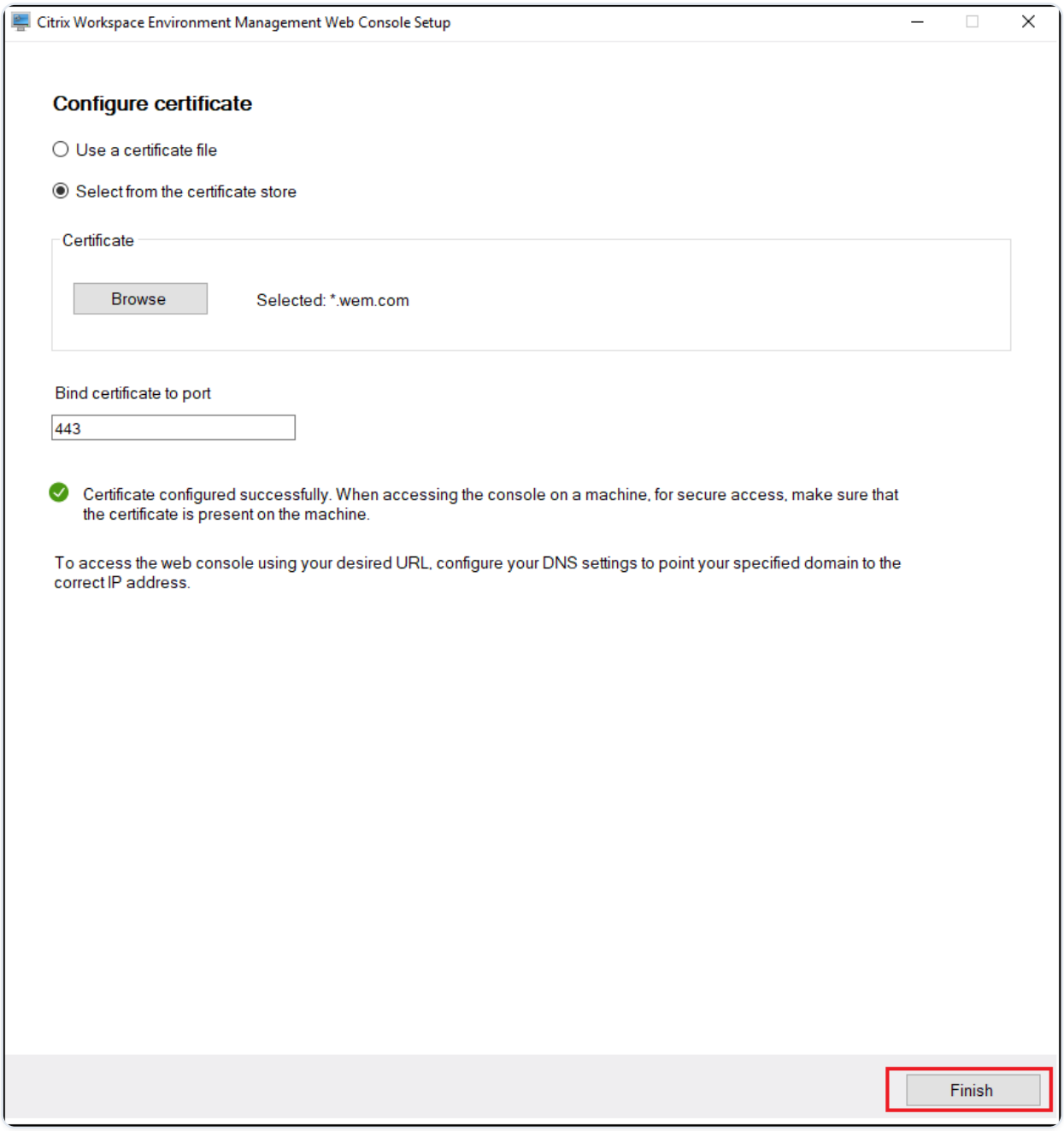
完了(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-configure-certificate-1-finish.png)

- 証明書ストアから証明書を使用するには、目的の証明書を選択します。

  証明書の構成(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/web-console-configure-certificate-2-a-from-store.png)
- 「**証明書のセットアップ**」をクリックします。



- 証明書の設定が正常に完了したら、「**完了**」をクリックします。



8. グローバルなフルアクセスアカウントを作成するには、レガシーコンソールに移動し、「**管理**」をクリックして権限を管理します。

> **注:**
>
> Windowsドメインアカウントは、グローバルなフルアクセスアカウントである必要があります。
>
> Webコンソールを使用する前に、Windowsドメインアカウントを使用してログインする必要があります。

WEM Webコンソールの詳細については、「管理 (Webコンソール)」を参照してください。

9. テンプレートベースのGPO、スクリプトタスク、バックアップと復元、およびファイルを使用するには、共有ストレージフォルダーを設定する必要があります。

> **注:**
>
> 共有フォルダーのアクセス許可を設定するには、次のガイドラインに従ってください。
>
> - 少なくとも1人のユーザーが、アクセス許可の変更または所有権の取得のアクセス許可を除き、共有フォルダーへのフルアクセス権を持っていることを確認します。
> - 共有フォルダーがWebコンソールサービスをホストしているマシンからアクセス可能であることを確認します。
> - 構成されたユーザーがWebコンソールサービスによって偽装されるユーザーと同じである場合、Webコンソールで共有フォルダーを構成するときに資格情報を省略できます。それ以外の場合は、資格情報を指定する必要があります。偽装されたユーザーを使用することが推奨されるアプローチです。 セキュリティを強化し、アクセスを最小限に抑えるために、共有フォルダーへのアクセス許可を持つアカウントの数を可能な限り制限してください。
>
> Webコンソールに移動し、右上隅にあるアカウント名をクリックし、「**ストレージフォルダー**」をクリックして、共有SMBパスを構成します。

エージェント

エージェントのインストールと構成

> **注:**
>
> - インフラストラクチャサーバーにWorkspace Environment Management™ (WEM) エージェントをインストールしないでください。
> - WEMエージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。

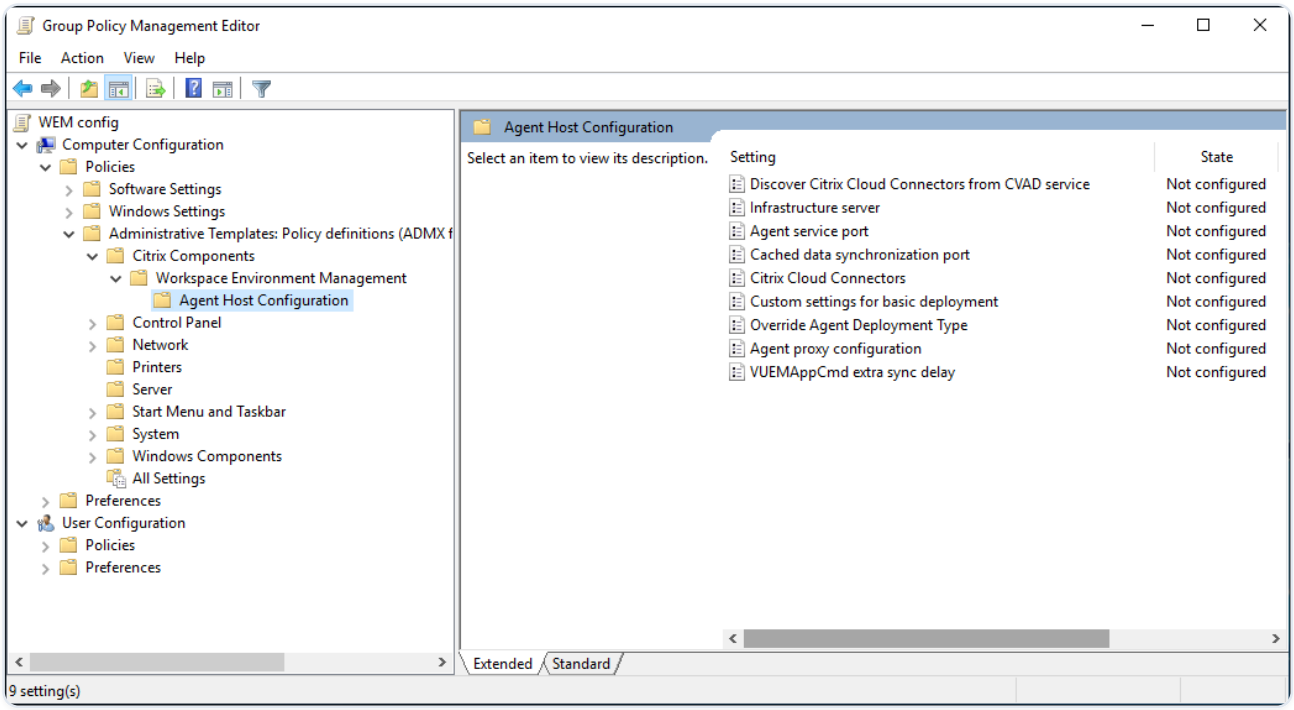
- 管理コンソールからWEMのアプリケーションショートカットとしてCitrix StoreFrontストアで公開されているリソースを割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンにCitrix Workspaceアプリ for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

ステップ1：グループポリシーの構成（オプション）

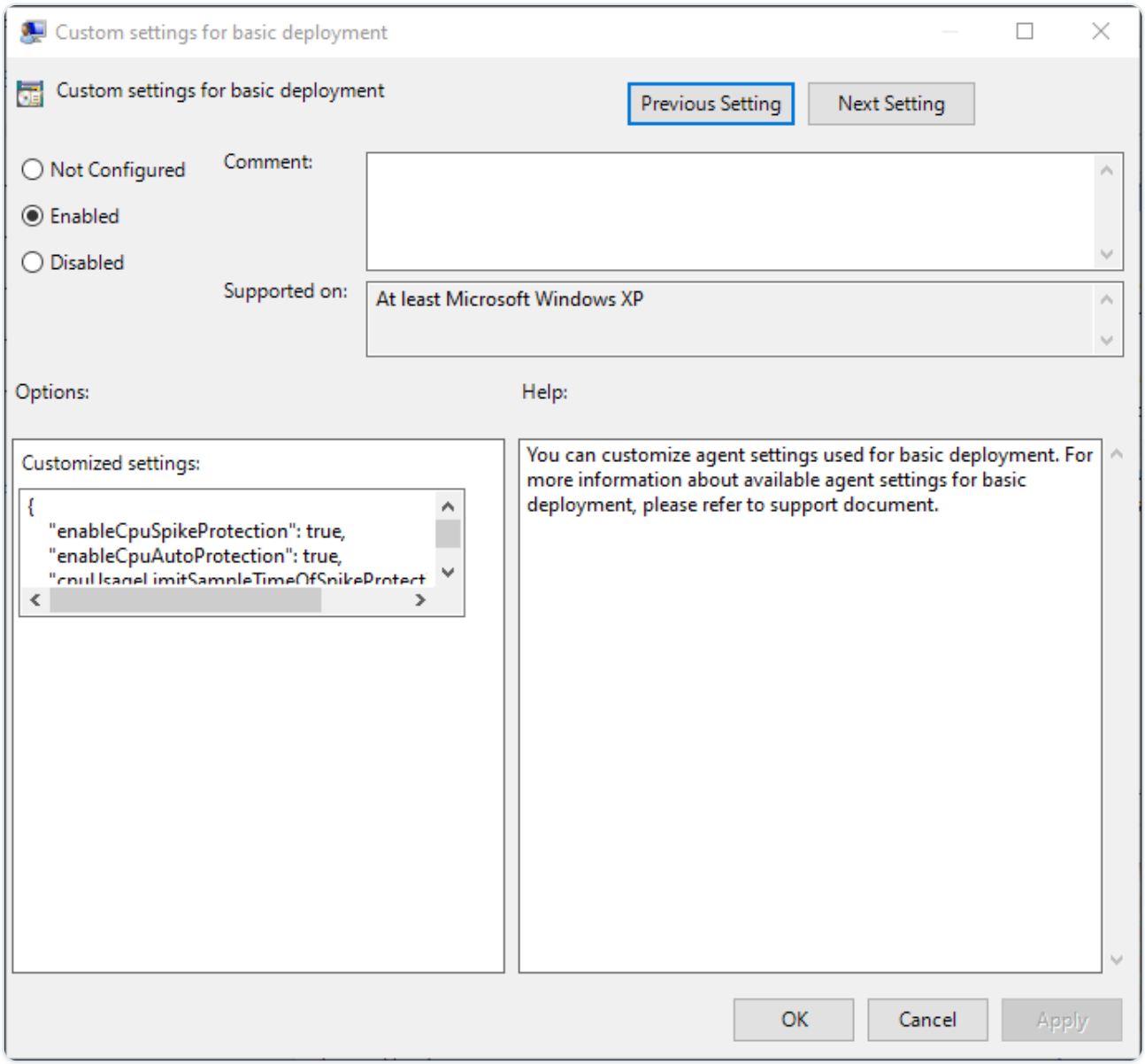
オプションで、**Agent Group Policies**管理用テンプレートを使用してエージェントのグループポリシーを構成できます。WEMインストールパッケージにはこのテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは、.admxファイルと、言語固有の.admlファイルに分かれています。グループポリシーはドメインコントローラーで構成することをお勧めします。

エージェントホスト構成ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEMインストールパッケージに含まれている**Agent Group Policies**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* および *CitrixBase.adml*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
4. **グループポリシー管理エディター**ウィンドウで、**コンピューターの構成 > ポリシー > 管理用テンプレート > Citrix コンポーネント > Workspace Environment Management > エージェントホストの構成**に移動し、次の設定を構成します。



基本展開のカスタム設定。展開に使用されるカスタマイズされたエージェント設定。基本展開で利用可能なエージェント設定の詳細については、「基本展開エージェントの管理」を参照してください。



エージェント展開タイプを上書き。WEMエージェントの展開タイプを上書きします。クラウドサービス、オンプレミス、または基本展開を選択できます。

CVADサービスからCitrix Cloud Connector™を検出。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は「構成されていません」のままにします。

インフラストラクチャサーバー。WEMインフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前またはIPアドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービス構成中にエージェントサービスポート用に構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで8286になります。

キャッシュデータ同期ポート。（Workspace Environment Management 1912以降に適用されます。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。）エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポート。キャッシュデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービス構成中にキャッシュデータ同期ポート（**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**）用に構成したポートと同じである必要があります。ポートはデフォルトで8288であり、`CachedDataSyncPort`コマンドライン引数に対応します。または、WEMエージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例：

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud™ Connectors。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**構成されていません**のままにします。

エージェントプロキシ構成。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態は**構成されていません**のままにします。

VUEMAppCmdの追加同期遅延。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktops公開リソースが開始される前に待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100～200です。デフォルト値は0です。

ステップ2：エージェントをインストールする

> **重要：**

> エージェントのインストール中に.NET Frameworkを自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

> ユーザー環境で **Citrix Workspace™ Environment Management Agent** を実行できます。コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかのフォルダーにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64ビットOSの場合)

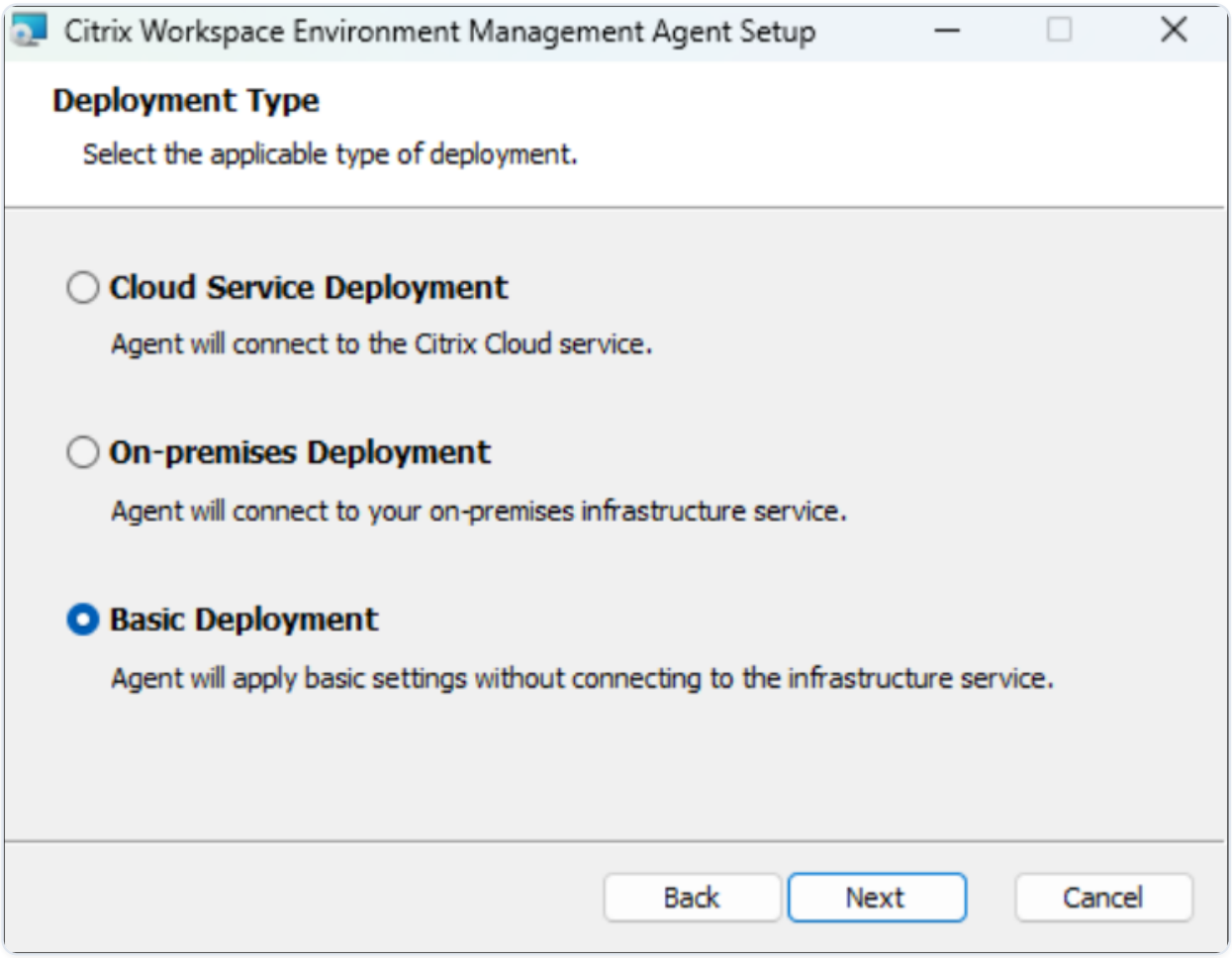
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32ビットOSの場合)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. **I agree to the license terms and conditions** を選択し、**Install** をクリックします。
3. Welcomeページで、**Next** をクリックします。

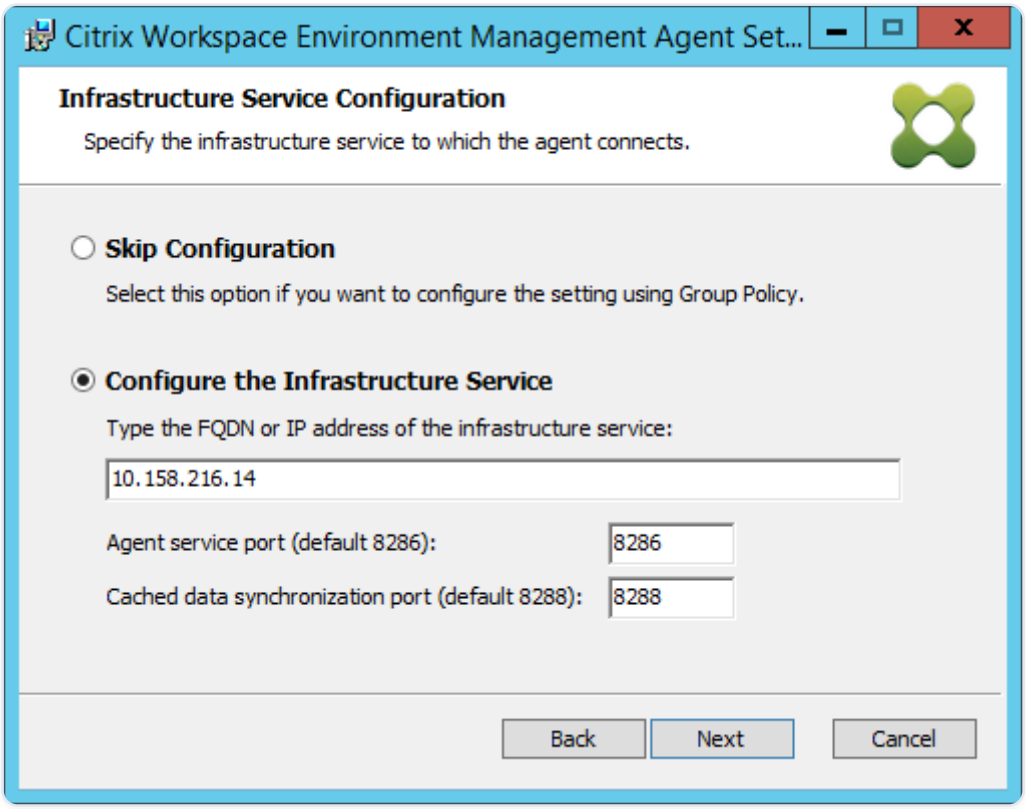
> **注:**
>
> Welcomeページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. Destination Folderページで、**Next** をクリックします。
   - デフォルトでは、宛先フォルダーフィールドにはデフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**Change** をクリックしてそのフォルダーに移動し、**Next** をクリックします。
   - WEMエージェントをすでにインストールしている場合、宛先フォルダーフィールドには既存のインストールフォルダーパスが自動的に入力されます。
5. Deployment Typeページで、該当する展開タイプを選択し、**Next** をクリックします。この場合は、**On-premises Deployment** を選択します。
6. **Basic Deployment** タイプを選択することもできます。**Basic Deployment** タイプを選択すると、エージェントはインフラストラクチャサービスに接続せずに、デフォルトの最適化設定を有効にします。



7. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、**次へ**をクリックします。

   - **構成をスキップ**。グループポリシーを使用して設定をすでに構成している場合は、このオプションを選択します。
   - **インフラストラクチャサービスを構成**。インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
   - **エージェントサービスポート**。デフォルトでは、値は8286です。
   - **キャッシュデータ同期ポート**。デフォルトでは、値は8288です。



8. 「詳細設定」ページで、エージェントの詳細設定を構成し、**次へ**をクリックします。

   - **代替キャッシュの場所（オプション）**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。**参照**をクリックして、該当するフォルダーに移動します。または、レジストリを介して行うこともできます。そのためには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

     HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

     名前: AgentCacheAlternateLocation

     種類: REG_SZ

     値: 空

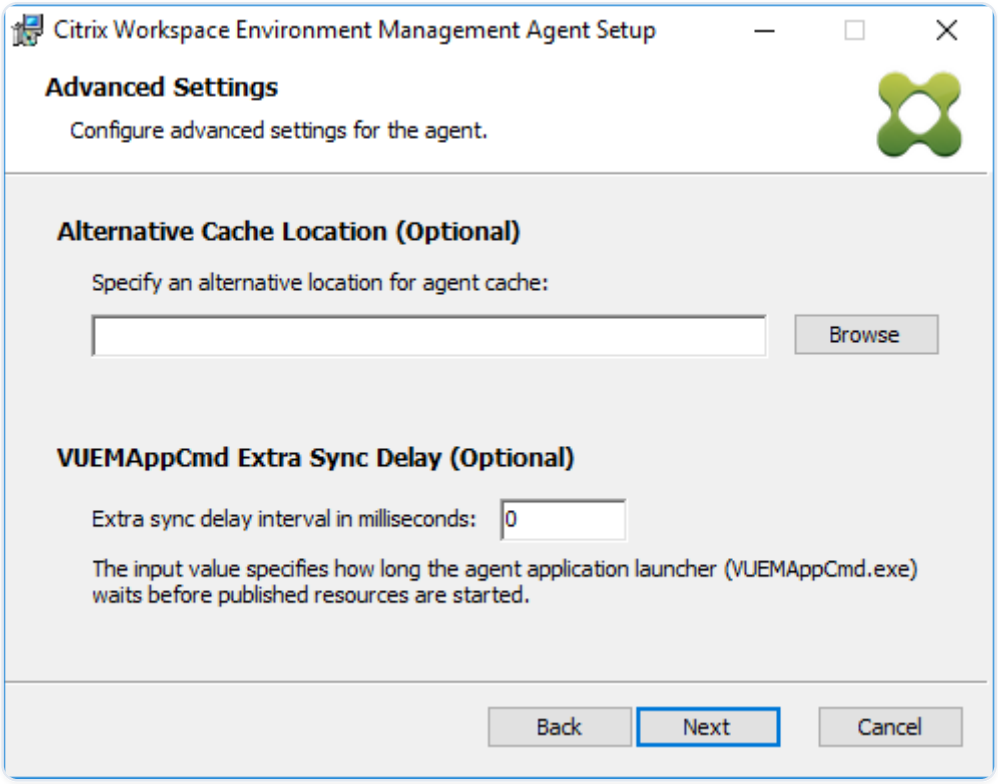
     デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダーは次のとおりです: `<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`。必要に応じて、別のフォルダーパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。変更が有効になると、フォルダーに次のファイルが表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

     > **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd追加同期遅延（オプション）**。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）が公開リソースの開始前に待機する時間を指定できます。この遅延を設定することで、必要なエージェント作業が最初に完了することを保証します。デフォルト値は0です。

> **注:**
>
> 追加同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。



9. 「インストール準備完了」ページで、**「インストール」**をクリックします。
10. **「完了」**をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEMエージェントのサイレントインストールを選択することもできます。これを行うには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`

> **ヒント:**
>
> - オンプレミスのWEM展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。WEMサービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。
> - エージェントのインストールをトラブルシューティングするために、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアクションを記録するログファイルは%TEMP%に作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定できます。

> コマンドラインオプションを使用して、カスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/install-and-configure/agent-host.html#good-to-know)を参照してください。

インストール後、エージェントは*Citrix WEM Agent Host Service*（旧Norskale Agent Host Service）および*Citrix WEM Agent User Logon Service*として実行されます。エージェントは*LocalSystem*アカウントとして実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。このサービスには、**ローカルシステムとしてログオン**する権限が必要です。

手順3：マシンを再起動してインストールを完了する

前提条件と推奨事項

WEMエージェントが正常に動作するように、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認します。

- Windowsサービス**System Event Notification Service**が、起動時に自動的に開始するように構成されていること。
- WEMエージェントサービス**Citrix WEM Agent Host Service**および**Citrix WEM User Logon Service**が、起動時に自動的に開始するように構成されていること。

- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置されていること。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

おすすめ

エージェントの展開を成功させるには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- ログオンまたはスタートアップスクリプトを使用して、**Citrix WEM Agent Host Service** を手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service** の停止や再起動などの操作は、Netlogon サービスの動作を停止させ、他のアプリケーションで問題を引き起こす可能性があります。
- UIモードまたはCMDモードのエージェントを起動するためにログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service** は、サービス開始後、グループポリシーを通じて構成されたCloud Connector設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service** は、最初ログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されることが保証されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は、起動時に次のローカルデータベースファイル（`LocalAgentCache.db` および `LocalAgentDatabase.db`）に対して自動的にチェックを実行します。仮想マシンがプロビジョニングされており、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたことを自動的に確認します。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍を超えて更新されていない場合、キャッシュは直ちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。過去60分間にキャッシュが更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーはWindowsサービスである **System Event Notification Service** を自動的に起動するように構成します。
- WEMエージェントのアップグレードが完了すると、WEMエージェントインストーラーはNetlogonサービスを自動的に起動します。

エージェントキャッシュユーティリティのオプション

Citrix WEM Agent Host Service は、設定のリフレッシュとキャッシュの同期を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定を直ちにリフレッシュし、キャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用してください。

エージェントのインストールフォルダーで、コマンドラインを使用して *AgentCacheUtility.exe* を実行します。この実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数のリストを表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築またはリフレッシュをトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定をリフレッシュします。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと組み合わせて使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、以下の例を参照してください。

- エージェントホスト設定を更新します:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホスト設定とエージェントキャッシュを同時に更新します:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化します:
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、「エージェント設定」および「システム設定」セクションで説明されているカスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定には以下が含まれます:

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダーパスを指定してください。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。設定されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダーではなく、指定された場所に保存されます。

- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するためのポートを指定できます。
- **AgentServicePort**。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポートを指定できます。
- **InfrastructureServer**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) がCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが起動するまでに待機する時間を指定できます。デフォルト値は0 (ミリ秒) です。追加の同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。

以下に注意してください:

- コマンドラインを通じて設定を構成する場合、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- コマンドラインを通じて設定を構成せず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインを通じて設定を構成せず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、次のものが含まれます。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValueレジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は、1（最小）から600（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中にSyncForegroundPolicyレジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値：0、1。値が設定されていないか、値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Serviceはユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、Windows Shell（Windows エクスプローラー）はすべてのポリシー設定が処理される前に起動する可能性があります。そのため、一部の設定はユーザーが最初にログオンしたときに有効にならない場合があります。ユーザーが最初にログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定してください。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される**WaitForNetwork**レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され利用可能になるまで待機する時間を指定します。引数は、0（最小）から300（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

上記の3つのキーは、Windowsログオン画面が表示される前にWEMエージェントサービスが開始されることを保証します。これら3つのキーはすべて、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon**の下に作成されます。これらのキーはまた、ログオン前にユーザー環境がインフラストラクチャサーバーアドレスGPOを受信することを保証します。Active Directoryまたはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示されるまでに余分な処理時間が発生する可能性があります。影響を与えるためには、**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**キーの値を最低30に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeoutレジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に**HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control**の下に作成されます。このレジストリキーは、サービス制御マネージャーがWEMエージェントサービスの状態を報告できるようになる前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防ぎます。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を受け入れます。指定しない場合、デフォルト値の60000（60秒）が使用されます。

> **注:**
>
> コマンドラインを使用して上記の構成を行わない場合、WEMエージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- WEMエージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンネットワーク待機時間を60秒に設定する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

デプロイの規模とサイズに関する考慮事項

Workspace Environment Management™ (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価する際には、データベースのパフォーマンス、Active Directory のセットアップ、ファイアウォール規則などを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが多いほど、WEM がサポートできるエージェントとユーザーの数も増えます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

インフラストラクチャサーバーが稼働しているマシンが次の仕様を使用していると仮定します。

- 4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の利用可能なディスク容量。

展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算するには、次の式を使用できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されています。

- インフラストラクチャサーバーの数 = (エージェントの数/1,000) + (ユーザーの数/3,000)

> **注:**

- NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が確認されています。Kerberos 認証を使用する場合は、これらの問題は確認されていません。
- Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証の間にパフォーマンスの差は確認されていません。
- WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大 50% 削減できます。「新機能」を参照してください。このメリットを享受するために、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

デプロイをアップグレードする

はじめに

> 注:

> WEM 2212以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大50%削減できます。詳細については、新機能を参照してください。このメリットを享受するために、エージェントを2212以降にアップグレードすることをお勧めします。

> 新しいマシンやサイトを最初にセットアップすることなく、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7より前のバージョンからバージョン1808以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。それらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン4.7にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

元	宛先	インプレースアップグレードのサポート
4.6以前	4.7	はい
4.6以前	1808以降	いいえ (ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン4.7にアップグレードしてください)
4.7	1808以降	はい

> **注:**

- WEMデータベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールはすべて同じバージョンである必要があります。
- 2006より前のWEM展開を2209以降にアップグレードする予定がある場合は、次の点に注意してください。データベースのアップグレード失敗を避けるため、まず2103にアップグレードしてから2209以降にアップグレードしてください。

Workspace Environment Managementコンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービス
2. データベース
3. インフラストラクチャサービスの再構成
4. 管理コンソール
5. エージェント

ステップ1：インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しいWorkspace Environment Management インフラストラクチャサービスのセットアップを実行します。アップグレード手順は、それ以外はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

注:

Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように構成してください。

ステップ2：データベースをアップグレードする

重要：

データベースのアップグレードプロセスは元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

ヒント:

Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDK のドキュメントについては、「Citrix Developer Documentation」を参照してください。

データベースを更新するには、**WEM Database Management Utility** を使用します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に、Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL Server に Windows 認証を使用している場合は、sysadmin 権限を持つ ID でデータベースアップグレードユーティリティを実行してください。

1. 「**スタート**」メニューから、「**Citrix®>Workspace Environment Management > WEM Database Management Utility**」を選択します。
2. 「**データベースのアップグレード**」をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

   データベースアップグレードウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-database-upgrade.png)

   - **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされているSQL Server\\インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。

- **データベース名**。アップグレードするデータベースの名前。
- **インフラストラクチャサービスはWindows認証を使用します**。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスはvuemUser SQLユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。（vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセス中に作成されます。）SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認してください。

  選択すると、インフラストラクチャサービスはWindowsアカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインを持っていてはなりません。つまり、データベースの作成に使用したWindowsアカウントと同じアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用しないでください。

  gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。gMSAがデータベースの**db-owner**ロールメンバーシップを持っていることを確認してください。
- **統合接続を使用**。デフォルトでは、このオプションは選択されています。このオプションにより、ウィザードは、ウィザードが実行されているIDのWindowsアカウントを使用してSQL Serverに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成するのに十分な権限がない場合は、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして、代わりに十分な権限を持つSQLアカウントを入力してください。

4. 「**アップグレード**」をクリックして、データベースのアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスインストールフォルダーにある「**VUEM Database Management Utility Log**」ファイルを確認してください。

ステップ3：インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM Infrastructure Service Configurationユーティリティを使用して、インフラストラクチャサービスを再構成します。「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

ステップ4：管理コンソールをアップグレードする

Administration Console で構成されたすべての Workspace Environment Management 設定は、データベースに保存され、アップグレード中に保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行可能ファイルを実行します。それ以外の手順は、インストール手順と同じです。

ステップ 5: エージェントをアップグレードする

重要：

- エージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログオンしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセスがそのマシンのファイルを変更できるようになります。
- WEM インフラストラクチャサービスのバージョンは、WEM エージェントのバージョン以上である必要があります。Citrix は、最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることをお勧めします。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントセットアップ実行可能ファイルを実行します。

管理 (Webコンソール)

Webコンソールを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM)展開を管理します。

- ホーム
- 構成セット
- 監視
- スクリプトタスク
- ファイル

ホーム

このページでは、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開の概要と、WEM をすばやく理解して使い始めるために必要な情報を提供します。 インターフェイスは、次の4つの部分で構成されています。

- **概要**
- **クイックアクセス**
- **ハイライト**
- **プレビュー機能**

概要

WEM展開の概要を提供し、以下の情報が含まれます。

- すべての構成セットの合計エージェント数
- ユーザーが最近ログオンしたエージェントマシンの数
- VDAの健全性ステータス

エージェントを詳細に表示するには、**エージェント統計の表示**をクリックして**監視 > 管理 > エージェント**に移動します。ここでは、エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のカスタマイズ、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。詳細については、WEM エージェントを参照してください。

VDAの健全性ステータスを詳細に表示するには、**通常**の下の**表示**をクリックして正常な状態のVDAに関するレポートを表示するか、**異常**の下の**表示**をクリックして異常な状態のVDAに関するレポートを表示します。詳細については、レポートを参照してください。

クイックアクセス

WEMが提供する主要機能の一部にすばやくアクセスできます。Webコンソールでは、以下の機能が利用可能です。

- **リソース使用率の最適化**。ユーザーのログオン時間を短縮し、アプリケーションの応答性を向上させます。
- **インサイトの取得**。プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。
- **スクリプトタスクを構成する**。独自の環境管理ニーズに合わせてスクリプトタスクをカスタマイズできます。

> **ヒント:**
>
> クイックアクセスリンクをクリックすると、該当する構成セットを選択するよう促すウィンドウが表示されます。その後、構成セット内の機能ページに直接移動します。

レガシーコンソールで利用できる機能は次のとおりです。

- **プロファイル管理を最適化する**。すべてのユーザーデスクトップで統一されたエクスペリエンスを提供できます。
- **グループポリシーを割り当てる**。他のアクションを割り当てるのと同じように、グループポリシーオブジェクトを異なるActive Directoryグループに割り当てることができます。
- **エンタープライズセキュリティを強化する**。追加のAppLockerルールを適用することで、デスクトップを保護できます。

グローバル構成

グローバル構成は、Webコンソールの右上隅にあるドロップダウンリストです。

グローバル構成(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/global-config-drop-down-list.png)

機能とその説明は次のとおりです。

- **バージョン情報**。WEMのバージョンと著作権を確認できます。
- **英語 (米国)**。言語を切り替えることができます。
- **ストレージフォルダ**。グローバルストレージフォルダを定義し、テンプレートベースのGPO、スクリプトタスク、バックアップと復元、およびファイルを使用するには、共有ストレージフォルダを設定する必要があります。
- **ログのエクスポート**。インフラストラクチャサービスとWebコンソールのログをGrafanaやSplunkなどのサードパーティプラットフォームにエクスポートできます。 有効にするには、**宛先の作成**をクリックし、ログプラットフォームに必要な情報（例：URL、ユーザー名、キー）を入力します。その後、**完了**をクリックします。
- **ドキュメント**。WEMのドキュメントを表示できます。
- **サインアウト**。現在のアカウントからサインアウトできます。

ハイライト

WEMが提供する主要な機能を表示します。以下の機能はWebコンソールで利用できます。

- CPU管理
- スクリプトタスク

以下の機能はレガシーコンソールで利用できます。

- 特権昇格
- 外部タスク

プレビュー機能

現在プレビュー中の機能を表示します。プレビュー機能を表示するには、コンソールの右上隅にあるプレビュー機能アイコンをクリックします。新しいプレビュー機能が利用可能になるたびに、赤い点が表示されます。表示するプレビュー機能がない場合、次のツールヒントが表示されます: `No preview features to show at the moment`。

プレビュー機能は完全にローカライズされていない可能性があり、非本番環境での使用が推奨されます。プレビュー機能で発見された問題は、Citrixテクニカルサポートの対象外です。

プレビュー機能を有効または無効にした後、変更を適用するにはブラウザウィンドウを更新してください。

構成セット

このページでは、構成セットを管理できます。構成セットは、Workspace Environment Management™ (WEM) 構成のセットを整理するために使用される論理コンテナです。次の操作を実行できます。

- 構成セットを追加する
- 構成セットを編集または削除する
- 構成セットをお気に入りに追加する
- 構成セットの設定を構成する
- 現在の構成のバックアップコピーを保存する
- WEMサービス構成の以前にバックアップされたバージョンに戻す
- 検索ボックスを使用して、構成セットをすばやく検索する
- 現在のページを更新するには、**バックアップと復元**ボタンの横にある更新アイコンをクリックします。

組み込みの構成セットは2つあります。

- **Default Site**。組み込みのWEM構成セットです。
- **Unbound Agents**。組み込みのWEM構成セットです。どの構成セットにもバインドされていないエージェントでのみ使用できます。この構成セットの設定をそれらのエージェントに適用するには、**ディレクトリオブジェクト > 詳細設定**に移動します。

> **注:**
>
> - **Default Site**は削除できません。必要に応じて、その名前と説明を変更できます。
> - **Unbound Agents**は削除または編集できません。「**構成セットの編集**」オプションは利用できません。

構成セットを追加する

ディレクトリオブジェクト (ユーザー、マシン、グループ、OU) に設定を適用するには、構成セットを作成します。これを行うには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、**構成セットの追加**をクリックします。
2. 構成セットの名前を指定します。

3. 必要に応じて、構成セットを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. 「**保存**」をクリックします。

構成セットを編集または削除する

構成セットを編集または削除するには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。構成セットの詳細ビューが表示されます。
3. 右上隅にある**構成セットの編集**をクリックします。
4. 名前と説明を編集するか、**構成セットの削除**をクリックします。

構成セットをお気に入りに追加する

構成セットをお気に入りに追加するには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。
3. 右上隅で、**お気に入りに追加**をクリックします。

> **注:**
>
> - 最大5つの構成セットをお気に入りに追加できます。
> - お気に入りは管理者ごとに保存されます。

構成セットの設定を構成する

構成セットの設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. **構成セット**ノードで、構成セットを見つけます。
2. 構成セットをクリックします。
3. 必要に応じて設定を構成します。

構成セットに対して、次の設定を構成できます。

- システム最適化
- 詳細設定

- スクリプトタスク設定

バックアップと復元

バックアップと復元ページには、既存のバックアップのリストが表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ（構成セットと設定）の2種類があります。**コンテンツタイプ**列で、自動バックアップと手動バックアップを区別できます。

各バックアップに対して、次の操作を実行できます。

- **復元**。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップからの設定に置き換えられます。

  > **注:**
  >
  > - 構成セットにプロファイル管理設定を復元するには、その構成セットの「**プロファイル > プロファイル管理設定**」ページでクイックセットアップ機能も使用できます。
  > - バックアップからプロファイル管理設定を復元すると、関連サービスで使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

- **ダウンロード**。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルはJSON形式です。
- **削除**。既存のバックアップを削除できます。

次の操作も実行できます。

- 「**アップロード**」ボタンの横にある更新アイコンをクリックして、現在のページを更新します
- 構成ファイルをアップロードする
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- プロファイル管理設定をバックアップする

構成ファイルをアップロードする

以前のバックアップに戻すために使用するJSONファイルをアップロードできます。JSONファイルには、構成セットまたはプロファイル管理設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. 「**アップロード**」をクリックします。「**バックアップファイルのアップロード**」ウィザードが表示されます。
2. 「**参照**」をクリックし、アップロードするファイルを参照し、ファイルを選択して、「**開く**」をクリックします。「**バックアップファイルのアップロード**」ウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定します。
4. アップロードを開始するには、**アップロード**をクリックします。

> **注:**
>
> - JSONファイルのみアップロードできます。
> - サイズが5 MB未満のファイルのみアップロードできます。

自動バックアップの管理

構成セットのバックアップを自動的に保存できます。この機能は、最も古い既存のファイルを上書きし始める前に、各構成セットに対して最大25個のバックアップファイルを保存することをサポートしています。構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを構成するには、次の手順を実行します。

1. **自動バックアップの管理**をクリックします。**自動バックアップの管理**ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップする構成セットを見つけます。
3. その構成セットに対して、次の3つのオプションのいずれかを選択します。
   - **未構成**。選択した場合、WEMは自動的にバックアップしません。
   - **毎日**。選択すると、WEM は毎日バックアップを実行します。
   - **毎週**。選択すると、WEM は毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットについても、構成セットを見つけて上記の3つのオプションのいずれかを選択する手順を繰り返します。

5. 変更を保存してウィザードを終了するには、**保存** をクリックします。

構成セットをバックアップする

> **重要：**

> 手動バックアップの数はアカウントごとに25に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除してから再試行してください。

> 構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- アクション
- アプリケーションセキュリティ、特権昇格、およびプロセス階層制御
- 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
- フィルター
- スクリプトタスク設定
- ユーザー
- WEM 設定

構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、およびOU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定します。
5. 必要に応じて、バックアップをローカルに保存するには、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始します。

プロファイル管理設定のバックアップ

> **重要：**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに25に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

プロファイル管理設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。
3. **バックアップする内容**リストから**設定**を選択します。
4. **プロファイル管理設定**を選択します。
5. バックアップの名前を指定します。
6. 必要に応じて、バックアップをローカルに保存するには、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. バックアップを開始するには、**バックアップ**をクリックします。

アクション

> **ヒント:**

- WEMアクションをより強力にするために、動的トークンを使用できます。
- WEM Tool Hubからコピーしたデータを Webコンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータのコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft Edgeの場合、**サイトのアクセス許可 > クリップボード > サイトがクリップボードにコピーされたテキストと画像を表示しようとしたときに確認する**オプションが有効になっていることを確認してください。

Workspace Environment Management™ (WEM) は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを合理化します。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。WEMは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

グループポリシー設定

重要：

- Workspace Environment Management (WEM) は現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

Active Directory管理者が**グループポリシー管理**コンソールを使用してグループポリシーオブジェクト (GPO) を管理するのに頼るのではなく、WEMを通じてGPOを展開できます。

開始する前に、**グループポリシー**設定を追加またはインポートします。その後、GPOの形式でユーザーに割り当てることで設定を展開します。各GPOの割り当ては、割り当てるターゲットを指定することで管理できます。

この機能が有効な場合:

- 設定を構成できます。
- WEMエージェントはグループポリシー設定を処理できます。

この機能が無効な場合:

- グループポリシー設定を構成できません。

- WEMエージェントは、グループポリシー設定がすでにユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

> **注:**
>
> WEMエージェントがグループポリシー設定を適切に処理および適用するには、Citrix WEM User Logon Serviceが有効になっていることを確認してください。

レジストリベースの設定

このタブを使用して、レジストリ操作を構成することでWindowsの設定を構成します。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > レジストリベース**で、次の操作を実行できます。

- レジストリベースのグループポリシー設定をWEMにインポートします。
- GPOを作成します。
- GPOリストを更新します。
- GPOを表示します。
- GPOを編集します。
- GPOの割り当てを管理します。
- GPOをクローンします。
- GPOを削除します。

> **警告：**
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

グループポリシー設定をインポートする

GPOのバックアップまたはエクスポートされたレジストリファイルを含むzipファイルからGPOをインポートできます。

レジストリファイルから設定をインポートする場合、Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当てのためにGPOに変換できます。開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルから設定をインポートする場合、そのファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。
- 各 .reg ファイルは GPO に変換されます。変換された各 GPO は、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各 GPO の名前は、対応する .reg ファイルの名前に基づいて生成されます。例: .reg ファイルの名前が `test1.reg` の場合、変換された GPO の名前は `test1` です。
- この機能は、.reg ファイルで定義するレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートしています。.reg ファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>` を参照してください。
- 変換された GPO の説明は空です。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**インポート** をクリックします。
2. ファイルの種類を選択します。
   - **GPO バックアップファイル**。GPO バックアップファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。グループポリシー設定をバックアップする方法については、グループポリシー設定のバックアップ を参照してください。
   - **エクスポートされたレジストリファイル**。Windows レジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリファイルから設定をインポートする場合は、このオプションを選択します。
3. zip ファイルに移動するには、**参照** をクリックします。

   > **注:**
   >
   > サイズが 10 MB を超えないファイルのみをアップロードできます。

4. 同じ名前の既存の GPO を上書きするかどうかを選択します。
5. インポートプロセスを開始するには、**インポート** をクリックします。

インポートが正常に完了すると、インポートされた GPO は **レジストリベース** タブに表示されます。

GPO を作成する

GPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. GPOの名前を指定します。
3. 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. レジストリ操作を追加するには、**追加**をクリックします。次の設定が利用可能になります。
    - **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。
        - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
        - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
        - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
        - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
        - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
    - **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
    - **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーの完全なパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーの完全なパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
    - **名前**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。

      レジストリエディターのレジストリ値(/en-us/workspace-environment-management/service/media/registry-value-in-registry-editor.png)
    - **種類**。値のデータ型を指定できます。
        - **REG_SZ**。この種類は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
        - **REG_EXPAND_SZ**。この種類は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
        - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。

    - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この種類は、ブール値によく使用されます。たとえば、*0* は無効を意味し、*1* は有効を意味します。
    - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
    - **REG_QWORD**。64ビットの数値。
    - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。
    - **REG_MULTI_SZ**。この種類は、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用される複数文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
    - **REG_NONE**。事前定義されたデータ型カテゴリに当てはまらないレジストリ値を構成できます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

5. 完了したら、**完了**をクリックします。

GPOを表示する

GPOを編集せずに、WEMグループポリシー設定とGPOの概要を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

GPOを表示するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、およびレジストリ操作を表示できます。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 名前と説明を編集する
3. 必要に応じて、次の操作を行います。
    - **追加**をクリックしてレジストリ操作を追加します
    - レジストリ操作を選択し、編集します
    - レジストリ操作を選択し、削除します
    - レジストリ操作を下に移動するか、上に移動します。または、レジストリ操作を選択し、6つの点アイコンをクリックして、目的の位置にドラッグします。

4. 完了したら、**完了**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集すると、それらのユーザーに影響が及びます。

GPOの割り当てを管理する

GPOをさまざまなADグループに割り当てることができます。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が適用されます。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が適用されます。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに適用するには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに適用するには、ユーザーはログオフして再度ログオンする必要があります。

GPOの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。
2. GPOを割り当てる割り当てターゲット（ユーザー、グループ、OU）を選択します。

   > **注:**
   >
   > GPOをマシンに割り当てる際は、マシンがOUまたは関連するセキュリティグループのいずれかに存在することを確認してください。

   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、割り当てターゲットの追加を参照してください。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化し、各ターゲットのGPOの優先度を設定します。

   > **ヒント:**

> フィルターの追加については、フィルターを参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらの条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントは設定を割り当てる前にフィルターを評価する際にそれらをスキップします。マシン設定に適用されない条件の完全なリストについては、マシン設定に適用されない条件を参照してください。

4. 各タイルにある省略記号アイコンをクリックし、必要に応じて次の操作を行います。
   - **構成のコピー**。割り当ての構成をコピーできます。
   - **構成の貼り付け**。他の構成からコピーした構成を貼り付けることができます。
   - **この構成をすべてのターゲットに適用**。割り当ての構成をすべてのターゲットに適用できます。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

GPOのクローン作成

GPOをクローンするには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**クローン**をクリックします。
2. 名前と説明を編集します。
3. GPOのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPOを削除する

GPOを削除するには、GPOを選択し、アクションバーで**削除**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

テンプレートベースの設定

このタブを使用して、グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成します。GPOは、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > テンプレートベース**で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用してGPOを作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPOリストを更新します。
- GPOを編集します。
- GPOの割り当てを管理します。
- GPOを複製します。
- GPOを削除します。

テンプレートを使用してGPOを作成する

テンプレートを使用してGPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. **基本情報**で、次のようにします。
    - GPOの名前を指定します。
    - 必要に応じて、GPOを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンに適用するポリシー（誰がログオンしているかに関係なく）を構成します。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーに適用するポリシー（どのマシンにログオンしているかに関係なく）を構成します。
5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**完了**をクリックします。

コンピューターの構成と**ユーザーの構成**で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートの管理

テンプレートを管理するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、 をクリックします。
2. ウィザードで：

- マシンに適用するポリシー（誰がログオンしているかに関係なく）を構成するには、 を選択します。
- ユーザーに適用するポリシー（どのマシンにログオンしているかに関係なく）を構成するには、 を選択します。

1. 完了したら、 をクリックします。

と で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートのインポート

> **重要：**

> ADMXファイルをWEMにテンプレートとしてインポートする際は、zipファイル内のすべての.admlファイルが同じ言語であることを確認してください。

> ADMXファイルをWEMにテンプレートとしてインポートできます。その後、それらのテンプレートを使用してGPOを作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**テンプレートの管理**をクリックします。
2. **テンプレートの管理**ウィザードで、**インポート**をクリックします。
3. ADMXファイルを含むzipファイルを参照し、既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートがファイルに含まれている場合の対処方法を決定します。

- **インポートしない**。インポートをキャンセルします。
- **テンプレートをスキップして残りをインポートする**。
- **既存のテンプレートを上書きする**。上書きすると、既存のテンプレートから派生した関連設定が変更される可能性があります。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。

4. **インポートの開始**をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして**テンプレートの管理**ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、**完了**をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「ファイル」を参照してください。そこで管理する際は、次の点を考慮してください。

- GPO管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連設定が削除されます。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。

GPOを表示する

GPOを編集せずに、WEMグループポリシー設定とGPOの概要を読み取り専用モードで表示できます。この実装により、既存の設定を確認する際の誤設定のリスクが排除されます。

GPOを表示するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**表示**をクリックします。
2. 名前、説明、構成を表示できます。
3. 完了したら、**閉じる**をクリックします。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**編集**をクリックします。
2. **基本情報**で、名前と説明を編集します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンポリシーを編集します。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーポリシーを編集します。
5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

> **注:**

> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集すると、それらのユーザーに影響が及びます。

GPOの割り当てを管理する

テンプレートを使用して作成されたGPOの割り当ては、レジストリベースのGPOと同様に管理できます。詳細については、「GPOの割り当てを管理する」を参照してください。

GPOを複製する

GPOを複製するには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーで をクリックします。
2. GPO をレジストリベースの GPO として複製するか、テンプレートベースの GPO として複製するかを決定します。

> **注:**
>
> レジストリベースとして複製すると、GPO はレジストリ値に変換され、 タブに表示されます。変換された各 GPO は、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPO の複製先の構成セットを選択します。
5. をクリックして複製プロセスを開始します。

GPO を削除する

GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーで をクリックします。

> **注:**
>
> GPO がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

アプリケーション

この機能を使用すると、ユーザーに割り当てるアプリケーションを追加できます。割り当てられると、それらのアプリケーションのショートカットは、構成に応じて、デスクトップ、スタートメニュー、またはタスクバーに作成されます。

> **ヒント:**
>
> Citrix DaaS の完全構成管理コンソールを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix DaaS および Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了することを保証します。詳しくは、「完全構成管理インターフェイスを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。

次の操作を実行できます。

- アプリケーションを追加します。
- アプリケーションリストを更新します。
- アプリケーションを編集して、そのプロパティを管理します。
- アプリケーションの割り当てを管理します。
- アプリケーションを複製します。
- アプリケーションを削除します。
- スタートメニュービューに切り替えます。
- エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定します。

アプリケーションを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**Actions > Applications**に移動して、**Add application**をクリックします。「アプリケーションの追加」を参照してください。
2. 追加したアプリケーションを選択し、アクションバーで**Manage assignments**をクリックします。「アプリケーションの割り当ての管理」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには、Advanced Settingsで指定したSQL Settings Refresh Delayの値に応じて時間がかかります。割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **Web Console > Monitoring > Administration > Agents > Statistics**に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーで**More**をクリックし、**Agent > Refresh agent host settings**を選択します。

重要：

- エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します。
  - ログオン時にエージェントを起動する（ログオン時のアクション処理用）
  - 再接続時にエージェントを起動する（再接続時のアクション処理用）
  - デスクトップ互換モードを有効にする
- これらの設定は、Legacy Console > Advanced Settings > Configuration > Main Configuration > Agent Service Actions で確認できます。

アプリケーションを追加する

アプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**で、**アプリケーションの追加**をクリックします。
2. **基本情報**ページで、次の設定を構成します。
   - **名前**。アプリケーションを識別するための名前を指定します。
   - **説明**。アプリケーションに関する追加情報を指定します。
   - **状態**。アプリケーションを有効または無効にするか、メンテナンスモードにします。メンテナンスモードの場合、アプリケーションは使用できません。そのショートカットアイコンには、使用できないことを示す警告サインが含まれています。
   - **アプリケーションの種類**。ショートカットが開くアプリケーションの種類を指定します。ユーザーインターフェイスは、選択内容によって異なります。
     - **インストール済みアプリケーション**。ユーザーのマシンにインストールされているアプリケーションを開くショートカットを作成します。選択した場合、次の項目を完了するように求められます。
       - **アプリケーションパス**。ユーザーのマシンにあるアプリケーションのフルパスを入力します。

    - **作業フォルダー**。ユーザーのマシン上のフォルダーへのフルパスを、アプリケーションの作業フォルダーとして入力します。このフィールドは、**アプリケーションパス**フィールドにフルパスを入力すると自動的に入力されます。
    - **パラメーター**。必要に応じて、アプリケーションの起動パラメーターを入力します。

- **ファイルまたはフォルダー**。ユーザーがショートカットアイコンをクリックしたときに、ユーザーのマシン上のターゲットファイルまたはフォルダーを開くショートカットを作成できます。選択した場合、次の項目を完了するように求められます。
    - **パス**。ターゲットファイルまたはフォルダーへのフルパスを入力します。
- **URL**。アプリケーションのURLを追加できます。選択すると、以下を完了するように求められます。
    - **アプリケーションURL**。アプリケーションのURLを入力します。
- **Citrix Workspace™ リソース**。Citrix Workspaceからアプリケーションを追加できます。選択すると、以下を完了するように求められます。
    - **ストアURL**。アプリケーションショートカットから起動したいリソースが含まれているStoreFront™またはWorkspaceストアのURLを入力します。

> **注:**
>
> エージェントマシン上で、SaaSアプリまたは**Citrix Workspace (Storefront)リソース**タイプの特定のアプリケーションを開くことはできません。

    - **リソース**。ターゲットのWorkspaceリソースを参照するには、**WEM Tool Hub > Application Assistant**を使用します。リソース情報をコピーし、**リソース情報の貼り付け**をクリックしてここに貼り付けます。**Application Assistantを開く**をクリックして、WEM Tool Hub（インストールされている場合）を開きます。WEM Tool Hubをダウンロードするには、**Citrix Cloud > WEMサービス > ユーティリティ**に移動します。詳細については、WEM Tool Hubを参照してください。

3. **オプション**ページで、次の設定を構成します。

- **アプリケーションアイコン**。**変更**をクリックして、別のアイコンを選択するか、新しいアイコンを追加します。

  - 新しいアイコンを追加するには、.icoファイルを参照するか、**WEM Tool Hub > Application Assistant**からコピーしたアイコンデータを貼り付けます。WEMは最大100個のアイコンの保存をサポートしています。詳細については、WEM Tool Hubを参照してください。

- **ユーザーのデスクトップ上のアイコン位置を設定**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットのターゲット位置を指定します。値はピクセル単位です。移動した場合、ショートカットは次回のログオン時に指定された位置に戻ります。
- **表示名**。ショートカットの名前を指定します。その名前はユーザー環境に表示されます。
- **スタートメニュー統合**。**変更**をクリックして、スタートメニューの左側にアプリケーションショートカットを作成する場所を指定します。デフォルトでは、新しいショートカットは**プログラム**に作成されます。**スタートメニュー統合**ウィンドウでは、次のことができます。
  - ショートカット用のカスタムフォルダを作成します。
  - スタートメニューフォルダ内のアプリケーションショートカットの場所を指定します。
  - カスタムフォルダの名前を変更します。

> **注:**
>
> カスタムフォルダーを削除するには、**Applications** の **Start menu view** に移動します。「スタートメニュービューに切り替える」を参照してください。

- **ウィンドウのスタイル**。アプリケーションがユーザーのマシンで最小化（タスクバーに最小化）、通常（通常の画面表示）、または最大化（全画面表示）のいずれのウィンドウで開くかを指定します。
- **ホットキー**。ホットキーを設定するには、入力フィールドをクリックしてキーの組み合わせを押します。または、次の形式で組み合わせを入力します（例）：Ctrl + Alt + S
- **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にショートカット（移動または削除された場合）を自動的に再作成します。
- **エージェントメニューからアプリケーションを非表示にする**。ユーザーのマシンからアクセスできるエージェントメニューにアプリケーションを表示するか非表示にするかを指定します。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。ユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成するかどうかを指定します。

4. 完了したら、**Done** をクリックして保存し、終了します。

アプリケーションを編集する

アプリケーションを編集するには、次の手順を実行します。

1. **Applications** で、アプリケーションを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してアプリケーションをすばやく見つけます。
2. アクションバーで **Edit** をクリックします。
3. **Basic information** および **Options** ページで、必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**Save** をクリックします。

アプリケーションの割り当てを管理する

アプリケーションの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. アプリケーションを割り当てる割り当てターゲット (ユーザーとグループ) を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
- ターゲットを構成して、使用するフィルターとアプリケーションショートカットを作成する場所を指定します。
    - デスクトップショートカットを作成
    - スタートメニューに追加
    - スタートメニューにピン留め
    - クイック起動に追加
    - Windowsのスタートアップに追加
    - タスクバーにピン留め

1. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
    - フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
2. 完了したら、**完了**をクリックします。

アプリケーションのクローンを作成する

> **注:**

> 割り当てはクローンされません。

> アプリケーションをクローンするには、次の手順を実行します。

1. アプリケーションを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. アプリケーションのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

アプリケーションを削除する

アプリケーションを削除するには、アプリケーションを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**

> アプリケーションがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

スタートメニュービューに切り替える

スタートメニュービューに切り替えるには、**スタートメニュービュー**をクリックします。このビューには、各アプリケーションがスタートメニューフォルダー内のどこにあるかが表示されます。次のことができます。

- カスタムフォルダーを作成します。
- アプリケーションを目的のフォルダーに移動します。
- カスタムフォルダーの名前を変更します。
- カスタムフォルダーを削除します。カスタムフォルダーを削除すると、そのフォルダー内のアプリケーションも削除されます。

エージェントがアプリケーションを処理する方法を指定する

処理:

- ログオン時および更新時にアプリケーションを処理する
- 再接続時にアプリケーションを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからアプリケーションを削除する

- アプリケーションの処理を強制する
- アプリケーションのフィルター処理を強制する

StoreFront:

- StoreFront URLを追加し、必要に応じてその説明を入力します。「Citrix Workspaceリソース」タイプのアプリケーションを追加する際に、このURLが必要です。アプリケーションの追加を参照してください。

外部タスク

> **ヒント:**

> 外部タスクはユーザーセッションレベルで機能します。マシンレベルでタスクを実行するには、代わりにスクリプトタスクを使用します。

> この機能を使用すると、ユーザーに割り当てる外部タスクを作成できます。外部タスクはユーザーセッションレベルで機能し、スクリプトまたはアプリケーションにすることができます。ターゲットエージェントマシンがそれらを実行するために必要なプログラムを持っていることを確認してください。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs**スクリプトと**.cmd**スクリプトがあります。

外部タスクを実行するタイミングを指定することで、ユーザー環境を正確かつ効果的に管理できます。

次の操作を実行できます。

- 外部タスクを作成する。
- 外部タスクリストを更新する。
- 外部タスクを編集します。
- 外部タスクの割り当てを管理します。
- 外部タスクを複製します。
- 外部タスクを削除します。

> **ヒント:**

> **状態**列のトグルを使用して、外部タスクをすばやく有効または無効にできます。タスクを有効にするには、少なくとも1つのトリガーを設定してください。

外部タスクを作成する

タスクを作成するには、次の手順を実行します。

1. **外部タスク**で、**外部タスクの作成**をクリックします。
2. **タスク**タブで、次の設定を構成します。

    - **名前**。タスクを識別しやすいように名前を指定します。
    - **説明**。タスクに関する追加情報を指定します。
    - **このタスクを有効にする**。タスクが有効か無効かを制御します。無効になっている場合、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはそのタスクを処理しません。
    - **タスクの詳細**
        - **パス**。タスクへのパスを入力するか、タスクを参照します。パスはユーザー環境で解決されます。次のことを確認してください。
            - ここで指定したパスが、ターゲットエージェントマシンと一致していること。
            - ターゲットエージェントマシンには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。
        - **引数**。起動パラメーターまたは引数を指定します。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。
    - **タスク設定**
        - **非表示で実行**。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。
        - **1回実行**。選択すると、**トリガー**でどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動したかどうかにかかわらず、WEMはタスクを1回だけ実行します。
        - **実行順序**。ユーザーに複数のタスクが割り当てられており、一部のタスクが他のタスクの正常な実行に依存している場合に、このオプションを使用します。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスク、というように実行されます。

- **タスクの完了を待機**。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定します。デフォルトでは、**待機タイムアウト**の値は30秒です。

3. **トリガー**タブで、タスクに関連付けるトリガーを選択します。

> **注:**
>
> すべてのトリガーを外部タスクに関連付けることはできません。「考慮事項」を参照してください。

- **新しいトリガーを作成**。「トリガーを作成する」を参照してください。
- **このタスクに適用されるトリガーのみを表示**。タスクに適用されないトリガーを除外します。

4. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

考慮事項

外部タスクはセッションレベルで機能します。外部タスクには、次のトリガーのみを関連付けることができます。タスクでサポートされているトリガーを一覧表示する、トリガーのサポートマトリックスの表を参照してください。

	スクリプトタスク	外部タスク
エージェントの更新		X
再接続		X
ログオン		X
ログオフ		X
切断		X
ロック		X
ロック解除		X
マシンの起動	X	
マシンのシャットダウン	X	

	スクリプトタスク	外部タスク
スケジュール済み	X	X
プロセス開始		X
プロセス終了		X
Windowsイベント	X	X
クラウドヘルスチェックの結果	X	
プロファイル管理ヘルスチェックの結果	X	
カスタムスクリプトタスク	X	

- 組み込みトリガー:
  - **エージェントの更新**
  - **再接続**
  - **ログオン**
  - **ログオフ**
  - **切断**
  - **ロック**
  - **ロック解除**
  - **マシンの起動**
  - **マシンのシャットダウン**
- Windows トリガー:
  - **イベント**
- スケジュールされたトリガー:
- ユーザープロセス トリガー:
  - **プロセス開始**
  - **プロセス終了**

再接続組み込みトリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- WEMエージェントが物理的なWindowsデバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。

切断、ロック、およびロック解除のトリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- 切断、ロック、ロック解除の実装はWindowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。（このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。）
- これらのトリガーはUIエージェントと組み合わせて使用することをお勧めします。理由は2つあります。
    - CMDエージェントと組み合わせて使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されているかどうかを確認します。
    - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセス起動トリガーを使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消す外部タスクを定義できます。外部タスクのトリガーとしてプロセスを使用すると、ログオンまたはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。ユーザープロセス起動トリガーを使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- WEMエージェントがUIモードで起動して実行されます。
- 指定されたプロセスが、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されます。
- 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、**詳細設定 > 構成 > 詳細オプション**タブで**自動更新を有効にする**を必ず選択してください。

Windowsイベントトリガーを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- ユーザー名が記録されているWindowsイベントのみが、外部タスクをトリガーするために使用できます。
- WEMエージェントがUIモードで開いて実行されます。

外部タスクを編集する

タスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「**外部タスク**」で、タスクを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく見つけます。
2. アクションバーで「**編集**」をクリックします。
3. 「**タスク**」タブと「**トリガー**」タブで、必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

外部タスクの割り当てを管理する

外部タスクの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、アクションバーで「**割り当ての管理**」を選択します。
2. タスクを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、「**新しいターゲットの追加**」をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
   - フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
4. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

外部タスクを複製する

> **注:**
>
> トリガーの関連付けと割り当ては複製されません。

タスクを複製するには、次の手順を実行します。

1. タスクを選択し、次にアクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. タスクをクローンする構成セットを選択します。
4. クローンプロセスを開始するには、**クローン**をクリックします。

外部タスクを削除する

タスクを削除するには、タスクを選択し、次にアクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**

> 外部タスクがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響します。

プリンター

この機能を使用すると、プリンターを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのプリンターはユーザーのデスクトップ内で使用可能になります。

次の操作を実行できます。

- プリンターを追加する。
- 印刷サーバーからプリンターを追加する。
- プリンターリストを更新する。
- プリンターを編集する。
- プリンターの割り当てを管理する。
- プリンターをクローンする。
- プリンターを削除します。
- エージェントがプリンターを処理する方法を指定します。

プリンターを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > プリンター**に移動して、**プリンターの追加**をクリックします。プリンターの追加を参照してください。
2. 追加したプリンターを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。プリンターの割り当てを管理するを参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、割り当てをすぐに有効にするを参照してください。

プリンターの追加

プリンターを追加するには、次の手順を実行します。

1. **プリンター**で、**プリンターの追加**をクリックします。
2. アクションの種類を指定します。選択したアクションの種類によってインターフェイスが異なります。
    - **ネットワークプリンターのマップ。**

- **名前**。プリンターを識別しやすいように名前を指定します。
- **説明（オプション）**。プリンターに関する追加情報を指定します。
- **このプリンターを有効にする**。プリンターを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
- **プリンターパス**。ユーザー環境で解決されるプリンターへのパスを指定します。
- **特定の資格情報を使用して接続**。既定では、エージェントは実行されているWindowsアカウントを使用してプリンターに接続します。ユーザーが接続に異なる資格情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
- **表示名**。プリンターの名前を指定します。この名前はユーザー環境に表示されます。
- **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にプリンターを自動的に再作成します（削除されている場合）。

- **プリンターマッピングファイルを使用する**。
  - **名前**。プリンターを識別しやすいように名前を指定します。
  - **説明（オプション）**。プリンターに関する追加情報を指定します。
  - **このプリンターを有効にする**。プリンターを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
  - **ファイルパス**。XMLプリンターリストファイルを使用して、ユーザーのプリンターを構成できます。ファイルをイメージとして使用するエージェントマシンに配置します。エージェントが更新されると、XMLファイルを解析してアクションキューに追加するプリンターを検索します。(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/reference/xml-printer-list-configuration.html)を参照してください。

3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

プリントサーバーからプリンターを追加する

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加するには、**WEM Tool Hub > Printer Assistant**で目的のプリンターを探し、その情報をコピーして貼り付けます。(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/reference/wem-tool-hub.html#printer-assistant)を参照してください。

プリンターを編集する

プリンターを編集するには、次の手順を実行します。

1. **プリンター**で、プリンターを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してプリンターをすばやく見つけます。

2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

プリンターの割り当てを管理する

プリンターの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. プリンターを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - どのフィルターを使用するか、およびそれをデフォルトプリンターとして設定するかどうかを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、**完了**をクリックします。

プリンターを複製する

> **注:**
>
> 割り当ては複製されません。

プリンターを複製するには、次の手順を実行します。

1. プリンターを選択し、アクションバーで**複製**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. プリンターを複製する構成セットを選択します。
4. 「**クローン**」をクリックして、クローンプロセスを開始します。

プリンターを削除する

プリンターを削除するには、プリンターを選択し、アクションバーで「**削除**」を選択します。

> **注:**

> プリンターがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがプリンターを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時にプリンターを処理する
- 再接続時にプリンターを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからプリンターを削除する
- プリンターの処理を強制する
- プリンターのフィルター処理を強制する
- プリンターを非同期で処理する（有効になっている場合、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します）

ネットワークドライブ

この機能を使用すると、ネットワークドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらのネットワークドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます:

- ネットワークドライブを追加します。
- ネットワークドライブリストを更新します。
- ネットワークドライブを編集します。
- ネットワークドライブの割り当てを管理します。
- ネットワークドライブを複製します。
- ネットワークドライブを削除します。
- エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定します。

ネットワークドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > ネットワークドライブ**に移動して、**ネットワークドライブの追加**をクリックします。「ネットワークドライブの追加」を参照してください。
2. 追加したネットワークドライブを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「ネットワークドライブの割り当ての管理」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

ネットワークドライブを追加する

ネットワークドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. **ネットワークドライブ**で、**ネットワークドライブの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
   - **名前**。ネットワークドライブを識別しやすいように名前を指定します。
   - **説明 (オプション)**。ネットワークドライブに関する追加情報を指定します。
   - **このネットワークドライブを有効にする**。ネットワークドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
   - **ターゲットパス**。ユーザー環境で解決されるネットワークドライブへのパスを指定します。
   - **特定の資格情報を使用して接続する**。デフォルトでは、エージェントは実行されているWindowsアカウントを使用してネットワークドライブに接続します。ユーザーが接続に異なる資格情報を指定する必要がある場合は、このオプションを選択します。
   - **表示名**。ネットワークドライブの名前を指定します。この名前はユーザー環境に表示されます。
   - **自動復元を有効にする**。有効にすると、エージェントは更新時にネットワークドライブを自動的に再作成します (削除されている場合)。
   - **ホームドライブとして設定**。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

ネットワークドライブを編集する

ネットワークドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. **ネットワークドライブ**で、ネットワークドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してネットワークドライブをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

ネットワークドライブの割り当てを管理する

ネットワークドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーで を選択します。
2. ネットワークドライブを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳しくは、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターとドライブ文字を指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、 をクリックします。

ネットワークドライブを複製する

> **注:**
>
> 割り当ては複製されません。

ネットワークドライブを複製するには、次の手順を実行します。

1. ネットワークドライブを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ネットワークドライブの複製先の構成セットを選択します。
4. 複製プロセスを開始するには、 をクリックします。

ネットワークドライブを削除する

ネットワークドライブを削除するには、それを選択し、アクションバーで を選択します。

> **注:**
>
> ネットワークドライブがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除するとそれらのユーザーに影響が及びます。

エージェントがネットワークドライブを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時にネットワークドライブを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップからネットワークドライブを削除する
- ネットワークドライブの処理を強制する
- ネットワークドライブのフィルター処理を強制する
- **ネットワークドライブを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

ドライブ文字:

- **割り当てに使用しないドライブ文字**。選択されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。
- **割り当てでのドライブ文字の再利用を許可する**。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられた他のドライブでも引き続き使用できます。

仮想ドライブ

この機能を使用すると、仮想ドライブを割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、これらの仮想ドライブはユーザーのデスクトップ内で使用できるようになります。

次の操作を実行できます:

- 仮想ドライブを追加します。
- 仮想ドライブリストを更新します。
- 仮想ドライブを編集します。
- 仮想ドライブの割り当てを管理します。
- 仮想ドライブを複製します。
- 仮想ドライブを削除します。
- エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定します。

仮想ドライブを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > 仮想ドライブ**に移動して、**仮想ドライブの追加**をクリックします。「仮想ドライブを追加する」を参照してください。

2. 追加した仮想ドライブを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「仮想ドライブの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

仮想ドライブを追加する

仮想ドライブを追加するには、次の手順を実行します。

1. **仮想ドライブ**で、**仮想ドライブの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
   - **名前**。仮想ドライブを識別するための名前を指定します。
   - **説明（オプション）**。仮想ドライブに関する追加情報を指定します。
   - **この仮想ドライブを有効にする**。仮想ドライブを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
   - **ターゲットパス**。ユーザー環境で解決される仮想ドライブへのパスを指定します。
   - **ホームドライブとして設定**。有効にすると、ネットワークドライブがホームドライブとして設定されます。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存して終了します。

仮想ドライブを編集する

仮想ドライブを編集するには、次の手順を実行します。

1. **仮想ドライブ**で、仮想ドライブを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して仮想ドライブをすばやく見つけます。
2. アクションバーの**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

仮想ドライブの割り当てを管理する

仮想ドライブの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーの**割り当ての管理**を選択します。
2. 仮想ドライブを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。

- 使用するフィルターとドライブ文字を指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。

  > **重要：**
  >
  > 「**次に利用可能**」および「**文字が割り当てられていません**」オプションは、ネットワークドライブにのみ適用されます。

3. 完了したら、**完了**をクリックします。

仮想ドライブのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

仮想ドライブのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. 仮想ドライブを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 仮想ドライブのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

仮想ドライブを削除する

仮想ドライブを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> 仮想ドライブがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが仮想ドライブを処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する

- 再接続時に仮想ドライブを処理する
- 割り当て解除時にデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制する
- 仮想ドライブのフィルター処理を強制する

ドライブ文字:

- **割り当てに使用しないドライブ文字**。選択したドライブ文字は、ドライブリソースの割り当て時にドライブ文字の選択から除外されます。
- **割り当てでのドライブ文字の再利用を許可する**。有効にすると、割り当てで使用されているドライブ文字は、同じターゲットに割り当てられている他のドライブでも引き続き使用できます。

レジストリエントリ

この機能を使用すると、レジストリ値の作成、設定、削除を行い、それらを割り当ててレジストリを作成または変更できます。レジストリエントリにタグを追加し、複数のレジストリエントリを同時に割り当てることができます。

次の操作を実行できます。

- レジストリエントリを追加する
- レジストリエントリリストを更新する
- レジストリエントリを編集する
- レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理する
- レジストリエントリを複製する
- **reg** ファイルでレジストリエントリをインポートする
- レジストリエントリを削除する
- タグを削除する

レジストリエントリを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動します。**Actions** > **Registry entries** に移動し、**Add registry entry** をクリックします。詳細については、「レジストリエントリの追加」を参照してください。
2. 追加したレジストリエントリを選択し、アクションバーで **Manage assignments** をクリックします。詳細については、「レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

レジストリエントリを追加する

レジストリエントリを追加するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリで、**Add registry entry** をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
   - **アクションの種類**。リソースのアクションの種類を説明します。
   - **名前**。レジストリエントリを識別するのに役立つ名前を指定します。
   - **説明** (オプション)。レジストリエントリに関する追加情報を指定します。
   - **タグ**。レジストリエントリの新しいタグを作成したり、既存のタグを選択したりできます。その後、タグを使用してレジストリエントリを一括処理および管理できます。
   - **このアクションを有効にする**。レジストリエントリを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていても、エージェントによって処理されません。
   - **レジストリパス**。レジストリエントリのレジストリパスを指定します。
   - **値の名前**。レジストリに表示されるレジストリ値の名前（例：**NoNtSecurity**）。
   - **種類**。作成される可能性のあるレジストリエントリの種類。
   - **データ**。作成されたレジストリエントリの値（例：`0`または`C:\Program Files`）
   - **一度実行**。選択すると、WEMはアクションを一度だけ実行します。
3. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

レジストリエントリを編集する

レジストリエントリを編集するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリで、レジストリエントリを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用するか、リストにタグを付けてレジストリエントリをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

レジストリエントリの割り当てを管理する

レジストリエントリの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリを選択し、アクションバーで を選択します。必要に応じて、検索ボックスまたはタグリストを使用して、レジストリエントリまたは複数のレジストリエントリをすばやく見つけます。

> **注:**
>
> 複数のレジストリエントリの割り当てを管理するには、レジストリエントリのリストを確認し、 をクリックします。

1. レジストリエントリを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
2. 完了したら、 をクリックします。

レジストリエントリのクローンを作成する

> **注:**
>
> 割り当てはクローンされません。

レジストリエントリのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. レジストリエントリのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

`reg`ファイルでレジストリエントリをインポートする

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER`の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能を使用すると、`HKEY_CURRENT_USER`の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。

- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ types`のレジストリ値はサポートしていません。

これらの制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**グループポリシー設定のインポート**を使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「グループポリシー設定のインポート」を参照してください。

レジストリエントリをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**インポート**を選択します。
2. ローカルの`reg`ファイルを参照します。
3. **インポート**をクリックして、レジストリエントリをページに読み込みます。
4. 読み込まれたレジストリエントリの**オプション**を選択します。
5. 読み込まれたレジストリエントリの**上書きルール**を選択します。
6. **インポート**をクリックして、インポートプロセスを開始します。

レジストリエントリを削除する

レジストリエントリを削除するには、レジストリエントリを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

タグを削除する

レジストリエントリのタグを削除するには、次の手順を実行します。

1. レジストリエントリを選択し、アクションバーで**タグの削除**を選択します。
2. **削除**をクリックして、削除プロセスを開始します。

環境変数

この機能を使用すると、環境変数を割り当て可能なアクションとして追加できます。割り当てられると、それらの環境変数はユーザー環境で作成または設定されます。

次の操作を実行できます。

- 環境変数を追加します。
- 環境変数リストを更新します。
- 環境変数を編集します。
- 環境変数の割り当てを管理します。
- 環境変数を複製します。
- 環境変数を削除します。

- エージェントが環境変数を処理する方法を指定します。

環境変数を追加および割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > 環境変数**に移動して、**環境変数の追加**をクリックします。「環境変数を追加する」を参照してください。
2. 追加した環境変数を選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「環境変数の割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

環境変数を追加する

環境変数を追加するには、次の手順を実行します。

1. で、 をクリックします。
2. 次の設定を構成します。
    - 。環境変数を識別するための名前を指定します。
    - 。環境変数に関する追加情報を指定します。
    - 。環境変数を有効または無効にします。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。
    - 。環境変数の機能名です。
    - 。環境変数の値です。
    - 。このオプションを使用して、エージェントが変数を処理する順序を決定します。エージェントは、まず実行順序の値が0の変数を処理し、次に値が1の変数、次に値が2の変数というように処理します。競合が発生した場合、最後に処理された変数が以前に処理された変数を上書きします。
3. 完了したら、 をクリックして保存し、終了します。

環境変数を編集する

環境変数を編集するには、次の手順を実行します。

1. で、環境変数を選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して環境変数をすばやく見つけます。
2. アクションバーで をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。

4. 完了したら、 をクリックします。

環境変数の割り当てを管理する

環境変数の割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで を選択します。
2. 環境変数を割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
   - 新しいターゲットを追加するには、 をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
   - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、 をクリックします。

環境変数を複製する

> **注:**
>
> - 割り当ては複製されません。

環境変数を複製するには、次の手順を実行します。

1. 環境変数を選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. 環境変数を複製する構成セットを選択します。
4. 複製プロセスを開始するには、 をクリックします。

環境変数を削除する

環境変数を削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> - 環境変数がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

エージェントが環境変数を処理する方法を指定する

処理オプション:

- ログオン時および更新時に環境変数を処理する
- 再接続時に環境変数を処理する
- 割り当て解除時にデスクトップから環境変数を削除する
- 環境変数のフィルター処理を強制する
- 環境変数のフィルター処理を強制する

詳細情報

割り当てをすぐに有効にする

通常、割り当ては、Advanced Settingsで**SQL Settings Refresh Delay**に指定した期間の後に有効になります。割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を完了します:

1. **Web Console > Monitoring > Administration > Agents > Statistics**に移動し、エージェントを選択します。
2. アクションバーで**More**をクリックし、**Agent > Refresh agent host settings**を選択します。

> **重要：**
>
> - エージェントがアクションを処理するには、次の設定が有効になっていることを確認します:
>   - ログオン時にエージェントを起動する（ログオン時のアクション処理用）
>   - 再接続時にエージェントを起動する（再接続時のアクション処理用）
>   - デスクトップ互換モードを有効にする
> - これらの設定は、**Legacy Console > Advanced Settings > Configuration > Main Configuration > Agent Service Actions** で確認できます。

グループポリシー設定をバックアップする

グループポリシー設定をバックアップするには、ドメインコントローラーで次の手順を実行します。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。

2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。オプションで、バックアップに説明を付けることもできます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**

> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートをサポートしています。

WEM GPOを使用してFSLogixプロファイルコンテナを構成する

グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成する方法の例については、WEM GPOを使用してFSLogixプロファイルコンテナを構成する を参照してください。

アプリケーションランチャー

アプリケーションランチャーは、管理コンソールを通じてユーザーに割り当てたすべてのアプリケーションを集約します。このツールを使用すると、ユーザーは割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所から起動できます。

> **ヒント:**

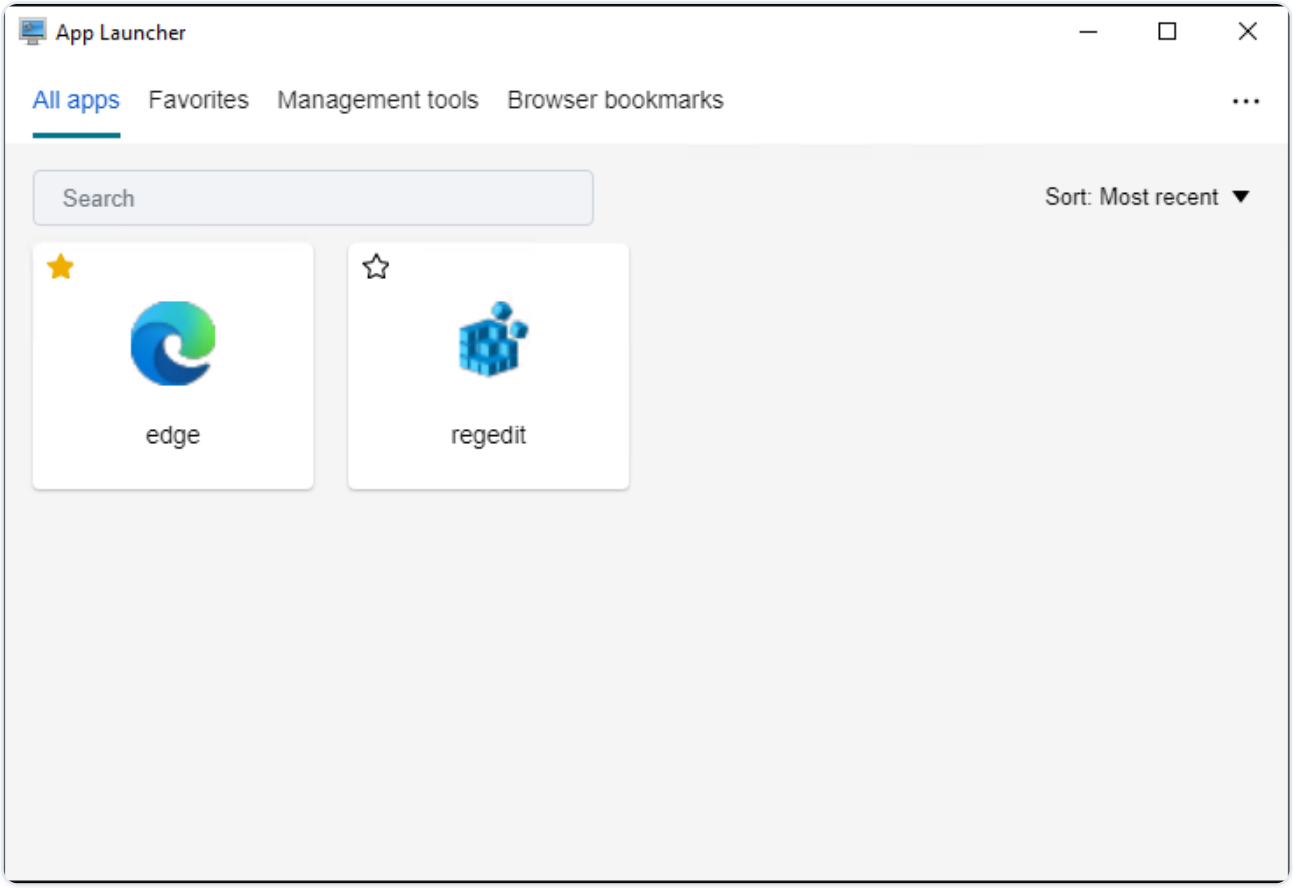
> このツールをCitrix仮想アプリとして公開することをお勧めします。

> この機能には、次の利点があります。

- 割り当てられたアプリケーションをより速く起動できます。
- ユーザーは、割り当てられたすべてのアプリケーションを1か所で起動できます。
- ユーザーはブックマークされたWebサイトにすばやくアクセスできます。Profile Managementを使用すると、ブラウザのブックマークをローミングできます。

ユーザーは、環境内でアプリケーションランチャーツール (AppLauncherUtil.exe) を直接開くことができます。このツールは、エージェントのインストールフォルダー `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\ AppLauncherUtil.exe` にあります。

ツールを開くと、ユーザーには割り当てられたアプリケーションが反映された次の内容が表示されます。



- **すべてのアプリ**。割り当てられているすべてのアプリケーションが表示されます。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、および **Z-A**。
- **お気に入り**。お気に入りとしてマークされたアプリケーションが表示されます。
- **管理ツール**。次の2つのツールが表示されます。
  - **Taskmgr**。タスクマネージャーを開きます。
  - **VUEMUIAgent**。WEM UIエージェントを起動します。
- **ブラウザのブックマーク**。ブラウザのブックマークに保存されているWebサイトが表示されます。ブックマークをクリックすると、ユーザーはブラウザをすばやく開いて目的のWebサイトにアクセスできます。ブックマークはブラウザごとにグループ化できます。この機能は、Google ChromeとMicrosoft Edgeのみをサポートしています。利用可能な並べ替えオプション: **最新**、**A-Z**、および **Z-A**。
- **省略記号アイコン**。ユーザーがセッションからサインアウトできる **サインアウト** オプションがあります。

割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンに存在することを確認してください。割り当てられたアプリケーションがエージェントマシンにインストールされていない場合、そのアプリケーションは表示されますが、起動できません。

エージェントマシンに割り当てられたアプリが存在しません(/en-us/workspace-environment-management/service/media/assigned-app-not-present-on-agent.png)

この機能の使用例については、「Aggregate assigned applications in one place」を参照してください。

外部タスクの例

スクリプト（例：PowerShellスクリプト）の場合：

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します。`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`.
  - **引数**フィールドに、次のように入力します。`C:\<folder path>\<script name>.ps1`.

  あるいは、**パス**フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例えば、`C:\<folder path>\<script name>.ps1`。**引数**フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルタイプの関連付けによって異なります。ファイルタイプの関連付けについては、「File Associations」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合：
  - **パス**フィールドに、次のように入力します。`C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`.
  - **引数**フィールドに、次のように入力します。`-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`.

アプリケーション（例：iexplore.exe）の場合：

- **パス**フィールドに、次のように入力します。`C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`.
- **引数**フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します。`https://docs.citrix.com/`.

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。クリアされている場合、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在すると、影響を受けるファイルはコピーされません。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は操作を更新ごとにではなく、1回だけ実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを示します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボリッ

クリンクを作成するには、Windows でシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに `SeCreateSymbolicLinkPrivilege` 特権を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作より先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、といった順で実行されます。

ファイルの種類のアソシエーション

> **重要：**

> 構成したファイルの種類のアソシエーション (FTA) は、自動的に既定のアソシエーションになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが引き続き表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。**OK** をクリックしてウィンドウを閉じます。同様のウィンドウを再度表示しない場合は、次の操作を行います: グループポリシーエディターを開き、「**新しいアプリケーションがインストールされました」の通知を表示しない**」ポリシー (**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**) を有効にします。

> ユーザー環境での FTA の作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

> この機能を使用すると、FTA を割り当て可能なアクションとして追加できます。

次の操作を実行できます。

- FTA の追加
- FTA の更新
- FTA の編集
- 割り当ての管理

- FTA の複製
- FTA の削除

FTA を追加するには

1. コンテキストメニューの**関連付けの追加**コマンドを使用します。
2. **ファイルタイプの関連付けの追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルタイプ関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザの関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer (oleview.exe) を使用し、Object Classes/Ole 1.0 Objects を参照してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit Text Editor の場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例:

- 開くアクションの場合は、`“%1”` と入力します。
- 印刷アクションの場合は、`/p"%1"` と入力します。

既定のアクションとして設定。そのファイル名拡張子の既定として関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが一度だけ作成されます。これにより、特にユーザーに多くのファイル関連付けが割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

> **ヒント:**
>
> ファイルタイプ関連付けアシスタント データを使用して、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できます。

> 詳細については、「知っておくと便利な情報」を参照してください。

ファイルタイプ関連付けを編集する

ファイルタイプ関連付けを編集するには、次の手順を実行します。

1. **ファイルタイプ関連付け**で、必要な関連付けを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して、必要なファイルタイプ関連付けをすばやく見つけます。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. 完了したら、**保存**をクリックします。

割り当てを管理する

ファイルタイプ関連付けの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプ関連付けを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. 関連付けを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。

- 新しいターゲットを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
- フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。必要に応じて、各ターゲットに必要な関連付けの優先度を設定します。

- 構成をコピーするには、割り当てに関連付けられている3つの省略記号をクリックします。
- 割り当てに関連付けられているそれぞれのオプションを選択することで、コピーした構成をすべてのターゲットに適用することもできます。

ファイルタイプ関連付けのクローン作成

ファイルタイプ関連付けをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ファイルタイプ関連付けを選択し、アクションバーで を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. ファイルタイプ関連付けのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

ファイルタイプ関連付けの削除

ファイルタイプ関連付けを削除するには、それを選択し、アクションバーで を選択します。

エージェントがファイルタイプ関連付けを処理する方法を指定する

処理オプション：

- ログオン時および更新時にファイルタイプ関連付けを処理する
- 再接続時にFTAを処理する
- FTAのフィルター処理を強制する
- 割り当て解除時にデスクトップからFTAを削除

JSONファイル

この機能を使用すると、JSONオブジェクトを追加して割り当て、JSONファイルを作成または変更できます。この機能を使用すると、JSON構成ファイルを持つアプリケーション（Microsoft Teamsなど）にパーソナライズされた設定を適用できます。

次の操作を実行できます。

- JSONオブジェクトを追加します。
- JSONオブジェクトリストを更新します。
- Windows 11のスタートメニューレイアウトにJSONオブジェクトを追加する
- JSONオブジェクトを編集します。
- JSONオブジェクトの割り当てを管理します。
- JSONオブジェクトを複製します。

- JSONオブジェクトを削除します。
- JSONオブジェクトを処理するかどうかを制御します。

JSONオブジェクトを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. Webコンソールで、関連する構成セットに移動し、**アクション > JSONオブジェクト**に移動して、**JSONオブジェクトの追加**をクリックします。「JSONオブジェクトの追加」を参照してください。
2. 追加したJSONオブジェクトを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**をクリックします。「JSONオブジェクトの割り当てを管理する」を参照してください。

割り当てが有効になるまでには時間がかかります。すぐに有効にするには、「割り当てをすぐに有効にする」を参照してください。

JSONオブジェクトを追加する

JSONオブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

1. **JSONオブジェクト**で、**JSONオブジェクトの追加**をクリックします。
2. 次の設定を構成します。

   - **名前**。JSONオブジェクトを識別しやすい名前を指定します。
   - **説明（オプション）**。JSONオブジェクトに関する追加情報を指定します。
   - **このアクションを有効にする**。JSONオブジェクトを有効または無効にします。無効にすると、ユーザーまたはマシンに割り当てられていても、エージェントによって処理されません。
   - **ファイルパスとコンテンツ**。オブジェクトで変更するJSONファイルへのパスを指定します。指定されたコンテンツは、ターゲットファイル内の既存のコンテンツとマージされます。コンテンツがどのようにマージされるかを理解するには、「JSONコンテンツのマージ例」を参照してください。

   パスとコンテンツを手動で入力したくない場合は、**テンプレートで生成**をクリックします。**テンプレートで生成**機能を使用すると、特定のアプリケーションを構成するためのテンプレートを使用してJSONコンテンツを生成できます。現在、この機能はMicrosoft Teamsにのみ適用されます。

   - **ファイルが存在しない場合は作成する**。これは、オブジェクトが期待どおりに機能することを保証するフェイルセーフオプションです。たとえば、Microsoft Teamsの場合、

「desktop-config.json」ファイルはMicrosoft Teamsが初めて起動されるまで存在しません。

- **元のファイルをバックアップする**。選択すると、エージェントはターゲットファイルのバックアップを同じ場所に自動的に保存します。バックアップは元のファイルの名前を継承し、「-WEMCopy」というサフィックスが付きます。
- **処理モード**
  - **ユーザーレベルの処理**。ユーザーがログオンしたとき、またはエージェントが更新したときにアクションを処理します。
  - **マシンレベルの処理**。マシンが起動したとき、またはエージェントがSQL接続設定を更新したときにアクションを処理します。
- **一度実行**。選択した場合、WEM はアクションを一度だけ実行します。

3. 完了したら、**完了** をクリックして保存し、終了します。

JSON コンテンツのマージ例

次の例は、指定されたコンテンツがターゲット JSON ファイル内の既存のコンテンツとどのようにマージされるかを示しています。

ターゲットファイル内のコンテンツの例:

```
{

    "value": "value1",

    "array": ["test1", "test2"],

    "object": {"key1": "value1", "key2":  "value2"}

}
```

指定されたコンテンツの例:

```
{

    "value": "value2",

    "array": ["test2", "test3"],

    "object": { "key1": "changed", "key3": "value3", "key4": "value4" },
```

```
    "new": 1

}
```

マージされた結果の例:

```
{

    "value": "value2",

    "array": ["test1", "test2", "test3"],

    "object": {"key1": "changed", "key2": "value2", "key3": "value3",
"key4": "value4" },

     "new": 1

}
```

Windows 11 のスタートメニューレイアウトに JSON オブジェクトを追加する

Windows 11 のスタートメニューレイアウトに JSON オブジェクトを追加するには、次の手順を実行します。

1. **新しい JSON オブジェクトの追加** をクリックします。
2. **Windows 11 のスタートメニュー構成** を選択します。
3. **JSON オブジェクトの追加** ページに構成を貼り付けます。
4. 「**完了**」をクリックします。

詳細については、「Windows 11 のスタートメニューレイアウトをカスタマイズする」を参照してください。

JSON オブジェクトを編集する

JSON オブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「**JSON オブジェクト**」で、JSON オブジェクトを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用して JSON オブジェクトをすばやく見つけます。
2. アクションバーで「**編集**」をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。

4. 完了したら、「**保存**」をクリックします。

JSON オブジェクトの割り当てを管理する

JSON オブジェクトの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーで「**割り当ての管理**」を選択します。
2. JSON オブジェクトを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
    - 新しいターゲットを追加するには、「新しいターゲットの追加」をクリックします。詳細については、「割り当てターゲットの追加」を参照してください。
    - 使用するフィルターを指定するようにターゲットを構成します。フィルターの追加については、「フィルター」を参照してください。
3. 完了したら、「**完了**」をクリックします。

JSON オブジェクトを複製する

> **注:**
>
> - 割り当ては複製されません。

JSON オブジェクトを複製するには、次の手順を実行します。

1. JSON オブジェクトを選択し、アクションバーで「**複製**」を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. JSON オブジェクトのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

JSON オブジェクトを削除する

JSON オブジェクトを削除するには、オブジェクトを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

> **注:**
>
> - JSON オブジェクトがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

INI ファイル

.iniファイル操作の作成を制御し、**.ini**ファイルを変更できるようにします。

Ini ファイル操作リスト

既存の**.ini**ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

INI ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **INI ファイル操作の追加**ページで詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。**Ini ファイル操作**リストに表示される、.ini ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.iniファイル操作の状態。.iniファイル操作を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるときに変更される.iniファイルの場所を指定します。

> **注:**
>
> ドメインに参加していないエージェントを使用している場合、**ターゲットパス**がネットワーク共有であるとWEMが機能しないことがあります。

> **ターゲットセクション**。この操作の対象となる.iniファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定すると、そのセクションが作成されます。

ターゲット値の名前。追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値自体を指定します。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Managementはエージェントが更新されるたびに.iniファイル操作を実行します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Managementは更新ごとにではなく、1回だけ操作を実行します。この操作により、

特に多くの.iniファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

INIファイル操作の編集

編集/変更するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存**をクリックします。

割り当ての管理

割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. このINIファイルを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
3. フィルターを使用して、割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットに対して、選択したINIファイルの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

INIファイル操作のクローン

クローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. INIファイルを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンを作成する必要がある構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

INIファイルの削除

INIファイルを削除するには、INIファイルを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

ポート

割り当て可能なアクションとしてポートマッピングを追加できます。「ポート」機能により、クライアントCOMポートマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートの自動接続を有効にすることもできます。 ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントCOMポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトは禁止されています。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**ポートマッピングの追加**を選択します。
2. **ポートマッピングの追加**ダイアログタブで詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

ポートターゲット。ターゲットポートです。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースが実行するアクションの種類を記述します。

たとえば、ポート設定は次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します。
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` を入力します。

ポートマッピングを編集

ポートマッピングを編集するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで **編集** をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存** をクリックします。

割り当てを管理

割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ポートマッピングを選択し、アクションバーで **割り当ての管理** を選択します。
2. このポートを割り当てる割り当てターゲット（ユーザーとグループ）を選択します。
3. フィルターを使用して、割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットの選択したポートマッピングの優先度を設定します。

5. 完了したら、**保存** をクリックします。

ポートマッピングを複製

クローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. ポートを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンを作成する必要がある構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックして、クローン作成プロセスを開始します。

ポートマッピングの削除

ポートマッピングを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNの追加

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **ユーザーDSNの追加**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

データソース名。ユーザーDSNの機能名。

ドライバー。DSNドライバー。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQLサーバーの名前。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Managementはエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment ManagementはユーザーDSNを更新ごとにではなく、一度だけ作成します。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ユーザーDSNを編集する

ユーザーDSNを編集/変更するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで**編集**をクリックします。
2. 必要に応じて変更を加えます。
3. 完了したら、**保存**をクリックします。

ユーザーDSNの割り当てを管理する

ユーザーDSNの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーDSNを選択し、アクションバーで**割り当ての管理**を選択します。
2. ユーザーDSNを割り当てる割り当てターゲット（ユーザー、グループ、OU）を選択します。
3. フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。
4. 各ターゲットに対して、選択したユーザーDSNの優先度を設定します。
5. 完了したら、**保存**をクリックします。

ユーザーDSNをクローンする

ユーザーDSNをクローンするには、次の手順を実行します。

1. ユーザーDSNを選択し、アクションバーで**クローン**を選択します。
2. 名前と説明を編集します。
3. クローンする必要がある構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックしてクローンプロセスを開始します。

ユーザーDSNを削除する

ユーザーDSNを削除するには、それを選択し、アクションバーで**削除**を選択します。

セキュリティ

アプリケーションセキュリティ

アプリケーションセキュリティ機能を使用すると、ユーザーが実行できるアプリケーションとファイルを制御するルールを定義できます。Webコンソールでアプリケーションセキュリティルールを設定し、ルール設定に必要な情報を取得するためのツールを提供できます。また、この機能を使用して、セキュリティルールを含む割り当てグループを作成することもできます。

構成

Process application rules と **Process DLL rules** が有効になっている場合、**Overwrite** モードがデフォルトでオンになります。**Overwrite** モードでは、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。この機能では、次のルールも作成できます。

- 実行可能ルール
- Windowsインストーラールール
- スクリプトルール
- パッケージアプリルール
- DLLルール

> **注:**
>
> ルールを作成する前に、重要なシステムファイルが実行されるように、まずデフォルトルールを追加することをお勧めします。

- **Process application rules**。選択すると、**Application Security** タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択されていない場合、**Application Security** タブのコントロールは無効になります。

  > **注:**
  >
  > このオプションは、Workspace Environment Management™ 管理コンソールがWindows 7 SP1またはWindows Server 2008 R2 SP1（またはそれ以前のバージョン）にインストールされている場合は使用できません。

- **Process DLL Rules**。選択すると、エージェントは現在の構成セットのDLLルールを処理します。このオプションは、**Process Application Security Rules** を選択した場合にのみ使用できます。

  > **重要：**
  >
  > DLLルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各DLLに対して、*Allow* 権限を持つDLLルールを作成する必要があります。
  >
  > **注意:**
  >
  > DLLルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。

- **Overwrite** および **Merge** 設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を決定できます。
  - **Overwrite**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。既存のルールとルールをマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは値が異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

各コレクション名には、含まれるルールの数が示されます（例：(12)）。コレクション名をクリックすると、ルールリストが次のいずれかのコレクションにフィルタリングされます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。次の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。
- **パッケージルール**。ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれるパッケージアプリを含むルール。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。

したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージアプリのパブリッシャールールのみをサポートしています。

- **DLLルール**。次の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、**ルール適用**オプションが使用可能になります。次のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールが作成され、*オフ*に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールが作成され、*適用*に設定されます。これは、エージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、*監査*に設定されます。これは、エージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。

WINDOWSインストーラールールの作成

これには、**基本情報**と**例外**の2つのメニュー項目が含まれます。Windowsインストーラールールを作成するには、**基本情報**と**例外**の下で次の手順を完了します。

- *ルールの作成*を選択すると、**Windowsインストーラールールの作成**ページに移動します。
- 名前とオプションの説明を入力します。
- 目的の**アクション**を選択します。
- ドロップダウンリストから、**パス**、**発行元**、**ファイルハッシュ**などの**基準タイプ**を選択します。
- **ファイル情報ビューアを開く**を選択すると、WEM Tool Hubに移動します。WEM Tool Hub**を使用して、必要な情報をすばやく取得します。詳細については、「ファイル情報ビューア」を参照してください。
- 必要に応じて、プライマリ基準に基づいて通常ルールに含まれるファイルを含めるための例外を追加できます。このタスクを実行するには、**例外の追加**を選択します。
- WEM Tool Hubに移動して、**ファイル情報ビューア**の下にある指定された基準のいずれかからデータをコピーし、**ファイル情報ビューアから貼り付け**をクリックします。
- 「**完了**」をクリックします。
- **割り当ての管理**ページで必要に応じて割り当てを更新するには、**割り当てに進む**を選択します。

- この項目を割り当てる**割り当てターゲット**（ユーザーとグループ）を選択します。フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化します。指定したフィルターは、**上書き**モードでのみ有効であり、エージェントバージョン2406以降でのみサポートされます。
- 特定のルールをすべてのファイルに適用する必要がある場合は、アスタリスクを入力します。

特権の昇格

この機能は、特定のプログラムを管理者特権で実行するためのルールを定義します。非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格オプション

- 特権昇格ルールを処理する: 選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、特権昇格タブの他のオプションが利用可能になります。
- Windows Server OSに適用する: 特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンで機能します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。
- RunAsInvokerを強制する: すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このペインには、構成したルールの完全なリストも表示されます。特定のルールタイプにルールリストをフィルタリングするには、**実行可能ルール**、**Windows インストーラー ルール**、または**自己昇格**をクリックします。検索を使用してリストをフィルタリングできます。割り当て済み列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して構成できます。

- **実行可能ルール**: アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windows インストーラー ルール**: アプリケーションに関連付けられた`.msi`および`.msp`拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。

    - 特権昇格は、Microsoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp`のWindowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
    - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ルールに一致するとします。指定された実行可能ルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された特権を取得できません。

- **自己昇格**: 有効にすると、ファイルを右クリックしたときにコンテキストメニューに**管理者権限で実行**オプションが表示されます。このオプションを選択すると、昇格の理由を提供するよう求められます。昇格は、指定した基準に基づいて許可または拒否されます。ルールを構成するには、**WEM Tool Hub** > **ファイル情報ビューアー**を使用して、パス、発行元、ハッシュ値などの必要な情報をすばやく取得できます。また、期間を指定したり、曜日を選択したり、オプションでルールが有効になるマシンを決定するための基準を設定したりすることもできます。構成セットで**自己昇格**トグルが初めて有効にされた場合、自己昇格ルールが作成され、割り当てターゲットの割り当てを管理する際のルールリストで見つけることができます。ルールは作成後に削除されることはありません。

ルールが有効な期間を指定できます。また、オプションで、ルールが適用されるマシンを決定するための基準を設定することもできます。以下の基準のすべてまたは一部に一致するように選択できます。

- マシンカタログ名
- デリバリーグループ名
- デバイス名
- IPアドレス
- OSプラットフォームタイプ
- OSバージョン
- 永続的なマシンステータス

実行可能ルール、**Windows インストーラー ルール**、または**自己昇格**ルールを選択すると、**アクション**セクションに利用可能な次のアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ルールを編集できます。
- **削除**。既存の実行可能ルールを削除できます。
- **ルールの作成**。実行可能ルールを作成できます。実行可能ルールを作成するには、ウィザードの指示に従ってください。

割り当て

割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

割り当てターゲット

割り当てターゲットページでは、ユーザーとグループ（ターゲット）を追加して、アクションとセキュリティルールを割り当てることができます。ターゲットを選択して、その割り当てを管理します。

> **注:**
>
> SIDをターゲット名に変換するには時間がかかる場合があります。変換が正しくない場合や失敗した場合は、(/ja-jp/citrix-cloud/citrix-cloud-resource-locations/citrix-cloud-connector/technical-details.html#view-the-health-of-the-cloud-connector)でCloud Connectorが正常に動作していることを確認してください。問題が解決しない場合は、(/ja-jp/citrix-cloud/overview/how-to-get-help-and-support.html#technical-support)にお問い合わせください。

> 組み込みターゲットは2つあります。

- **Everyone**。匿名ユーザーやゲストを含むすべてのユーザーが含まれる組み込みグループです。メンバーシップはオペレーティングシステムによって制御されます。
- **Administrators**。Administratorsグループのすべてのメンバーを含む組み込みグループです。オペレーティングシステムの初期インストール後、このグループの唯一のメンバーは管理者アカウントです。コンピューターがドメインに参加すると、Domain Adminsグループが Administratorsグループに追加されます。サーバーがドメインコントローラーになると、Enterprise AdminsグループがAdministratorsグループに追加されます。

利用可能なオプションは次のとおりです。

- **フィルター**。リストをフィルターできます。
- **割り当てターゲットの追加**。ターゲットを追加できます。
- **更新**。ターゲットのリストを更新します。
- **表示**。組み込みターゲットの詳細を表示できます。
- **編集**。ターゲットを編集できます。説明、優先度、有効化ステータスを変更できます。優先度を設定する際は、次の点を考慮してください。優先度は、割り当てたアクションが処理される

順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いターゲットが優先されます。

- **有効化**。オブジェクト（ターゲット）を有効または無効にできます。
- **削除**。ターゲットを削除できます。注: 組み込みターゲットは削除されません。

> **ヒント:**
>
> **状態**列のトグルを使用すると、ターゲットをすばやく有効または無効にできます。

割り当てターゲットを追加する

割り当てを追加するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、**割り当てターゲットの追加**をクリックします。
2. IDプロバイダーを選択します。
3. 追加するターゲットが存在するドメインを選択します。
4. ターゲットの種類を選択します。

> **注:**
>
> Active DirectoryおよびAzure Active Directoryの場合、検索をユーザーまたはセキュリティグループに絞り込むことができます。Active Directoryの場合、組織単位を選択することもできます。組織単位には、グループポリシー設定のみを割り当てることができることに注意してください。

5. 検索ボックスに、追加するターゲットの名前を入力します。名前を入力すると、一致する項目がメニューに表示されます。

> **注:**
>
> 検索では上位50件の結果のみが返されます。必要に応じて検索を絞り込んでください。

6. プラスアイコンをクリックしてターゲットを追加します。（既に追加したターゲットには緑色のチェックマークアイコンが表示されます。）

> **ヒント:**
>
> 別のIDプロバイダーからターゲットを追加する場合は、別のIDタイプに切り替えて続行します。

7. 完了したら、**追加**をクリックしてターゲットを追加し、ウィザードを終了します。

ターゲットの割り当てを管理する

ターゲットの割り当てを管理するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけます。
2. アクションバーで、**割り当ての管理**を選択します。**割り当ての管理**ウィンドウが表示されます。
3. 必要に応じて、各アクションまたはセキュリティルールの割り当てを管理します。また、特権昇格ルールを選択して、セキュリティルール割り当ての管理ページでターゲットを割り当てることもできます。
4. **変更の確認**をクリックして、意図したとおりに変更が行われたことを確認します。

割り当てターゲットのクローンを作成する

割り当てターゲットのクローンを作成するには、次の手順を実行します。

1. **割り当てターゲット**ページで、ターゲットを選択します。必要に応じて、検索ボックスを使用してターゲットをすばやく見つけます。
2. アクションバーで、**クローン**を選択します。**割り当てターゲットのクローン**ウィンドウが表示されます。
3. ターゲットのクローンを作成する構成セットを選択します。
4. **クローン**をクリックします。

> **注:**
>
> - 組み込みターゲットはクローンできません。
> - 一度に最大10個のターゲットをクローンできます。
> - ターゲットが宛先にすでに存在する場合、それはスキップされます。

- クローンされたターゲットの説明は空です。それらの割り当てはクローンされず、優先度はデフォルト値 (100) に設定され、状態はデフォルトで有効 (チェックマークアイコン) になります。

フィルター

注:

- この機能はプレビュー版として利用できます。
- フィルターは、割り当てとスクリプト化されたタスクで使用します。

フィルターページでは、ユーザーにアクションを割り当てるタイミングを制御するためのフィルターを追加できます。フィルターは複数の条件で構成できます。

組み込みフィルターがあります。

- **常にtrue**。選択すると、関連するアクションは常にターゲットユーザーに割り当てられます。この組み込みフィルターは編集または削除できません。

利用可能なオプションは次のとおりです。

- **フィルターの追加**。アクションを割り当てる際に使用できるようにフィルターを追加できます。
- **条件の管理**。条件の追加、削除、編集ができます。
- **更新**。フィルターのリストを更新します。このオプションを使用すると、**条件の管理**の条件リストも更新されます。
- **編集**。フィルターを編集できます。ユーザーに割り当てられたアクションにバインドされているフィルターを編集すると、その変更はすぐにそれらのユーザーに影響します。
- **削除**。フィルターを削除できます。
- **状態**。フィルターを有効または無効にできます。

フィルターを追加する

フィルターを追加するには、次の手順を実行します。

1. **フィルター**ページで、**フィルターの追加**をクリックします。

2. **基本情報**で、以下を設定してから**次へ**をクリックします。

   - **フィルター名**。フィルターの名前を入力します。
   - **説明**。他のフィルターと区別できるように、フィルターの説明を入力します。このフィールドはオプションです。
   - **このフィルターを有効にする**。フィルターを有効にするには**はい**を、無効にするには**いいえ**を選択します。

3. **条件**で、条件を追加してフィルターを作成します。演算子をクリックして、**すべて一致**（**AND**演算子）または**いずれか一致**（**OR**演算子）を切り替えます。両方の演算子を使用して、2つ以上の条件を複合条件に結合できます。

   - **条件の追加**。リストから条件を選択するか、新しい条件を作成します。
   - **条件グループの追加**。同じ論理演算子（**AND**または**OR**）を使用して一連の条件をグループ化するために、条件グループを追加します。条件グループ内に条件グループを追加できます。条件グループは最大3レベルまでネストできます。

   > **注:**
   >
   > - ここで作成した条件は、他のフィルターでも使用できます。
   > - **概要**セクションを使用して、複合条件の基準をより深く理解してください。
   > - **OR**演算子を含むフィルターは、バージョン2210.2.0.1以降のエージェントでのみ評価されます。
   > - 特定の種類の条件は、ユーザー設定にのみ適用されます。これらをマシン設定（スクリプト化されたタスクやGPOなど）に適用すると、エージェントはフィルターの評価時にそれらをスキップします。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。
   > - 同じレベルのフィルター条件が**OR**で結合されている場合、そのレベルのいずれかの条件を満たせば十分です。同じレベルのフィルター条件が**AND**で結合されている場合、そのレベルのすべての条件を満たす必要があります。

4. 完了したら**完了**をクリックします。

条件を作成する

フィルターを追加するか、条件を管理するときに条件を作成できます。表示される**条件の作成**ウィザードで、次の手順を実行します。

1. 条件名を入力します。
2. 条件を有効にするには**はい**を、無効にするには**いいえ**を選択します。
3. リストから条件タイプを選択し、それに応じて設定を構成します。

条件タイプによって設定が異なる場合があります。利用可能な条件タイプは次のとおりです。

条件タイプ	説明
常に真	条件は常に真になります。
アクティブディレクトリ属性	属性名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。属性値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 属性値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
Active Directoryグループ	グループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。グループ名をセミコロン (;) で区切って入力します。
アクティブディレクトリパス	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。パスをセミコロン (;) で区切って入力します。注: アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
Active Directoryサイト	サイト名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽になります。サイト名をセミコロン (;) で区切って入力します。
Citrix Provisioning™ イメージモード	イメージモードが**共有**か**プライベート**かによって、真または偽。
Citrix Virtual Apps™ ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
Citrix Virtual Apps バージョン	バージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
Citrix Virtual Apps ゾーン名	ゾーン名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
Citrix Virtual Desktops™ デスクトップグループ名	デスクトップグループ名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。

条件タイプ	説明
Citrix Virtual Desktops ファーム名	ファーム名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
クライアントIPアドレス	IPアドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
クライアント名	クライアント名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。クライアント名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。動的トークンも使用できます。
クライアントOS	クライアントOSが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
クライアントリモートOS	クライアントリモートOSが指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
コンピューター名	コンピューター名が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。コンピューター名をセミコロン (;) で区切って入力します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
接続状態	接続状態が**オンライン**か**オフライン**かに応じて、真または偽。
日付と時刻	日付と時刻が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。日付または日付範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。日付は `mm/dd/yyyy` の形式で入力します。日付範囲は (時刻は任意で) `mm/dd/yyyy HH:mm - mm/dd/yyyy HH:mm` の形式で入力します。
曜日	曜日が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
動的値	動的値が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。動的式が解決する値をセミコロン (;) で区切って入力します。注: 動

条件タイプ	説明
	的式の値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
環境変数	環境変数が指定された値と一致するかどうかに応じて、TrueまたはFalse。環境変数の値をセミコロン (;) で区切って入力します。注：環境変数の値に関係なく条件をTrueにしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
ファイルバージョン	ファイルバージョンが指定された値と一致するかどうかに応じて、TrueまたはFalse。ファイルバージョンをセミコロン (;) で区切って入力します。
ファイル/フォルダーの存在	パスが指定された値と一致するかどうかに応じて、TrueまたはFalse。ファイルまたはフォルダーの完全なパスを入力します。動的トークンを使用できます。
IPアドレス	IPアドレスが指定された値と一致するかどうかに応じて、TrueまたはFalse。IPアドレスまたはIPアドレス範囲をセミコロン (;) で区切って入力します。注：アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用できます。
名前がリストにあるかどうか	名前が指定されたリストにあるかどうかに応じて、TrueまたはFalse。**名前**フィールドに、リストで検索する名前を入力します。**XMLリストのファイルパス**フィールドに、XMLリストの完全なファイルパスを入力します。
名前/値がリストにあるかどうか	名前または値が指定されたリストにあるかどうかに応じて、TrueまたはFalse。**名前**フィールドに、リストで検索する名前または値を入力します。**XMLリストのファイルパス**フィールドに、XMLリストの完全なファイルパスを入力します。
ネットワーク接続状態	ネットワーク接続状態が**利用可能**か**利用不可**かに応じて、TrueまたはFalse。

条件タイプ	説明
OSプラットフォームの種類	OSプラットフォームの種類が**x86**か**x64**かに応じて、真または偽。
公開リソース名	名前が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。公開リソース名をセミコロン (;) で区切って入力します。
レジストリ値	レジストリ値が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。**レジストリパスと名前**フィールドに、レジストリ値名を含む完全なパスを入力します。**レジストリ値**フィールドに、セミコロン (;) で区切ってレジストリ値を入力します。注: レジストリエントリの値に関係なく条件を真にしたい場合は、疑問符 (?) を入力します。
トランスフォーマーモードの状態	状態が**無効**か**有効**かに応じて、真または偽。
地域形式	形式が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。必要に応じて、**リストにない値を追加**オプションを使用して、ISO言語コードをセミコロン (;) で区切って入力します。
ユーザーSBCリソースタイプ	タイプが**デスクトップ**か**公開アプリケーション**かに応じて、真または偽。
ユーザーUI言語	言語が指定された値と一致するかどうかに応じて、真または偽。
WMIクエリ	指定されたクエリに結果があるかどうかに応じて、真または偽。Windows Management Instrumentation (WMI) クエリ操作は、エージェントマシンでクエリを実行できます。この条件は、クエリから返された結果に基づいて定義できます。詳細については、Microsoftドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`。

「クライアント」および「コンピューター」関連の条件を使用する場合、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」および「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

詳細情報

マシン設定に適用されない条件

設定には次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンしているかに関係なく、マシンにのみ適用されます。例: グループポリシー設定とスクリプト化されたタスク。
- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンしているかに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。例: ユーザーの言語設定。

次の条件はマシン設定には適用されません。フィルターにこれらのいずれかが含まれている場合、エージェントはフィルターを評価する際にそれらをスキップします。

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーのUI言語の一致	いいえ
ユーザーのSBCリソースタイプ	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
Active Directoryパスの一致	いいえ
Active Directory属性の一致	いいえ
クライアント名不一致	いいえ
クライアントIPアドレス不一致	いいえ
レジストリ値不一致	いいえ
ユーザーの国不一致	いいえ
ユーザーのUI言語不一致	いいえ
Active Directoryパス不一致	いいえ
Active Directory属性不一致	いいえ
クライアントのリモートOSの一致	いいえ
クライアントのリモートOS不一致	いいえ
Active Directoryグループの一致	いいえ
Active Directoryグループの一致なし	いいえ
公開済みリソース名	いいえ

トリガー

トリガーを作成し、タスクを関連付けます。アクティブ化されると、トリガーはユーザー環境で関連付けられたタスクを開始します。トリガーに関連付けられているタスクを表示するには、トリガーをクリックして行を展開します。

次の操作を実行できます。

- トリガーを作成する
- ビューを更新する
- トリガーを編集する
- トリガーを複製する

- 関連付けを管理する
- トリガーを削除する

> **ヒント:**

> **状態**列のトグルを使用すると、トリガーをすばやく有効または無効にできます。

> 組み込みトリガーは次のとおりです。

- セッショントリガー:
  - **エージェントの更新**。ユーザーがエージェントを更新したときにアクティブ化されます。
  - **再接続**。ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにアクティブ化されます。
  - **ログオン**。ユーザーがマシンにログオンしたときにアクティブ化されます。
  - **ログオフ**。ユーザーがマシンからログオフしたときにアクティブ化されます。
  - **切断**。ユーザーがマシンから切断したときにアクティブ化されます。
  - **ロック**。ユーザーがマシンをロックしたときにアクティブ化されます。
  - **ロック解除**。ユーザーがマシンをロック解除したときにアクティブ化されます。

  > **注:**

  > セッショントリガーを使用すると、セッションアクティビティをトリガーとして構成でき、現在、外部タスクでのみ使用できます。

- マシントリガー:
  - **マシンのシャットダウン**。マシンがシャットダウンしたときにアクティブ化されます。
  - **マシンの起動**。マシンが起動したときにアクティブ化されます。

> **注:**

> - 組み込みトリガーは削除および編集できません。

- 起動トリガーとシャットダウントリガーの使用例については、「スクリプトタスクの起動トリガーとシャットダウントリガーを構成する」を参照してください。

トリガーを作成する

トリガーを作成するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、**トリガーの作成**をクリックします。
2. トリガーの名前を指定します。
3. 必要に応じて、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
4. トリガーを有効にする（**はい**）か無効にする（**いいえ**）かを選択します。

注:

無効になっている場合、エージェントはトリガーを評価および処理しません。

5. リストからトリガーの種類を選択し、必要な情報を入力します。

- **スケジュール済み**
- **プロセス開始**
- **プロセス終了**
- **Windowsイベント**
- **クラウドヘルスチェック結果**
- **プロファイル管理ヘルスチェック結果**
- **カスタムスクリプトタスク結果**

ヒント:

- 選択したトリガーの種類によって情報が異なります。詳細については、「利用可能なトリガーの種類」を参照してください。
- Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する方法の例については、「Windowsイベントをトリガーとして使用してVDA登録の問題を検出する」を参照してください。

6. **概要**で、意図したとおりにトリガーが作成されていることを確認します。
7. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

利用可能なトリガーの種類

選択可能なトリガータイプは次のとおりです。

- **スケジュール済み**。トリガーをアクティブにするタイミングをスケジュールします。次のオプションが利用可能です。
  - **日付と時刻**。トリガーがアクティブになるタイミングを指定します。
  - **繰り返し**。「**はい**」を選択して、トリガーがアクティブになる頻度を指定します。たとえば、1時間ごと、2時間ごと、毎日、2日ごとなどです。「**週**」または「**月**」を選択した場合は、1つ以上の特定の日を指定できます。トリガーを1回だけアクティブにする場合は、「**いいえ**」を選択します。
- ユーザープロセストリガー
  - **プロセス開始済み**。指定されたプロセスが開始したときにトリガーをアクティブにします。
  - **プロセス終了済み**。指定されたプロセスが終了したときにトリガーをアクティブにします。

> **注:**
>
> ユーザープロセストリガーを使用すると、ユーザープロセスをトリガーとして構成でき、現在、外部タスクでのみ利用可能です。

- **Windowsイベント**。トリガーをアクティブにするためにWindowsイベントが満たす必要のある基準を定義できます。次のオプションが利用可能です。
  - **基準の追加**。トリガーをアクティブにするためにWindowsイベントが満たす必要のある基準を定義します。
  - **間隔**。トリガーの間隔を分単位で指定します。アクティブ化された後、指定された間隔が経過するまで、トリガーは再度アクティブ化されません。

> **注:**

> アプリケーション、システム、セキュリティなどのWindowsクラシックイベントログのみがサポートされています。

- **Cloud Health Checkの結果**。Cloud Health Checkが指定されたヘルスステータスを返したときにトリガーをアクティブにします。次のオプションが利用可能です。
  - **VDAヘルスステータス**。VDAヘルスステータスを使用してトリガーをアクティブにします。VDAは、ホーム > 概要に示されているように、正常または異常な状態になることがあります。
  - **タスクデータ**。関連付けられたタスクに渡すデータを選択し、そのデータを受け取るタスク内のパラメーターを指定します。ここで指定するパラメーターが、関連付けられたタスク用に構成されているパラメーターと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメーター名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
    - **VDAヘルスステータス (文字列)**。Cloud Health Checkが返すヘルスステータス。関連タスクでパラメータを使用してステータスを受け取ります。
    - **ヘルスレポート (文字列)**。Cloud Health Checkが生成するVDAヘルスチェックレポート。関連タスクでパラメータを使用してレポートの完全なパスを受け取ります。詳細については、「ヘルスチェック結果」を参照してください。
- **Profile Managementヘルスチェック結果**。Profile Managementヘルスチェックが指定されたヘルスステータスを返すと、トリガーがアクティブになります。次のオプションが利用可能です。
  - **Profile Managementヘルスステータス**。次のProfile Managementヘルスステータスを使用して、関連タスクをトリガーします: 警告 (Profile Managementの最適ではない状態) およびエラー (Profile Managementが正しく構成されていない)。
  - **タスクデータ**。関連タスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでパラメータを指定してデータを受け取ります。ここで指定するパラメータが関連タスク用に構成されたものと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。
    - **Profile Managementヘルスステータス (文字列)**。Profile Managementヘルスチェックが返すヘルスステータス。関連タスクでパラメータを使用してステータスを受け取ります。詳細については、「管理」を参照してください。

    - **ヘルスレポート (文字列)**。Profile Managementヘルスチェックが生成するヘルスチェックレポート。関連タスクでパラメータを使用してレポートの完全なパスを受け取ります。詳細については、「レポート」を参照してください。

- **カスタムスクリプトタスク結果**。スクリプトタスクが指定された結果を返すと、トリガーがアクティブになります。まずカスタムスクリプトタスクを指定し、次にトリガーをアクティブにするためにタスクが満たす必要がある基準を定義します。次のオプションが利用可能です。

    - **基準の追加**。1つ以上のスクリプトタスクを選択し、それらのタスクがトリガーをアクティブにするために満たす必要がある基準を定義します。
    - **タスクデータ**。関連タスクに渡すデータを選択し、それらのタスクでパラメータを指定してデータを受け取ります。ここで指定するパラメータが関連タスク用に構成されたものと同じである場合、前者が優先されます。デフォルトのパラメータ名を使用することをお勧めします。必要に応じてスクリプトファイルを更新してください。次のデータを指定できます。

        - **タスク名 (文字列)**。関連タスクをトリガーするスクリプトタスクの名前。関連タスクでパラメータを使用して名前を受け取ります。
        - **終了コード (整数)**。スクリプトタスクが返す終了コード値。関連タスクでパラメータを使用して値を受け取ります。
        - **コンソール出力 (文字列)**。スクリプトタスクが書き込むコンソール出力。関連タスクでパラメータを使用して出力の完全なパスを受け取ります。
        - **ファイル出力 (文字列)**。スクリプトタスクが生成するファイル出力。関連タスクでパラメータを使用して出力の完全なパスを受け取ります。

トリガーの編集

トリガーを編集するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**編集**をクリックします。
3. 必要に応じて変更を加えます。
4. **概要**で、意図したとおりに変更が加えられていることを確認します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

トリガーをクローンする

トリガーをクローンするには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで**クローン**をクリックします。
3. クローンの名前を指定します。
4. 必要に応じて、トリガーを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
5. トリガーをクローンする構成セットを選択します。
6. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理する

トリガーの関連付けを管理するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで、**関連付けの管理**をクリックします。
3. スクリプト化されたタスクを選択してトリガーに関連付けるか、スクリプト化されたタスクの選択を解除して関連付けを解除します。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索します。
4. このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして保存し、終了します。

関連付けを管理する際は、次の点に注意してください。

- 無限ループを防ぐため、WEMは単一のループチェーンで最大10回のトリガーをサポートします。以下に例を示します。タスクAがタスクBをトリガーし、タスクBがタスクCをトリガーし、...、タスクKがタスクLをトリガーします。タスクKはタスクLをトリガーできません。この単一のループチェーンでのトリガー回数が10を超えたため、ループは終了します。



トリガーを削除する

トリガーを削除するには、次の手順を実行します。

1. **トリガー**で、トリガーを選択します。
2. アクションバーで、**削除**をクリックします。

> **注:**

> スクリプト化されたタスクが関連付けられているトリガーを削除すると、そのトリガーはそれらのタスクをトリガーしなくなります。

トリガーのサポート性マトリックス

次の表は、どのタスクでどのトリガーがサポートされているかを示しています。

	スクリプトタスク	外部タスク
エージェントの更新		X
再接続		X
ログオン		X
ログオフ		X
切断		X
ロック		X
ロック解除		X
マシンの起動	X	
マシンのシャットダウン	X	
スケジュール済み	X	X
プロセス開始		X
プロセス終了		X
Windowsイベント	X	X
クラウドヘルスチェックの結果	X	
プロファイル管理ヘルスチェックの結果	X	
カスタムスクリプトタスク	X	

スクリプトタスク設定

「**スクリプトタスク**」ページで利用可能なすべてのスクリプトタスクを一覧表示します。スクリプトタスクは構成セットレベルで実行されます。ここでは、現在の構成セットに対してどのスクリプトタスクを有効にするかを構成します。スクリプトタスクを編集するには、「スクリプトタスク」に移動します。

スクリプトタスクを構成する

1. 「**スクリプトタスク設定**」ページで、スクリプトタスクを見つけ、省略記号を選択し、「**構成**」を選択します。
2. 「**スクリプトタスクの構成**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。

全般で:

- **このタスクを有効にする**。現在の構成セットに対してタスクを有効にする（**はい**）か無効にする（**いいえ**）かを選択します。無効になっている場合、エージェントはタスクを処理しません。
- **署名を検証する**。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。
- **タスクのタイムアウト**。タスクのタイムアウト（分単位）を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了されます。サポートされる値: 1〜60。タスクにタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクの実行が妨げられる可能性があります。
- **フィルター**。フィルターを選択してタスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターが選択されている場合、このタスクはフィルター内のすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択する際は、次の点を考慮してください。
    - フィルターにスクリプトタスクに適用されない条件が含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルターを評価する際にそれらの条件をスキップします。スクリプトタスクに適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

トリガーで:

- タスクのトリガーを構成します。次のことができます。
    - タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、それらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
    - このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。

- 新しいトリガーを作成します。「トリガーの作成」を参照してください。

> **注:**
>
> 既存のトリガーを編集するには、「トリガー」に移動します。

パラメーターで:

- **スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡す**。スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプト化されたタスクにパラメーター変数として入力を提供できます。これにより、基になるコードを変更せずにスクリプト化されたタスクの動作を制御できるという利点があります。次のパラメータータイプが利用可能です:
  - **整数**。例: `123`。
  - **文字列**。例: `hello world`。
  - **ブール値**。True または False。
  - **文字**。例: `c`。
  - **スイッチ**。True または False。
  - **倍精度浮動小数点数**。例: `1.023`。
  - **日付と時刻**。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`。
  - **ファイルパス**。`System.IO.FileInfo` クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには次の文字を含めることはできません: `* ? < >`。

> **注:**
>
> - 最大20個のパラメーターを設定できます。
> - 名前フィールドは、「switch」タイプのパラメーターを除き、オプションです。
> - PowerShell は部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメーター名を使用する場合は、その名前が一意であることを確認してください。既存のパラメーター名と区別してください。例: PowerShell では、次のパラメーター名は同じです: `-t`、`-ti`、および `-title`。この場合、他のパラメーターと区別するために、パラメーター名の十分な文字を指定してください。

「**出力**」で:

- **出力ファイル。** タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。その後、ユーザー環境で出力ファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **出力のハイライト。** 出力ファイルの内容とコンソール出力で特定のコンテンツをハイライト表示するかどうかを選択します。
  - **キーワードのハイライト。** レポートでハイライト表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをコンマで区切って入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して続行します。指定した場合、生成されたレポートの「**出力ファイルの内容**」および「**コンソール出力**」セクションで、キーワードに一致するレポートの内容がハイライト表示されます。
  - **正規表現の一致をハイライト。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換である.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>`。
    - **正規表現。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。
    - **大文字と小文字を区別しない。** コンテンツが大文字と小文字を正確に一致させる必要があるかどうかを選択します。
    - **複数行マッチングを使用。** 複数行マッチングを使用するかどうかを選択します。この場合、\^と\$は出力コンテンツ全体の先頭と末尾ではなく、各行の先頭と末尾に一致します。
    - **名前付きグループのみをキャプチャ。** 名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループは、`(?<name> subexpression)`構文によって名前または番号が明示的に割り当てられます。
    - **コンテキストの手がかりとして含める行数。** ハイライトにコンテキストの手がかりとして含める、一致の前後の行数を指定します。サポートされる値: 1〜10。
    - **レポートに正規表現の一致のみを含める。** レポートにすべての出力コンテンツを含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloudに送信されるデータ量が削減されます。このオプションを有効にすると、「キーワードのハイライト」機能は、指定されたキーワードに関係なく、表示するコンテンツがなくなります。

- **詳細オプション。**
  - **実行時エラーが発生した場合でも出力を収集。** タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプトタスクのレポートを表示

「**スクリプトタスク設定**」ページで、スクリプトタスクを見つけ、省略記号を選択し、「**レポートの表示**」を選択します。その結果、「**監視 > レポート**」ページに移動し、タスクに関連するレポート（存在する場合）が表示されます。詳細情報を表示するには、省略記号をクリックします。詳細については、「レポート」を参照してください。

高度な設定

これらの設定を使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを制御します。

エージェント設定

このページでは、WEM エージェントの動作を構成できます。

エージェントオプション

エージェントの設定を構成します。

エージェントの起動動作:

- **ログオン時にエージェントを起動する。**ログオン時にエージェントを実行するかどうかを制御します。
- **再接続時にエージェントを起動する。**ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントを実行するかどうかを制御します。
- **管理者向けにエージェントを起動する。**ユーザーが管理者の場合にエージェントを実行するかどうかを制御します。
- **デスクトップ互換モードを有効にする。**エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起動するために必要です。
- **公開アプリケーションで CMD エージェントのみを実行する。**有効にすると、公開アプリケーションでは、エージェントは UI モードではなく CMD モードで起動します。CMD モードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。CMD モードと UI モードの詳細については、「CMD および UI モードのエージェント」を参照してください。

エージェント起動の除外:

- **指定されたグループのエージェントを起動しない**。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対して Citrix WEM Agent Host は起動されません。
- **指定されたグループに対してのみエージェントを起動する**。有効にすると、Citrix WEM Agent Host は、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対してのみ起動されます。

エージェントログ:

- **エージェントログを有効にする**。有効にすると、エージェントはエージェントログファイルを出力します。
- **デバッグモード**。エージェントの詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

更新:

- **環境設定を更新する**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定については、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/policies-and-profiles/environmental-settings.html)を参照してください。
- **システム設定を更新する**。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsシステム設定（Windowsエクスプローラーやコントロールパネルなど）の更新がトリガーされます。
- **環境設定の変更時に更新する**。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。
- **デスクトップを更新する**。有効にすると、エージェントの更新時にデスクトップ設定の更新がトリガーされます。デスクトップ設定については、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/policies-and-profiles/environmental-settings.html#desktop)を参照してください。
- **外観を更新する**。有効にすると、エージェントの更新時にWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新がトリガーされます。

自動更新（UIエージェントのみ）:

- **自動更新を有効にする**。有効にすると、Citrix WEM Agent Hostは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

オフラインモード:

- **オフラインモードを有効にする**。無効にすると、エージェントはWEMサービスへの接続に失敗した場合にキャッシュにフォールバックしません。

- **オンライン時でもキャッシュを使用する**。有効にすると、エージェントは常にキャッシュ（エージェントサービスがサイクルするたびに構築される）から設定とアクションを読み取ります。
- **キャッシュを使用してアクション処理を高速化する**。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連する設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要：**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは定期的にWEMサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が有効になるまでには、**Agent cache refresh delay** オプション（**Advanced Settings > Agent Settings > Agent service options** タイル内）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Monitoring > Administration > Agents > Statistics** に移動し、ターゲットエージェントを選択してから、**More** で **Agent > Refresh cache** を選択します。
> - この設定を無効にしないことをお勧めします。無効にすると、ネットワーク接続が悪いシナリオでユーザーエクスペリエンスが低下する可能性があります。無効にした場合、WEMサービスへのトラフィック量が多いシナリオでは、管理コンソールを通じて構成したアクションがエージェントホストに適用されない可能性があります。

エージェントサービスオプション

エージェントホストサービスの設定を構成します。

エージェントキャッシュ更新遅延 (分)。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。このオプションを使用する際は、以下の点に留意してください。

- キャッシュがWEMサービスデータベースと同期する最小間隔は15分です。15分以上の整数を入力してください。
- 実際の同期間隔は異なる場合があります。指定された値に基づいて、WEMエージェントは、エージェントキャッシュ更新遅延がタイムアウトするたびに、ランダムな値が実際の同期間隔

として選択される間隔を計算します。たとえば、値を30分に設定した場合、エージェントはこの間隔からランダムな値を選択します: 。

SQL設定更新遅延 (分)。この設定は、Citrix WEM Agent Host ServiceがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。15分以上の整数を入力してください。

エージェント追加起動遅延 (ミリ秒)。この設定は、Citrix WEM Agent Host Serviceがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。デフォルトは0です。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix DaaS (旧Citrix Virtual Apps and Desktopsサービス) およびCitrix Virtual Apps and Desktops公開アプリケーションが開始される前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmd extra sync delay設定を構成します。詳細については、エージェントのインストールと構成を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。構成セットに接続するすべてのエージェントに対して詳細ログを有効にするかどうかを制御します。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEM Agent Host Serviceは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、Citrix WEM Agent Host Serviceはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェントのアップグレード

この構成セットにバインドされているすべてのエージェントの自動アップグレードをスケジュールします。

エージェントのアップグレードは、新しい**App Package Delivery**機能内で行われるようになりました。エージェントのアップグレードを構成およびスケジュールするには、**App Package Delivery > Delivery tasks**に移動し、**WEM agent upgrade**デリバリータスクを作成します。以前に構成された設定は、自動的にデリバリータスクに変換されます。

その他

通知、初期環境クリーンアップ、Wake on LANなどの設定を構成します。

通知:

- **接続状態変更の通知を有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrixでは、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことをお勧めします。そうしないと、接続状態変更の通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

追加機能:

- **初期環境クリーンアップ**。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
  - ユーザーネットワークプリンター。
    - **Cleanup Actions**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
    - **Cleanup Actions**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
  - ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
  - すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
  - すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。
- **初期デスクトップUIクリーンアップ**。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。
  - すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
  - タスクバーとスタートメニューにピン留めされたすべてのショートカット。
- **ユーザーグループのクロスドメイン検索を有効にする**。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。クロスドメイン検索は時間のかかる場合があります。必要な場合にのみこのオプションを選択してください。
- **エージェントがキャッシュされたドメイン検索結果を使用できるようにする**。有効にすると、エージェントはドメインクエリ結果のキャッシュを使用して、パフォーマンスと回復性を向上させます。ドメインクエリ結果は最大7日間キャッシュされます。
- **アプリケーションの存在を確認する**。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

- **アプリケーションの環境変数を展開する**。アプリケーションのターゲットパスと作業フォルダー内の環境変数を処理する前に展開するかどうかを制御します。
- **WEMサービスタイムアウト (ms)**。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが独自のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。
- **エージェントの並列処理の最大度**。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサが物理的に許容する最大数のスレッド）です。1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。
- **ディレクトリサービスタイムアウト (ms)**。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。
- **ネットワークリソースタイムアウト (ms)**。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）を解決するためのタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはそのアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

ウェイク・オン・LAN:

このタブを使用して、エージェントホストをリモートで起動します。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANと互換性のあるハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。

エージェントのWake on LANを有効にする。エージェントホストのWake on LANを有効にするために、Windowsオペレーティングシステムの設定を構成するかどうかを制御します。選択すると、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの**Energy Efficient Ethernet**を無効にする
- ネットワークアダプターの**Wake on Magic Packet**を有効にする
- ネットワークアダプターの**このデバイスでコンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする**を有効にする
- ネットワークアダプターの**マジックパケットによるコンピューターのスリープ解除のみを許可する**を有効にする
- **高速スタートアップを有効にする**を無効にする

このオプションを有効にした後、**監視 > 管理 > エージェント > 統計**に移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択し、次に、**その他**で**電源管理 > ウェイク**を選択して、選択したエージェントをウェイクアップします。

アクション設定

このページでは、アクションの処理とクリーンアップに関する設定を構成できます。

アクション処理

エージェントがアクションを処理する方法とタイミング、および割り当てられていないアクションがデスクトップから削除されるかどうかを制御します。

ログオン時および更新時のアクション処理。以下の設定は、ユーザーがログオンしたとき、およびエージェントが更新されたときに、エージェントが処理するアクションを制御します。

- **ログオン時および更新時にアプリケーションを処理する**
- **ログオン時および更新時にプリンターを処理する**
- **ログオン時および更新時に仮想ドライブを処理する**
- **ログオン時および更新時にレジストリを処理する**
- **ログオン時および更新時に環境変数を処理する**
- **ログオン時および更新時にポートを処理する**
- **ログオン時および更新時にINIファイルを処理する**
- **ログオン時および更新時に外部タスクを処理する**
- **ログオン時および更新時にファイルシステム操作を処理する**
- **ログオン時および更新時にユーザーDSNを処理する**
- **ログオン時および更新時にFTAを処理する**

その他の設定:

- **ログオン時のポリシーおよびJSONファイル処理を待機する**。すべての設定（GPOおよびJSONオブジェクト）が処理されるまでユーザーがログオンを完了するようにする場合は、このオプションを使用します。

再接続時のアクション処理。以下の設定は、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにエージェントが処理するアクションを制御します。

- **再接続時にアプリケーションを処理する**
- **再接続時にプリンターを処理する**

- 再接続時にネットワークドライブを処理する
- 再接続時に仮想ドライブを処理する
- 再接続時にレジストリを処理する
- 再接続時に環境変数を処理する
- 再接続時にポートを処理する
- 再接続時にINIファイルを処理する
- 再接続時に外部タスクを処理する
- 再接続時にファイルシステム操作を処理する
- 再接続時にユーザーDSNを処理する
- 再接続時にFTAを処理する

割り当て解除時にアクションを削除する。これらの設定が有効になっている場合、エージェントは次回の更新時に割り当て解除されたアクションをすべて削除します。

- 割り当て解除時にデスクトップからアプリケーションを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからプリンターを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからネットワークドライブを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップから仮想ドライブを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからレジストリを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップから環境変数を削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからポートを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからファイルシステム操作を削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからユーザーDSNを削除する
- 割り当て解除時にデスクトップからFTAを削除する

アクション処理を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更が加えられていなくても、エージェントは常にそれらのアクションを更新します。

- アプリケーションの処理を強制する
- プリンターの処理を強制する
- ネットワークドライブの処理を強制する
- 仮想ドライブの処理を強制する
- 環境変数の処理を強制する

- **ポートの処理を強制する**

フィルター処理を強制する。有効にすると、これらのオプションは、エージェントが更新のたびにフィルターを再処理するように強制します。

- **アプリケーションのフィルター処理を強制する**
- **プリンターのフィルター処理を強制する**
- **ネットワークドライブのフィルター処理を強制する**
- **仮想ドライブのフィルター処理を強制する**
- **レジストリのフィルター処理を強制する**
- **環境変数のフィルター処理を強制する**
- **ポートのフィルター処理を強制する**
- **ファイルシステム操作のフィルター処理を強制する**
- **ユーザーDSNのフィルター処理を強制する**
- **FTAのフィルター処理を強制する**

非同期処理:

- **プリンターを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。
- **ネットワークドライブを非同期で処理する**。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

アクションのクリーンアップ

このタイルに表示されるオプションは、エージェントが起動時にショートカットやその他の項目（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てるときに、ショートカットや項目の作成も制御できる場合があります。たとえば、アプリケーションの割り当てを管理するときに、アプリケーションショートカットを作成する場所を指定できます。Workspace Environment Managementは、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **割り当ての管理**で割り当てられたアクションに対して構成されたオプション。
2. **アクションのクリーンアップ**タイルに表示されるオプション。

たとえば、**割り当ての管理**で割り当てられたアプリケーションに対して**デスクトップショートカットの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**アクションのクリーンアップ**タイルで**起動時にデスクトップ**

ショートカットを削除オプションを有効にしていても、エージェントの起動時にショートカットはデスクトップに残ります。

アプリケーションショートカット。次の設定は、起動時に削除するショートカットを制御します。

- 起動時にデスクトップショートカットを削除する。
- 起動時にタスクバーにピン留めされたショートカットを削除する。
- 起動時にクイック起動ショートカットを削除する。
- 起動時にスタートメニューのショートカットを削除します。
- 起動時にスタートメニューにピン留めされたショートカットを削除します。

ネットワークプリンター:

- **起動時にネットワークプリンターを削除する**。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークプリンターを削除します。

ネットワークドライブ:

- 起動時にネットワークドライブを削除する。有効にすると、エージェントは起動時にすべてのネットワークドライブを削除します。

UIエージェントのパーソナライズ

このページでは、ユーザー環境でのエージェント（UIモード）の外観をパーソナライズし、ユーザーがエージェントとどのように対話するかをカスタマイズできます。

外観と操作

UIエージェントの外観と操作をカスタマイズします。

スプラッシュ画面とテーマ:

- **カスタムロゴ**。デフォルトでは、エージェントの起動時または更新時に、ユーザーにはCitrix Workspace™ Environment Managementのロゴが表示されたスプラッシュ画面が表示されます。ロゴを置き換えるために、ユーザー環境からアクセス可能な画像を指定できます。
- **読み込み円の色**。カスタムロゴに合わせて読み込み円の色を変更します。
- **テキストラベルの色**。カスタムロゴに合わせて読み込みテキストの色を変更します。
- **UIエージェントのテーマ**。UIエージェントから開くダイアログの外観テーマを選択します。

- **エージェントのスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、エージェントの読み込み中または更新中にスプラッシュ画面が非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。
- **再接続時にエージェントのスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、ユーザーがエージェントマシンに再接続したときにスプラッシュ画面が非表示になります。
- **公開アプリケーションのエージェントスプラッシュ画面を非表示にする**。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのスプラッシュ画面が非表示になります。
- **公開アプリケーションのエージェントアイコンを非表示にする**。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

ユーザー操作:

- **管理者のみがエージェントを閉じることができる**。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、管理者以外のユーザーのエンドポイントでは、エージェントメニューの オプションが無効になります。
- **管理者がエージェントを閉じることを禁止する**。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。
- **管理リフレッシュフィードバックを無効にする**。選択すると、管理者が管理コンソールを使用してエージェントを更新しても、ユーザー環境に通知は表示されません。
- **ユーザーによるアクションのリセットを許可する**。エージェントメニューに オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。 オプションを使用すると、現在のユーザーは環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが を選択すると、 ダイアログが表示されます。このダイアログで、ユーザーはリセットする内容を詳細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、 をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが削除されます。

> **注:**
>
> エージェントメニューには、常に次の2つのオプションが表示されます: と 。 オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定はすぐに有効になります。 オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

- **ユーザーによるアプリケーションの管理を許可する**。有効にすると、エージェントメニューのオプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションを

クリックして ダイアログを開き、次のオプションを構成できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **ユーザーによるプリンターの管理を許可する**。有効にすると、エージェントメニューの オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして ダイアログを開き、デフォルトのプリンターを構成したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。
- **エージェントメニューに を表示する**。有効にすると、エージェントメニューに オプションが表示されます。表示されている場合、ユーザーは自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。

ヘルプデスクオプション

ヘルプとサポートのリンクを指定し、画面キャプチャオプションを構成します。

ヘルプとサポート

- **ヘルプリンク**。ユーザーがヘルプを要求できるWebリンクを入力します。指定されている場合、ユーザーはエージェントメニューにオプションを表示します。クリックするとWebサイトが開きます。
- **サポートリンク**。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるWebリンクを入力します。指定されている場合、ユーザーはエージェントメニューにオプションを表示します。クリックするとWebサイトが開きます。

画面キャプチャ

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに**キャプチャ**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを表示。画面キャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはこのオプションを使用して、スクリーンショットとログファイルを指定されたサポートメールアドレスに、指定された形式で直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

サポートメールアドレス。メールアドレスを入力します。

メールテンプレート。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定します。このフィールドは空にできません。

注:

メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、動的トークンを参照してください。ユーザーは、`##UserScreenCaptureComment## hash-tag`がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

カスタム件名。画面キャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定します。

SMTPを使用してメールを送信。有効にすると、MAPIではなくSMTPを使用してサポートメールを送信します。

省電力

エージェントマシンのシャットダウンまたはサスペンドのタイミングを指定します。

- **指定した時間にシャットダウンする**。有効にすると、エージェントは指定した時間に実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。
- **アイドル時にシャットダウンする**。有効にすると、エージェントは、指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）が続いた後、実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。
- **シャットダウンではなくサスペンドする**。有効にすると、エージェントは、指定した時間に、または指定された時間アイドル状態が続いた後、実行中のマシンをサスペンドします。

監視設定

このページには、次の設定が含まれています。

- **アクション処理結果**。アクション処理の結果を収集し、レポートを表示できます。結果を収集するアクションを選択します。

注:

- 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントから結果をすぐにアップロードするには、監視 > 管理 > エージェント の **エージェントから統計を取得** オプションを使用します。

- **グループポリシー設定**

- **JSONファイル**

このページには、次のインサイト関連の設定が含まれています。

- **最適化と使用状況のインサイト**。アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。エージェントがインサイト用のデータを収集およびアップロードするかどうかを制御するには、次のオプションを使用します。
  - **最適化と使用状況のインサイトのためのデータ収集とアップロードを有効にする**

  オプションを有効にした後、データの更新が完了するまでに数時間かかる場合があります。
- **プロファイルコンテナのインサイト**。Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナに関するインサイトを得ることができます。エージェントがプロファイルコンテナ上の大きなファイルをスキャンするかどうかを制御するには、次のオプションを使用します。
  - **大規模ファイルのスキャンを有効にする**

    有効にすると、コンテナの使用量が指定されたしきい値を超えた場合に、プロファイルコンテナ上の大規模ファイルをスキャンします。スキャンは24時間に1回に制限されます。ファイルのサイズに基づいて、どのファイルを大規模ファイルとして扱うかを指定できます。
- **Profile Management ヘルスチェック**。Profile Management ヘルスチェックレポートに含める設定の範囲を指定できます。ヘルスチェックは24時間ごと、またはオンデマンドで実行されます。レポートに含めるProfile Management 設定を選択します。

> **注:**
>
> - オンデマンドでヘルスチェックを実行するには、監視 > 管理 > エージェントの**Profile Management ヘルスチェックの実行**オプションを使用します。
> - 行った変更は新しいレポートにのみ反映され、既存のレポートには影響しません。各エージェントについて、最新のレポートのみが保持されます。

- **VHD管理**。VHD管理に関連する操作の結果を収集し、レポートを生成できます。
  - **VHDディスクの圧縮**。結果の収集を有効にするには、**VHDディスクの圧縮**チェックボックスをオンにします。
- **セキュリティログ**。セキュリティルールの実行に関するログを収集し、レポートを生成できます。レポートに含めるセキュリティの側面を選択します。

  - **特権昇格**セキュリティ側面は、**EXE特権昇格**、**MSI特権昇格**、**自己昇格**のイベントのログ収集を制御します。
  - **プロセス階層制御**セキュリティ側面を選択すると、**ブロックされたアクティビティ**オプションがデフォルトで選択されますが、**許可されたアクティビティ**オプションは編集できます。
  - **アプリケーションセキュリティログ**セキュリティ側面を選択すると、**ブロックされたアクティビティ**オプションがデフォルトでチェックされますが、**監査されたアクティビティ**および**許可されたアクティビティ**オプションは編集できます。

  詳細については、レポートを参照してください。

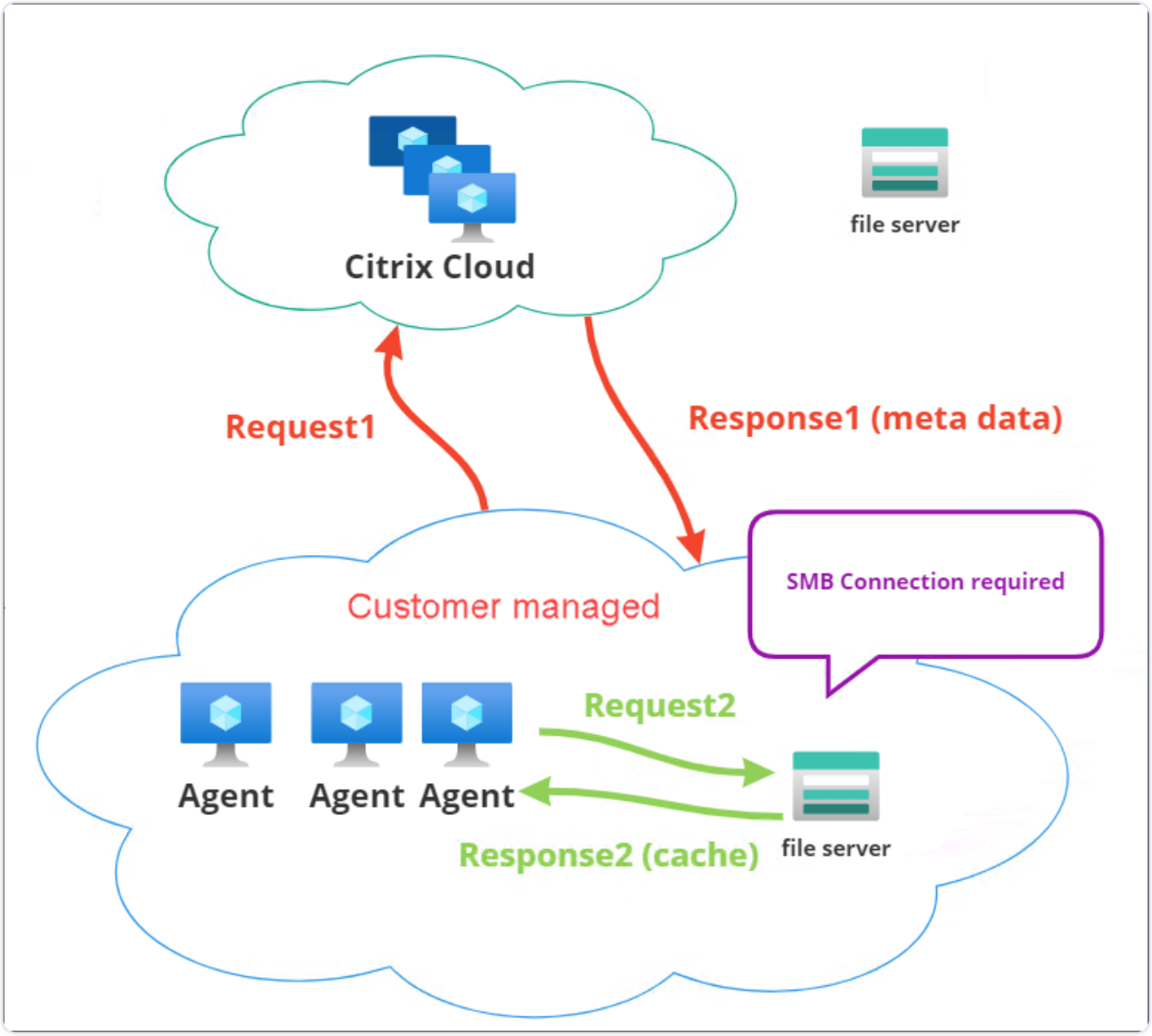
- **アプリケーション配信結果**。アプリケーション配信の結果を収集し、レポートを生成できます。**アプリケーション配信タスクの結果**チェックボックスをオンにすると、エージェントはレポートを収集し、WEMサーバーにアップロードします。詳細については、レポートを参照してください。

> **注:**
>
> - 結果は4時間ごとにアップロードされます。エージェントから結果をすぐにアップロードするには、監視 > 管理 > エージェントの**エージェントから統計情報を取得**オプションを使用します。

ファイル共有

このページでは、WEM が接続できる SMB 共有を追加できます。その後、必要な機能が共有を使用できるように、目的の機能の共有を構成できます。SMB 共有を使用すると、ネットワーク上のトラフィックが減少し、エージェントマシンへのファイルのダウンロード時間が短縮されます。

次の図は、ファイル共有の仕組みの概要を示しています。



ファイルのダウンロードは、特定のエージェントマシンから開始されます。この最初のダウンロードは Citrix Cloud を介して行われます。ダウンロードが完了すると、エージェントは他のエージェントが使用できるようにファイルをファイル共有にアップロードします。そのため、その後のダウンロードは Citrix Cloud を介するのではなく、ファイル共有を介して直接行われます。

ファイル共有が構成されている場合、ファイルのダウンロードが必要になると、エージェントはまずファイルがファイル共有で利用可能かどうかを確認します。利用可能な場合、ダウンロードはファイル共有を介して行われます。利用できない場合、エージェントは最初のダウンロードのために Citrix Cloud に接続し、ダウンロードしたファイルをファイル共有にアップロードします。

SMB 共有を追加

その共有にアクセスする権限を持つ管理者の SMB 共有と資格情報を入力します。次の手順を実行します。

1. 「**ファイル共有**」ページで、「**SMB 共有の追加**」をクリックします。
2. SMB 共有の追加ウィザードで、次の情報を入力します。

- **SMB 共有**。`\\ServerName\ShareName` の形式でパスを入力します。ここで、`ServerName` は SMB 共有をホストするサーバーの FQDN または IP アドレスであり、`ShareName` は SMB 共有の名前です。
- **ユーザー名**。`domain\username` の形式で名前を入力します。
- **パスワード**。SMB 共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。

3. 「**完了**」をクリックして保存し、終了します。

機能で使用する SMB 共有を選択

リストから SMB 共有を選択します。設定はデフォルトで**なし**です。機能の共有を選択する際は、次の点を考慮してください。

- 資格情報には、共有に対する完全な読み取り/書き込み権限が必要です。
- 共有に接続するには、エージェントはローカルシステムアカウントで実行する必要があります。
- 構成されている場合、機能は必要に応じて共有を使用します。共有への接続は非永続的であり、必要な場合にのみ確立されます。
- 共有にアクセスできない場合、エージェントはCitrix Cloudを介してファイルをダウンロードするようにフォールバックします。

App package delivery 機能のSMB共有を変更または削除することもできます。

関連サービスが使用するSMB共有を選択する

リストから1つ以上のSMB共有を選択します。選択すると、展開内のローカルシステムアカウントで実行されているサービス（Citrix Profile Managementサービスなど）は、必要に応じて共有を使用できます。共有への接続は永続的です。この機能により、これらのサービスは接続を介して共有にアクセスできます。

SMB構成の例

SMB共有の構成方法の例については、以下を参照してください。

- Citrix Profile Managementサービスが使用するSMB共有を構成するを参照してください。

システム最適化

Workspace Environment Management™ (WEM) のシステム最適化は、次の設定で構成されます。

- CPU管理
- メモリ管理

- I/O管理
- 高速ログオフ
- Citrix オプティマイザー
- マルチセッション最適化

これらの設定は、エージェントマシンでのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用できるようになります。そうすることで、サーバーあたりのユーザー数を増やすことでユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、ユーザーAのセッションでプロセスがCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAに対してのみ記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。WEMのCPU管理機能を使用すると、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減することを目的としていません。これは、過剰なCPU使用率を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減することを目的としています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、プロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度の低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

CPUスパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えない限りトリガーされません。言い換えれば、CPUの総消費量が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。ただし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

たとえば、Internet ExplorerがCPUの50～60%を消費することがある場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみを対象にすることができます。（対照的に、CPUクランピングはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、ご使用の環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試してみることをお勧めします。

CPUスパイク保護

> **注:**
>
> - 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサとして扱われます。たとえば、6コアCPUを1つ搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（ハイパースレッディングテクノロジーによりコアが2倍になるため）。12コアCPUを8個搭載した物理マシンは、96個の論理プロセッサを持ちます。4コアCPUを2個搭載したVMは、8個の論理プロセッサを持ちます。
> - 仮想マシンにも同じことが当てはまります。たとえば、12コアCPUを8個搭載した物理マシン（論理プロセッサ96個）があり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは4コアCPUを2個搭載（論理プロセッサ8個）するように構成されています。VMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しません。

> 有効にすると、プロセスが一定期間（**サンプル時間制限**フィールドで指定）指定されたCPU使用率を超過した場合、一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）プロセスのCPU優先度を下げます。

CPUスパイクを自動的に防止する。このオプションは、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4コアの場合、このオプションを有効にすると、全体のCPU使用率が23%を超えた場合、全体のCPUリソースの15%

以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に下がります。同様に、8コアの場合、全体のCPU使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に下がります。

CPUスパイク保護をカスタマイズする。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。

- **CPU使用率制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごとのプロセスに基づいて決定されます。CPUスパイク保護のトリガーを決定する際、同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率は加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、多数のiexplore.exeインスタンスがあるとします。各インスタンスは一時的にCPU使用率が約35%に達するため、累積的にはiexplore.exeが常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
- **サンプル時間制限**。プロセスのCPU優先度が下がる前に、CPU使用率制限を超過し続ける必要がある時間。
- **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が下げられる時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。
  - CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**標準**）に戻ります。
  - CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベルに戻ります。
  - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、CPU優先度タイルでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- サービスホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーアールエスエス
- オーディオDG
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスシーオーアールエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントなI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

プロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストにプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、アンチウイルスプロセスは除外されます。

> **ヒント:**

- セッションでアンチウイルススキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐために、アンチウイルスプロセスに対して静的なI/O優先度を低に設定することもできます。I/O管理を参照してください。
- プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が下げられると、WEMはプロセスのCPU優先度を下げるたびに警告をログに記録します。イベントログのアプリケーションとサービスログ、Norskale Agent Serviceで、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

子プロセスがCPU優先度を継承するのを防ぐ。子プロセスにCPU優先度を継承させたくないプロセスを指定します。

CPUスパイク保護オプション

CPUスパイク保護をどのように適用するかを選択します。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。システムCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が90%を超え、プロセスCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が80%を超えた場合に、エージェントがCPUスパイク保護を実行するようにするには、このオプションを使用します。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率のパーセンテージ。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごとのプロセスに基づいて決定されます。単一のCPUコアを基準として制限を構成するには、「**単一CPUコアに対する相対的な制限を設定する**」オプションを使用します。

注:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。例えば37.5%のような非整数値を入力することで、8コアプラットフォームで3コア以上を使用するプロセスを制限できます。
- **単一CPUコアに対する相対的な制限を設定する**。単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。値は100%を超えることも可能で、例えば200%や250%などです。例：値が200%に設定されている場合、エージェントは2つ以上のCPUコアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。 **注:**

- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**が構成されている場合、グローバルCPU使用率の制限または単一CPUコアに対する相対的なCPU使用率の制限のいずれかが最初に到達したときに、CPUスパイク保護がトリガーされます。

CPUスパイク保護をトリガーするプロセスに対して、エージェントは次のことができます。

- 「**CPUコア使用制限を有効にする**」オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げます。
- 「**CPUコア使用制限を有効にする**」オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPUスパイク保護を設定する際は、以下の点に留意してください。

- CPUスパイク保護のトリガーを決定する際、同じプロセスの複数のインスタンスのCPU使用率が合計されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッションVDAの場合、複数のchrome.exeプロセスが存在します。CPU使用率を計算する際、それらのCPU使用率は合計されません。

CPUスパイク保護のサンプリング時間

サンプル時間制限。 CPUスパイク保護が適用される前に、プロセスがCPU使用制限を超過し続ける必要がある時間の長さ。

CPUスパイク保護の優先度低下時間

アイドル優先度時間。 プロセスのCPU優先度が低下する時間の長さ。その時間が経過すると、優先度は以下のいずれかに戻ります。

プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）に戻ります。 プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されている場合、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベルに戻ります。 プロセスの動作に応じて計算されたランダムなレベルに戻ります。このケースは、プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

その他のオプション

CPUコア使用制限を有効にする。 このオプションを使用して、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限します。

CPU優先度

有効にすると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化し、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、全体的なCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセスのすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高い場合があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。複数のプロセスがコンピューターで実行されている場合、プロセッサ時間はそれらのCPU優先度レベルに基づいて共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注:**
>
> 特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、CPU全体の消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（CPU優先度が高いもの）がCPU使用率に影響を与え続けている可能性があります。

プロセスを追加するには、**Add process** をクリックします。次の情報を指定し、**Save process** をクリックします。

- **プロセス名**。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名。たとえば、Windows エクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。
- **優先度**。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、プロセッサ時間が多く割り当てられます。**Idel**、**Below normal**、**Normal**、**Above normal**、**High**、**Realtime** から選択します。

> **ヒント:**
>
> ここで設定したプロセスのCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Delete** を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Edit** を選択します。

CPUアフィニティ

有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されたメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

プロセスを追加するには、**Add process** をクリックします。次の情報を指定し、**Save process** をクリックします。

- **プロセス名**。プロセスの実行可能ファイル名（例：notepad.exe）。
- **アフィニティ**。正の整数を入力します。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Delete** を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**Edit** を選択します。

CPUクランプ

有効にすると、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぐことができます。CPUクランプは、プロセスがCPU処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てると同時に、CPUスパイク保護を使用する方が良いでしょう。CPUクランプは、リソース管理が非常に苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御する場合に最適です。
- プロセスのCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した場合は、変更を有効にするために**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスを追加するには、**プロセスの追加**をクリックします。次の情報を指定し、**プロセスの保存**をクリックします。

- **プロセス名**。プロセスの実行可能ファイル名（例: notepad.exe）。
- **割合**。正の整数を入力します。

> **ヒント:**
>
> - WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
> - CPUクランプが機能しているかどうかは、プロセスモニターでCPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することでも検証できます。

> プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**削除**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**編集**を選択します。

メモリ管理

これらの設定により、WEMを介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

これらの設定が有効になっている場合、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEMは、その差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEMはプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEMはユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションで複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する

有効にすると、指定された時間アイドル状態が続いたプロセスは、アイドル状態ではなくなるまで余分なメモリを解放するように強制されます。

アイドルサンプル時間。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余分なメモリを解放するように強制される時間の長さを指定できます。この間、WEMはプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は120分です。

アイドル状態の制限。プロセスがアイドル状態と見なされるCPU使用率の割合を指定できます。デフォルトは1%です。5%を超える値を使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

最適化を制限する。WEMがアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値の制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します（例：notepad.exe）。

WEMは、以下のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`

- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

特定のプロセスのメモリ使用量制限

有効にすると、プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告：**

> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答性が低下するなど、意図しない影響が生じる可能性があります。

> プロセスを追加するには、**プロセスを追加**をクリックします。以下の情報を指定し、**プロセスを保存**をクリックします。

- **プロセス名**。追加するプロセスの名前を入力します（例：notepad.exe）。
- **メモリ制限**。メモリ使用量制限を入力します。
- **制限タイプ**。リストから制限モードを選択します。
    - **動的制限 (Dynamic Limit)**。指定されたプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用されると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が強制されます。そのため、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量を超える可能性があります。
    - **静的制限 (Static Limit)**。指定されたプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定されたプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用されると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費するのを制限します。結果として、指定されたプロセスが消費するメモリは、指定された量で上限が設定されます。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**「削除」**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**「編集」**を選択します。

I/O管理

これらの設定により、特定のプロセスのI/O優先度を最適化し、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションのスロットルバックを行うことができます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセスのすべてのスレッドの「基本優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高くなる可能性があります（ただし、基本優先度より低くなることはありません）。一般に、Windowsは、優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

プロセスI/O優先度

有効にすると、特定のプロセスのI/O優先度を最適化できるため、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすことはありません。

プロセスを追加するには、**「プロセスの追加」をクリックします。次の情報を指定し、**「プロセスの保存」**をクリックします。

- **プロセス名**。拡張子なしでプロセスの実行可能ファイル名を入力します。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。
- **I/O優先度**。プロセスのすべてのスレッドの「基本」優先度を入力します。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。**「高」**、**「標準」**、**「低」**、**「非常に低い」**から選択します。

> **ヒント:**

> エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されると、ここで設定したプロセスI/O優先度が有効になります。

> プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**「削除」**を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、**「編集」**を選択します。

高速ログオフ

これらの設定により、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了できます。これにより、ユーザーはセッションがすぐに閉じられたように感じます。ただし、セッション自体はVDAのバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

> 有効にすると、この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフが有効になります。ユーザーはすぐにログアウトされますが、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. 「**指定されたグループを除外**」を選択し、次に「**グループの追加**」を選択します。「**除外するグループの追加**」ウィザードが表示されます。
2. 識別タイプを選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。
4. 検索ボックスに、追加するグループの名前を入力します。（検索では大文字と小文字は区別されません。）
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 完了したら、「**保存**」をクリックしてグループを追加し、「**除外するグループの追加**」ウィザードを終了します。

Citrix オプティマイザー

これらの設定により、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させることができます。Citrix Optimizerはユーザー環境を迅速にスキャンし、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。

ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management (WEM)に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、便利なフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして特定の要件を反映させ、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

有効にすると、次の設定を構成できます。

毎週実行。選択すると、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、テンプレートを有効または無効にすることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **カスタムテンプレートの追加**をクリックします。
2. **カスタムテンプレートの追加**ウィザードで、次の手順を完了します。
   a. **テンプレート名**で、**参照**をクリックし、追加するテンプレートを選択します。
   b. **適用可能なオペレーティングシステム**で、テンプレートが適用されるオペレーティングシステムをリストから1つ以上選択します。

      > **ヒント:**
      >
      > リストにはないがテンプレートが適用されるWindows 10オペレーティングシステムを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例: 2001;2004。

   c. 必要に応じてアクティブ化するグループを選択します。

d. 「**保存**」をクリックします。

重要：

Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。カスタムテンプレートを追加した後も、ローカルコピーを保持してください。

「**状態**」列のトグルを使用して、テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えることができます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEM はテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、「**削除**」を選択します。注：組み込みテンプレートは削除できません。

テンプレートを編集するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、「**編集**」を選択します。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートの省略記号を選択し、「**プレビュー**」を選択します。

注:

非永続 VDI 環境の場合、WEM は同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizer の場合、WEM はマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

使用するテンプレートを自動的に選択します。どのテンプレートを使用すればよいかわからない場合は、このオプションを使用して、WEM が各 OS に最適なテンプレートを選択できるようにします。カスタムテンプレートを優先テンプレートとして使用する場合は、プレフィックスをコンマ区切りで入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。

- `prefix_<os version>_<os build>`
- `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizer 設定の変更が有効になるまでには、レガシーコンソールの「**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**」タブで「**SQL 設定の更新遅延**」オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、「**監視 > 管理 > エージェント**」に移動し、エージェントを見つけて、「**その他**」メニューから「**Citrix Optimizer の処理**」を選択します。

> **ヒント:**
>
> 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。「**Citrix Optimizer の処理**」を選択する前に、「**エージェントホスト設定の更新**」を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

これらの設定を使用すると、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化して、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

マルチセッション OS マシンは、単一のマシンから複数のセッションを実行して、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままで、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定を使用すると、切断されたセッションを持つマルチセッション OS マシンを最適化して、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッション OS マシンを最適化します。デフォルトでは、マルチセッションの最適化は無効になっています。この機能は、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが 1 分間切断されたままになると、WEM エージェントはセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションの CPU および I/O 優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEM は優先度を復元し、制限を解除します。

グループを除外する

マルチセッションの最適化から特定のグループを除外するには、次の手順を実行します。

1. 「**指定されたグループを除外**」を選択し、「**グループの追加**」をクリックします。「**除外するグループの追加**」ウィザードが表示されます。
2. 識別子の種類を選択します。
3. 追加するグループが存在するドメインを選択します。

4. 検索ボックスに、追加するグループの名前を入力します。グループの完全な名前を入力してください。(検索では大文字と小文字は区別されません。)
5. プラスアイコンをクリックしてグループを追加します。
6. 完了したら、「**保存**」をクリックしてグループを追加し、「**除外するグループの追加**」ウィザードを終了します。

プロセスを除外する

マルチセッション最適化から特定のプロセスを除外するには、「**プロセスの追加**」をクリックし、追加するプロセスを参照して、「**プロセスの保存**」をクリックします。

プロセスを削除するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、「**削除**」を選択します。

プロセスを編集するには、プロセスの横にある省略記号をクリックし、「**編集**」を選択します。

監視

Monitoring ノードは、Workspace Environment Management™ (WEM) 展開の監視とトラブルシューティングに使用できる情報を提供し、管理タスクを実行できます。

Monitoring ノードは、次の項目で構成されています。

- 管理。ユーザーとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。
    - **ユーザー統計。**展開に関するユーザー統計を表示します。
    - **エージェント。**エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。
- インサイト。アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。構成セットのインサイトを有効にするには、その **>** ページに移動し、 を選択します。インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、 をクリックします。
    - **最適化インサイト。**指定された期間に、CPU スパイク保護とメモリ使用量最適化を最も頻繁にトリガーした上位 10 個のアプリケーションを表示します。
    - **使用状況インサイト。**指定された期間に、使用時間（時間）別の上位 10 個のアプリケーション、ユーザー数別の上位 10 個のアプリケーション、および最も多くの CPU とメモリリソースを消費した上位 10 個のアプリケーションを表示します。
    - **プロファイルコンテナインサイト。**プロファイル管理および FSLogix コンテナのインサイトを表示します。

- レポート。展開を分析できるレポートを提供します。各レポートはテーブルレコードとして表示されます。

管理

ユーザーとエージェントの統計情報、および管理アクティビティを表示できます。

ユーザー統計

Workspace Environment Management™ (WEM) 展開に関するユーザー統計が表示されます。ユーザーがエージェントマシンにログオンするたびに、関連情報が収集され、テーブルレコードとしてここに表示されます。

このページには、次の情報が含まれています。

- **ユーザー概要**。すべての構成セットについて、エージェントマシンにログオンしたすべてのユーザーの数を表示します。
- **ユーザー履歴**。すべての構成セットに関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻 (協定世界時 (UTC))、最終接続元のマシンの名前、セッションエージェントの種類 (UI または CMD) およびバージョンが含まれます。

> **ヒント:**
>
> フィルター機能を使用してリストをフィルタリングできます。たとえば、特定の構成セットのすべてのユーザー数と、指定された日付範囲内のユーザー数を表示できます。

次の操作を実行できます。

- **更新**。ユーザー統計のリストを更新します。
- **期限切れレコードのクリア**。WEMサービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は利用できません。注: このオプションは、**ユーザーID**が**ローカルシステム**であるレコードには使用できません。
- **レコードの削除**。WEMサービスデータベースからレコードを削除します。エージェントを1つだけ選択し、その対応するレコードが期限切れになっている場合に利用できます。注: このオプションは、ユーザーIDがローカルシステム、ネットワークサービス、またはNT Authority (ローカルサービス) であるレコードには使用できません。

- **エクスポート**。各レコードのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。これらの形式は、Microsoft Excelなどのプログラムで開くことができます。そのためには、次の手順を実行します。

  a. **エクスポート**をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。

  b. エクスポート形式を選択します。利用可能なオプション: CSVおよびJSON。

  c. 必要に応じて、**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。エクスポートは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

  d. エクスポートプロセスを開始するには、**エクスポート**をクリックします。

> **重要：**
>
> - 最大50,000件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。フィルターを使用して、レコード数を50,000件以下に減らすことをお勧めします。
> - エクスポートの進行中は、別のエクスポートを実行できません。
> - エクスポートが30分以内に完了しない場合、それに関する通知は受信されなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル**に移動します。
> - ユーザー統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**ファイル**に移動し、不要なファイルを削除して空き容量を増やしてください。詳細については、「ファイル」を参照してください。

エージェント

このページでは、エージェント情報を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、エージェント情報の取得などの管理タスクを実行できます。

統計

このタブには、WEM展開内のエージェントに関する統計が表示されます。WEM展開内のエージェントに関する次の統計を表示できます。

- すべての構成セットについて、ユーザーがログオンしたエージェントの総数。

> **ヒント:**

> フィルター条件で構成セットを指定すると、その構成セットの登録済みエージェントの総数と、過去24時間および過去30日間に登録されたエージェントの数が表示されます。

- 構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、エージェントのバージョンが含まれます。
- **同期状態**列には、エージェントキャッシュとWEMサービスの最終同期の結果に関する情報が表示されます。
  - **成功**（チェックマークアイコン）。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
  - **不明** (感嘆符アイコン)。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
  - **失敗** (エラーアイコン)。前回の同期が失敗したことを示します。
- 「**最近接続**」列には、次の情報が表示されます。
  - **オンライン** (チェックマークアイコン)。エージェントがオンラインであることを示します。エージェントは、一定の間隔で統計情報をWEMサービスにアップロードしています。
  - 列フィールドが空白の場合、エージェントがオフラインであることを示します。
- 「**Profile Managementの正常性**」列には、環境におけるProfile Managementの正常性ステータスに関する情報が表示されます。

  Profile Managementの正常性ステータスは、Profile Managementが最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントマシンの出力ファイルから特定の問題を特定できます (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.json`)。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、エージェントを選択し、アクションバーから**Profile Managementの正常性チェックを実行**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。「**Profile Managementの正常性**」列のアイコンは、Profile Managementの正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

  - **良好** (チェックマークアイコン)。Profile Managementが良好な状態であることを示します。

- **通知** (右上に青い点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Managementが許容可能な状態であることを示します。
- **警告** (右上にオレンジ色の点が付いたチェックマークアイコン)。Profile Managementが最適ではない状態であることを通知します。最適ではない状態は、展開環境でのProfile Managementのユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側での対応を必要とするものではありません。詳細レポートを表示するには、**その他**の**Profile Managementの正常性チェックレポートの表示**オプションを使用します。
- **エラー** (エラーアイコン)。Profile Managementが正しく構成されておらず、正常に機能しないことを示します。
- **無効** (無効アイコン)。Profile Managementが見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックが実際の状況を反映していない場合や、発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

次の操作を実行できます。

- **タスク履歴**。過去24時間以内に開始されたエージェントタスクを一覧表示します。**エージェント**ページで**タスク履歴**をクリックすると、**タスク履歴**ページに移動し、開始されたタスクの進行状況と結果を確認できます。
- 「**表示する列**」。表示する列を選択して、テーブルをカスタマイズできます。
- 「**更新**」。エージェントのリストを更新します。
- 「**期限切れのレコードをクリア**」。WEMサービスデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。期限切れのレコードがない場合は使用できません。
- 「**詳細を表示**」。エージェントに関する詳細情報を表示できます。
- 「**エクスポート**」。各レコードのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。これらの形式はMicrosoft Excelなどのプログラムで開くことができます。これを行うには、次の手順を実行します。

  a. 「**エクスポート**」をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。

  b. エクスポート形式を選択します。利用可能なオプション：CSVおよびJSON。

  c. 必要に応じて、「**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**」を選択します。エクスポートはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

  d. 「**エクスポート**」をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。

重要：

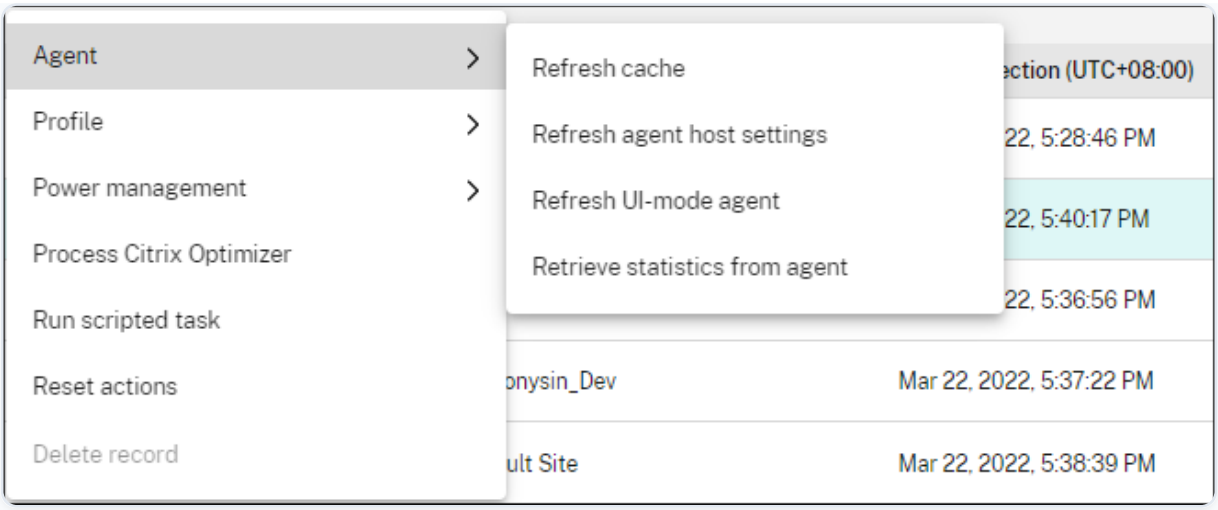
- 最大50,000件のレコードをエクスポートできます。エクスポートするレコード数が制限を超えた場合、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすために、フィルターを使用することをお勧めします。
- エクスポートが進行中の間は、別のエクスポートを実行できません。
- エクスポートが30分以内に完了しない場合、それに関する通知は受信されなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、「**ファイル**」に移動してください。
- エージェント統計をエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージにはストレージ制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、「**ファイル**」に移動して不要なファイルを削除し、空き容量を確保してください。Filesを参照してください。

「**その他**」メニューで利用できるオプションは次のとおりです。これらのオプションをドメインに参加していない登録済みエージェントに適用する場合は、次の点を考慮してください。

- エージェントはバージョン2207.1.0.1以降である必要があります。
- ターゲットエージェントは、これらのタスクの実行についてすぐに通知されません。通知は、ターゲットエージェントまたは同じサブネット上の別のエージェントがCitrix Cloud™に接続して設定を更新するときに送信されます。そのため、エージェント側でタスクが実行されるまでに遅延が発生する可能性があります。同じサブネット上のエージェントが多いほど、遅延は短くなります。
- 最大遅延は、**SQL Settings Refresh Delay** の値の1.5倍です。デフォルトでは、**SQL Settings Refresh Delay** の値は15分です。(/ja-jp/workspace-environment-management/service/using-environment-management/advanced-settings.html#service-options)を参照してください。したがって、この場合、最大遅延は22.5（1.5 x 15）分です。

注:

More メニューは、50個以下のエージェントを選択した場合にのみ使用できます。



エージェント:

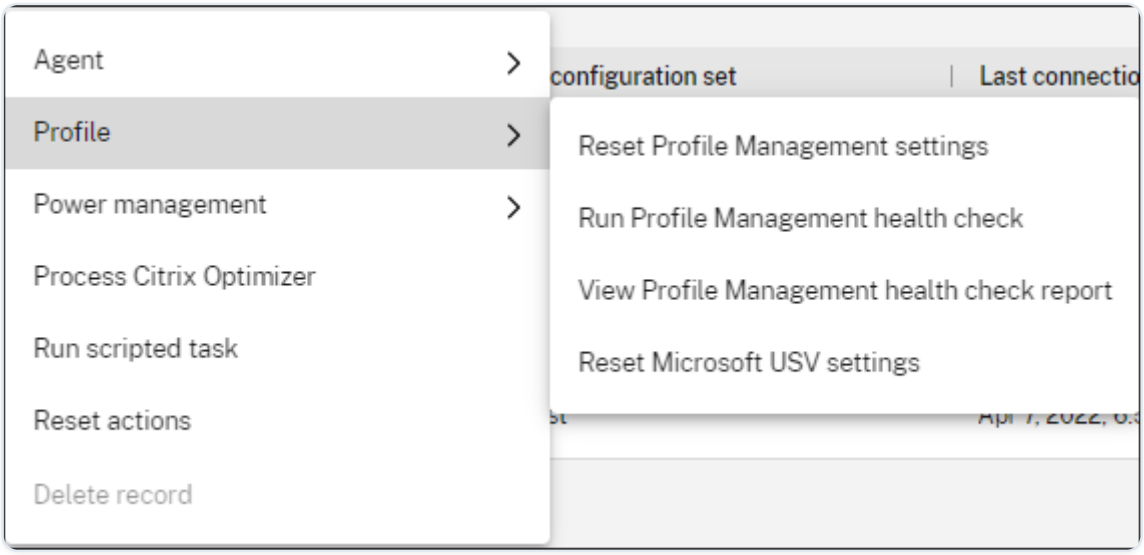
- **キャッシュを更新**。ローカルエージェントキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、ローカルエージェントキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。
- **エージェントホスト設定を更新**。ユーザー環境のエージェントサービス設定の更新をトリガーします。これらの設定には、詳細設定、最適化、トランスフォーマー、およびユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。
- **UIモードエージェントを更新**。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。エージェントを更新すると、エージェントはインフラストラクチャサービスと通信します。インフラストラクチャサービスは、WEMデータベースでエージェントホストのIDを検証します。

  重要：

  - **Refresh UI-mode agent** オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
  - すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（たとえば、環境設定やグループポリシー設定）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

- **エージェントから統計情報を取得**。エージェントが統計情報をインフラストラクチャサービスにアップロードできるようにします。

エージェント側で更新操作を実行することもできます。ただし、これらの操作は実際の状況によって動作が異なります。詳細については、(/ja-jp/workspace-environment-management/service/reference/agent-side-refresh-operations.html)を参照してください。



プロファイル:

- **Profile Management設定をリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Profile Management設定がエージェントに適用されていない場合は、**Profile Management設定をリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

  > **注:**
  >
  > WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定のリセット**を構成した後、設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

- **プロファイル管理ヘルスチェックの実行**。ターゲットエージェントマシンでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。このオプションを選択すると、**プロファイル管理ヘルスチェックの実行**ウィザードが表示されます。ヘルスチェックレポートに含めるプロファイル管理設定を選択し、**実行**をクリックします。次の点に注意してください。

  - デフォルトでは、ヘルスレポートはすべての設定を対象とします。2205.1.0.1より前のエージェントの場合、レポートに含める設定の範囲を変更しても、その変更は有効になりません。
  - ヘルスレポートが表示されるまでに時間がかかる場合があります。レポートで、必要に応じて表示を更新してください。

- **レポートの表示**をクリックして、レポートに直接アクセスします。

エージェントに送信された通知(/en-us/workspace-environment-management/service/media/notifications-sent-to-agents.png)

- **プロファイル管理ヘルスチェックレポートの表示**。ターゲットエージェントマシンに関連するプロファイル管理ヘルスレポートにすばやくアクセスできます。プロファイル管理ヘルスレポートの詳細については、レポートを参照してください。
- **Microsoft USV設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されない場合は、**Microsoft USV設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

電源管理:

- **シャットダウン**。選択したエージェントをシャットダウンできます。
- **再起動**。選択したエージェントを再起動できます。
- **スリープ**。選択したエージェントをスリープモードにできます。このオプションは、ターゲットマシンがスリープモードをサポートしている場合にのみ機能します。
- **休止状態**。選択したエージェントを休止状態にできます。このオプションは、ターゲットマシンが休止状態モードをサポートしている場合にのみ機能します。
- **ウェイク**。選択したエージェントをウェイクアップできます。このオプションを機能させるには、**レガシーコンソール > 詳細設定 > 構成 > Wake on LAN**に移動し、**エージェントのWake on LANを有効にする**を選択します。また、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。詳細については、Wake on LANを参照してください。

> **ヒント:**
>
> - エージェントをシャットダウンまたは再起動するときに、シャットダウンまたは再起動が開始されるまでの遅延時間（秒単位）を指定できます。ユーザーには、指定した時間内にマシンがシャットダウンまたは再起動するというプロンプトが表示されます。シャットダウンプロンプトの例: `Your administrator has initiated the shutdown of your machine from the Workspace Environment Management console. The machine shuts down in 60 seconds.`。再起動プロンプトの例: `Your administrator has initiated the restart of your machine from the`

> `Workspace Environment Management console. The machine restarts in 60 seconds.`。
>
> - スリープと休止状態の違いを考慮してください。スリープモードでは、マシン上のすべてのアクションが停止され、開いているドキュメントとアプリケーションはメモリに保存されます。マシンは低電力状態になります。休止状態モードでは、開いているドキュメントと実行中のアプリケーションはハードディスクに保存されます。マシンは完全にシャットダウンされ、電力は消費されません。
> - ターゲットマシンがスリープモードと休止状態モードをサポートしていることを確認するには、マシンに移動して次のPowerShellコマンドを実行します: `powercfg /a`。

Citrix Optimizerを処理する。Citrix Optimizerの設定変更がすぐに有効になるように、エージェントに設定を適用します。

スクリプトタスクを実行する。ターゲットエージェントマシンでスクリプトタスクを実行できます。このオプションを選択すると、**スクリプトタスクを実行する**ウィザードが表示されます。次の設定を構成し、**実行**をクリックします。各設定の詳細については、「スクリプトタスクの設定」を参照してください。

> **注:**
>
> このオプションは、ドメインに参加していないエージェントには適用されません。

- **タスク**。実行したいスクリプトタスクを選択します。
- **スクリプトタスクにパラメータを渡す**。スクリプトタスクにパラメータを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクでパラメータ変数として入力を提供できます。
- **出力ファイル**。タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境内のファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **キーワードを強調表示する**。レポートで強調表示したいキーワードを指定します。複数のキーワードを入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**を押して別のキーワードを追加します。指定した場合、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションで、キーワードに一致するレポートの内容が強調表示されます。

- **正規表現の一致を強調表示する**。強調表示したい内容を記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換である.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、「スクリプトタスクの設定」を参照してください。

デリバリータスクを実行する。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされているエージェントを選択します。デリバリータスクを迅速に実行するには、このページからデリバリータスクを実行することを選択できます。**デリバリータスクを実行する**をクリックし、ドロップダウンリストからデリバリータスクを選択して、選択したデリバリータスクをエージェントで実行します。タスクでどのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールを構成した場合、オンデマンドタスクを実行するために特定のエージェントを選択すると、それらのルールは無視されます。

アクションをリセットする。適用可能なエージェントマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることにより、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

レコードを削除する。WEMサービスデータベースからレコードを削除します。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションは利用できません。1つのエージェントのみを選択し、その対応するレコードの有効期限が切れている場合に利用可能です。

登録

このタブには、データベースに記録されているエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要：**

> WEMエージェントは、設定を適用できるようにWEMサービスに登録する必要があります。エージェントは1つの構成セットにのみバインドできます。

> 次の情報を表示できます。

- **デバイス名**。エージェントが実行されているマシンの名前。
- **登録ステータス**。エージェントの登録ステータス: **登録済み**または**未登録**。
- **説明**。登録の成功または失敗に関する詳細情報を提供します。
    - **エージェント `<agent name>` が構成セット `<configuration set name>` にバインドされています**。WEMサービスが、構成セットに必要なマシン依存の設定をエージェントに送信していることを示します。
    - **エージェント `<agent name>` がどの構成セットにもバインドされていません**。WEMサービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。「**バインドされていな**

いエージェントに設定を適用」が有効になっている場合、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定がエージェントに適用されます。バインドされていないエージェントへの設定の適用について詳しくは、「」(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/directory-objects.html#advanced-settings)を参照してください。

- **エージェント `<agent name>` が構成セット `<configuration set name>` に複数回バインドされています**。WEMサービスがエージェントに設定を適用することを妨げません。
- **エージェント `<agent name>` がCitrix Endpoint Management™での管理のためにWEMサービスに登録されています**。Endpoint Managementで管理されているエージェントにのみ表示されます。
- **エージェント `<agent name>` が複数の構成セットにバインドされています**。エージェントが複数の構成セットにバインドされているため、WEMサービスがエージェントの構成セットを解決できないことを示します。

必要に応じて、**検索**を使用して結果を絞り込みます。検索はデバイス名と説明に対してのみ実行されます。デフォルトでは、検索は未登録のエージェントのみに制限されます。制限を解除するには、**未登録のエージェントのみを表示**を有効にします。

登録エラーを解決するには、次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集して、エージェントが同じ構成セットに複数回バインドされないようにします。
- ディレクトリオブジェクトでWEM階層を編集して、エージェントが1つの構成セットにのみバインドされるようにします。
- バインドされていないエージェントに設定を適用します（まだ行っていない場合）。これにより、「バインドされていないエージェント」構成セットの設定が、バインドされていないエージェント（**ディレクトリオブジェクト**にまだ追加していないエージェント）に適用されます。

これらの変更を行った後、**UIモードエージェントの更新**オプションを使用してエージェントを更新します。

Profile Managementヘルスチェックの構成

WEMは、Citrix Profile Managementがエージェントマシンで最適に構成されているかどうかを確認できます。詳細については、Profile Managementヘルスチェックの構成を参照してください。

インサイト

プロファイルコンテナとアプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。

最適化のインサイト

このページには、次の2つの棒グラフが含まれています。

- **CPU最適化による上位20のアプリケーション**。指定された期間にCPUスパイク保護を最も頻繁にトリガーした上位10のアプリケーションを表示します。
- **メモリ最適化による上位20のアプリケーション**。指定された期間にメモリ使用量最適化を最も頻繁にトリガーした上位10のアプリケーションを表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。すると、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

> **重要：**
>
> - グラフに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。グラフには、以前に収集されたデータに基づいたインサイトが表示されます。
> - 最適化のインサイトデータは、CPUまたはメモリ管理を有効にするまで利用できません。

除外されたアプリケーション

最適化のインサイト（棒グラフ）からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- **追加**をクリックします。
- 棒グラフに表示されているアプリケーションの名前を入力します。
- **Enter**キーを押して保存するか、**Shift + Enter**キーを押して保存し、別のエントリを開始します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

使用状況のインサイト

このページには、次の4つの棒グラフが含まれています。

- **使用時間（時間）別アプリケーション上位20**
- **ユーザー数別アプリケーション上位20**

- **CPU使用率（%）別アプリケーション上位20**。指定された期間に最も多くのCPUリソースを消費したアプリケーション上位10を表示します。
- **メモリ使用量（MB）別アプリケーション上位20**。指定された期間に最も多くのメモリリソースを消費したアプリケーション上位10を表示します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。すると、チャートが更新され、関連するインサイトが表示されます。

> **重要：**
>
> チャートに構成セットのデータを表示するには、その構成セットのインサイトを有効にする必要があります。構成セットのインサイトを有効にするには、その**詳細設定 > インサイト**ページに移動します。チャートには、以前に収集されたデータに基づいたインサイトが表示されます。

除外されたアプリケーション

使用状況インサイト（棒グラフ）からアプリケーションを除外できます。除外するアプリケーションを指定するには、次の手順を実行します。

- **追加**をクリックします。
- 棒グラフに表示されているアプリケーション名を入力します。アプリケーション名を入力する際、拡張子は含めません。
- 保存するには**Enter**を押し、保存して別のエントリを開始するには**Shift + Enter**を押します。
- ウィザードの指示に従って、追加したアプリケーションを編集および削除することもできます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile ManagementおよびFSLogixのプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

このページには2つのドーナツチャートが含まれています。チャートの各セグメントをクリックすると、詳細を確認できます。

- **スペース使用量**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量を示します。数値は、そのカテゴリのプロファイルコンテナの数を表します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションに対するプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。数値は、そのカテゴリのセッション数を表します。

インサイトを表示するには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。その後、グラフが更新され、関連するインサイトが表示されます。

次の設定を構成できます。

- **使用済みスペースが (GB) を超える場合、スペース使用量が高くなります**。プロファイルコンテナのスペース使用量が高いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。
- **使用済みスペースが (GB) 未満の場合、スペース使用量が低くなります**。プロファイルコンテナのスペース使用量が低いと見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高いしきい値は、低いしきい値よりも大きくする必要があります。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、**更新**をクリックして「**使用済みスペース**」グラフの更新をトリガーします。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、その間のスペース使用量はデフォルトで「**中**」になります。

プロファイルコンテナのステータス

このページには、指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストが表示されます。レコードをフィルタリングするには、構成セットと日付範囲を選択し、**適用**をクリックします。必要に応じて、フィルターを使用して結果をさらに絞り込むことができます。

次のアクションを実行できます。

- **表示する列**。テーブルの表示をカスタマイズできます。列をカスタマイズする際は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズが完了すると、テーブルが更新され、選択した列が表示されます。
- **更新**。ステータスレコードのリストを更新します。

- **最新のステータスを取得**。選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーします。このオプションにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。

> **注:**
>
> コンテナが使用中の場合、エージェントは関連データの収集を試みます。成功した場合、最新のステータスはコンテナの最新レコードに更新されます。更新が完了するまでに時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**をクリックします。

アタッチステータス」列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、Microsoft の ドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` を参照してください。

ラージファイルスキャン列には、ラージファイルスキャンの結果に関する情報が表示されます。構成セットのラージファイルスキャンを有効にするには、その**詳細設定 > Insights**ページに移動します。レコードのラージファイルスキャン結果の詳細を表示するには、関連する列フィールドの**結果**をクリックします。プロファイルコンテナで実行されたラージファイルスキャンの結果を示すラージファイルスキャンウィザードが表示されます。100 MB 未満のファイルとフォルダは個別にリストされません。

レポート

デプロイを分析できるレポートを提供します。

はじめに

このページでは、デプロイを分析できるレポートを提供します。レポートはイベントごとに生成されます。ただし、すべてのイベントが対応するレポートを生成するわけではありません。現在、次の種類のイベントがレポートを生成します。

- **アプリケーションセキュリティログ**
  - **アプリケーションセキュリティログ**を有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。各レポートの詳細内で、管理者はサブタイプ別にログを表示できます。このテーブルには、使用されたフィルター、**イベント時刻**、**イベントタイプ**、**結果コード**、**結果の概要**、**重大度**、エージェントとユーザーのリスト、および**構成セット**などの情報が含まれます。このテーブルには、次のサブタイプも含まれます。

- **イーエックスイーとディーエルエル**
- **MSIとスクリプト**
- **パッケージ化されたアプリの展開**
- **パッケージ化されたアプリの実行**

アプリケーションセキュリティログを有効にすると、**EXEとDLL**、**MSIとスクリプト**、**パッケージ化されたアプリの展開**、**パッケージ化されたアプリの実行**の4つのサブタイプすべてのレポートをWebコンソールで表示できますが、各サブタイプに対応するレポートを個別に表示することはできません。このテーブルには、**時刻**、**ルール名**、**イベントID**、**ターゲット**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果は、**許可**、**監査済み**、または**ブロック済み**のいずれかになります。

- **特権昇格とプロセス階層制御ログ**
  - **特権昇格**および**プロセス階層制御**ログを有効にするたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。各レポートの詳細内で、管理者はサブタイプ別にログを表示できます。このテーブルには、使用されたフィルター、**イベント時刻**、**イベントタイプ**、**結果コード**、**結果の概要**、**重大度**、エージェントとユーザーのリスト、および**構成セット**などの情報が含まれます。詳細を表示するには、4つのセキュリティ側面から選択できます。
  - **EXE特権昇格**。**EXE特権昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**プロセス**、**コマンドライン**、**ルール名**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。
  - **MSI特権昇格**。**MSI特権昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**パッケージ**、**コマンドライン**、**ルール名**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。
  - **自己昇格**。**自己昇格**サブタイプが選択されている場合、テーブルには**時刻**、**プロセス**、**ルール名**、**理由**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。昇格の結果は、成功または失敗のいずれかになります。

> **注:**
>
> **失敗のみ表示**トグルを有効にすると、結果が**失敗**のレコードのみが表示され、それ以外は非表示になります。

- **プロセス階層制御**。**プロセス階層制御**サブタイプを選択すると、テーブルには**時間**、**子プロセス**、**親プロセスID**、**ルール名**、**結果**の各フィールドのログが表示されます。この選択の結果、ブロックされたアクティビティまたは許可されたアクティビティのいずれかが表示されます。

> **注:**
>
> - 各サブタイプで少なくとも1つの障害が発生すると、セキュリティ側面タブにエラーアイコンが表示されます。
> - **ブロック済みのみ表示**トグルを有効にすると、結果が**ブロック済み**のレコードのみが表示され、その他は非表示になります。

- **アクション処理結果**
  - アクションが割り当てられるたびに、対応するレコードが生成されます。これらのレコードは4時間ごとに1つのレポートに統合されます。レポートには、エージェントマシンにログオンしているユーザーのすべてのアクション処理結果が含まれます。アクションタイプを選択して、表形式で詳細を表示できます。テーブルには、アクションの名前、アクションが割り当てられているユーザー、使用されたフィルター、処理結果（ステータス）などの情報が含まれます。ステータスは次の3種類です。
    - **適用済み（処理済み）**。アクションがターゲットユーザーに正常に適用された（または正常に処理された）ことを意味します。
    - **期限切れ**。処理されたアクションが最新ではないことを意味します。これは、アクションが更新されたものの、まだ適用されていない場合に発生します。
    - **エラー**。アクションの適用中にエラーが発生しました。トラブルシューティングを行うには、デバッグモードを有効にしてエージェントのログを表示します。ログファイルの表示を参照してください。
  - 現在、グループポリシー設定とJSONファイル処理の結果のみを表示できます。結果の収集を有効にするには、監視設定を参照してください。
- **スクリプト化されたタスク**
  - タスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、タスクの実行日時、タスクの実行結果などの情報が含まれます。

- 組み込みタスクとカスタムタスクの両方でレポートが生成されます。これらのレポートでは、事前定義されたレポートデータが提供されます。カスタムタスクを追加する際に、報告するデータをカスタマイズできます。事前定義されたレポートデータがニーズに合わない場合は、拡張データを使用してさらに分析することを検討してください。

- **プロファイルコンテナのステータス**
  - プロファイルコンテナがアタッチされるたびに、対応するアタッチレコードが生成されます。これらのレコードは毎日1つのレポートに統合されます。レポートには、プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などの情報が含まれます。この情報を使用して、プロファイルコンテナのストレージ使用量を追跡し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定できます。

- **最適化と使用状況**
  - 「**Advanced Settings > Insights**」ページで構成セットに対して「**Enable data collection and upload for optimization and usage insights**」が有効になっている場合、エージェントは最適化および使用状況データを毎日収集してアップロードします。収集されたデータに基づいてレポートが生成されます。

- **最適化と使用状況のインサイト**
  - 構成セットにインサイトを適用するたびに、最適化と使用状況に関する対応するレポートが生成されます。これらのレポートにより、アプリケーションの動作に関するインサイトを得ることができます。使用状況と最適化のインサイトは1つのレポートに集約されます。

> **注:**
>
> **Monitoring > Insights** の **Optimization Insights** または **Usage Insights** ページで、構成セットと日付範囲を選択してインサイトを適用します。同じ構成セットと日付範囲を使用して適用されたインサイトについては、1つのレポートのみが保持されます。同じ構成セットと日付範囲を使用してインサイトを適用すると、後でレポートが更新されます。

- **プロファイル管理のヘルスチェック**
  - エージェントは、24時間ごとまたはオンデマンドでプロファイル管理のヘルスチェックを実行します。その後、対応するレポートが生成されます。レポートには次の要素が含まれます。

    - レポートが生成された日時
    - 関連するエージェントや構成セットなどの詳細情報
    - 検出された問題（エラーや警告など）と、その修正推奨事項

- エラー/警告を修正し、必要なプロファイル管理設定に到達するには、**Agents** ページの **Statistics** タブで **More** > **Profile** > **View Profile Management health check report** をクリックします。これにより、**Reports** ページに移動します。次に、**Results** の下の **Profile Management Settings** を選択して、**Profile Management health check** ページの **Details** タブでプロファイル管理設定を変更/更新できます。これにより、プロファイル管理構成ページに移動します。フッターにある、対応する設定が強調表示されているすべてのエラー/警告を順に確認し、構成に必要な変更を加えることができます。
- プロファイル管理設定を変更するには、プロファイル管理設定 に移動します。レポートに含める設定の範囲をカスタマイズするには、その構成セットの Advanced Settings > Monitoring Preferences に移動します。
- **Application delivery task results** イベントタイプを選択してフィルターを設定すると、エージェントは対応するレポートのみを表示します。ただし、**Application delivery task results** ページでは **Raw data** のみが提供されます。

各レポートはテーブルレコードとして表示されます。これらのレポートは、アクションの決定に役立つ診断情報を提供します。たとえば、イベントの重大度に基づいてレポートを確認できます。重大度レベルに基づいて、どのようなアクションを取るかを決定できます。

> **ヒント:**

> 特定のレポート（組み込みのスクリプトタスクレポートなど）には、事前に定義された重大度レベルがあります。

> スクリプトタスクの場合、**Result code** 列には次の情報が表示されます。

- **0**: タスクが正常に実行されたことを示します。
- **-4**: 提供された実行可能ファイルのチェックサムの検証に失敗した場合に表示されます。
- **-5**: 実行可能ファイルの署名検証に失敗した場合に表示されます。考えられる原因: 実行可能ファイルの末尾に有効な署名がない、または証明書がないために署名検証に失敗した。
- **-8**: タイムアウトによりタスクがキャンセルされた場合に表示されます。

プロファイルコンテナーステータスの結果コード（ステータスコード）については、Microsoft のドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` を参照してください。注意: 「-1」は、WEM がステータスコードを取得できない可能性があることを意味します。

- **VHD ディスクの圧縮**: Citrix Profile Management の VHD ディスク圧縮が完了するたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、コンテナ、トリガー条件、圧縮前のサイズ、圧縮後のサイズなどの情報が含まれます。取得した情報により、コンテナのストレージ使用量の変化を効果的に追跡できます。VHD ディスク圧縮のレポート収集を有効にするには、監視設定 を参照してください。

表示する列とフィルター

テーブルの表示をカスタマイズできます。「**表示する列**」をクリックして、表示したい列を選択します。列をカスタマイズする際は、少なくとも2つの列を選択する必要があります。カスタマイズが完了すると、テーブルは選択した列を表示するように更新されます。

列ヘッダーをクリックして並べ替えることができます。フィルターを適用してレポートを絞り込むことができます。

レポートの詳細を表示

詳細情報を表示するためにレポートを選択できます。そのためには、レポートを見つけて右側の省略記号をクリックします。レポートウィザードが表示されます。これには2つのタブが含まれています。

- **詳細**。詳細な結果の概要を提供します。
- **生データ**。レポートに関連する生データを提供します。拡張データは JSON 形式です。必要に応じて、拡張データをさらに分析するために使用してください。

正規表現の一致を強調表示が有効になっているスクリプトタスクの場合、そのレポートの**詳細**タブに次のオプションが表示されます。

- **正規表現の一致を表示**。正規表現の一致を詳細に表示できます。

レポートのエクスポート

各レポートのデータをCSVまたはJSON形式でエクスポートできます。これを行うには、次の手順を実行します。

1. **エクスポート**をクリックします。エクスポートウィザードが表示されます。
2. 次のオプションからエクスポート形式を選択します。

- **CSV**。このオプションは、生データをCSV形式でエクスポートします。
- **CSV (formatted)**。この選択肢は、CSV形式の拡張データの可読性を向上させます。
- **JSON**。このオプションは、生データをJSON形式でエクスポートします。
- **JSON (formatted)**。この選択肢は、JSON形式の拡張データの可読性を向上させます。

さらに、レポートの内容が`variable = value`または`variable: value`の形式に従っている場合、フォーマットされたオプションはスクリプトタスクレポートを変数に解析できます。ただし、**CSV (formatted)** オプションを選択した場合、エクスポートされたデータでは過剰な数の列の一部が省略されることがあります。

1. 必要に応じて、**エクスポートのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。エクスポートはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。
2. **エクスポート**をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。

> **重要：**
>
> - 最大50,000件のレコード（レポート）をエクスポートできます。エクスポートするレコード数がこの制限を超えると、上位50,000件のみがエクスポートされます。レコード数を50,000件以下に減らすために、フィルターを使用することをお勧めします。
> - エクスポートの進行中は、別のエクスポートを実行できません。
> - エクスポートが30分以内に完了しない場合、それに関する通知は届かなくなります。後でエクスポート結果を表示するには、**ファイル**に移動してください。
> - レポートをエクスポートすると、エクスポートはクラウドストレージに保存されます。クラウドストレージには保存制限があります。制限に達すると、エクスポートを続行できません。その場合は、**ファイル**に移動して不要なファイルを削除し、空き容量を確保してください。ファイルを参照してください。

サードパーティプラットフォームへのエクスポート

レポートデータをサードパーティプラットフォームにエクスポートすることで、タスクの実行をシームレスに分析および監視できます。また、VDAホスト情報、CPU使用率、メモリ使用率など、サードパーティプラットフォームでカスタマイズされた特別な要件を完了することもできます。

レポートは、手動または自動でサードパーティプラットフォームにエクスポートできます。

サードパーティプラットフォームへの手動エクスポート

各レポートのデータをサードパーティプラットフォームに手動でエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. > をクリックします。
2. ペインで、 ドロップダウンからサードパーティプラットフォーム名のいずれかを選択するか、を選択します。

> **注:**
>
> 現在、GrafanaとSplunkがサポートされているサードパーティプラットフォームです。
>
> ペインで を選択した場合は、必要なサードパーティプラットフォームの詳細を入力します。

3. をクリックします。 エクスポートプロセスが完了したら、宛先（この場合はGrafana）に移動して、エクスポートされたレポートデータを確認できます。

自動 - 自動レポートの構成

各レポートのデータをサードパーティプラットフォームに自動的にエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. > をクリックします。
2. ペインで、 をクリックします。
3. ペインで、必要なサードパーティプラットフォームの詳細を入力します。
4. をクリックして、新しく追加されたルールの構成変更を保存します。

スクリプトタスク

はじめに

> **ヒント:**
>
> スクリプトタスクはマシンレベルで動作します。ユーザーセッションレベルでタスクを実行するには、代わりに外部タスクを使用します。

> このページでは、独自の環境管理ニーズに合わせてカスタマイズしたスクリプトタスクを追加できます。その後、Workspace Environment Management™ (WEM) で、該当する構成セットでそれらのタスクを構成することで自動化できます。

現在、以下の組み込みスクリプトタスクを利用できます。

- クラウドヘルスチェック
- Windowsサービス管理
- サーバー再起動
- CDFトレース管理

クラウドヘルスチェック

Virtual Delivery Agent (VDA) の健全性を測定するチェックを実行できます。VDAヘルスチェックは、一般的なVDA登録およびセッション起動の問題の考えられる原因を特定します。クラウドヘルスチェックは、エージェントホストのローカルシステムアカウントで実行されます。

Windowsサービス管理

Windowsサービス管理は、1つ以上のWindowsサービスの開始、停止、再起動、構成など、Windowsサービスに関する頻繁に使用される機能を提供します。

Windowsサービスの再起動

このスクリプトは、Windowsサービスのステータスを確認します。サービスが現在実行されておらず、`ForceStart`パラメーターが指定されている場合、スクリプトはサービスを開始します。現在の状態に関係なく、サービスが実行中で強制的な開始を必要としない場合、最新の構成で動作していることを確認するため、または停止状態から回復するために再起動されます。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	いいえ	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent`がデフォルトになります。複数のサービスを入力する必要があ

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				る場合は、サービス名をコンマで区切ります。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, ServiceB。
`ForceStart`	ブール値	真	いいえ	サービスが実行されていないと判断された場合に、サービスを開始するかどうかを示します。実行中のサービスには影響しません。実行中のサービスは、メンテナンスまたは回復の目的で常に再起動されます。

Windowsサービスを停止する

このスクリプトは、指定されたWindowsサービスの一覧を停止します。スクリプトは、各サービスがインストールされているかを確認し、サービスを強制的に停止しようとします。その後、スクリプトはサービスが正常に停止したかどうかを確認し、ステータスを報告します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	BrokerAgent	偽	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent` がデフォルト値となります。複

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				数のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ってください。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, ServiceB。

Windowsサービスの設定

このスクリプトは、起動タイプや回復アクションを含むWindowsサービスの設定を調整します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`ServiceNames`	文字列	ヌル	真	管理するサービスの名前を指定します。指定しない場合、`BrokerAgent` がデフォルト値となります。複数のサービスを入力する必要がある場合は、サービス名をコンマで区切ってください。すべてのスペースはトリミングされます。例: ServiceA, SerivceB。
`StartupType`	文字列	ヌル	偽	サービスのスタートアップの種類を設定しま

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				す。有効なオプションは、自動、手動、または無効です。
`FirstFailureAction`	文字列	ヌル	偽	最初の障害に対するアクションを定義します。例: 再起動/なし。
`SecondFailureAction`	文字列	ヌル	偽	2回連続の障害に対するアクションを定義します。
`SubsequentFailureAction`	文字列	ヌル	偽	2回目以降のすべての障害に対するアクションを定義します。

サーバーの再起動

マシンの再起動

このスクリプトは、オプションの遅延と強制オプションを使用してローカルマシンを再起動します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`Force`	ブール値	真	いいえ	指定した場合、未保存のデータやアクティブなユーザーセッションを無視して、即座に再起動を強制します。

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`Delay`	整数	10	いいえ	コンピューターが再起動されるまでの遅延時間（秒単位）を指定します。3秒から30秒の間である必要があります。デフォルトは10秒です。

CDFトレース管理

CDFトレースの開始

このスクリプトは、CTLファイルまたはCTLファイルの事前定義されたカテゴリを入力として受け取り、CDFツールプロセスを開始し、CTLファイル内のモデルのトレースを開始します。

パラメーター

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
`traceOutputPath`	文字列	`C:\ProgramData\Citrix\WEM\CDFLogs`	いいえ	CDFレポートの出力パスを指定します。
`category`	文字列	`all`	いいえ	トレースを開始するための事前定義されたカテゴリを指定します。サポートされている値は次のとおりです: • `all`

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				• `always on tracing` • `desktop Server os vda` • `delivery controller` • `federated authentication service` • `provisioning service` • `universal print server` • `citrix director` • `citrix studio`

名前	タイプ	デフォルト	必須	注
				• `session recording administration` • `session recording player` • `citrix workspace app for windows`
`ctlFilePath`	文字列	なし	いいえ	トレースを開始する `ctl` ファイルを指定します。

CDFトレースの停止

このスクリプトは、CDFツールのトレースを停止します。

CDF ログのクリーンアップ

ストレージ消費を節約するために、CDF トレースログをクリーンアップすることは有用です。指定されたディレクトリ下の CDF ファイルを削除する機能を提供する必要があります。

名前	種類	デフォルト	必須	注
`FileAgeDays`	整数	3	偽	日単位での経過時間しきい値を指定します。この値よりも古いファイルとフォルダーは削除されます。デフォルト値は 3 日で、このパラメーターはオプションです。`FileAgeDays` が 1 日未満の場合、すべてのファイルまたはディレクトリが削除されます。

ヒント:

- カスタムスクリプトタスクと組み込みスクリプトタスクを区別できます。カスタムタスクには「CUSTOM」ラベルが付けられ、組み込みタスクには「CITRIX」ラベルが付けられます。
- 組み込みスクリプトタスクは常にカスタムタスクの上に表示されます。カスタムスクリプトタスクは、最終変更時刻に基づいて降順でソートされます。

この機能を使用すると、独自の管理ニーズに合わせて WEM の機能を拡張できます。たとえば、組み込みのスクリプトタスクである Cloud Health Check を使用すると、VDA の健全性を測定できます。このタスクはスクリプトベースです。独自のスクリプトファイルを作成し、そのスクリプトファイルを WEM にスクリプトタスクとして追加することで、WEM を使用してタスクを自動化できます。

スクリプトタスクが実行されるたびに、対応するレポートが生成されます。レポートには、タスクの実行日時、タスクの実行結果などの情報が含まれており、タスクに関連するアクティビティを監査できます。

スクリプトタスクは構成セットレベルで機能します。スクリプトタスクを使用するための一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **スクリプトタスク**ページで、スクリプトタスクを追加します。
2. スクリプトタスクを有効にする構成セットに移動します。
3. その構成セットの**スクリプトタスク設定**ページで、スクリプトタスクを有効にします。「スクリプトタスク設定」を参照してください。
4. 必要に応じて、スクリプトタスクに関連するレポートを表示します。これには2つの方法があります。
    - **監視 > レポート**に移動し、そこでレポートを表示します。
    - **スクリプトタスク**または構成セットの**スクリプトタスク設定**ページに移動します。スクリプトタスクを見つけて、省略記号を選択し、**レポートの表示**を選択します。すると、関連するフィルターが自動的に適用された**監視 > レポート**ページに移動します。そこで関連レポートを確認できます。

スクリプトタスクレポートの詳細については、「レポート」を参照してください。

スクリプトタスクを追加する

スクリプトタスクを追加するには、次の手順を実行します。

1. **スクリプトタスク**ページで、**スクリプトタスクの追加**をクリックします。
2. **スクリプトタスクの追加**ウィザードで、次の設定を構成し、**保存**をクリックします。
    - **タスク名**。タスクの名前を指定します。
    - **タグ**。既存のタグから選択するか、コンマで区切ってタグを入力します。タグは20文字以内である必要があります。タグはキーワードやラベルのようなものです。タグを使用すると、新しい方法でタスクを識別できます。また、フィルターとして機能し、重要な基準に応じてスクリプトタスクのタスク表示を再配置できます。タグはいくつでも使用できます。
    - **説明**。必要に応じて、タスクを識別するのに役立つ追加情報を指定します。
    - **ファイルの種類**。タスクのファイルの種類を選択します。2種類のファイルがサポートされています。
        - **PowerShell**。個別のPowerShellスクリプトファイル。
        - **ZIP**。複数のファイルを1つのzipファイルにバンドルします。10 MBを超えるzipファイルはサポートされていません。zipファイルをアップロードした後、スクリプトタスク

の開始時に実行するファイルを示すエントリポイントを指定します。エントリポイントファイルは、フォルダー構造内で3レベルより深くならないように注意してください。

- **ファイルのアップロード**。「**参照**」をクリックし、ファイルに移動して選択し、「**開く**」をクリックします。「**スクリプトタスクの追加**」ウィザードに戻ります。
- **権限の付与**。スクリプトタスクに付与するアクセスレベルを指定します。各オプションに関連付けられている権限を理解していることを確認してください。
  - **フルアクセス**。フルアクセスが割り当てられたスクリプトタスクは、広範なローカルアクセス権を持ちます。選択した場合、スクリプトタスクはローカルシステムアカウントで実行されるかのように権限が付与されます。
  - **制限付きアクセス (ネットワークアクセスあり)**。制限付きアクセス (ネットワークアクセスあり) が割り当てられたスクリプトタスクは、広範なローカルアクセス権を持ちませんが、ネットワークリソースにアクセスできます。選択した場合、スクリプトタスクはネットワークサービスアカウントで実行されるかのように権限が付与されます。
  - **制限付きアクセス (ネットワークアクセスなし)**。制限付きアクセス (ネットワークアクセスなし) が割り当てられたスクリプトタスクは、広範なローカルアクセス権を持たず、ネットワークリソースにアクセスできません。選択した場合、スクリプトタスクはローカルサービスアカウントで実行されるかのように権限が付与されます。

  詳細については、Microsoft のドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/identity-protection/access-control/security-identifiers#well-known-sids>` を参照してください。

- **作業フォルダー**。オプションで、エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルフォルダーの絶対パスを入力します。作業フォルダーは、ファイルが開始するときの現在のフォルダーです。環境変数（例: %ProgramFiles%）を使用してパスを構築できます。指定しない場合、`PSScriptRoot` がデフォルトの作業フォルダーとして使用されます。`PSScriptRoot` の詳細については、Microsoft のドキュメント `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/powershell/module/microsoft.powershell.core/about/about_automatic_variables?view=powershell-7.1>` を参照してください。
- **このタスクは出力ファイルを生成しますか**。追加するタスクが出力ファイルを生成するかどうかを選択します。
- **出力パス**。ファイルが存在するフォルダーからの相対パスを入力します。パスにはファイル名とファイル名拡張子を含める必要があります。例: `output\report.txt`。

スクリプトタスクを編集する

スクリプトタスクを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプトタスク**」ページで、タスクを見つけます。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索します。
2. タスクの省略記号をクリックし、「**タスクの編集**」を選択します。「**スクリプトタスクの編集**」ウィザードが表示されます。
3. 「**タスク情報**」タブで、必要に応じて設定を構成します。
4. 「**スクリプトコンテンツ**」タブで、スクリプトコンテンツを表示します。
5. 「**保存**」をクリックします。

> **注:**
>
> 組み込みのスクリプトタスクは編集できません。

スクリプトタスクを削除する

スクリプトタスクを削除するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプトタスク**」ページで、タスクを見つけます。必要に応じて、検索ボックスを使用してタスクをすばやく検索します。
2. タスクの省略記号をクリックし、「**タスクの削除**」を選択します。

> **重要：**
>
> - 組み込みのスクリプトタスクは削除できません。
> - 現在一部の構成セットで有効になっているスクリプトタスクを削除するには、まずそれらの構成セットで無効にします。

スクリプトタスクを複製する

スクリプトタスクを複製するには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプトタスク**」ページで、タスクを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してタスクをすばやく見つけます。

2. タスクの省略記号をクリックし、「**タスクの複製**」を選択します。

> **注:**
>
> タスクを複製する際、重複する名前を避けるために名前の変更を求められます。

タスク設定オプションを構成する

タスク設定にすばやくアクセスするには、次の手順を実行します。

1. 「**スクリプトタスク**」ページで、タスクを見つけます。必要に応じて、検索ボックスまたはタグを使用してタスクをすばやく見つけます。
2. タスクの省略記号をクリックし、次に「**タスク設定の構成**」を選択します。
3. 「**構成セットの選択**」ウィザードで構成セットを選択します。
4. 「**Go**」をクリックして、「**スクリプトタスク設定**」ページでフィルターされたタスクに到達します。ここでは、選択したタスクのみがフィルターで除外されます。

詳細情報

スクリプトタスクの使用例については、以下を参照してください。

- スクリプトタスクを使用してログオン期間を分析する
- スクリプトタスクを使用してWindows更新プログラムを自動的に適用する

ファイル

このページでは、設定されたデータフォルダー内のすべてのファイルを管理できます。必要に応じて、ファイルを削除してスペースを解放してください。

次の種類のファイルがストレージスペースを占有します。

- 構成セットのバックアップ
- レポート
- スクリプト化されたタスク

現在、ストレージで利用可能なファイルをダウンロードおよび削除できます。

> **注:**

- バックアップおよび復元ファイルはここには表示されませんが、ストレージスペースを占有します。
- スクリプト化されたタスクに関連付けられたファイルを削除することはできません。それらを削除するには、タスクを削除してください。

基本展開エージェントの管理

Workspace Environment Management™ (WEM) を使用して、基本展開エージェントを管理できます。この機能は、WEM を展開するための軽量な方法を提供します。この展開方法を使用すると、ブローカー、データベース、コンソールなどのバックエンドコンポーネントを展開することなく、WEM の基本機能を簡単に利用できます。

基本展開エージェント設定の構成

WEM エージェントが基本モードの場合、一部の最適化機能はデフォルトで有効になります。これらの設定は、事前定義されたエージェントキャッシュファイルに保存されます。

- VDA マシンでの CPU スパイク保護は自動的にオンになります。この設定は、CPU 使用率の高いプロセスの優先度を下げて、ユーザーエクスペリエンスへの影響を最小限に抑えます。
  - CPU スパイク保護
  - CPU スパイクを自動的に防止する
  - インテリジェントな CPU 最適化を有効にする
- 基本展開エージェントの設定をカスタマイズします。詳細については、「グループポリシーの構成」を参照してください。基本モードで利用可能な設定は次のとおりです。

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enableCpuSpikeProtection	ブール値	CPU スパイク保護を有効にする	真	真	CPU スパイク保護設定
enableCpuAutoProtection	ブール値	CPUスパイクを自動的に防止する	真	真	
cpuUsageLimitOfSpikeProtection	浮動小数点数	CPU使用率の制限 (%)	70.0	70.0	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
enablePerCoreCpuUsageLimit	ブール値	単一CPUコアに対する制限を設定する	偽	偽	
perCoreCpuUsageLimitOfSpikeProtection	浮動小数点数	単一CPUコアに対するCPU使用率の制限 (%)	80.0	80.0	
cpuUsageLimitSampleTimeOfSpikeProtection	整数	サンプル時間制限 (秒)	30	30	
idlePriorityTimeOfSpikeProtection	整数	アイドル優先時間 (秒)	180	180	
enableLimitCpuCoreUsage	ブール値	CPUコア使用制限を有効にする	偽	偽	
cpuCoreLimitOfSpikeProtection	整数	CPUコア使用制限	1	1	
enableIntelligentCpuOptimization	ブール値	インテリジェントCPU最適化を有効にする	真	真	
enableIntelligentIoOptimization	ブール値	インテリジェントI/O最適化を有効にする	偽	偽	
excludeProcessesFrom	ブール値	CPUスパイク保護から	偽	偽	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
CpuSpikeProtection		プロセスを除外する			
processesExcludedFromCpuSpikeProtection	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
disableProcessPriorityInheritance	ブール値	子プロセスがCPU優先度を継承するのを防ぐ	偽	偽	
parentProcessesToDisablePriorityInheritance	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
enableMemoryWorkingSetOptimization	ブール値	アイドルプロセスでのメモリ使用量を最適化する	真	真	メモリ最適化設定
idleSampleTimeOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドルサンプル時間(分)	30	30	
idleStateLimitOfMemoryWorkingSetOptimization	整数	アイドル状態の制限(%)	1	1	
enableMemoryOptimizationThreshold	ブール値	最適化を制限する	真	真	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
memoryOptimizationThreshold	整数	合計利用可能メモリが (MB) 未満の場合にのみ最適化する	200	200	
excludeProcessesFromMemoryWorkingSetOptimization	ブール値	メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する	いいえ	いいえ	
processesExcludedFromMemoryWorkingSetOptimization	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	
enableFastLogoff	ブール値	高速ログオフを有効にする	真	真	高速ログオフ設定
enableMultiSessionOptimization	ブール値	マルチセッション最適化を有効にする	真	真	マルチセッション最適化
excludeProcessesFromMultiSessionOptimization	ブール値	マルチセッション最適化からプロセスを除外する	いいえ	いいえ	
processesExcludedFromMultiSessionOptimization	文字列の配列	プロセス名	[]	["devenv", "msbuild"]	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
agentServiceDebugModeEnabled	ブール値	エージェントサービスデバッグモードを有効にする	偽	偽	詳細設定 > エージェント設定 > エージェントサービスオプション
enableLogonDurationAnalysis	ブール値	ログオン期間分析を有効にする	真	真	ログオン期間分析
useAlternativeLocalReportLocation	ブール値	ローカルエージェントレポートを保存するための代替場所を使用する	偽	偽	
alternativeLocalReportLocation	文字列	ローカルエージェントレポートを保存する代替場所	`%PROGRAMDATA%\Citrix\WEM\Local Agent Reports`	`D:\WEM Local Agent Reports`	
localReportMaxDays	整数	ローカルエージェントレポートを保持する最大日数	7	7	
localReportMaxFilesPerEvent	整数	保持するローカルエージェントレポートの最大数	30	30	

プロパティ	種類	設定	デフォルト	例	注
saveLogonDurationAnalysisToLocal	ブール値	ログオン期間分析レポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	
saveUpmHealthCheckToLocal	ブール値	UPMヘルスチェックレポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	
saveProfileContainerInsightsToLocal	ブール値	プロファイルコンテナインサイトレポートをローカルエージェントレポートとして保存する	真	真	

注:

カスタム設定が構成されていないか無効な場合、WEMエージェントはデフォルト設定を使用します。

基本展開エージェントの設定をカスタマイズするために、JSON形式の文字列を指定できます。例:

```
{

    "enableCpuSpikeProtection": true,

    "enableCpuAutoProtection": true,

    "enableIntelligentCpuOptimization": true,

}
```

基本展開のカスタム設定(/en-us/workspace-environment-management/service/media/wem-custom-setting-for-basic-deployment.png)

エージェント展開タイプの切り替え

展開タイプを切り替えるには、次のいずれかの方法を選択します。

- エージェントグループポリシーを利用して、エージェントを別の展開タイプに切り替えます。詳細については、「グループポリシーの構成」を参照してください。
- WEMヘルスチェックツールを使用して、別の展開タイプに切り替えます。

WEMログオン期間機能の使用

WEMログオン期間機能を使用する利点は次のとおりです。

- WEMエージェントは、エージェントマシンにログオンすると、ログオン期間を分析し、レポートを自動的に生成します。
- WEM Tool Hubを使用して、エージェントが生成したレポートを確認できます。

ユーザーエクスペリエンス

管理コンソールを起動する

1. **スタート**メニューから、**Citrix \> Workspace Environment Management \> WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで、**接続**をクリックします。
3. 新しいインフラストラクチャサーバー接続ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、**接続**をクリックします。

インストールを構成する

管理コンソールで：

1. 左下のペインのメニュー項目をクリックすると、そのサブセクションが上のペインに表示されます。
2. サブセクション項目をクリックすると、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツが入力されます。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、ユーザーインターフェイスリファレンスを参照してください。

ユーザーインターフェースリファレンス

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- リボン
- アクション
- フィルター
- 割り当て
- システム最適化
- ポリシーとプロファイル
- セキュリティ
- Active Directory オブジェクト
- トランスフォーマー設定
- 詳細設定
- 管理
- 監視
- バックアップと復元

リボン

ホームタブ

ホームタブには、次のコントロールが含まれています。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。**新しいインフラストラクチャサーバー接続**ダイアログで、以下を指定します。

- **インフラストラクチャサーバー名**。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- **管理ポート**。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の8284が事前に入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は1つのコンソールから複数のインフラストラクチャサービスを管理できます。つまり、あるサービスから切断し、別のサービスに接続することで管理します。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM) サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。構成セットの作成ウィンドウを開きます。複数のWEMサイト（構成セット）を構成できます。

- **名前**。リボンの構成セットリストに表示されるサイト（構成セット）の名前。
- **説明**。サイト編集ウィンドウに表示されるサイト（構成セット）の説明。
- **サイトの状態**。サイト（構成セット）が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、WEMエージェントはサイト（構成セット）に接続できません。

編集。構成セットの編集ウィンドウを開きます。構成セットの作成ウィンドウと同様のオプションがあります。

削除。サイト（構成セット）を削除します。「Default site」はWEMの機能に必要であるため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト（構成セット）リストを更新します。

> **注:**
>
> 異なる管理コンソールからサイトが作成された場合、リストは自動的に更新されません。

> **バックアップ**。**バックアップ**ウィザードを開き、現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに存在するすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

- **AppLockerルール設定**
- **特権昇格設定**

- **ADオブジェクト**。WEMが管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。**バックアップ**ウィザードでは、バックアップするADオブジェクトの種類を指定できます。ADオブジェクトには次の2種類があります。
  - ユーザー。単一ユーザーおよびユーザーグループ
  - マシン。単一マシン、マシングループ、およびOU
- **構成セット**。選択したWEM構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - アクション
  - AppLocker
  - 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
  - フィルター
  - ユーザー
  - 設定（WEM設定）

  次のものはバックアップできません。
  - マシンに関連するADオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
  - 監視データ（統計とレポート）
  - 構成セットに登録されているエージェント

「**復元**」。WEMサービス構成の以前にバックアップされたバージョンに戻すために、**復元**ウィザードを開きます。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー（.XMLファイル）を含む該当するフォルダーを選択します。

- 「**セキュリティ設定**」。セキュリティタブに存在するすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セット内の既存の設定を*置き換えます*。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートにリストされます。**復元**ウィザードでは、復元するものを選択できます。
  - 「**AppLockerルール設定**」
  - 「**特権昇格設定**」

    - 「**既存の設定を上書き**」。競合がある場合に既存の特権昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

「**アプリケーションセキュリティルール割り当ての確認**」ダイアログで、**復元**ウィザードにアプリケーションセキュリティルールの割り当てをどのように処理させるかを示すために、**はい**または**いいえ**を選択します。

- **はい**を選択した場合、復元は現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元しようとします。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。不一致のルールは復元されますが、割り当てられないままであり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログにリストされます。
- **いいえ**を選択した場合、バックアップ内のすべてのルールは、サイト内のユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- 「**ADオブジェクト**」。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**復元**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトをきめ細かく制御できます。「**復元するADオブジェクトを選択**」ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き（置換）するかどうかを指定できます。
- 「**構成セット**」。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。復元した構成セットがWEM管理コンソールに反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの「構成セット」メニューから選択します。構成セットを復元する際、同じ名前の構成セットが既に存在する場合、WEMは自動的にその名前を`<configuration set name>_1`に変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加されます*。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。
- 復元されたADオブジェクトは、復元ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加*されるか、または*置き換え*られます。
- **上書きモード**を選択した場合、復元プロセスが開始される前に、既存のADオブジェクトはすべて削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、グループポリシーオブジェクト（GPO）のzipバックアップをWEMに移行します。

重要：

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定（GPO）のみを移行します。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPOをバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**移行**をクリックしてGPOをWEMに移行します。**移行するファイル**ページで、**参照**をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **上書き**。競合がある場合、既存のWEM設定（GPO）を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定を詳細に制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

  注:

> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存するファイルの名前を指定することはできません。

タブ

タブには、次のコントロールが含まれています。

。Citrix License Serverのアドレスを指定できます。これを指定しないと、管理コンソールで設定を変更できません。または、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティの****タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。Citrix License Serverの情報は、どちらの場合もデータベース内の同じ場所に保存されます。

。Webブラウザーウィンドウで Citrix製品ドキュメントのWebサイトを開きます。

。ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのこのローカルインスタンスに固有のものです。

- 。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- 。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダーのルートに作成されます。
- 。管理コンソール専用のさまざまなスキンから選択できます。
- 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス構成で構成されているポートと一致している必要があります。

。管理コンソールの現在のバージョンとライセンス（ライセンスの種類、登録、数）、および法的情報が一覧表示されます。

アクション

Workspace Environment Management™は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。これらのアクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにすることができます。Workspace Environment Managementは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、次の管理が含まれます。
    - アクション グループ

    - グループ ポリシー設定
    - アプリケーション
    - プリンター
    - ネットワーク ドライブ
    - 仮想ドライブ
    - レジストリ エントリ
    - 環境変数
    - ポート
    - INI ファイル
    - 外部タスク
    - ファイル システム操作
    - ユーザー DSN
    - ファイル関連付け
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、次にアクション グループ内の定義済みアクションすべてを、単一のステップでユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能を使用すると、**アクション**ペインに表示される各アクションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを単一のステップで割り当てることができます。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アクション グループ リスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルター処理します。

アクション

> **重要：**
>
> - アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーション リスト**タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループ リスト**タブのアクション グループには、**アプリケーション**の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
> - 割り当てられたアクション グループ内のアクションのオプションを構成しても（**アクション グループ リスト > 名前 > 構成済み**）、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

> **アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **削除**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. 「**新しいアクション グループ**」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

アクション グループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、「**編集**」をクリックします。

アクション グループを複製するには、複製したいグループを選択し、「**コピー**」をクリックします。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。名前を変更するには、「**編集**」をクリックします。

> **注:**
>
> アクション グループを複製する場合、「**割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する**」オプションが有効になっていない限り、ネットワークおよび仮想ドライブに関連付けられているアクション (存在する場合) は複製されません。このオプションを有効にするには、「**詳細設定 > 構成 > コンソール設定**」タブに移動します。

アクション グループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、「**削除**」をクリックします。

> **注:**
>
> 既に割り当てられているアクション グループを削除または編集した場合、行った変更は、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

名前。アクション グループ リストに表示される、アクション グループの表示名です。

説明。アクション グループに関する追加情報を指定できます。

アクション グループの状態。アクション グループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、そのアクション グループをユーザーまたはユーザー グループに割り当てたとしても、エージェントはアクション グループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成済みの特定のアクションを検索できます。名前、表示名、または説明でオプションをフィルタリングするには、「検索」を使用します。

利用可能。これらは、作成したアクション グループに追加できるアクションです。

プラス記号をクリックして、特定のアクション カテゴリの下にあるアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。

注:

- 既にユーザーに割り当てられているアクション グループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
- 既にユーザーに割り当てられているアクション グループからアクションを削除すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーから割り当て解除されます。

構成済み。これらは、作成したアクション グループにすでに割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定のアクションのオプション（例: アプリケーション ショートカットの場所、既定のプリンター、ドライブ文字など）を構成することもできます。

割り当て

重要：

タブの ペインで、割り当て済みアクション グループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

> > タブでアクション グループのアクションの構成を完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。これを行うには、**> >** タブに移動します。このタブで、ユーザーまたはユーザー グループをダブルクリックすると、作成したアクション グループを含む ペインの ノードが表示されます。 ノードの横にあるプラス記号をクリックすると、作成したアクション グループを表示できます。アクション グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除します。アクションを割り当てるときは、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「割り当て」を参照してください。

アクション グループを割り当てる際には、いくつかのシナリオに注意する必要があります。

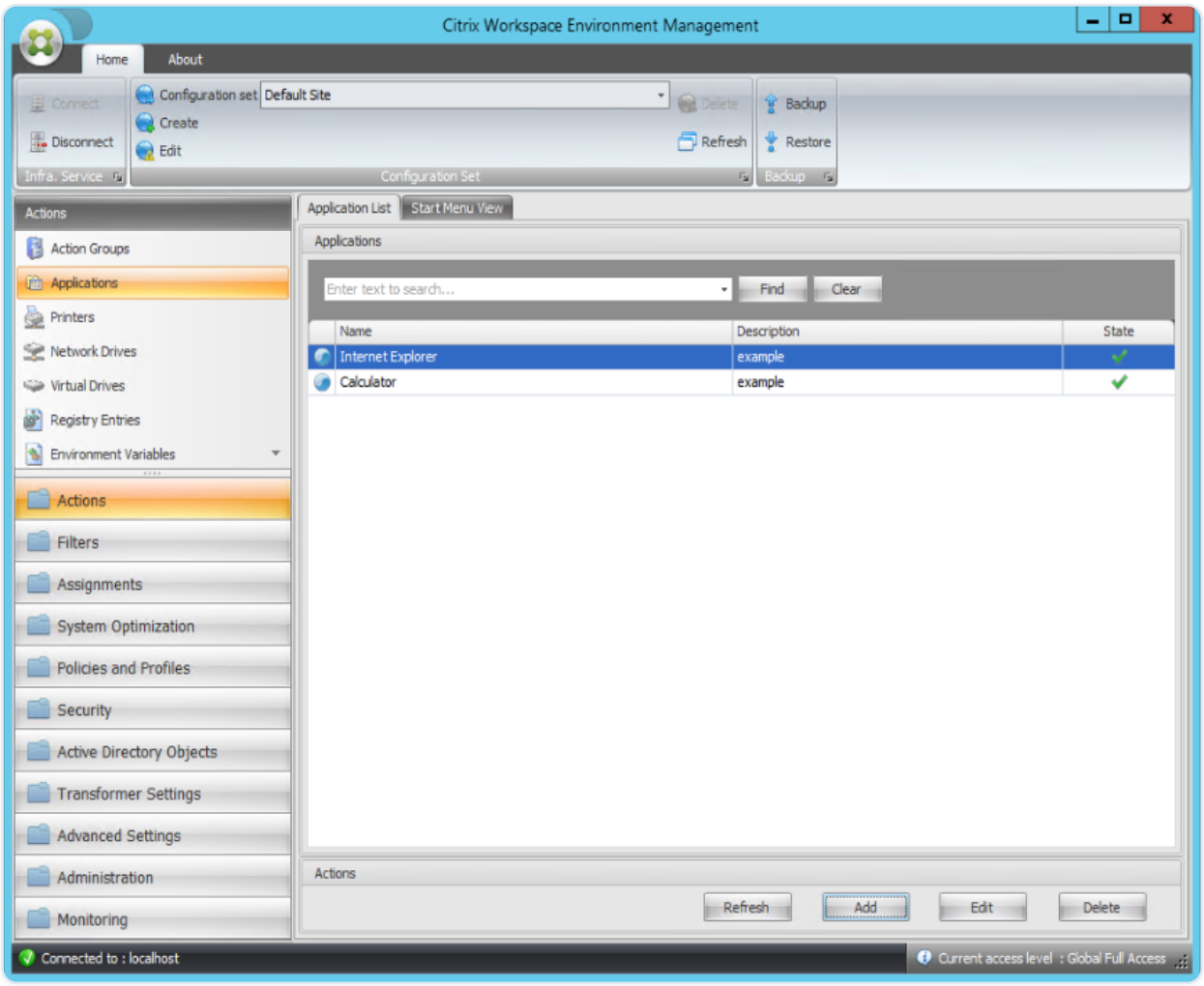
- アクション グループを割り当てると、それに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。

- 1つ以上のアクションが異なるアクション グループで重複する場合があります。重複するアクション グループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクション グループ内のアクションが処理された後、別のアクション グループのアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、割り当て解除されたアクションは以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションは割り当て解除されます。他のアクションは変更されません。

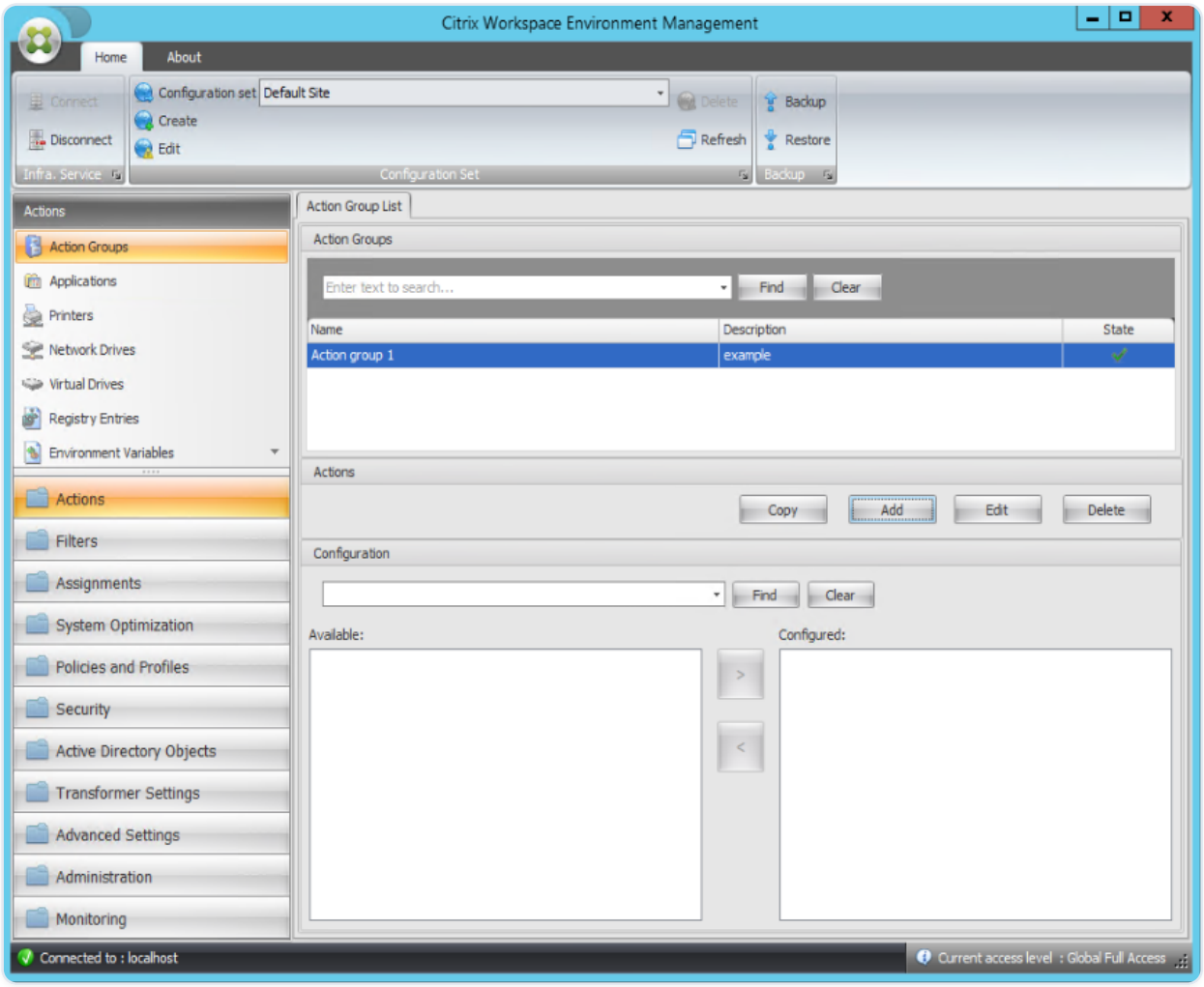
シナリオ例

たとえば、アクション グループ機能を使用して2つのアプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

1. **> > >** タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exe と calc.exe) を追加します。



2. **> > >** タブに移動し、 をクリックしてアクション グループを作成します。



3. 「**アクション グループ リスト**」タブで、作成したアクション グループをダブルクリックして、「**利用可能**」ペインと「**構成済み**」ペインにアクション リストを表示します。

   「アクション グループ リスト 02」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/action-group-list-02.png)

4. 「**利用可能**」ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして「**構成済み**」ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。

   「アクション グループ リスト 03」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/action-group-list-03.png)

5. 「**構成済み**」ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、「**デスクトップの作成**」と「**タスクバーにピン留め**」を有効にします。

   「アクション グループ リスト 04」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/action-group-list-04.png)

6. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**」タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、アクション グループを「**利用可能**」ペインと「**割り当て済み**」ペインに表示します。

「アクションの割り当て 01」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/action-assignment-01.png)

7. 「**利用可能**」ペインで、作成したアクション グループ (この例では「アクション グループ 1」) をダブルクリックして「**割り当て済み**」ペインに移動します。アクション グループを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。

   「アクションの割り当て 02」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/action-assignment-02.png)

8. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、「**常にTrue**」を選択し、「**OK**」をクリックします。

   「フィルターの割り当て」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/assign-filter.png)

9. 「**管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。

   「エージェントの統計」(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/agent-statistics.png)

10. エージェントを右クリックし、コンテキスト メニューで「**ワークスペース エージェントの更新**」を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされています。

グループポリシー設定

> **重要：**

> WEM は現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられたグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

> 以前のリリースでは、グループポリシー設定 (GPP) のみを Workspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、リボン の **移行** ウィザードの説明

を参照してください。現在では、グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) も WEM にインポートできます。

設定をインポートした後、どの GPO を割り当てるかを決定する前に、各 GPO に関連付けられている設定を項目別に表示できます。他のアクションを割り当てるのと同様に、GPO を異なる AD グループに割り当てることができます。GPO を個々のユーザーに直接割り当てた場合、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。マシンレベルの設定は、関連するマシンがグループに属している場合に有効になります。ユーザーレベルの設定は、現在のユーザーがグループに属している場合に有効になります。

ヒント:

マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフして再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

注:

WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Service が有効になっていることを確認してください。

グループポリシー設定の処理を有効にする。WEM がグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効になっている場合:

- グループポリシー設定を構成できません。
- グループポリシー設定がすでにユーザーまたはユーザーグループに割り当てられている場合でも、WEM はそれらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存の GPO のリストを表示します。**検索** を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPO リストを更新します。

- **インポート**。**グループポリシー設定のインポート** ウィザードを開き、グループポリシー設定をWEM にインポートできます。
- **編集**。既存の GPO を編集できます。
- 「**削除**」。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. WEMサービスの**管理**タブのメニューにある**アップロード**を使用して、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. **管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**タブに移動し、**グループポリシー設定処理を有効にする**を選択して、**インポート**をクリックし、インポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの**インポートするファイル**ページで、**参照**をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力して**検索**をクリックし、ファイルを見つけることもできます。
    - 「**以前にインポートしたGPOを上書きする**」。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。
4. **インポートの開始**をクリックして、インポートプロセスを開始します。

5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。インポートされたGPOは、**グループポリシー設定**タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当てのためにGPOに変換できます。レジストリエントリで利用可能なレジストリファイルのインポートオプションに慣れている場合、この機能は次のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE`と`HKEY_CURRENT_USER`の両方のレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY`および`REG_MULTI_SZ`タイプのレジストリ値をインポートできます。
- .regファイルで定義するレジストリキーおよび値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.regファイルを使用してレジストリキーおよび値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>`を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルから設定をインポートする場合、ファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。解凍されたファイルのサイズが30 Mを超えないようにしてください。
- 各.regファイルはGPOに変換されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各GPOの名前は、対応する.regファイルの名前に基づいて生成されます。例: .regファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換されたGPOの名前は`test1`です。
- 変換されたGPOの説明は空です。その状態はデフォルトで有効（チェックマークアイコン）になります。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > グループポリシー設定**に移動し、**グループポリシー設定処理を有効にする**を選択し、**インポート**の横にある下矢印をクリックして、**レジストリファイルのインポート**を選択します。
2. 表示されるウィザードで、レジストリファイルのzipバックアップを参照します。
    - **既存のGPOを上書きする**。競合が発生した場合に既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。
3. 「**インポートの開始**」をクリックします。

4. インポートが完了したら、「**完了**」をクリックします。レジストリファイルから変換されたGPOは、「**グループポリシー設定**」に表示されます。

グループポリシー設定の編集

設定の詳細表示と、必要に応じて設定を編集するには、リストからGPOをダブルクリックします。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから「**コピー**」を選択します。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。名前を変更するには、「**編集**」を使用できます。

「**編集**」をクリックすると、「**グループポリシーオブジェクトの編集**」ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。この情報はGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

> **警告：**
>
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない場合があります。

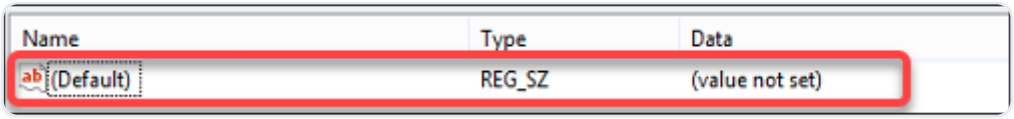
- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集**。レジストリキーを編集できます。
- **削除**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の「**追加**」をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション**。レジストリキーに対するアクションの種類を指定できます。
    - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
    - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
    - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。

  - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
  - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。

- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーのフルパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーのフルパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。



- **種類**。値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。この種類は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。この種類は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む、展開可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
  - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この種類は、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64ビット数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。
  - **REG_MULTI_SZ**。このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用されるマルチ文字列です。各エントリはヌル文字で区切られます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連する変更は、**Citrix WEM Agent Host Service** の開始時、または指定された **SQL Settings Refresh Delay** のタイムアウト時に有効になります。

- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連する変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定のコンテキスト化

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、**フィルター > 条件** に移動し、条件を定義します。条件 を参照してください。

   > **重要：**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、フィルター条件 を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、マシン設定に適用されないフィルター条件 を参照してください。

2. **フィルター > ルール** に移動し、フィルタールールを定義します。ステップ1で定義した条件をそのルールに含めることができます。ルール を参照してください。
3. **アクション > グループポリシー設定** に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. 「**Administration Console > Assignments > Action Assignment**」に移動し、以下を完了します。

   a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

   b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

   c. **Assign Filter**ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、**OK**をクリックします。設定は**Available**ペインから**Assigned**ペインに移動します。

d. **Assigned**ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理されるため、競合や依存関係がある場合に有効になります。

マシン設定に適用できないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
ClientNameの一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**Registry Value Match**フィルターはマシン設定に適用しても機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースの種類	いいえ
Active Directory パスの一致	いいえ
Active Directory 属性の一致	いいえ
クライアント名に一致しない	いいえ
クライアント IP アドレスに一致しない	いいえ
レジストリ値に一致しない	いいえ
ユーザーの国に一致しない	いいえ
ユーザー UI 言語に一致しない	いいえ
Active Directory パスに一致しない	いいえ
Active Directory 属性に一致しない	いいえ
クライアントのリモート OS の一致	いいえ
クライアントのリモート OS に一致しない	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
Active Directory グループの一致	いいえ
Active Directory グループに一致しない	いいえ
公開リソース名	いいえ

テンプレートベースの設定

このタブを使用して、グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成します。GPOはマシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > テンプレートベース**で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用してGPOを作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPOリストを更新します。
- GPOを編集します。
- GPOの割り当てを管理します。
- GPOを複製します。
- GPOを削除します。

テンプレートを使用してGPOを作成する

テンプレートを使用してGPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. **基本情報**で：
    - GPO の名前を指定します。
    - 必要に応じて、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンに適用するポリシーを構成します（誰がログオンしているかに関わらず）。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーに適用するポリシーを構成します（どのマシンにログオンしているかに関わらず）。

5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**完了**をクリックします。

コンピューターの構成と**ユーザーの構成**で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値の入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、Microsoft から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートの管理

テンプレートを管理するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**テンプレートの管理**をクリックします。
2. **テンプレートの管理**ウィザードで：

- **コンピューターの構成**を選択して、マシンに適用するポリシーを構成します（誰がログオンしているかに関わらず）。
- **ユーザーの構成**を選択して、ユーザーに適用するポリシーを構成します（どのマシンにログオンしているかに関わらず）。

1. 完了したら、**完了**をクリックします。

コンピューターの構成と**ユーザーの構成**で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順にソートされ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートのインポート

> **重要：**

> ADMXファイルをテンプレートとして使用するためにWEMにインポートする際は、zipファイル内のすべての.admlファイルが同じ言語であることを確認してください。

> ADMXファイルをテンプレートとして使用するためにWEMにインポートできます。その後、それらのテンプレートを使用してGPOを作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を完了します。

1. アクションバーで、**テンプレートの管理**をクリックします。
2. **テンプレートの管理**ウィザードで、**インポート**をクリックします。
3. ADMXファイルを含むzipファイルを参照し、ファイルに既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートが含まれている場合にどうするかを決定します。
   - **インポートしない**。インポートをキャンセルします。
   - **テンプレートをスキップして残りをインポートする**。
   - **既存のテンプレートを上書きする**。上書きすると、既存のテンプレートから派生した関連設定が変更される可能性があります。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、これらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。
4. **インポートの開始**をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして**テンプレートの管理**ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、**完了**をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「ファイル」を参照してください。そこで管理する際は、次の点を考慮してください。

- GPO管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連する設定が削除されます。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連する設定は失われます。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**編集**をクリックします。
2. **基本情報**で、名前と説明を編集します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンポリシーを編集します。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーポリシーを編集します。

5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

> **注:**

> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集すると、それらのユーザーに影響が及びます。

GPOの割り当てを管理する

テンプレートを使用して作成されたGPOの割り当ては、レジストリベースのGPOと同様に管理できます。詳細については、「GPOの割り当てを管理する」を参照してください。

GPOを複製する

GPO をクローンするには、次の手順を実行します。

1. GPO を選択し、アクションバーで をクリックします。
2. GPO をレジストリベースの GPO としてクローンするか、テンプレートベースの GPO としてクローンするかを決定します。

   > **注:**

   > レジストリベースとしてクローンされると、GPO はレジストリ値に変換され、 タブに表示されます。変換された各 GPO は、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPO のクローン先となる構成セットを選択します。
5. をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPO を削除する

GPO を削除するには、GPO を選択し、アクションバーで をクリックします。

> **注:**

> GPO がすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

スクリプトタスク設定

「**スクリプトタスク**」ページで利用可能なすべてのスクリプトタスクを一覧表示します。スクリプトタスクは構成セットレベルで実行されます。ここでは、現在の構成セットに対してどのスクリプトタスクを有効にするかを構成します。スクリプトタスクを編集するには、「スクリプトタスク」に移動します。

スクリプトタスクを構成する

1. 「**スクリプトタスク設定**」ページで、スクリプトタスクを見つけ、省略記号を選択し、「**構成**」を選択します。
2. 「**スクリプトタスクの構成**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。

「**全般**」で:

- **このタスクを有効にする**。現在の構成セットに対してタスクを有効にするか（**はい**）、無効にするか（**いいえ**）を選択します。無効になっている場合、エージェントはタスクを処理しません。
- **署名を検証する**。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。
- **タスクのタイムアウト**。タスクのタイムアウト（分単位）を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了します。サポートされる値：1〜60。タスクのタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクの実行が妨げられる可能性があります。
- **フィルター**。フィルターを選択してタスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターが選択されている場合、このタスクはフィルター内のすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択する際は、次の点を考慮してください。
    - フィルターにスクリプトタスクに適用されない条件が含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルターを評価する際にそれらの条件をスキップします。スクリプトタスクに適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

「**トリガー**」で:

- タスクのトリガーを構成します。次のことができます。

- タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、これらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
- このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
- 新しいトリガーを作成します。「トリガーの作成」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/triggers.html#create-a-trigger)。

> **注:**
>
> 既存のトリガーを編集するには、「トリガー」に移動します(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/triggers.html)。

パラメーターで:

- **スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡す**。スクリプト化されたタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプト化されたタスクにパラメーター変数として入力を提供できます。これにより、基になるコードを変更せずにスクリプト化されたタスクの動作を制御できるという利点があります。次のパラメータータイプが利用可能です:
  - **整数**。例: `123`。
  - **文字列**。例: `hello world`。
  - **ブール値**。True または False。
  - **文字**。例: `c`。
  - **スイッチ**。True または False。
  - **ダブル**。例: `1.023`。
  - **日付と時刻**。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`。
  - **ファイルパス**。`System.IO.FileInfo` クラスに渡したいパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには次の文字を含めることはできません: `* ? < >`。

> **注:**
>
> - 最大20個のパラメーターを設定できます。

- 名前フィールドは、「スイッチ」タイプのパラメーターを除き、オプションです。
- PowerShellは部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメーター名を使用する場合は、その名前が一意であることを確認し、既存のパラメーター名と区別してください。例: PowerShellでは、次のパラメーター名は同じです: `-t`、`-ti`、および`-title`。この場合、他のパラメーターと区別するために、パラメーター名の十分な文字数を指定してください。

出力で:

- **出力ファイル。** タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境で出力ファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **出力のハイライト。** 出力ファイルの内容とコンソール出力で特定のコンテンツをハイライト表示するかどうかを選択します。
  - **キーワードをハイライト表示。** レポートでハイライト表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをコンマで区切って入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して続行します。指定した場合、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションで、キーワードに一致するレポートの内容がハイライト表示されます。
  - **正規表現の一致をハイライト表示。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換の.NET正規表現ライブラリ構文に準拠している必要があります。詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>`。
    - **正規表現。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。
    - **大文字と小文字を区別しない。** コンテンツが大文字と小文字を正確に一致させる必要があるかどうかを選択します。
    - **複数行マッチングを使用。** 複数行マッチングを使用するかどうかを選択します。この場合、\^と\$は出力コンテンツ全体ではなく、各行の先頭と末尾に一致します。
    - **名前付きグループのみをキャプチャ。** 名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループは、`(?<name> subexpression)`構文によって明示的に名前または番号が割り当てられます。

    - **コンテキストの手がかりとして含める行数。** ハイライトにコンテキストの手がかりとして含める、一致の前後の行数を指定します。サポートされる値: 1〜10。
    - **レポートに正規表現の一致のみを含める。** レポートにすべての出力コンテンツを含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloudに送信されるデータ量が削減されます。このオプションを有効にすると、指定されたキーワードに関係なく、キーワードのハイライト機能は表示するコンテンツがありません。

- **詳細オプション。**

    - **実行時エラーが発生した場合でも出力を収集。** タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプトタスクのレポートを表示する

スクリプトタスク設定ページで、スクリプトタスクを見つけ、省略記号を選択し、**レポートの表示**を選択します。その結果、**監視 > レポート**ページに移動し、タスクに関連するレポート（存在する場合）が表示されます。省略記号をクリックして、より詳細な情報を表示します。詳細については、レポートを参照してください。

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> - Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe** は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Management エージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
> - 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいアプリケーション**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **名前**。アプリケーションリストに表示される、アプリケーションショートカットの表示名です。
- **説明**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- **アプリケーションの種類**。ショートカットが起動するアプリケーションの種類で、**インストール済みアプリケーション**、**ファイル/フォルダ**、**URL**、または**StoreFrontストア**のいずれかです。選択に応じて、次の値が必要です。
  - **コマンドライン**。クライアントマシンから見たアプリケーション実行可能ファイルへのパスです。**参照**ボタンを使用すると、ローカルにインストールされている実行可能ファイルを参照できます。
  - **作業ディレクトリ**。ショートカットの作業ディレクトリです。実行可能ファイルを参照すると自動的に入力されます。
  - **パラメータ**。アプリケーションの起動パラメータです。
  - **ターゲット**。(ファイル/フォルダー) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダーの名前。
  - **ショートカットURL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットのURL。
  - **ストアURL**。(StoreFront™ ストア) ショートカットから起動するリソースを含むStoreFrontストアのURL。
  - **ストアリソース**。(StoreFrontストア) ショートカットから起動するStoreFrontストア上のリソース。**参照**ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

> **ヒント:**
>
> StoreFrontストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。ストアリソースを表示するために**参照**を初めてクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Citrix Workspace™ app for Windowsにログオンするために使用する資格情報を入力するよう求められます。その

> 後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM管理コンソールマシンで実行されているCitrix Workspace app for Windowsによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **スタートメニュー統合**。アプリケーションショートカットをスタートメニューのどこに作成するかを選択します。デフォルトでは、新しいショートカットはプログラムに作成されます。

オプション

- **アイコンの選択**。アイコンファイルを参照して、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーション実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、任意の有効なアイコンを選択できます。アイコンはデータベースにテキストとして保存されます。
    - **高解像度アイコンのみ**。選択ボックスにHDアイコンのみを表示します。
- **アプリケーションの状態**。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。
- **メンテナンスモード**。有効にすると、この設定によりユーザーはアプリケーションショートカットを実行できなくなります。ショートカットアイコンは、アイコンが利用できないことを示す警告サインを含むように変更され、ユーザーが起動しようとすると、アプリケーションが利用できないことを知らせる短いメッセージが表示されます。これにより、公開アプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを、アプリケーションショートカットリソースを無効にしたり削除したりすることなく、プロアクティブに管理できます。
- **表示名**。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- **ホットキー**。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します（例）：Ctrl + Alt + S。
- **アクションの種類**。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

詳細設定

- **自動自己修復を有効にする**。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。
- **アイコンの場所を強制する**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- **ウィンドウスタイル**。エンドポイントでアプリケーションが最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。

- **セルフサービスに表示しない**。セッションエージェントがUIモードで実行されているときに、エンドユーザーが利用できるステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリケーション」アイコンリスト、および「アプリケーションの管理」フォームでの非表示が含まれます。
- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成する**。エンドユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFrontストアに基づくアプリケーションエントリを追加するには、WEM管理コンソールマシンにインストールされているCitrix Workspace app for Windowsが公開アプリケーションのリストを取得できるように、有効な資格情報を提供する必要があります。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードが開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードが開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studio を使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生する問題のトラブルシューティングを行うためのクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMD ツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが開始される前に、WEM エージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダー: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe` にあります。

> **注:**

> 64ビットOSの場合は、代わりに `%ProgramFiles(x86)%` を使用してください。

> Citrix Studio を使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。これを行うには、次の手順を完了します。

1. Citrix Studioの**アプリケーション設定 > 場所**ページに移動します。

   Citrix Studioのアプリケーション設定(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/citrix-studio-application-settings.png)

2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 次のように入力します: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

   - **VUEMAppCmd.exe**を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介して**iexplore.exe**を起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`。

プリンター

このタブは、プリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリストで、一意のIDが付いています。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでプリンターリストをフィルタリングできます。リボンにある**ネットワーク印刷サーバーのインポート**を使用してプリンターをインポートできます。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターがユーザー向けに自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。**デバイスマッピングプリンターファイルの使用**の場合、ターゲットパスをXMLプリンターリストファイルへの絶対パスとして指定します（XMLプリンターリストの構成を参照）。エージェントが更新されると、このXMLファイルを解析して、アクションキューに追加するプリンターを検索します。

プリンターをインポートするには

1. リボンで、**ネットワーク印刷サーバーのインポート**をクリックします。
2. **ネットワーク印刷サーバーからのインポート**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

印刷サーバー名。プリンターのインポート元となる印刷サーバーの名前。

代替資格情報を使用。デフォルトでは、インポートは管理コンソールが現在実行されているWindowsアカウントの資格情報を使用します。このオプションを選択して、印刷サーバーへの接続に異なる資格情報を指定します。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management アクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザー環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブがユーザーのために自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。既定では、ネットワークドライブのマップです。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。
    a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
    b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを終了します。
2. **管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。
    a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
    b. 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
    c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。仮想ドライブが**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて、時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。

フィールドとコントロール

タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントは処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

タブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

レジストリエントリの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリエントリリストに表示される、レジストリエントリの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所です。Workspace Environment Management は現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、値の

前に %ComputerName%\HKEY_CURRENT_USER を付ける必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリ値の名前です。レジストリに表示されます (例: NoNtSecurity)。

ターゲットの種類。作成されるレジストリエントリの種類です。

ターゲット値。作成されたレジストリエントリの値 (例: 0 または C:\Program Files)

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は、更新のたびにではなく、最初の更新時にのみレジストリエントリを作成するようになります。これにより、特にユーザーに多くのレジストリエントリが割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には、次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ` の種類のレジストリ値はサポートしていません。

これらの制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**レジストリファイルのインポート**オプションを使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「レジストリファイルからのグループポリシー設定のインポート」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > レジストリエントリ**に移動します。
2. リボンで、**レジストリファイルのインポート**をクリックします。
3. **レジストリファイルからインポート**ウィンドウで、レジストリファイルを参照します。
4. **スキャン**をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択したものをインポート**をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. **OK**をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg**ファイルに移動して**開く**をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg**ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg**ファイルは、インポートするレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。**.reg**ファイルをスキャンし、そのファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg**ファイルに含まれるすべてのレジストリ値を一覧表示します。

インポートされたアイテムを有効にする。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます（例：「XP ONLY」や「finance」）。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg**ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合（レジストリ値リストに表示されているとおり）、これらのエントリのいずれか1つをインポート用に選択してください。他のエントリをインポートしたい場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

> **ヒント**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数を有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントCOMポートとLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「ポートリダイレクトポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントcomポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> より強力なWorkspace Environment Managementアクションに拡張するには、動的トークンを使用できます。

ポートリスト

既存のポートのリスト。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

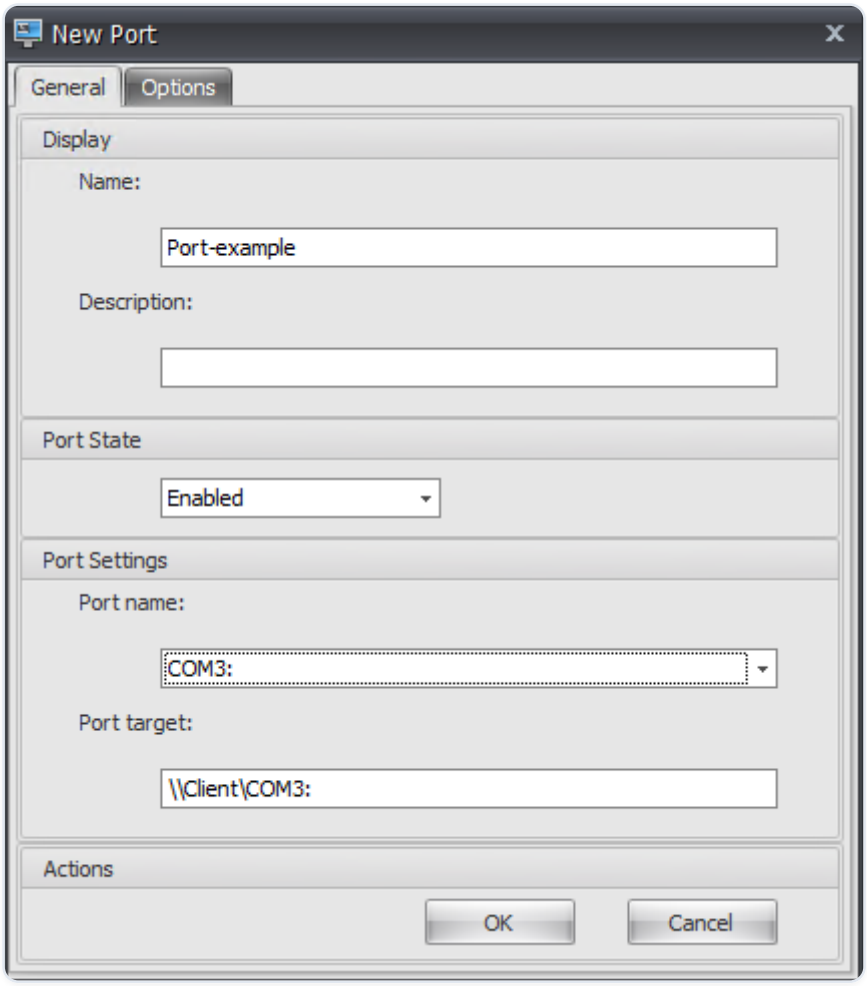
ポートターゲット。ターゲットポートです。

オプションタブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ポート設定を次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します:



Ini ファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルの変更を可能にします。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

Ini ファイル操作リスト

既存の ini ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい Ini ファイル操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。.ini ファイル操作の表示名で、**Ini ファイル操作**リストに表示されます。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。.ini ファイル操作を有効または無効に切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。これは、ユーザーの環境で解決されるときに変更される.iniファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。これは、この操作のターゲットとなる.iniファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、それが作成されます。

ターゲット値の名前。これは、追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。値そのものを指定します。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行するようになります。これにより、特に多くの .ini ファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストがそれらを実行するための対応するプログラムを持っている限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

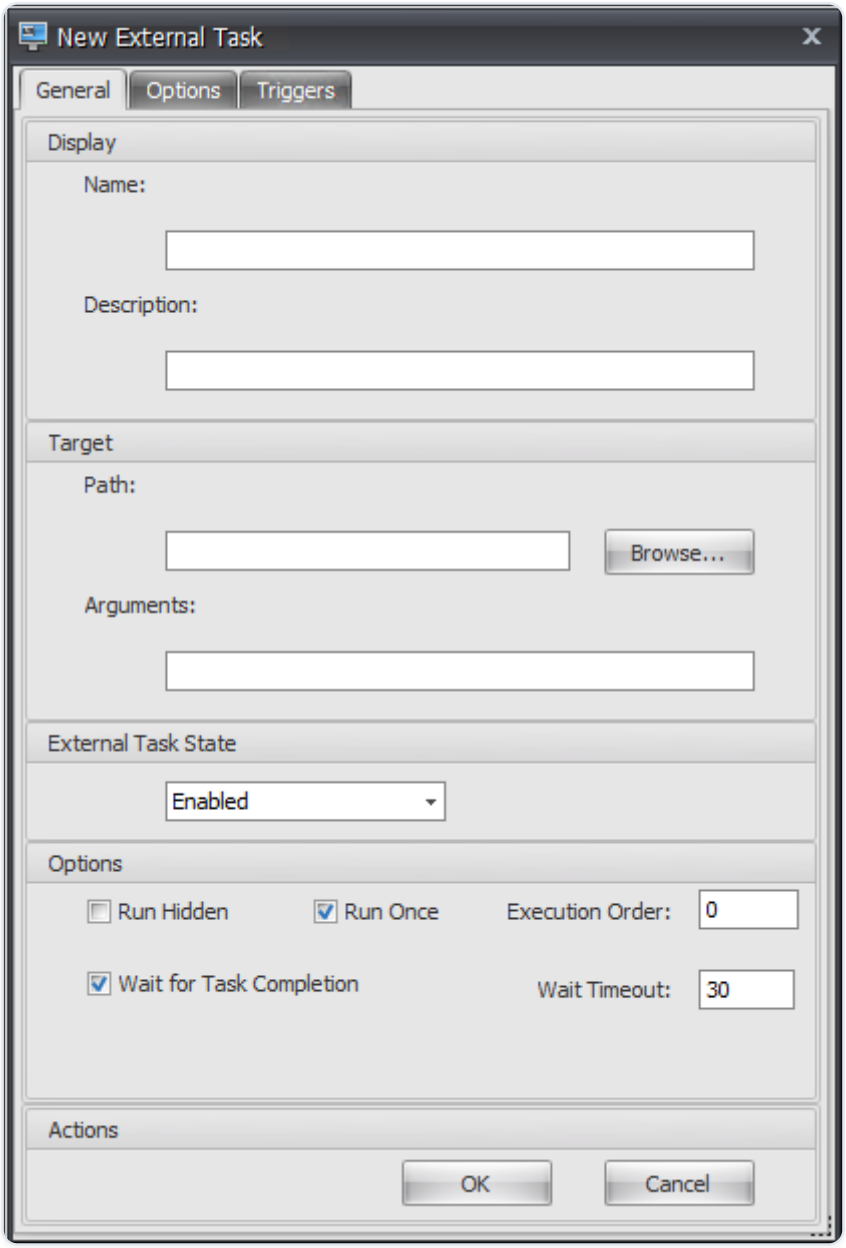
外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール



名前。外部タスクの表示名を指定します。これは外部タスクリストに表示されます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定します。

パス。外部タスクへのパスを指定します。このパスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメータまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはタスクを処理しません。

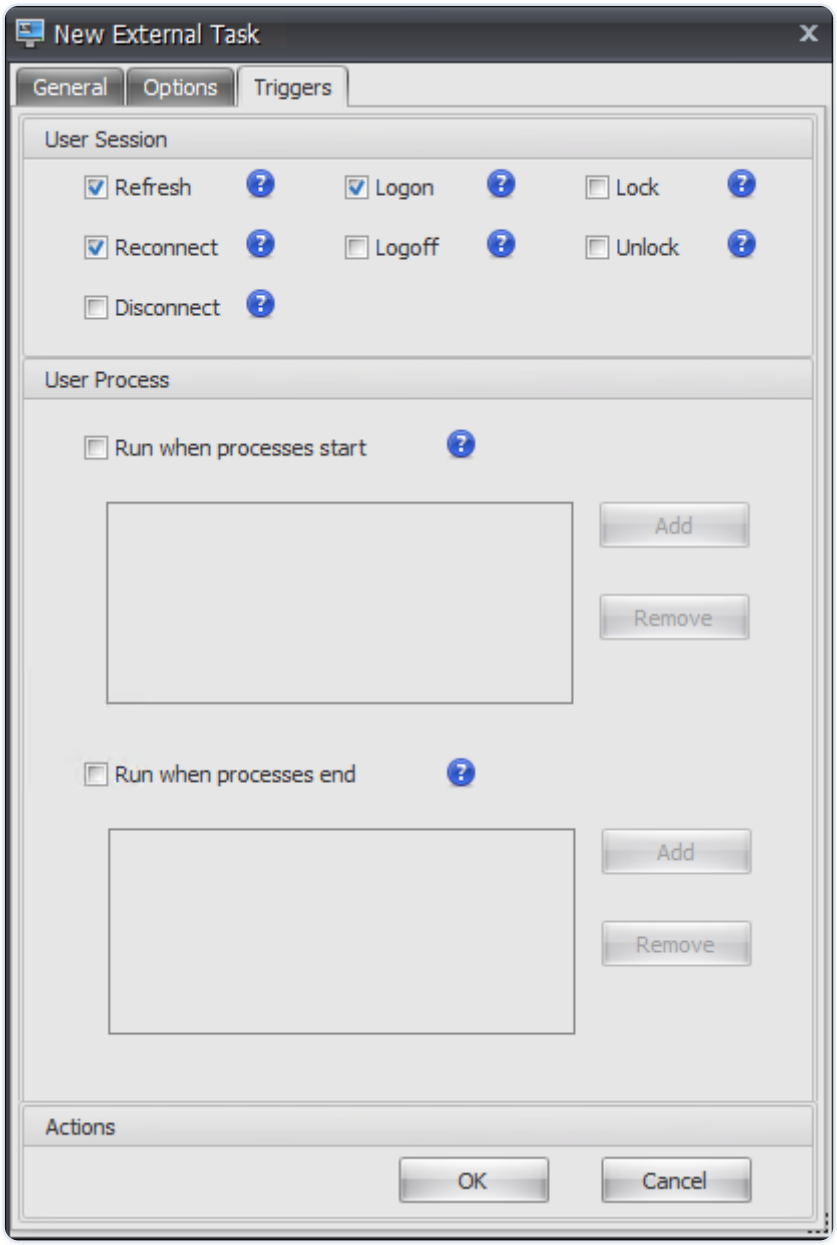
非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、WEM は**トリガー**タブでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動するかどうかに関係なく、タスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクの正常な実行に依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスク、というように実行されます。

タスク完了を待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを記述します。



ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして構成できます。

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。このオプションは、Citrix User Logon Service が実行されていない限り機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **切断**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンから切断したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック解除**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロック解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除オプションを使用する場合は、以下の制約事項を考慮してください。

- これらのオプションの実装は、Windowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11のシングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。(このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。)
- これらのオプションはUIエージェントと組み合わせて使用することをお勧めします。理由は2つあります。
    - CMDエージェントでこれらのオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびに、外部タスクが実行されるかどうかを確認するために、エージェントがユーザー環境で起動します。
    - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセスによるトリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。外部タスクのトリガーとしてプロセスを使用することで、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。
    - WEMエージェントがUIモードで起動し、実行されていること。
    - 指定されたプロセスが、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されていること。

    - 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、「**詳細設定 > 構成 > 詳細オプション**」タブで「**自動更新を有効にする**」を必ず選択してください。

- **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが初めてログオフしたときに、WEMエージェントは`Citrix WEM Agent Logoff.log`という名前のログファイルを作成します。ログファイルはユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。WEMエージェントは、ユーザーがログオフするたびにログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例：PowerShellスクリプト）：

- フォルダーパスとスクリプト名のどちらにも空白が含まれていない場合：
    - 「**パス**」フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
    - 「**引数**」フィールドに、次のように入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  または、「**パス**」フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。「**引数**」フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイルの種類に関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれている場合：
    - 「**パス**」フィールドに、次のように入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
    - 「**引数**」フィールドに、次のように入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例：iexplore.exe）：

- 「**パス**」フィールドに、次のように入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- 「**引数**」フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。クリアされている

場合、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在すると、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、操作を一度だけ実行するようになります。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーアクションがどのような種類のアクションであるかを説明します。**コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作です。シンボリックリンクを作成するには、Windowsでシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに`SeCreateSymbolicLinkPrivilege`権限を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作よりも先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作というように続きます。

ユーザーDSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザーDSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示されるユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバー。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQLサーバーの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はユーザーDSNを更新ごとにではなく、一度だけ作成するようになります。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイル関連付け

> **重要：**

> 構成したファイルの種類関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。**OK** をクリックしてウィンドウを閉じます。同様のウィンドウを再度表示しないようにするには、次の操作を行います: グループポリシーエディターを開き、**「新しいアプリケーションがインストールされました」という通知を表示しない**ポリシー (**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**) を有効にします。

> ユーザー環境でのファイルの種類関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**

> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルの種類関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルの種類が存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザ関連付けの場合は、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザ関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。リストからファイル拡張子を選択すると、この値が自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer (oleview.exe) を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を参照してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子 (ProgID)」を参照してください。

アクション。アクションの種類（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。例: UltraEdit Text Editorの場合: `C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例:

- 開くアクションの場合、`“%1”`と入力します。
- 印刷アクションの場合、`/p"%1"`と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

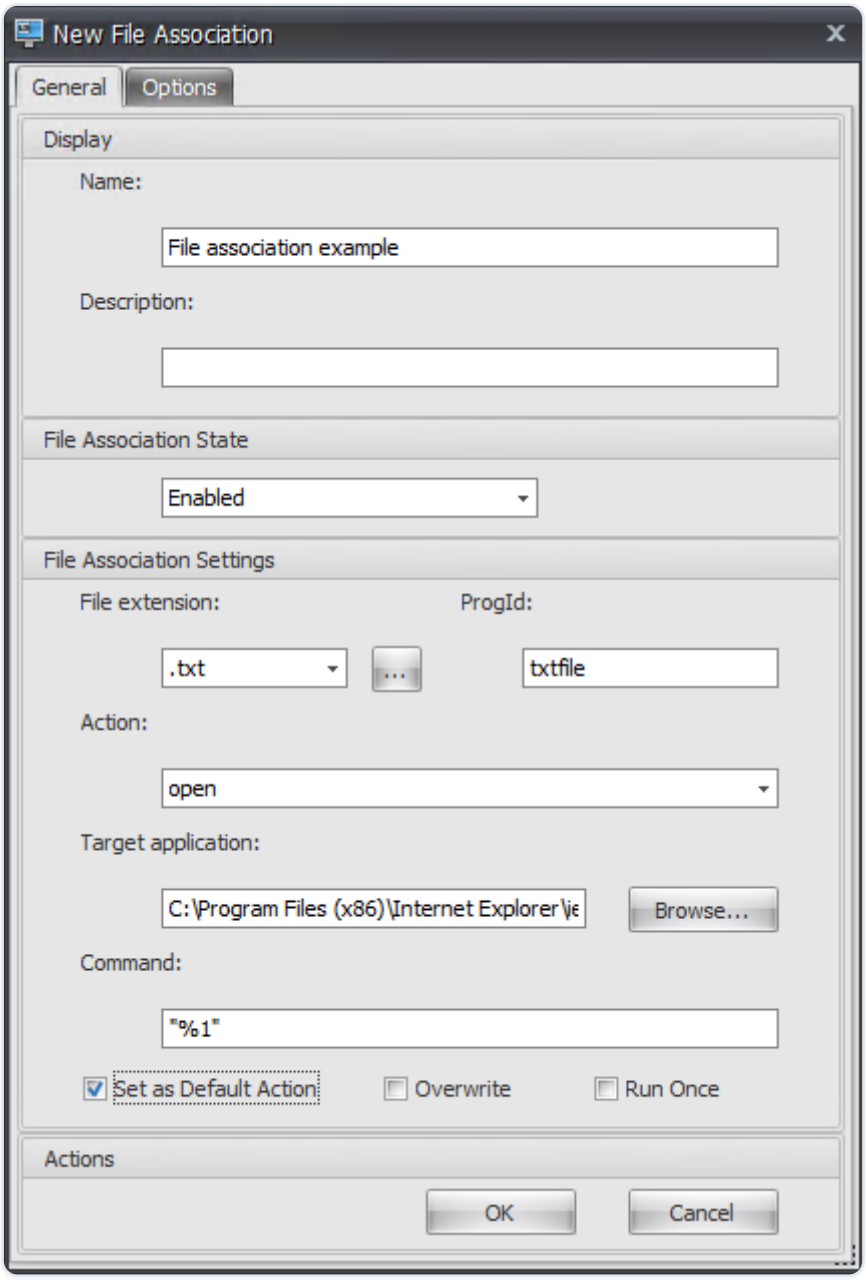
上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが1回作成されます。これにより、特にユーザーに多くのファイル関連付けが割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションタイプ。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム (ここでは iexplore.exe) でテキストファイル (.txt) を自動的に開くように、テキストファイル (.txt) の新しいファイルタイプ関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。



- **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
- **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
- **アクション**。**開く**を選択します。
- **ターゲットアプリケーション**。「**参照**」をクリックして、該当する実行可能ファイル（.exeファイル）に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorerフォルダーにあるiexplore.exeを参照します。
- **コマンド**。「%1」と入力し、%1を二重引用符で囲んでください。
- 「**既定のアクションとして設定**」を選択します。

3. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**」タブに移動します。
4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

5. 「**管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで「**Workspace Agent(s) の更新**」を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルの種類のアソシエーションが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で.txt拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的にInternet Explorerで開きます。

知っておくと良いこと

ブラウザーの関連付け

WEMは、次のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- ファイアフォックス
- オペラ
- インターネット エクスプローラー (IE)
- マイクロソフト エッジ
- マイクロソフト エッジ クロミウム

ブラウザの関連付けを作成する際は、次の点に注意してください。

- **ファイル拡張子**フィールドに、`http`または`https`と入力します。
- **ProgID**フィールドに、選択に応じて以下を入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chromeの場合は`ChromeHTML`
  - Firefoxの場合は`firefox`
  - Operaの場合は`OperaStable`
  - Internet Explorer (IE)の場合は`IE`
  - Microsoft Edgeの場合は`edge`
  - Microsoft Edge Chromiumの場合は`edge`または`MSEdgeHTM`

プログラム識別子 (ProgID)

アクション、**ターゲットアプリケーション**、**コマンド**の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい**ProgID**を指定できる限り、これらのフィールドは空のままで構いません。一般的なアプリケーションのProgIDのリストを以下に示します。

- アクロバットリーダーDC：`AcroExch.Document.DC`
- Operaブラウザ: `OperaStable`
- Google Chromeブラウザ: `ChromeHTML`
- インターネットエクスプローラー：`htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- マイクロソフト Word 2016： `Word.Document.12`
- マイクロソフト PowerPoint 2016： `PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト パブリッシャー 2016：`Publisher.Document.16`

ただし、次の場合には、フィールド（**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**）に入力する必要があります。

- 正しい**ProgID**を提供できない場合。
- ターゲットアプリケーション（例：UltraEdit Text Editor）が、インストール中にレジストリに独自のProgIDを登録しない場合。

フィルター

フィルターには、ユーザーがアクションを利用できるようにする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルター ルール リスト

既存のルールの一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター ルールを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター ルール**ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示されるルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター ルール ステータス。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、エージェントは、割り当てられていてもこのルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注: **DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を期待します。

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済み条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**
>
> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、すべての条件がトリガーされる必要があります。**OR**条件はWEM Webコンソールにのみ適用され、エージェントのバージョンは2210.2.0.1以上である必要があります。詳細については、「フィルターの追加」を参照してください。

条件

条件とは、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を設定できる特定のトリガーです。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名です。

説明。このフィールドは編集/作成ウィザードにのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件タイプ。使用するフィルター条件のタイプです。「フィルター条件」を参照してください。注: 「常にTrue」条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件に対する特定の変更です。「フィルター条件」を参照してください。

> **注:**

> IPアドレスを入力する際、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

> If you specify a range, both bounds must be specified in full. Use the dash character (**-**) to separate IP range bounds (for example **192.168.10.1-192.168.10.5**). Separate multiple ranges or addresses using the semicolon character (**;**) . For example, **192.168.10.1-192.168.10.5;192.168.10.8-192.168.10;192.168.10.17** is a valid value which includes the ranges **.1-.5** and **.8-.10**, plus the individual address **.17**.

割り当て

ヒント:

ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を記載されている順序で実行します。

- ユーザーを構成します。「Active Directory オブジェクト」のユーザーを参照してください。
- 条件を定義します。条件を参照してください。
- フィルター規則を定義します。規則を参照してください。
- アクションを構成します。詳細については、こちらを参照してください。

割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです（「Active Directory オブジェクト」のユーザーを参照）。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューに表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

ヒント:

Active Directory のすべてのユーザーにアクションを割り当てるのを簡素化するには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**アクションモデリングウィザード**の**結果のアクション**タブには表示されません。たとえば、「Everyone」デフォルトグループに action1 を割り当てた後、action1 が**結果のアクション**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当てることができるアクションを表示します。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てるか割り当てを解除します。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するための規則を選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます（アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など）。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー**リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、割り当てリストが入力されます。
2. **利用可能**リストで、アクションを選択し、右矢印 (**>**) ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て**ダイアログで、**フィルター ルール**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**では、**有効化**および**無効化**のコンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

> **注:**
>
> **スタートメニューにピン留め**オプションが機能するためには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダーに存在することを確認してください。不明な場合は、**スタートメニューの作成**オプションも有効にしてください。

> たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。**有効化**オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときにメモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードは、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化したいユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、次の要素で構成されています。

- CPU管理
- メモリ管理
- I/O管理
- 高速ログオフ
- Citrix オプティマイザー

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用できるようになります。そうすることで、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートできるようになり、ユーザー密度が向上します。

システム最適化設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、ユーザーAのセッションでプロセスがCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAのみに記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作はユーザーBのセッション内のプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

以下の設定でCPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM) では、**CPU管理設定**により、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限

できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減するようには設計されていません。これは、過剰な割合のCPU使用率を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、そのプロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動されると、優先度が低いプロセスよりも高い優先度を持ち、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えるまで、CPUスパイク保護はトリガーされません。言い換えれば、CPU消費量全体が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。しかし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントCPU最適化を有効にする」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

例えば、Internet Explorerが時々CPUの50～60%を消費している場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、ご使用の環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試すことをお勧めします。

CPUスパイク保護

> **注:**
>
> - 以下の設定における*CPU使用率*は、物理マシンまたは仮想マシンの*論理プロセッサ*に基づいています。論理プロセッサの総数は、物理マシンまたは仮想マシンのシステム情報

から取得できます。物理マシンまたはVMに合計48個の論理プロセッサがある場合、物理マシンまたはVMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、CPUコア使用率の制限を24に設定します。

CPUスパイク保護を有効にする。プロセスが指定された期間（**制限サンプル時間**フィールドで指定）に指定されたCPU使用率の割合を超えた場合、一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）プロセスのCPU優先度を下げます。

- **CPUスパイクを自動的に防止**。このオプションを使用して、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。例えば、4つのコアがあるとします。このオプションを有効にすると、CPU使用率全体が23%を超えた場合、CPUリソース全体の15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、CPU使用率全体が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズ**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達する必要があるCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンス単位でプロセスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際にCPU使用率が加算されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、iexplore.exeのインスタンスが多数あるとします。各インスタンスは一定期間、CPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。ただし、CPU使用率制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
  - **制限サンプル時間**。プロセスのCPU優先度が下がる前に、CPU使用率制限を超過し続ける必要がある時間。
  - **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が下げられる時間。その後、優先度は次のいずれかに戻ります。
    - **CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。
    - **CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。

    - プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、**CPU優先度**タブでプロセス優先度が指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率を制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、次のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- スブホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエスエス
- オーディオディージー
- MsMpEng
- NisSrv
- エムエスシーオーアールエスブイダブリュー
- ブイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護

を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストからプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

> **ヒント:**
>
> - セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐため、ウイルス対策プロセスに対して静的なI/O優先度を「低」に設定することもできます。I/O管理を参照してください。
> - プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が下げられると、WEMはプロセスのCPU優先度を下げるたびに警告をログに記録します。イベントログの「アプリケーションとサービスログ」にある「WEM Agent Service」で、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPUスパイク保護オプション

CPUスパイク保護をどのように適用するかを選択します。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。このオプションを使用すると、システムCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が90%を超え、プロセスCPU使用率（単一CPUコアに対する相対値）が80%を超えたときに、エージェントがCPUスパイク保護を実行できるようになります。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率のパーセンテージ。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごとのプロセスに基づいて決定されます。単一CPUコアを基準として制限を構成するには、「**単一CPUコアに対する相対制限を設定する**」オプションを使用します。

> **注:**

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。たとえば37.5%のような非整数値を入力すると、8コアプラットフォームで3コア以上を使用するプロセスが制限されます。
- **単一CPUコアに対する制限を設定**。単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。値は100%を超えることも可能で、たとえば200%や250%などです。例: 値が200%に設定されている場合、エージェントは2つ以上のCPUコアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。**単一CPUコアに対する制限を設定**の設定は、WEM Webコンソールでのみ構成できます。
- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**が構成されている場合、グローバルCPU使用率制限または単一CPUコアに対するCPU使用率制限のいずれかに達したときに、先に達した方でCPUスパイク保護がトリガーされます。

CPUスパイク保護をトリガーするプロセスに対して、エージェントは次のことができます。

- **CPUコア使用率制限を有効にする**オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げます。
- **CPUコア使用率制限を有効にする**オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPUスパイク保護を構成する際は、次の点に注意してください。

- 同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際にCPU使用率が加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッションVDAの場合、複数のchrome.exeプロセスが存在します。CPU使用率を計算する際に、それらのCPU使用率は合計されません。

CPUスパイク保護のサンプリング時間

サンプル時間制限。CPUスパイク保護が適用されるまでに、プロセスがCPU使用率制限を超過し続ける必要がある時間。

CPUスパイク保護の優先度低下時間

アイドル優先度時間。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。

プロセス優先度が**CPU優先度**タイルで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。 プロセス優先度が**CPU優**

先度タイルで指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。 プロセスの動作に応じて計算されたランダムなレベル。このケースは、プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

その他のオプション

CPUコア使用率制限を有効にする。このオプションを使用して、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限します。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化し、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。そのため、全体のCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。多数のプロセスがコンピューターで実行されている場合、プロセッサ時間はCPU優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注:**
>
> 特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、全体のCPU消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（CPU優先度が高い）が、依然としてCPU使用率に影響を与えている可能性があります。

> **プロセス優先度を有効にする**。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスCPU優先度の追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子なしのプロセス実行可能ファイル名。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

CPU優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。リアルタイム、高、通常以上、通常、通常以下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、**編集**をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、**削除**をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDA で起動されたメモ帳のすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPUの処理能力の指定された割合以上を使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

注:

- CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、CPUスパイク保護を使用すると同時に、そのようなプロセスに静的CPU優先度とCPUアフィニティを割り当てる方が良いでしょう。CPUクランプは、リソース管理が著しく苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御するために最適です。
- プロセスのCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した場合は、変更を有効にするために**エージェントホスト設定を更新**を選択します。

設定するクランプ率は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUでの10%は、CPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスクランプを有効にする。プロセスクランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でプロセスを追加します。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

> **ヒント:**
>
> - WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
> - また、プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプ率を超えないことを確認することで、CPUクランプが機能していることを検証できます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM はその差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたすべてのメモリは他のプロセスで利用できます。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する。指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余剰メモリを解放させます。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余剰メモリの解放を強制されるまでの時間を指定できます。この間、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされる CPU 使用率の割合を指定できます。デフォルトは 1% です。5% を超える値は使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

合計利用可能メモリが超過した場合に最適化しない (MB)。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値の制限を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します (例: notepad.exe)。

WEM は、以下のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`
- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`

- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

メモリ使用量制限

特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする。プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告：**
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度の低下など、意図しない影響が生じる可能性があります。

- **追加**。メモリ使用量制限を適用するプロセスを追加できます。
- **削除**。項目を削除できます。
- **編集**。項目を編集できます。
- **動的制限**。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリは、指定された量を超える可能性があります。
- **静的制限**。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費しないように制限します。その結果、指定したプロセスが消費するメモリは、指定された量で上限が設定されます。

プロセスを追加するには：

1. 「**管理コンソール > システム最適化 > メモリ管理 > メモリ使用量制限**」タブで、「**追加**」をクリックします。
2. 「**プロセスの追加**」ウィンドウで、追加するプロセスの名前（例：notepad.exe）を入力し、メモリ使用量制限を設定し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、「**OK**」をクリックします。

項目を編集するには、項目を選択して「**編集**」をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して「**削除**」をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して「**動的制限**」をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して「**静的制限**」をクリックします。

I/O管理

これらの設定を使用すると、特定のプロセスのI/O優先度を最適化し、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、ベースよりも高くなる場合があります（ただし、ベースよりも低くなることはありません）。一般に、Windowsは優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O優先度

プロセスI/O優先度を有効にする。プロセスI/O優先度の手動設定を有効にします。

I/O優先度リストにプロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスI/O優先度の追加**ダイアログに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログを閉じます。
3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセス実行可能ファイル名。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

I/O優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。高、標準、低、非常に低から選択します。

プロセスI/O優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、**編集**をクリックします。

I/O優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、**削除**をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたように見えます。ただし、セッション自体はVDAのバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セット内のすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログアウトされ、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。高速ログオフから特定のユーザーグループを除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizerは、ユーザー環境を最適化し、パフォーマンスを向上させます。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM) に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、都合の良いフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして特定の要件を反映させ、そのカスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizerを有効にする。Citrix Optimizerを有効にするか無効にするかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。後でそのテンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を一度だけ実行します。変更には、OSに異なるテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動させることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を一度実行します。

> **注:**
>
> 非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。つまり、マシンが再起動すると、環境へのすべての変更が失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すべきか不明な場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なものを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。異なる名前形式のカスタムテンプレートが利用可能な場合は、このオプションを使用します。コンマ区切りのプレフィックスリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- **削除**。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- **編集**。既存のテンプレートを編集できます。
- **プレビュー**。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリの項目別ビューを表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには:

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer** タブで、**追加** をクリックします。
2. **新しいカスタムテンプレート** ウィンドウで、**参照** をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当するOSを選択し、テンプレートに含まれるグループを設定してから、**OK** をクリックします。

> **重要：**
>
> - Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。追加後、カスタムテンプレートのローカルコピーを保持してください。

> テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、**編集** をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、**削除** をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、**プレビュー** をクリックします。

フィールドとコントロール

テンプレート名。選択したテンプレートの表示名です。

適用可能なOS。オペレーティングシステムのリストです。テンプレートを適用する1つ以上のオペレーティングシステムを選択します。リストにないWindows 10 OSに適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例: 2001;2004。

> **重要：**
>
> 同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。

> **グループ**。**利用可能** ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEMはテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizerの設定変更が有効になるまでには、**Advanced Settings > Configuration > Service Options**タブの**SQL Settings Refresh Delay**オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics**タブのコンテキストメニューに移動し、**Process Citrix Optimizer**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Process Citrix Optimizer**を選択する前に、**Refresh Agent Host Settings**を選択することをお勧めします。

マルチセッション最適化

マルチセッションOSマシンは、1台のマシンから複数のセッションを実行し、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままになり、そのアプリケーションは実行を継続します。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッション最適化を有効にする。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することにより、接続されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられたプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/O優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

指定されたグループを除外する。マルチセッション最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも1つのグループを指定してください。

指定されたプロセスを除外する。マルチセッション最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力してください。少なくとも1つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

これらの設定を使用すると、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- Microsoft USV 設定
- Citrix プロファイル管理 設定

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理され、その他のオプションはエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定の処理。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによってどのスタートメニュー機能が無効になるかを制御します。

> **重要：**

> Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー**の下のオプションは、**システムクロックを非表示**と**コンピューターの電源を切るを非表示**を除いて、機能しない場合があります。

> **ユーザーインターフェイス: 外観**。これらの設定により、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによってどのデスクトップ要素が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定により、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによってどのWindowsエクスプローラー機能が無効になるかを制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションにより、**regedit**または**cmd**へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラーの一部の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピューターメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーからの指定されたドライブの制限。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションも、それらにアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsのコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているもの以外のすべてのコントロールパネルアプレットはユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、正規名を使用して追加されます。

一般的なコントロールパネルアプレットとその正規名を参照してください。

既知のフォルダーの管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

SBC/HVD (Session-Based Computing/Hosted Virtual Desktop) チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションではユーザーエクスペリエンスがわずかに低下する可能性があります。

ユーザー環境: 詳細チューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

フルウィンドウのドラッグを無効にする。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にする。ページを閲覧する際のスムーズスクロール効果を無効にします。

カーソル点滅を無効にする。カーソルの点滅効果を無効にします。

MinAnimateを無効にする。ウィンドウの最小化または最大化時のアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にする。タイムアウト後にタスクを自動的に終了します。

WaitToKillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値（ミリ秒単位）。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソル点滅速度の設定。カーソルの点滅速度を変更します。

メニュー表示遅延の設定。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

インタラクティブ遅延の設定。サブメニューが表示されるまでの遅延（ミリ秒単位）を指定します。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft User State Virtualization (USV) を最適化できます。

移動プロファイル構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft 移動プロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成した USV 設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **移動プロファイル構成**タブと**移動プロファイル詳細構成**タブの設定はマシンレベルであり、オプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定が管理者に適用されるかどうかを制御します。

Windows 移動プロファイルパスの設定。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS 移動プロファイルパスの設定。RDS 移動プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスの設定。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

移動プロファイル詳細構成

以下は、移動プロファイルの高度な最適化オプションです。

フォルダー除外の有効化。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトの Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトの Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループを移動ユーザープロファイルに追加する。有効にすると、管理者グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは操作を実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出がスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーをスキャン**をクリックしてから、プロファイルクリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルをクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルのルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成を処理する。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルのリダイレクトされたフォルダーを削除する。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

Citrix プロファイル管理 設定

> **注:**
>
> 一部のオプションは、特定のバージョンのProfile Managementでのみ機能します。詳細については、Profile Managementドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、現在のバージョンのCitrix Profile Managementの機能と操作をサポートしています。WEM管理コンソールの**Citrix Profile Management設定**（ポリシーとプロファイル内）は、現在のバージョンのCitrix Profile Managementのすべての設定の構成をサポートしています。

WEMを使用してCitrix Profile Management機能を構成するだけでなく、Active Directory GPO、Citrix Studioポリシー、またはVDA上の.iniファイルを使用することもできます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

主な Citrix プロファイル管理 設定

基本的な設定を適用して、Profile Managementの使用を開始します。基本的な設定には、処理されたグループ、除外されたグループ、ユーザーストアなどが含まれます。

Profile Management構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境にProfile Management関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成したProfile Management設定をWEMがエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management設定はエージェントに展開されません。

Profile Managementを有効にする。エージェントマシンでProfile Managementサービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Managementサービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Managementを完全に無効にしたい場合があります。その目的を達成するには、次の手順を実行します。

1. **Profile Managementを有効にする**チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでにかかる時間は、詳細設定で**SQL設定の更新遅延**に指定した値によって異なります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホスト設定を更新し、関連するすべてのエージェントのProfile Management設定をリセットします。管理を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Profile Management構成を有効にする**チェックボックスをオフにします。

処理するグループを設定する。Profile Managementによって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみがProfile Management設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外するグループを設定する。Profile Managementから除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、ローカル管理者のログオンは、Profile Managementでは非管理者のログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定。ユーザー ストア フォルダーへのパスを指定できます。

ユーザー ストアの移行。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。このオプションは、**ユーザー ストアへのパスを設定**オプションと組み合わせて使用します。

アクティブな書き戻しを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。

- **アクティブなレジストリ書き戻しを有効にする**。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリ エントリがユーザー ストアに書き戻され、データ損失を防ぎます。
- **セッションのロックと切断時にアクティブな書き戻しを有効にする**。有効にすると、プロファイル ファイルとフォルダーは、セッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。このオプションと**アクティブなレジストリ書き戻しを有効にする**オプションの両方が有効になっている場合、レジストリ エントリは、セッションがロックまたは切断された場合にのみ書き戻されます。

オフライン プロファイル サポートを有効にする。有効にすると、プロファイルは接続されていないときに使用するためにローカルにキャッシュされます。

プロファイル コンテナー設定

これらのオプションは、Profile Management のプロファイル コンテナー設定を制御します。

プロファイル コンテナーを有効にする。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイル ディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカル プロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイル コンテナーに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

フォルダーの除外を有効にする。有効にすると、Profile Management はリストされたフォルダーをプロファイル コンテナーから除外します。プロファイル コンテナーから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

フォルダーの包含を有効にする。有効にすると、Profile Management は、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイル コンテナーに保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。これは、このオプションを**プロファイル コンテナーのフォルダー除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイル コンテナーに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイル コンテナーへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、プロファイル コンテナーは一度に1つのアクセスのみを許可します。

プロファイル コンテナーのVHD自動拡張を有効にする。有効にすると、プロファイル コンテナーが使用率90%に達したときに、自動的に10 GB拡張され、最大容量は80 GBになります。必要に応じて、次のオプションを使用してデフォルトの自動拡張設定を調整できます。

- **自動拡張トリガーしきい値（%）。**プロファイル コンテナーが自動拡張をトリガーするストレージ容量の使用率を指定できます。
- **自動拡張増分（GB）。**自動拡張がトリガーされたときにプロファイル コンテナーが自動的に拡張するストレージ容量（GB単位）を指定できます。
- **自動拡張制限 (GB)。** 自動拡張がトリガーされたときに、プロファイルコンテナが自動的に拡張できる最大ストレージ容量 (GB単位) を指定できます。

プロファイルコンテナにアクセスするユーザーとグループを設定します。 プロファイルコンテナに対する読み取りおよび実行権限を持つADドメインユーザーとグループを指定できます。デフォルトでは、プロファイルコンテナはその所有者のみがアクセスできます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Managementのプロファイル処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除する。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルキャッシュプロファイルが削除されます。

キャッシュプロファイルの削除前の遅延を設定する。ログオフ時にキャッシュプロファイルが削除されるまでの遅延時間 (秒単位) を指定できます。

既存プロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルは自動的に移行されます。ユーザーがログオンし、ユーザー ストアにユーザープロファイルがない場合、Profile Managementは移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Profile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合のCitrix Workspace™ Environment Managementの処理方法を設定します。

テンプレートプロファイルを有効にする。有効にすると、指定された場所のテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルが移動プロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix強制プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

詳細設定

これらのオプションは、Profile Managementの詳細設定を制御します。

アプリケーション

Microsoft Outlookユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有のMicrosoft Outlookオフラインフォルダーファイル（*.ost）とMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。この機能により、Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook検索インデックスデータベース – バックアップと復元**。有効にすると、Profile Managementは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Managementはそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合でも、手動でデータベースを再インデックスする必要がなくなります。
- **同時セッションサポートを有効にする**。同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイルを使用します。
    - **Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数**。Outlook OSTファイルを保存するためのVHDXディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OSTファイルを保存するために使用できるVHDXディスクは2つのみです（ディスクごとに1ファイル）。さらにセッションが開始されると、それらのOutlook OSTファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値：1〜10。

OneDriveコンテナを有効にする。有効にすると、Profile ManagementはOneDriveフォルダーをVHDXディスクに保存することで、ユーザーとともにローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

UWPアプリのローミングを有効にする。有効にすると、UWP（Universal Windows Platform）アプリがユーザーとともにローミングされます。その結果、ユーザーは異なるデバイスから同じUWPアプリにアクセスできます。

UWPアプリの読み込み高速化を有効にする。UWPアプリの読み込みを高速化し、非永続環境での一貫性を向上させることができます。デフォルトでは、WindowsはUWPアプリの登録情報を各マシンにローカルに保存しますが、非永続環境では再起動時に失われる可能性があります。このポリシーを有効にすると、Profile Managementは各マシン用にVHDXコンテナを作成してUWPアプリの登録データを保存し、ユーザーログオンを高速化し、再起動時のデータ損失を防ぎます。

アプリケーション定義ファイルの使用を有効にする。定義ファイルへのパスを入力できます。有効にすると、定義ファイルに含まれる設定のみが同期されます。Citrix仮想アプリ最適化定義ファイルが配置されているフォルダーを指定します。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

VHD設定

VHDコンテナのデフォルト容量（GB）。各VHDコンテナのデフォルトのストレージ容量（GB単位）を指定できます。

VHDXファイルの保存パスをカスタマイズする。VHDXファイルを保存するための個別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。VHDXファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlookの検索インデックスローミング、フォルダーミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーのVHDXファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダーに保存されます。

VHDディスクの圧縮を有効にする。有効にすると、特定の条件が満たされた場合に、ユーザーログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダーコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。ニーズと利用可能なリソースに応じて、詳細設定の**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**、**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定する**、および**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**オプションを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます。

- **VHDディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を設定する**。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーする解放可能領域比率を指定で

きます。ユーザーログオフ時に解放可能領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。

- 解放可能領域比率 = (現在のVHDファイルサイズ – 必要な最小VHDファイルサイズ*) ÷ 現在のVHDファイルサイズ

  Microsoft Windowsオペレーティングシステムの`MSFT_Partition`クラスの`GetSupportedSize`メソッドを使用して取得されます。

- **VHD ディスク圧縮のデフラグを無効にする**。VHD ディスク圧縮を有効にする が有効な場合に適用されます。VHD ディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。
- **VHD ディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**。VHD ディスク圧縮を有効にする が有効な場合に適用されます。VHD ディスク圧縮をトリガーするユーザーログオフの回数を指定できます。前回の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

プロファイルコンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、プロファイルコンテナは一度に1つのアクセスを許可します。

OneDrive コンテナへの排他的アクセスを有効にする。有効にすると、OneDrive コンテナは一度に1つのアクセスを許可します。

ユーザー ストア

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。WEM エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を構成します。サポートされる値: 0〜100。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Management は、**ユーザーストアへのパスを設定**オプションで指定されたパスに加えて、ログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたファイルとフォルダをユーザーストアに同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システム I/O が増加し、ログオフが長くなる可能性があります。

デフォルトでは、複数のユーザーストアが利用可能な場合、Profile Management は最新のプロファイルデータを持つストアを選択します。複数のストアが最新のプロファイルを持っている場合、Profile Management は最も早く構成されたストアを選択します。**ユーザーストア選択方法**オプションを使用すると、Profile Management が最適なアクセスパフォーマンスを持つストアを選択するように設定できます。

コンテナベースのプロファイルソリューションで**ユーザーストアをレプリケート**ポリシーを有効にすると、セッション全体のプロファイル冗長性を確保するために、**ユーザーストア間のセッション内ポリシーコンテナフェールオーバーを有効にする**ポリシーが自動的に有効になります。

このポリシーが有効になっている場合、セッション中に Profile Management がアクティブなプロファイルコンテナへの接続を失うと、自動的に別の利用可能なコンテナに切り替わります。このポリシーを無効にすると、プロファイルコンテナのフェールオーバーはユーザーログオン時にのみ発生します。

注:

このポリシーを有効にするには、展開でプロファイルコンテナのみが有効になっている必要があります。**OneDrive**、**UWP**、**Outlook**、**フォルダミラーリング**、**保留領域のプロファイルストリーミング**などの他のコンテナが有効になっている場合、このポリシーは適用されません。

ユーザーストアへの資格情報ベースのアクセスを有効にする。無効にすると、Profile Management は現在のユーザーを偽装してユーザーストアにアクセスします。したがって、現在のユーザーがユーザーストアに直接アクセスできることを確認してください。有効にすると、Profile Management は、詳細設定 > ファイル共有 > SMB 共有 で関連サービス用に構成された接続を介して、ユーザーに代わってユーザーストアにアクセスします。（必要に応じて、Profile Management はユーザーストアをホストする選択された SMB 共有にアクセスします。）この設定を有効にすると、現在のユーザーがアクセス権を持たないファイル共有（Azure Files など）にユーザーストアを配置できます。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- ユーザーストアをホストする SMB 共有を追加するには、**詳細設定 > ファイル共有 > SMB 共有**に移動します。
- 関連サービス用に**ファイル共有**で選択した SMB 共有がここに表示されます。Profile Management は、必要に応じて選択された SMB 共有にアクセスします。

重要:

この設定を無効にすると、WEM エージェントが以前に確立したすべてのユーザーストア接続が削除されます。

- 資格情報を追加または編集するときは、次のフィールドに入力します。
  - **サーバー共有**。サーバー共有を指定する UNC パスを入力します。
  - **ユーザー名**。`domain\username` の形式で名前を入力します。

- **パスワード**。サーバー共有へのアクセスに使用するパスワードを入力します。
- **パスワードを表示**。パスワードを表示するか非表示にするかを制御します。

その他のオプション

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Management は、次回のユーザーログオン時の処理モード（同期処理モードまたは非同期処理モード）を決定するために Windows が使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合は、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されるようになります。無効にすると、ユーザーが次の条件に該当する場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するオプションが有効になっている同じマシンにログオンする。

ログオフ時にインターネットクッキーファイルを処理する。有効にすると、古いクッキーはログオフ時に削除されます。

プロファイルサイズがクォータを超過した場合にユーザーに警告する。有効にすると、プロファイルサイズがクォータを超過したときにユーザーに通知メッセージが送信されます。この機能を使用すると、デフォルト設定に基づいてクォータ制限と通知内容をカスタマイズできます。サポートされるクォータ範囲は0～100,000 MBです。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合にユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラムに参加する。有効にすると、Profile Management はカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) を使用して、匿名統計と使用状況情報を収集することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIPの詳細については、Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム (CEIP) について を参照してください。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management のログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management 操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定の構成。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルへのパスを設定。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Managementのレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DATのバックアップ。選択すると、Profile ManagementはNTUSER.DATファイルの最後に正常だったバックアップを保持します。Profile Managementが破損を検出した場合、最後に正常だったバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルトの除外リストを有効にする。HKCUハイブ内のレジストリキーのデフォルトリストで、ユーザープロファイルに同期されません。選択すると、このリストで選択されたレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの含める設定を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Managementプロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Managementのファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Managementが何を行うかを構成します。（無効の場合、デフォルトの動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です）。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する（デフォルト）。ユーザーがログオンすると、Profile Managementはこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザーストアからローカルプロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。ユーザーがログオンすると、Profile Managementはユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。ユーザーがログオンすると、Profile Managementはユーザーストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

デフォルトの除外リストを有効にする - ディレクトリ。同期中に無視されるディレクトリのデフォルトリスト。選択すると、このリストで選択されたフォルダーはProfile Managementの同期から除外されます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザーのProfile Managementプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがProfile Managementプロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーのProfile Managementプロファイルに含まれません。これにより、ユーザーがProfile Managementプロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことが知られている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトのWindows 7除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトのWindows XP除外を事前に入力することもできます。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーのスキャン**をクリックし、**プロファイルクリーナー**ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルのクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルのクリーンアップ。フォルダー除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーのスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

同期

これらのオプションは、Profile Managementの同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルがユーザー ストアに保持されます。

フォルダーミラーリングを有効にする。有効にすると、ログオフ時にリストされたフォルダーがユーザー ストアにミラーリングされ、ユーザー ストアに保存されているミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと同じであることを保証します。フォルダーミラーリングの仕組みの詳細については、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されたかどうかに関わらず、セッションログオフ時に常にユーザー ストアに保存されているファイルを上書きします。
- ミラーリングされたフォルダー内のローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルとサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

「**ラージファイル処理を有効にする**」。有効にすると、サイズの大きいファイルはユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でこれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**
>
> 一部のアプリケーションでは、ファイルの同時アクセスが許可されていません。Citrixでは、ラージファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮することをお勧めします。

ストリーム配信されるユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーム配信されるユーザープロファイルの設定を制御します。

「**プロファイルストリーミングを有効にする**」。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

「**フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする**」。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅を節約し、ファイルの同期時間を短縮できます。

「**保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする**」。有効にすると、保留領域のファイルは要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオで最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの一貫性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダーは、ログオン時にローカルプロファイルにフェッチされます。

「**常にキャッシュする**」。有効にすると、指定されたサイズ（MB単位）以上のファイルは常にキャッシュされます。

「**保留領域のロックファイルのタイムアウトを設定する**」: サーバーが応答しなくなったときにユーザー ストアがロックされたままの場合、指定された時間後に保留領域からユーザー ストアにファイルが書き戻されるようにファイルを解放します。

「**ストリーム配信されるユーザープロファイルグループを設定する**」。このリストは、ストリーム配信されるプロファイルがどのユーザーグループに使用されるかを決定します。

「**プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする**」。選択すると、Profile Managementはこのリスト内のフォルダーをストリーム配信せず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザー ストアからローカルコンピューターにすぐにフェッチされます。

ファイル重複排除

これらのオプションは、Profile Managementのファイル重複排除設定を制御します。

さまざまなユーザープロファイル間で同一のファイルが存在する可能性があります。これらのファイルをユーザー ストアから分離し、一元的な場所に保存することで、重複を回避してストレージスペースを節約できます。ユーザー ストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ユーザープロファイルに対する相対パスでファイル名を指定します。

「**ファイルインクルージョンを有効にする**」。有効にすると、Profile Managementは共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルをユーザー ストア内の各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避してユーザー ストアの負荷を軽減し、ストレージコストを削減できます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、**ファイル包含を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも1つ指定します。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効になっている場合、このセクションの設定は処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定する。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定する。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定する。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

アプリケーションアクセス制御

この機能を使用すると、エンドユーザーのアプリケーションへのアクセスを制御したり、ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーに対するマシンレベルのリダイレクトを適用したりするためのルールを追加できます。

ルールを作成する方法は2つあります。

- GUIベースのツール - WEM Tool Hub > アプリケーションアクセス制御用ルールジェネレーター
- PowerShell ツール – Profile Management インストールパッケージに含まれています

フォルダーリダイレクト

この機能を使用すると、ローカルフォルダーのパスを新しい場所にリダイレクトするためのルールセットを構成できます。各ルールセットは、フォルダーにアクセスするユーザーに基づいて、フォルダーをリダイレクトする場所を指定します。ルールセットには主に以下が含まれます。

- **リダイレクトルール。**リダイレクトするローカルフォルダーと、リダイレクト先（ネットワークの場所など）を指定します。
- **割り当て。**リダイレクトルールを割り当てるユーザーを指定します。

構成セットにルールセットを追加するには、次の手順に従います。

1. ターゲット構成セットの**プロファイル管理設定**ページに移動します。
2. 検索ボックスの上にある**フォルダーリダイレクト**リンクをクリックします。
3. 表示された**フォルダーリダイレクト**ページで、**ルールセットの追加**をクリックします。
4. 表示された**ルールセットの追加**ページで、次の手順に従って設定を完了します。
    a. **リダイレクトルール**ページで、リダイレクトするフォルダーを選択し、リダイレクト先を指定して、**次へ**をクリックします。

- フォルダーは、ネットワークの場所、ユーザーのホームディレクトリ（特定のフォルダーのみ）、またはローカルユーザープロファイルの場所にリダイレクトできます。
- デフォルトでは、**コンテンツを新しい場所に移動**オプションが選択されており、リダイレクトターゲットパスを設定または変更すると、以前のパスのコンテンツが自動的に新しいパスに移動されることを示します。この動作を防ぐには、このオプションをオフにします。

b. **割り当て**ページで、リダイレクトルールを割り当てるユーザー、グループ、またはOUを選択し、**次へ**をクリックします。デフォルトのグループには、**Everyone**と**Administrators**が含まれます。グループを追加するには、**新しいターゲットの追加**をクリックします。

c. **追加設定**ページで、ルールセットの次の設定を指定し、**次へ**をクリックします。

- **管理者へのアクセスを許可**: **ローカル管理者**グループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。デフォルトでは、これらのパスはプロファイル所有者のみがアクセスできます。
- **特定のユーザーとグループへのアクセスを許可**: 特定のユーザーとグループにリダイレクトターゲットパスへのアクセスを許可するかどうか。このオプションを選択した後、必要に応じてユーザーとグループを指定するには、をクリックします。
- **ドメイン名を含める**: %userdomain% 環境変数をUNCパスの一部として含めるかどうか。
- 数値を入力して、このルールセットの優先度を設定します。数値が大きいほど優先度が高くなります。複数のルールセットが同じターゲットに適用される場合、優先度の高い方が適用されます。

d. このルールセットのわかりやすい名前を入力し、設定を確認します。調整するには、左ペインで対応する手順をクリックします。

e. 「**完了**」をクリックします。

> **注:**
>
> 現在、新しく展開されたルールセットを有効にするには、エンドユーザーは2回ログオンする必要があります。

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要：**

> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLocker インターフェイスまたは Workspace Environment Management を使用します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方のアプローチを同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能は Windows AppLocker に似ています。

Workspace Environment Management を使用して Windows AppLocker ルールを管理する場合、エージェントは タブのルールをエージェントホスト上の Windows AppLocker ルールに処理 (変換) します。エージェントによるルール処理を停止しても、ルールは構成セットに保持され、AppLocker はエージェントによって処理された最後の命令セットを使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在の Workspace Environment Management 構成セットのアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

セキュリティタブでトップレベル項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、ルール処理を有効または無効にするための次のオプションが利用可能になります。

- **アプリケーションセキュリティルールを処理する**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択しない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールをAppLockerルールに処理しません。(この場合、AppLockerルールは更新されません。)

  > **注:**

> このオプションは、Workspace Environment Management 管理コンソールが Windows 7 SP1 または Windows Server 2008 R2 SP1 (またはそれ以前のバージョン) にインストールされている場合は使用できません。

- **DLL ルールを処理する**。選択すると、エージェントは現在の構成セットの DLL ルールをエージェントホスト上の AppLocker DLL ルールに処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールを処理する**を選択した場合にのみ使用できます。

> **重要：**
>
> DLL ルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各 DLL に対して、「許可」権限を持つ DLL ルールを作成する必要があります。

> **注意:**
>
> DLL ルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。これは、AppLocker がアプリがロードする各 DLL を実行が許可される前にチェックするためです。

- **上書き**および**マージ**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールを処理する方法を決定できます。
  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。ルールを既存のルールとマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは値が異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数（例：(12)）が示されます。コレクション名をクリックすると、ルールリストを以下のいずれかのコレクションにフィルタリングできます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。以下の形式のファイル（.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js）を含むルール。
- **パッケージルール**。パッケージアプリ（ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれる）を含むルール。パッケージアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージアプリのパブリッシャールールのみをサポートします。
- **DLLルール**。以下の形式のファイル（.dll、.ocx）を含むルール。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、AppLockerがエージェントホスト上のそのコレクション内のすべてのルールをどのように適用するかを制御する**ルール適用**オプションが利用可能になります。以下のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールは作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールは作成され、「適用」に設定されます。これは、ルールがエージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールは作成され、「監査」に設定されます。これは、ルールがエージェントホスト上で非アクティブな状態であることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行すると、そのアプリは実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。
2. AppLockerからエクスポートされた、AppLockerルールを含むXMLファイルを参照します。
3. **インポート** をクリックします。

ルールはアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「Executable Rules」コレクションを選択します。
2. をクリックします。
3. セクションで、次の詳細を入力します。
   - **名前**。ルールリストに表示されるルールの表示名。
   - **説明**。リソースに関する追加情報（オプション）。
4. セクションで、オプションをクリックします。
   - **パス**。ルールはファイルパスまたはフォルダーパスと一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
5. セクションで、このルールがアプリケーションの実行を**許可**するか**拒否**するかをクリックします。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、 ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「Assigned」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して複数の選択を行うか、 を使用してすべての行を選択できます。
> - ユーザーは、Workspace Environment Management Usersリストにすでに登録されている必要があります。
> - ルールは作成後に割り当てることができます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する条件を指定します。
   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーを選択すると、そのフォルダー内およびその下のすべてのファイルにルールが一致します。

- **発行元**。ルールの参照として使用する署名済み参照ファイルを指定し、発行元情報スライダーを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
- **ハッシュ**。ハッシュを作成するファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。

9. **次へ**をクリックします。
10. 必要な例外を追加します（オプション）。 で例外タイプを選択し、**追加**をクリックします。（必要に応じて例外を**編集**および**削除**できます。）
11. ルールを保存するには、**作成**をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターで、ルールを割り当てるユーザーおよびユーザーグループを含む行を選択し、**OK**をクリックします。**すべて選択**を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールを全員から割り当ても解除できます。

注: 複数のルールを選択して**編集**をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーおよびユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当てはそれらのルール間でマージされます。

デフォルトのルールを追加するには

デフォルトのルールを追加をクリックします。AppLockerのデフォルトルールセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターが表示され、選択内容に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**削除**をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドによって作成されたXMLファイルからアプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに表示されます。

復元プロセス中に、現在の構成セットのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。不一致のルールは復元されますが、割り当てられていないままになります。復元後、それらはCSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに表示されます。

1\. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。

2\. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。

3\. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。

4\. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

5\. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。ルールを復元し、現在の構成セットの同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てられていないままにします。

6\. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたはブロックリストに追加できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリスト上のプロセスが有効になるかどうかを切り替えます。無効にすると、**プロセスブラックリスト**タブと**プロセスホワイトリスト**タブの設定は考慮されません。

> **注:**

> このオプションは、セッションエージェントがユーザーセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、**メイン構成**エージェント設定を使用して、ユーザー/セッションタイプに応じて起動するように**エージェントの起動**オプション（**ログオン時/再接続時/管理者用**）を設定し、**エージェントの種類**を「UI」に設定します。これらのオプションについては、詳細設定で説明されています。

プロセスブロックリスト

これらの設定を使用すると、特定のプロセスをブロックリストに追加できます。

プロセスブラックリストを有効にする。ブロックリスト上のプロセスの処理を有効にします。プロセスは、実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用して追加する必要があります。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定を使用すると、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。許可リスト上のプロセスの処理を有効にします。プロセスは、実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用して追加する必要があります。**注** 有効にすると、**プロセスホワイトリストを有効にする**は、許可リストにないすべてのプロセスを自動的にブロックリストに追加します。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

特権の昇格

> **注:**

> この機能はCitrix仮想アプリには適用されません。

> 特権昇格機能を使用すると、非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格

セキュリティで**特権昇格**ペインを選択すると、次のオプションが表示されます。

- **特権昇格設定の処理**。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、**特権昇格**タブの他のオプションが利用可能になります。
- **Windows Server OSに適用しない**。特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンでは機能しません。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **RunAsInvokerを強制**。すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するよう求められません。

このタブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**実行可能ファイルルール**または**Windowsインストーラールール**をクリックして、ルールリストを特定のルールタイプにフィルタリングします。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ファイルルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して適用できます。

- **実行可能ファイルルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsインストーラールール**。アプリケーションに関連付けられた.msiおよび.msp拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi`および`.msp`のWindowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ファイルルールに一致するとします。指定された実行可能ファイルルー

ルで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された特権を取得できません。

実行可能ファイルルールタブまたは**Windowsインストーラールール**タブをクリックすると、**アクション**セクションに、利用可能な次のアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ファイルルールを編集できます。
- **削除**。既存の実行可能ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。実行可能ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **実行可能ルール**または**Windowsインストーラールール**に移動し、**ルールの追加**をクリックします。**ルールの追加**ウィンドウが表示されます。
2. **表示**セクションで、以下を入力します。
   - **名前**。ルールの表示名を入力します。名前はルールリストに表示されます。
   - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **種類**セクションで、オプションを選択します。
   - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. **設定**セクションで、必要に応じて以下を構成します。
   - **子プロセスに適用**。選択すると、実行可能ファイルが開始するすべての子プロセスにルールが適用されます。より詳細なレベルで特権昇格を管理するには、次のオプションを使用します。
     - **同じフォルダー内の実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、同じフォルダーを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - **署名された実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
     - **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用する**。選択した場合、同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは機能しません。

> **注:**

> Windowsインストールルールを追加すると、「**子プロセスに適用**」設定はデフォルトで有効になり、編集することはできません。

- **開始時刻**。エージェントがルールの適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **パラメータの追加**。指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定するパラメータが正しいことを確認してください。この機能の使用例については、「パラメータ付きで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空であるか、空白のみが含まれている場合、エージェントは、パラメータ付きで実行されるかどうかにかかわらず、関連する実行可能ファイルに特権昇格を適用します。
- **正規表現を有効にする**。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. 「**割り当て**」セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーとユーザーグループにルールを割り当てる場合は、「**すべて選択**」を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、「**管理 > ユーザー**」タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - ルールは後で（作成後に）割り当てることもできます。

6. **次へ**をクリックします。
7. 次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要です。

> **重要：**

> WEMは、実行可能ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得するための「**AppInfoViewer**」というツールを提供します。このツールは、管理コンソールで構成するアプリケーションに関連情報を提供する場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションセキュリティ機能を使用する際に、アプリケーションから関連情報を抽出するためにこのツールを使用できます。このツールはエージェントのインストールフォルダにあります。

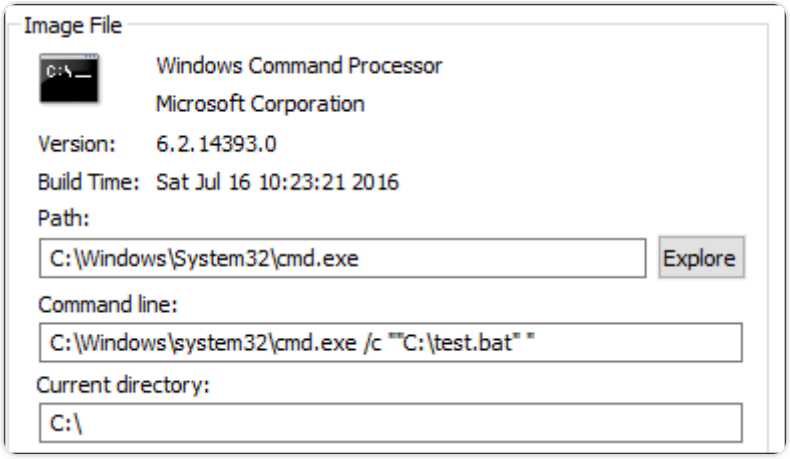
- **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って 実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。次のフィールドに入力します: 「**発行元**」、「**製品名**」、「**ファイル名**」、「**ファイルバージョン**」。いずれのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEMエージェントは、発行元情報に従ってルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
- **ハッシュ**。「**追加**」をクリックしてハッシュを追加します。「**ハッシュの追加**」ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。「**AppInfoViewer**」ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダからハッシュを作成できます。WEMエージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

8. 「**作成**」をクリックして、ルールを保存し、ウィンドウを終了します。

パラメータ付きで実行される実行可能ファイル

指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。実行可能ファイルで利用可能なパラメータを確認するには、Process ExplorerやProcess Monitorなどのツールを使用します。それらのツールに表示されるパラメータを適用します。

実行可能ファイルのパスに基づいて、実行可能ファイル（たとえば、cmd.exe）にルールを適用したいとします。`test.bat`にのみ特権昇格を適用したいとします。パラメータを取得するには、Process Explorerを使用できます。



「**パラメータの追加**」フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、「**パス**」フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定されたユーザーの特権は、`test.bat`に対してのみ管理者レベルに昇格されます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストで1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**編集**」をクリックします。「**ルールの編集**」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**削除**」をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべての特権昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。「**復元**」を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる「**バックアップ**」ウィザードを使用します。「**バックアップ**」ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

特権昇格ルールを復元するには

Workspace Environment Managementバックアップウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、特権昇格ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > 特権昇格**ペインに切り替えるか更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクス

ポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、特定のユーザーに対して、事前に正確な実行可能ファイルを提供することなく、特権昇格を自動化できます。これらのユーザーは、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**を選択するだけで、該当するファイルの自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。WEMエージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

自己昇格は、次の形式のファイルに適用されます: `.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`、および`.vbs`。

> **注:**
>
> デフォルトでは、特定のアプリケーションが一部のファイルの実行に使用されます。たとえば、cmd.exeは.cmdファイルを実行するために使用され、powershell.exeは.ps1ファイルを実行するために使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更することはできません。

> **セキュリティ > 自己昇格**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **自己昇格を有効にする**。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。このオプションを選択すると、次のことができます。
  - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
  - **自己昇格**タブの他のオプションを使用可能にします。
  - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**オプションを使用できるようにします。その結果、ユーザーは**自己昇格**タブで指定した条件に一致するファイルの自己昇格を要求できます。
- **権限**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

  - **許可**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
  - **拒否**。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。

- 以下の操作を実行できます。
  - **編集**。既存の条件を編集できます。
  - **削除**。既存の条件を削除できます。
  - **追加**。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。

- **設定**。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
  - **子プロセスに適用**。選択した場合、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件を適用します。
  - **開始時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を開始する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
  - **終了時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。

- **割り当て**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。すべてのユーザーおよびユーザーグループに条件を割り当てるには、**すべて選択**をクリックするか、**全員**を選択します。**すべて選択**チェックボックスは、選択をクリアしてユーザーおよびユーザーグループを再選択したいシナリオで役立ちます。

特権昇格アクティビティの監査

WEMは、特権昇格に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子シナリオにおいて、特定の親プロセスから特定の子プロセスを開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することでルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> **注:**

> - この機能はCitrix仮想アプリにのみ適用されます。

> ルールの仕組みを理解するために、次の点に留意してください。

- プロセスには1つのルールのみが適用されます。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール1：WordはCMDを開くことができません。
  - ルール2：メモ帳はCMDを開くことができます。

  この2つのルールがある場合、ルールの優先度に関係なく、まずWordを開き、次にWordからメモ帳を開くことで、メモ帳からCMDを開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorerツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Citrix Studioで**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe**は、公開されたアプリケーションが開始する前にWEMエージェントが設定の処理を完了するようにします。Citrix Studioで、次の手順を完了します。

1. 「**アプリケーション**」でアプリケーションを選択し、アクションペインで「**プロパティ**」をクリックし、「**場所**」ページに移動します。
2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
   - 「**実行可能ファイルへのパス**」フィールドに、次のように入力します: <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。
3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

- 「**コマンドライン引数**」フィールドに、**VUEMAppCmd.exe**を介して起動したいアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
- たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介してiexplore.exeを起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するためには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。(このツールはエージェントのインストールフォルダーにあります。) このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。機能が有効になっている場合、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後にエージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで**レジストリエディター**を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、以下の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。
- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、以下のオプションが表示されます。

- **プロセス階層制御を有効にする**。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、**プロセス階層制御**タブの他のオプションが利用可能になり、そこで設定された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開で*のみ*使用できます。
- **コンテキストメニューからを非表示にする**。Windowsの右クリックコンテキストメニューから**プログラムから開く**オプションを表示するか非表示にするかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションは表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く**オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクションセクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールを追加**をクリックします。**ルールを追加**ウィンドウが表示されます。
2. **表示**セクションで、次のように入力します。
    - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
    - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **種類**セクションで、オプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
    - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
    - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. **モード**セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

- **子プロセスをブロックリストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを構成した後、該当する子プロセスに対してブロックリストを定義できます。ブロックリストは、指定したプロセスのみの実行を禁止し、その他のプロセスは実行を許可します。
- **子プロセスを許可リストに追加**。選択すると、親プロセスに対してルールを構成した後、該当する子プロセスに対して許可リストを定義できます。許可リストは、指定したプロセスのみの実行を許可し、その他のプロセスは実行を禁止します。

> **注:**
>
> プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. **優先度**セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を構成する際は、次の点を考慮してください。優先度は、構成したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。
6. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **注:**
>
> - 複数の選択を行うには、通常のWindows選択キーを使用できます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - 後で（ルール作成後に）ルールを割り当てることを選択できます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 親プロセスに対してルールを構成するには、次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプによって、必要なアクションが異なります。

- **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーパスを指定した場合、ルールはそのフォルダー内のすべてのファイルとサブフォルダーに適用されます。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに基づいて実行可能

ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク（*）のみを入力することはお勧めしません。そうすると、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- **発行元**。ルール参照として使用する署名済み参照ファイルを指定します。発行元情報スライダーを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上下に動かして、ルールの特異性を低くしたり高くしたりします。スライダーを「任意の発行元」の位置に移動すると、ルールはすべての署名済みファイルに適用されます。WEMエージェントは、発行元情報に基づいて親プロセスにルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、**カスタム値を使用**を選択して情報をカスタマイズできます。
- **ハッシュ**。ハッシュを作成したいファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。WEMエージェントは、指定されたものと同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. 子プロセスの設定を構成するには、**次へ**をクリックします。
10. 適用可能な子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかを実行します。

    a. メニューからルールタイプを選択し、**追加**をクリックします。**子プロセス**ウィンドウが表示されます。

    b. **子プロセス**ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。**子プロセス**ウィンドウのユーザーインターフェイスは、選択したルールタイプによって異なります。子プロセスの場合、次のルールタイプが利用可能です: **パス**、**発行元**、および**ハッシュ**。

    c. **OK**をクリックして**ルールの追加**ウィンドウに戻ります。さらに子プロセスを追加するか、**作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了します。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つのルールを選択し、**アクション**セクションで**編集**をクリックします。**ルールの編集**ウィンドウで、ルールを割り当てたいユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK**をクリックします。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、**Actions**セクションで**Delete**をクリックします。

ルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**Restore**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる**Backup**ウィザードを使用します。**Backup**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

ルールを復元するには

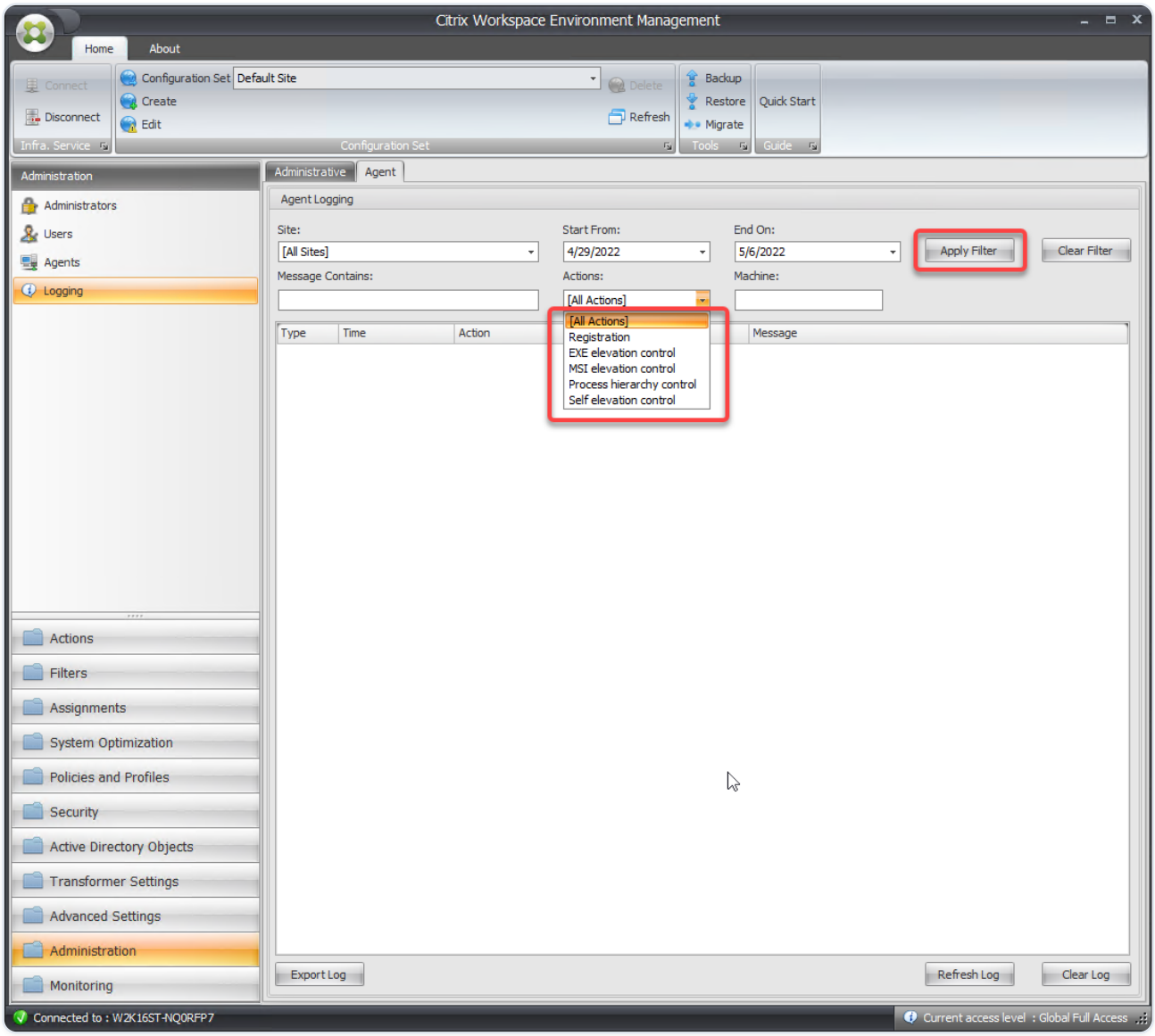
Workspace Environment Management Backupウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、プロセス階層制御ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**Security > Process Hierarchy Control**ペインに切り替えるか更新すると、無効なルールは削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**Restore**ウィザードの使用方法の詳細については、「リボン」を参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEMは、プロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳細については、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

ユーザーアクティビティの監査

WEMは、特権昇格およびプロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。監査を表示するには、**Administration > Logging > Agent**タブに移動します。このタブで、ログ設定を構成し、**Actions**フィールドで**ElevationControl**、**Self-elevation**、または**ProcessHierarchyControl**を選択し、**Apply Filter**をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



Active Directory オブジェクト

これらのページを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> **注:**
>
> エージェントが管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、およびOUをWEMに追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. Windowsのユーザーの選択ダイアログでユーザー名またはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ユーザーまたはグループの名前です。

説明。**アイテムの編集**ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を設定できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。競合が発生した場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。それらの優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳細については、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

> **アイテムの状態**。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効になっている場合、アクションを割り当てることはできません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザー名またはグループ名を追加し、セミコロンで区切ってから、**OK**をクリックします。

マシン

現在のサイト（構成セット）に追加されたコンピューターのリストです。ここにリストされているコンピューターのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。これらのコンピューター上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録すると、インフラストラクチャサーバーは構成セットに必要なマシン依存の設定をそれらに送信します。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ヒント:

これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかを確認するには、管理セクションの「エージェント」を参照してください。

コンピューターまたはコンピューターグループを現在の構成セットに追加するには

1. **オブジェクトの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、**OK**をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. **OUの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. ダイアログで、組織単位を選択し、**OK**をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. **編集**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. ダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、**OK**をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名（DN）。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報。

種類*。選択された種類 (コンピューター、グループ、または組織単位)

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態 (有効または無効)。無効になっている場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

アイテムの優先度。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合が発生した場合 (たとえば、同じドライブ文字で異なる

ネットワークドライブをマッピングする場合など)、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告された読み取り専用の詳細。

詳細設定

Active Directory検索タイムアウト

Active Directoryの動作を構成します。

- **Active Directory検索タイムアウト**。Active Directory検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は1000です。検索が完了する前にタイムアウトするのを避けるため、500以上の値を使用することをお勧めします。

バインドされていないエージェントのサイト設定

バインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。バインドされていないエージェントとは、どの構成セットにもバインドされていないエージェントのことです。

次の設定は、WEM展開全体に適用されます。これは、どの構成セット (サイト) にも関連付けられていません。この設定を有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- **バインドされていないエージェントに設定を適用する**。「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を、**Active Directoryオブジェクト**にまだ追加していないエージェントに適用できます。

Transformer の設定

これらのオプションを使用すると、Transformer 機能を構成できます。Transformer を使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformer を使用して、任意の Windows PC を完全に元に戻せる「キオスク」モードで高性能シンクライアントに変換できます。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

Transformer を有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に *キオスクモード* になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細設定**ページのどちらの設定も処理されません。

Web インターフェイス URL。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops™ 環境のアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ エージェントキオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが与えられます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management Agent キオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続き Windows 環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーは Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」の Web ナビゲーションボタンがエージェントキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記の Web インターフェイス URL に戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UI に時計が表示されます。

12時間表示の時計を表示する。有効にすると、12時間表示の時計（午前/午後）が表示されます。デフォルトでは、Transformer の時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更する。**Ctrl+Alt+U** を押してユーザー環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者が制限なしにユーザー環境のトラブルシューティングを行うことを可能にし、エージェントをサポートするように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、URL のリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、ツールのリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agent のキオスクモードを、Web インターフェイスを表示する代わりにプロセスランチャーとして機能させることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Management エージェントは**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。プロセスが終了すると、再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます（例: RDP 接続を起動するための mstsc.exe へのパス）。

プロセス引数。上記のコマンドラインに引数を指定できます（例: mstsc.exe の場合、接続するマシンの IP アドレス）。

VMware View の最終ユーザー名をクリアする。有効にすると、VMware デスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面で以前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware View モードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーが VMware View モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、すべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Microsoft RDS モードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーが Microsoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、すべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Citrix モードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーが Citrix モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、すべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザーレンダリングを修正する。有効にすると、キオスクウィンドウが、エージェントホストマシンに現在インストールされている Internet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザーモードで実行されるように強制されます。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウは IE7 互換モードで実行されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスしたときに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

スクリプトエラーの抑制。有効にすると、発生したスクリプトエラーが抑制されます。

SSLサイトの修正。有効にすると、SSL警告が完全に非表示になります。

Citrixセッション中のキオスクの非表示。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクが非表示になります。

常に管理者メニューを表示。有効にすると、キオスク管理者メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンを非表示。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューが非表示になります。無効の場合、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tabのロック。有効にすると、Alt+Tabコマンドが無視され、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

Zオーダーの修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーがキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerのロック。有効にすると、デスクトップビューアがロックダウンモードに切り替わります。これは、Citrix Workspaceアプリ for Windows Desktop Lockがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、次のすべての条件が満たされている場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- **全般設定**タブの**Transformerを有効にする**オプションが有効になっていること。
- **ログオン/ログオフと電源設定**タブの**自動ログオンモードを有効にする**オプションが有効になっていること。

表示設定を非表示。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**表示**が非表示になります。

キーボード設定を非表示。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**キーボード**が非表示になります。

マウス設定を非表示。有効にすると、Transformer UIの**設定**の下にある**マウス**が非表示になります。

音量設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の**設定**の下にある**音量**が非表示になります。

クライアントの詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**クライアントの詳細**が非表示になります。**クライアントの詳細**から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザーのプログレスバーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある**Windows バージョン**が非表示になります。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンが非表示になります。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiver をプレ起動。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

ロック解除を無効にする。有効にすると、**Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットを使用してエージェントをロック解除できなくなります。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**ログオフ**が非表示になります。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**再起動**が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある**シャットダウン**が非表示になります。

前回の言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。**全般ペイン**で**言語選択を許可**オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

セッション起動時に Web ポータルからログオフ。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、 ページで指定された Web フロントエンドからログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定されたローカル時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）が続いた後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーステータスをチェックしない。Transformer のユースケースでは、エージェントはバッテリーの状態をチェックし、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、エージェントがActionsタブで構成されたアクションを処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。(仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名のことです。)

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

Iniファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作の処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けの処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNの処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合に、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

エージェントの種類。ユーザーがエージェントと対話する際に、ユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

（仮想）デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントが起

動するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションでのCMDエージェントのみ実行。有効にすると、公開アプリケーションではエージェントがUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

このタブに表示されるオプションは、エージェントが更新されたときに、エージェントがショートカットやその他のアイテム（ネットワークドライブやプリンター）を削除するかどうかを制御します。ユーザーまたはユーザーグループにアクションを割り当てる場合、ショートカットやアイテムの作成も制御できることがわかります。これは、**Assignments > Action Assignment > Action Assignment** タブの **Assigned** ペインでアクションのオプションを構成することで実行できます。Workspace Environment Management™ は、これらのオプションを特定の優先順位に従って処理します。

1. **クリーンアップアクション**タブに表示されるオプション
2. **Assigned** ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**Assigned** ペインで割り当てられたアプリケーションの**デスクトップの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**クリーンアップアクション**タブで**デスクトップショートカットの削除**オプションを有効にした場合でも、エージェントが更新されるとショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンターを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログの有効化。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードを有効にする。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合でも、キャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用。有効にすると、エージェントは常に設定とアクションをキャッシュから読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要：**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。そのため、アクション設定の変更が反映されるまでには、**Agent Cache Refresh Delay** オプション（**Advanced Settings > Configuration > Service Options** タブ）で指定した値に応じて、ある程度の時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics** タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから **Refresh Cache** を選択します。

> **環境設定の更新**。有効にすると、エージェントの更新が発生したときに、エージェントはユーザー環境設定の更新をトリガーします。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsシステム設定（Windowsエクスプローラーやコントロールパネルなど）の更新をトリガーします。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新をトリガーします。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初期環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
  - **クリーンアップアクション**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
  - **クリーンアップアクション**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

初期デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは最初のログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

アプリケーションの存在を確認。有効にすると、エージェントはユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出した場合の通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**：これは非常に時間のかかるプロセスであり、必要な場合にのみ選択してください。

ブローカーサービスタイムアウト。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが自身のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスに対するタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの自身の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダーリソース）の解決に対するタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサが物理的に許容する限り多くのスレッド）、1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていなくても、エージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てのアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回の更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、ユーザー環境への再接続時にエージェントホストが処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションにより、エージェントホストは更新ごとにフィルターを再処理します。

サービスオプション

これらの設定は、エージェントホストサービスを構成します。

エージェントキャッシュの更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュはWEMサービスデータベースと同期されます。デフォルトは30分です。

SQL設定の更新遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがSQL接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは15分です。

エージェントの追加起動遅延。この設定は、Citrix WEMエージェントホストサービスがエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。

> **ヒント:**
>
> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exeは、Citrix Virtual Apps and Desktopsの公開アプリケーションが起動する前に、エージェントホストが環境の処理を完了するようにします。待機時間を指定するには、エージェントホスト構成グループポリシーで利用可能なVUEMAppCmdの追加同期遅延設定を構成します。詳細については、「WEMエージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべてのエージェントホストの詳細ログが有効になります。

ie4uinitチェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEMエージェントホストサービスは、エージェントホスト実行可能ファイルを起動する前にie4uinitが実行されるのを待機します。この設定により、エージェントホストサービスはie4uinitを待機しないように強制されます。

エージェント起動の除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対しては、Citrix WEMエージェントホストは起動されません。

コンソール設定

禁止ドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFrontストアをWorkspace Environment Managementに追加します。その後、**アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開されたアプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。Transformer (キオスク) モードでは、割り当てられたStoreFrontアプリケーションアクションが**アプリケーション**タブに表示されます。StoreFrontストアの詳細については、「StoreFrontのドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. **追加**をクリックします。
2. **ストアの追加**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアURL。Workspace Environment Management を使用してリソースにアクセスするストアのURL。URLは、http://hostname の形式で指定する必要があります。ここで、hostname はストアの完全修飾ドメイン名であり、port はプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要：**
>
> - 使用するストアURLは、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、Citrix ADC などのソリューションの背後にあるものであってはなりません。
> - この機能は、多要素認証を使用するStoreFrontでは動作しません。

> **説明**。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、**編集**をクリックしてストアのURLまたは説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、**削除**をクリックして構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

適用をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントの切り替え

このタブにあるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> **重要：**
>
> エージェントの切り替えは、構成セットレベルで機能します。実行する切り替え操作は、構成セット内のエージェントのみに影響します。
>
> **サービスエージェントに切り替える**。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続するCitrix Cloud™ Connectorを指定できます。これは、既存のオンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合に役立ちます。

> **警告：**
>
> オンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合にのみ、このオプションを有効にしてください。この移行は、WEM管理コンソールから元に戻すことはできません。
>
> **Citrix Cloud Connectorを構成する**。Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力して、Citrix Cloud Connectorを構成できます。「**追加**」をクリックして、一度に1つのCloud Connectorを追加します。高いサービス可用性を確保するために、Citrixは各リソースロケーションに少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることを推奨します。したがって、少なくとも2つのCitrix Cloud Connectorを構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector™の構成をスキップする。グループポリシーを使用してCitrix Cloud Connectorを構成する場合は、このオプションを選択します。

> **重要：**

> エージェントの切り替え設定が有効になるまでには、 **> >** タブで構成した「**SQL Settings Refresh Delay**」設定に応じて時間がかかる場合があります。

> オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントがWEMサービスに接続できない場合があり、ロールバックが必要になることがあります。その場合は、AgentConfigurationUtility.exeコマンドラインを使用します。例：

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

Wake on LAN (ウェイク・オン・ラン)

このタブを使用して、エージェントホストをリモートで起動します。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANに対応したハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。

エージェントのWake on LANを有効にする。エージェントホストのWake on LANを有効にするために、Windowsオペレーティングシステムの設定を構成するかどうかを制御します。選択した場合、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの「**Energy Efficient Ethernet**」を無効にする
- ネットワークアダプターの「**Wake on Magic Packet**」を有効にする
- ネットワークアダプターの「**Allow this device to wake the computer**」を有効にする
- ネットワークアダプターの「**Only allow a magic packet to wake the computer**」を有効にする
- 「**高速スタートアップを有効にする**」を無効にする

このオプションを有効にした後、 **> >** タブに移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択して、「**Wake Up Agents**」をクリックし、選択したエージェントを起動します。

UIエージェントのパーソナライゼーション

これらのオプションを使用すると、UI モードのエージェントの外観をパーソナライズできます。これらのオプションは、UI エージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

> **注:**
>
> これらのオプションは、UI モードのエージェントにのみ適用されます。CMD モードのエージェントには適用されません。

UI エージェントのオプション

これらの設定を使用すると、ユーザー環境でのセッションエージェント（UI モードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定した場合、エージェントの起動時または更新時に、Citrix Workspace Environment Management のロゴの代わりにカスタムスプラッシュスクリーンが表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200 px の .bmp ファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。読み込み円の色をカスタム背景に合わせて変更できます。

テキストラベルの色。読み込みテキストの色をカスタム背景に合わせて変更できます。

UI エージェントスキン。UI エージェントから開くダイアログに使用する事前設定済みのスキンを選択できます。たとえば、**アプリケーションの管理**ダイアログや**プリンターの管理**ダイアログなどです。**注**: この設定はスプラッシュスクリーンを変更しません。

エージェントスプラッシュスクリーンを非表示にする。有効にすると、エージェントの読み込み中または更新中にスプラッシュスクリーンが非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示にする。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントスプラッシュスクリーンを非表示にする。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのエージェントスプラッシュスクリーンが非表示になります。

管理者のみがエージェントを閉じることができる。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、非管理者向けのエンドポイントでは、エージェントメニューの**終了**オプションが無効になります。

ユーザーがプリンターを管理できるようにする。有効にすると、エージェントメニューの**プリンターの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**プリンターの管理**ダイアログを開き、デフォルトのプリンターを設定したり、印刷設定を変更したりできます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーがアプリケーションを管理できるようにする。有効にすると、エージェントメニューの**アプリケーションの管理**オプションがエンドポイントのユーザーに利用可能になります。ユーザーはこのオプションをクリックして**アプリケーションの管理**ダイアログを開き、次のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **デスクトップ**。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **スタートメニュー**。アプリケーションのショートカットをスタートメニューフォルダーに作成します。
- **クイック起動**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- **タスクバー (P)**。アプリケーションのショートカットをタスクバーに作成します。
- **スタートメニュー (P)**。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**
>
> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除できません。 クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ使用できます。

管理者がエージェントを終了できないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

アプリケーションショートカットを有効にする。有効にすると、エージェントメニューに**マイアプリケーション**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは**マイアプリケーション**メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理更新フィードバックを無効にする。有効にすると、管理者が管理コンソールを介してエージェントの更新を強制した場合でも、このオプションはユーザー環境に通知を表示しません。

ユーザーによるアクションのリセットを許可する。エージェントメニューに**アクションのリセット**オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。**アクションのリセット**オプションを使用すると、現在のユーザーは自分の環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが**アクションのリセット**を選択すると、**アクションのリセット**ダイアログが表示されます。ダイアログでは、ユーザーはリセットする内容をきめ細かく制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、**リセット**をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが削除されます。

> **注:**
>
> - エージェントメニューでは、次の2つのオプションが常に利用可能です:**更新**と**バージョン情報**。**更新**オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定がすぐに有効になります。**バージョン情報**オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが**ヘルプ**オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを要求できるウェブサイトリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに**サポート**オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるウェブサイトリンクを入力します。

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに**キャプチャ**オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポート担当者に送信します。

サポートに送信オプションを有効にする。スクリーンキャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーは指定された形式で、スクリー

ンショットとログファイルを指定されたサポートメールアドレスに直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、スクリーンキャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。スクリーンキャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、動的トークンを参照してください。 ユーザーは、**##UserScreenCaptureComment##ハッシュタグ**がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、コメントを入力するオプションが表示されます。

> **SMTPを使用してメールを送信**。有効にすると、MAPIの代わりにSMTPを使用してサポートメールを送信します。

SMTPのテスト。上記で入力したSMTP設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定された時刻に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、エージェントは実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

「**管理**」ペインは、次の要素で構成されています。

- 「**管理者**」。Workspace Environment Management™ の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを介して構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- 「**ユーザー**」。ユーザー統計を表示できます。
- 「**エージェント**」。エージェントの統計を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- 「**ログ**」。Workspace Environment Management での管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。

- 構成変更後に問題を診断し、トラブルシューティングを行う。
- 変更管理を支援し、構成を追跡する。
- 管理アクティビティを報告する。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを介して構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済み管理者リスト

構成済み管理者のリストで、その権限レベル（**フルアクセス**、**読み取り専用**、または**詳細アクセス**。詳細は以下を参照）が表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの「**追加**」コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログで詳細を入力し、「**OK**」をクリックします。

「**名前**」。現在編集しているユーザーまたはグループの名前。

説明。ユーザーまたはグループに関する追加情報です。

グローバル管理者。選択したユーザー/グループをグローバル管理者として指定するには、これを選択します。選択したユーザー/グループをサイト管理者として指定するには、これをクリアします。グローバル管理者には、すべてのサイト（構成セット）に権限が適用されます。サイト管理者には、サイトごとに権限が構成されます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループへのアクセスレベルを次のいずれかに指定できます。**注**: 管理者は、アクセス権を持つ設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定されたサイト（構成セット）のあらゆる側面を完全に制御できます。フルアクセス権を持つグローバル管理者のみが、Workspace Environment Management管理者の追加/削除を行うことができます。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

読み取り専用管理者は、コンソール全体を表示できますが、設定を一切変更することはできません。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

詳細アクセスは、管理者が次の1つ以上の権限セットを持っていることを示します。

アクション作成者は、アクションを作成および管理できます。

アクションマネージャーは、アクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルターマネージャーは、条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用されているルールは、フィルターマネージャーによって編集または削除することはできません。

割り当てマネージャーは、ユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャーは、システムユーティリティ設定（CPU、RAM、プロセス管理）を管理できます。

ポリシーおよびプロファイルマネージャーは、ポリシーおよびプロファイル設定を管理できます。

構成済みユーザーマネージャーは、構成済みユーザーリストからユーザーまたはグループを追加、編集、および削除できます。割り当てられたアクションを持つユーザーまたはグループは、構成済みユーザーマネージャーによって編集または削除することはできません。

トランスフォーマーマネージャーは、トランスフォーマー設定を管理できます。

詳細設定マネージャーは、詳細設定（アクション処理の有効化または無効化、クリーンアップアクションなど）を管理できます。

セキュリティ管理者は、セキュリティ タブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループが有効か無効かを制御します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはWorkspace Environment Management管理者とは見なされず、管理コンソールを使用できません。

種類。このフィールドは読み取り専用で、選択されたエンティティがユーザーかグループかを示します。

グローバル管理者がクリアされている場合、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべてのWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）。

有効。指定されたWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）でこの管理者を有効にするには、選択します。無効になっている場合、そのユーザー/グループはそのサイトの管理者とは見なされず、アクセスできません。

権限。このインフラストラクチャサービスに接続されている各Workspace Environment Managementサイト（構成セット）について、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続したユーザーの概要が表示されます。

ユーザーの概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方で、Workspace Environment Managementライセンスを予約した合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これには、現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントの種類（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management展開内のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Management データベースに記録されている Workspace Environment Management エージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約しているエージェントの総数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月間に追加されたエージェントも報告されます。

エージェント履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、およびエージェントのバージョンが含まれます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

同期状態列では、次のアイコンがエージェントキャッシュとWorkspace Environment Managementデータベースとの最終同期の結果を示します。

- 成功 (チェックマークアイコン)。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明 (疑問符アイコン)。同期が進行中であるか、まだ開始されていないか、または同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗 (Xアイコン)。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Management の正常性ステータス列では、展開におけるProfile Managementの正常性ステータスを表示できます。

Profile Management の正常性ステータスは、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイルから特定の問題を特定できます (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`)。この機能は、毎日、またはWEMエージェントホストサービスが開始されるたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューから**Profile Management 構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Management の正常性ステータス**列のアイコンは、Profile Management の正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好 (チェックマークアイコン)。Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 警告 (三角の感嘆符アイコン)。Profile Management が最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開におけるProfile Management のユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側での対応を必要とするものではありません。
- エラー (Xアイコン)。Profile Management が誤って構成されており、Profile Management が正常に機能しない原因となっていることを示します。
- 利用不可 (疑問符アイコン)。Profile Management が見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の経験を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrixテクニカルサポートにお問い合わせください。

最近接続済み列では、次のアイコンは、エージェントが特定の期間内に統計情報をWorkspace Environment Managementデータベースにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。列のフィールドが空白の場合、エージェントはオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れレコードのクリア。Workspace Environment Managementデータベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

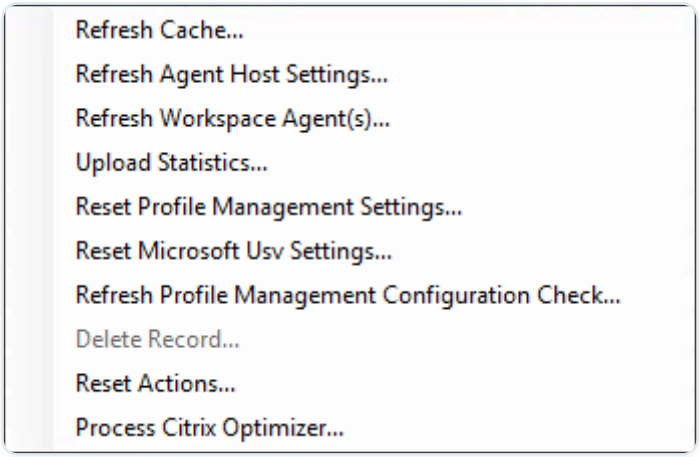
エージェントの起動。選択したエージェントを起動できます。

エージェントを更新するには

エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、Workspace Environment Managementデータベースでエージェントホストの**ID**を検証します。

1. **更新**をクリックして、エージェントのリストを更新します。
2. コンテキストメニューで、**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション



キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービスの設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

Workspace Agentの更新。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

> **重要：**

- **Workspace Agentの更新**オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーまたはスクリプトによって起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
- すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（たとえば、環境設定やグループポリシー設定）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

統計のアップロード。統計をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

プロファイル管理設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、**プロファイル管理設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

注:

WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定のリセット**を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

Microsoft USV 設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV 設定がエージェントに適用されていない場合は、**Microsoft USV 設定のリセット**をクリックし、次に**更新**をクリックします。

プロファイル管理構成チェックの更新。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できます。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。適用可能なマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることにより、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizer の処理。Citrix Optimizer 設定の変更がすぐに有効になるように、設定をエージェントに適用します。

デリバリータスクの実行。このオプションを有効にするには、同じ構成セットにバインドされているエージェントを選択します。デリバリータスクをすばやく実行するには、このページからデリバリータスクを実行することを選択できます。**デリバリータスクの実行**をクリックし、ドロップダウンリストからデリバリータスクを選択して、選択したデリバリータスクをエージェントで

実行します。タスクでどのエージェントがタスクを実行する必要があるかを決定するルールを構成した場合、オンデマンドタスクを実行するために特定のエージェントを選択すると、それらのルールは無視されます。

登録

このページには、データベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要：**
>
> エージェントは1つの構成セットにのみ登録する必要があります。

> 次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

状態。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を示す次の説明で示されます。

エージェントがどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

エージェントは1つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）のエージェントに必要なマシン依存の設定を送信します。

エージェントは複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- コンピューターが1つのサイト（構成セット）のみにバインドされるように、Workspace Environment Management階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション内）を編集する。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWorkspace Environment Management設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログは手動で更新されるまで空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***この操作は元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにこの操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Management エージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。**更新**をクリックするまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログを XLS 形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***これは元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログインとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。さまざまな形式ですべてのレポートを**エクスポート**できます。

日次レポート

日次ログインレポート。このサイトに接続されているすべてのユーザーのログイン時間の概要を毎日表示します。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間が表示される詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスの起動時間の概要を毎日表示します。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間が表示される詳細ビューが表示されます。

ユーザー傾向

ログイン傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的なログイン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間の各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続している、リストされている各オペレーティングシステムのデバイスの数を日別に表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーおよびデバイスレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile Management および FSLogix のプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのディスク使用量を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定します。

概要

2つのドーナツグラフが含まれます:

- **使用済み領域**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナの領域使用量を示します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションに対するプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。

期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**をクリックしてグラフを更新します。

使用済み領域が次より多い場合、高 (GB)。プロファイルコンテナの領域使用量を「高」として扱うしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

使用済み領域が次より少ない場合、低 (GB)。プロファイルコンテナの領域使用量を「低」として扱うしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高いしきい値は、低いしきい値よりも大きくする必要があります。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、**更新**をクリックして**使用済み領域**グラフを更新します。
> - 高いしきい値と低いしきい値を指定した後、その間の領域使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（例: 過去6日間）を指定した後、**更新**ボタンをクリックしてレコードをフィルタリングします。

選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。これを行うには、ステータスレコードを右クリックし、**更新**を選択します。更新操作により一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェントホストにタスクがすぐに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェントホストで使用中の場合はステータス関連のデータを収集します。次に、最新のアタッチレコードが収集されたデータで更新されます。ステータスが更新されるまで時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**ボタンをクリックしてください。

ステータス列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>`のMicrosoftドキュメントを参照してください。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、**起動時間**と**ログイン時間**（秒単位）の最小値を指定して、その値未満のレポートを非表示にすることもできます。

バックアップと復元

バックアップと復元ページには、既存のバックアップのリストが表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ（構成セットと設定）の2種類があります。自動バックアップと手動バックアップは、**コンテンツタイプ**列で区別できます。

各バックアップに対して、次の操作を実行できます。

- **復元**。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップからの設定に置き換えられます。

  > **注:**
  >
  > - プロファイル管理設定を構成セットに復元するには、その構成セットの**プロファイル > プロファイル管理設定**ページにあるクイックセットアップ機能を使用することもできます。
  > - バックアップからプロファイル管理設定を復元すると、関連サービスで使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

- **ダウンロード**。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルはJSON形式です。
- **削除**。既存のバックアップを削除できます。

次の操作も実行できます。

- **アップロード**ボタンの横にある更新アイコンをクリックして、現在のページを更新します
- 構成ファイルをアップロードする
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする

- プロファイル管理設定をバックアップする

構成ファイルをアップロードする

以前のバックアップに戻すために使用されるJSONファイルをアップロードできます。JSONファイルには、構成セットまたはプロファイル管理設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. 「**Upload**」をクリックします。「**Upload backup file**」ウィザードが表示されます。
2. 「**Browse**」をクリックし、アップロードするファイルを参照し、ファイルを選択して、「**Open**」をクリックします。「**Upload backup file**」ウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定します。
4. 「**Upload**」をクリックしてアップロードを開始します。

> **注:**
>
> - JSONファイルのみをアップロードできます。
> - サイズが5 MB未満のファイルのみをアップロードできます。

自動バックアップの管理

構成セットのバックアップを自動的に保存できます。この機能は、最も古い既存のファイルを上書きし始める前に、各構成セットに対して最大5つのバックアップファイルを保存することをサポートしています。構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを構成するには、次の手順を実行します。

1. 「**Manage automatic backup**」をクリックします。「**Manage automatic backup**」ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップしたい構成セットを見つけます。
3. その構成セットに対して、次の3つのオプションのいずれかを選択します。

- **未構成**。選択した場合、WEMは自動的にバックアップしません。
- **毎日**。選択した場合、WEMは毎日バックアップを実行します。
- **毎週**。選択した場合、WEMは毎週月曜日にバックアップを実行します。

4. 必要に応じて、他の構成セットについても手順2と3を繰り返します。
5. 変更を保存してウィザードを終了するには、**保存**をクリックします。

構成セットをバックアップする

> **重要：**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに10個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

> 構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- アクション
- アプリケーションセキュリティ、特権昇格、およびプロセス階層制御
- 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
- フィルター
- スクリプトタスク設定
- ユーザー
- WEM設定

構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシン グループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲット構成セットを選択します。

3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定します。
5. 必要に応じて、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択して、バックアップをローカルに保存します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. **バックアップ**をクリックして、バックアップを開始します。

プロファイル管理設定のバックアップ

> **重要：**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに10個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除してから再試行してください。

Profile Management設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. **バックアップする内容**リストから**設定**を選択します。
4. **Profile Management設定**を選択します。
5. バックアップの名前を指定します。
6. 必要に応じて、バックアップをローカルに保存するには、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。

> **注:**
>
> バックアップは、ブラウザーのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. **バックアップ**をクリックして、バックアップを開始します。

参照

特定のタスクを実行するには、以下の記事を使用してください。

- エージェントイベントログ
- CMDおよびUIモードのエージェント
- 一般的なコントロールパネルアプレット
- 動的トークン
- 環境設定レジストリ値
- フィルター条件
- FIPSサポート
- Citrix ADCによる負荷分散
- ログパーサー
- ポート情報
- ログファイルの表示
- WEMヘルスチェックツール
- WEMツールハブ
- WEM整合性条件リストマネージャー
- XMLプリンターリスト構成(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/reference/xml-printer-list-configuration.html)

エージェントイベントログ

この記事では、WEMイベントログと、それに対応する固有のイベントIDのリストを提供します。

WEM構成セット

イベントID	レベル	メッセージ
1001	情報	エージェントが構成セットに正常に登録されました: 名前: `configuration set name`

イベントID	レベル	メッセージ
		(ID: `configuration set ID`) 。
1002	警告	エージェントがどの構成セットにも登録されていません

インフラストラクチャサービスへのWEMエージェント接続

イベントID	レベル	メッセージ
2001	情報	インフラストラクチャサービスに接続中: アドレス: `service address`
2002	エラー	無効なインフラストラクチャサービスアドレス
2003	エラー	WEMサービスに接続できません
2020	情報	WEMサービスに接続中: アドレス: `service address`
2021	情報	WEM用に構成されたCloud Connectorを取得中: `Cloud Connector list`
2022	情報	Citrix DaaS™からCloud Connectorを検出中: `Cloud Connector list`
2023	エラー	すべてのCloud Connectorに到達できません
2024	情報	Cloud Connector が稼働中: `Cloud Connector address`
2025	警告	Cloud Connector に到達できません: `Cloud Connector address`

イベントID	レベル	メッセージ
2026	エラー	Cloud Connector を介して WEM サービスに接続できません

エージェント構成の更新イベント

イベントID	レベル	メッセージ
3001	情報	エージェント構成設定の更新を開始中
3002	エラー	エージェント構成設定の更新が例外発生により失敗しました: `exception code`
3003	情報	エージェント構成設定が正常に更新されました

ディレクトリサービスイベント

イベントID	レベル	メッセージ
4001	警告	ユーザーのトークングループリストを取得できません
4002	警告	ユーザーのディレクトリサービスグループを取得できません
4003	警告	ユーザーが属するすべてのグループを取得できません
4004	警告	ユーザーが属するすべてのOUを取得できません
4005	警告	ローカルコンピューターのグループリストを取得できません

イベントID	レベル	メッセージ
4006	警告	ローカルコンピューターのOUリストを取得できません

マシンポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5001	情報	コンピューターグループポリシーの処理を開始しています
5002	情報	前提条件が満たされていないため、マシンポリシーの処理をスキップしています
5003	情報	マシンポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5004	警告	コンピューターが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシーの処理が終了しました
5005	情報	コンピューターグループポリシーが正常に適用されました
5006	警告	コンピューターグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

ユーザーポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5501	情報	`user name` のユーザーグループポリシーの処理を開始しています

イベントID	レベル	メッセージ
5502	情報	前提条件が満たされていないため、ユーザーポリシーの処理をスキップしています
5503	情報	ユーザーポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5504	情報	マップされたアカウントが見つからなかったため、ローカルユーザー `user identity name` のポリシー処理をスキップしました
5505	警告	ユーザーが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシー処理が終了しました
5506	情報	ユーザーグループポリシーが正常に適用されました
5507	警告	ユーザーグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

キャッシュ同期イベント

イベントID	レベル	メッセージ
6001	情報	自動エージェントキャッシュ同期を開始しています
6002	情報	オンデマンドエージェントキャッシュ同期を開始しています

イベントID	レベル	メッセージ
6003	警告	ネットワークが利用できません。エージェントキャッシュの同期はスキップされました
6004	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なクラウドサービス設定
6005	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なインフラストラクチャサービスアドレス
6006	エラー	エージェントキャッシュの同期が予期せぬエラーで失敗しました
6007	情報	エージェントキャッシュの同期が正常に完了しました

最適化イベント

CPU最適化

イベントID 7003から7008までのメッセージが書き込まれるようにするには、以下のレジストリを追加します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: EnableExtraLoggingForOptimization

種類: REG_DWORD

値: 1

> **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる深刻な問題が発生する可能性があります。Citrix®は、レジストリエディターの誤った使用に

よって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターはご自身の責任において使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

イベントID	レベル	メッセージ
7001	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のCPUスパイク保護を初期化しています。 `percentage value` で検出された各コアごとの平均CPU使用率の合計は、システム全体のCPU使用率 `percentage value` です。
7002	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のCPUスパイク保護を初期化しています。 `percentage value` で検出された平均CPU使用率は、 `percentage value` で検出された各コアごとの平均CPU使用率の合計です。
7003	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更しました。

イベントID	レベル	メッセージ
7004	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更できません。エラーコード: `error code`。
7005	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) が正常に処理されました。
7006	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) を構成できません。
7007	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の I/O 優先度を `priority value` に変更しました。
7008	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の I/O 優先度を `priority value` に変更できません。

メモリの最適化

イベントID	レベル	メッセージ
8001	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリ最適化を初期化しています。
8002	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリ最適化に成功しました。
8003	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリを最適化できません。

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™ エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

ログオン時にエージェントを実行するように構成すると、CMDモードまたはUIモードのどちらで起動するかを制御できます。そのためには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブにある**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

ログオン時にエージェントを自動的に実行するように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシンでエージェントをCMDモードまたはUIモードで起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードではコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時に、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードではエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。
    - **マイアプリケーション**。自分に割り当てられているアプリケーションを表示できます。
    - **画面キャプチャ**。画面キャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**画面キャプチャを有効にする**を有効にする必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください。
    - **アクションのリセット**。**アクションのリセット**ツールを開き、環境内でリセットするアクションを指定できます。

    このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアクションのリセットを許可する**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください。

    - **アプリケーションの管理**。**アプリケーションの管理**ツールを開き、アプリケーションを管理できます。

    このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアプリケーションの管理を許可する**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください。

    - **プリンターの管理**。**プリンターの管理**ツールを開き、デフォルトのプリンターを構成したり、印刷設定を変更したりできます。

このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるプリンターの管理を許可する**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください。

- **更新**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **ヘルプ**。ヘルプを要求できるWebサイトを開きます。

このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**ヘルプリンクアクション**を指定する必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください。

- **バージョン情報**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **終了**。エージェントを閉じます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用する必要なく、次のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**アクションのリセット**ツールを開きます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**アプリケーションの管理**ツールを開きます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。「**プリンターの管理**」ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモードの主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントサービス（Citrix WEM Agent Host ServiceまたはCitrix WEM User Logon Service）を構成して、特定の時点（たとえば、ログオンまたは再接続）でCMDエージェントを起動できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。Citrix WEM Agent Host ServiceはUIエージェントを起動または停止します。UIエージェントはエンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

> **注:**
>
> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

一般的なコントロールパネルアプレット

Windowsで一般的なコントロールパネルアプレットは次のとおりです。

アプレット名	正規名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイス マネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリー セーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions

赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO設定	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces

同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザー アカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
ウィンドウズ トゥ ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
ウィンドウズ アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダー	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

Workspace Environment Management の任意のアクション(/ja-jp/workspace-environment-management/2411/user-interface-description/actions/applications.html)で動的トークンを使用すると、それらをより強力にすることができます。

動的トークンは、以下のフィールドで使用できます。

- グループポリシー設定
  - **アクション**が**削除**に設定されている場合: **値**
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_SZ: 値、データ**に設定されている場合

- **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_EXPAND_SZ: 値、データ**に設定されている場合
- **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_MULTI_SZ: 値、データ**に設定されている場合

> **注:**
>
> グループポリシー設定には、マシン設定とユーザー設定の2種類があります。マシン設定では、一部の動的トークンはサポートされていません。詳細については、「グループポリシー設定の動的トークンサポート」を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用すると、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が削減され、ポリシー管理が簡素化されます。

グループポリシー設定には、次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンしてもマシンにのみ適用されます。
- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンしてもユーザーにのみ適用されます。

すべての動的トークンはグループポリシー設定でサポートされています。ただし、以下のものはマシン設定ではサポートされていません。

- ハッシュタグ
  - ##FullUserName##
  - ##UserInitials##
  - ##ClientName##
  - ##ClientIPAddress##
  - ##UserLDAPPath##
  - ##ClientRemoteOS##
- AD属性
  -
- HKCU下のレジストリ

アプリケーション

- アプリケーションの種類が**インストールアプリケーション**の場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および**パラメーター**
- アプリケーションの種類が**ファイル/フォルダー**の場合: **ターゲット**
- アプリケーションの種類が**URL**の場合: **ショートカットURL**
- **アイコンファイル**

プリンター

- **ターゲットパス**

ネットワークドライブ

- **「ターゲットパス」**と**「表示名」**

仮想ドライブ

- **「ターゲットパス」**

レジストリ

- **「ターゲットパス」**、**「ターゲット名」**、および**「ターゲット値」**

> **注:**
>
> **「ターゲット値」**フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに機能しません。

環境変数

- **「変数値」**

ポート

- **「ポートターゲット」**

Ini ファイル

- **「ターゲットパス」**、**「ターゲットセクション」**、**「ターゲット値名」**、および**「ターゲット値」**

> **注:**
>
> 「**ターゲットセクション**」、「**ターゲット値名**」、および「**ターゲット値**」フィールドは、環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用しても、期待どおりに機能しません。

外部タスク

- 「**パス**」と「**引数**」

ファイルシステム操作

- **ソースパスとターゲットパス**

特定のフィルター条件

- 例: 条件タイプが**Active Directory属性の一致*の場合: テスト済みActive Directory属性と**一致結果**

> **注:**
>
> フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

スクリプト内で文字列を操作してドライブをマッピングしたり、アプリケーションを起動したりする必要がある場合があります。Workspace Environment Management™エージェントは、次の文字列操作を受け入れます。

構文	説明	例
#Left(文字列,長さ)#	左から指定された数の文字を返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#Right(文字列,長さ)#	右から指定された数の文字を返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します

構文	説明	例
#Truncate(文字列,長さ)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合、左から指定された数の文字を返します。	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します
&トリム(文字列)&	文字列の先頭と末尾の空白文字をすべて削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します
&スペースを削除(文字列)&	文字列内のすべての空白文字を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&Expand(文字列)&	文字列に\%で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string, splitter],index)\$	[] で囲まれた区切り文字に基づいて文字列を部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します
#Mid(文字列,開始インデックス)#	指定されたインデックスから文字列を開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!Mid(文字列,開始インデックス,長さ)!	指定されたインデックスから文字列を開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
!Substring(文字列,開始インデックス,長さ)!	指定されたインデックスから文字列を開始し、指定された数の文字を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#Mod(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、余りを返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。たとえば、現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Management アイテムの処理で広く使用されている置換機能です。ハッシュタグの使用方法を次の例で示します。

.iniファイルに書き込むには、**.ini**ファイルのパスに**%UserName%**を使用でき、**Workspace Environment Management**がそれを処理し、最終ディレクトリを展開します。ただし、**Workspace Environment Management**が.ini自体に書き込む値を評価するのはより複雑です。%UserName%**を文字通り書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、**##UserName##**はハッシュタグとして存在します。これにより、値に**%UserName%**を使用すると文字通り書き込まれ、**##UserName##**を使用すると展開された値が書き込まれます。

例については、次の表を参照してください。

トークン	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory内のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory内のユーザー名のイニシャルを返します	JC

トークン	説明	例
##UserAppData##	特殊フォルダー - RoamingAppData の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダー - Documents の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDocuments##	特殊フォルダー - Documents の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダー - Desktop の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダー - Favorites の実際のパスを返します	C:\Users\Jill\Favorites
##UserTemplates##	特殊フォルダー Templates の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates
##UserStartMenu##	特殊フォルダー StartMenu の実際のパスを返します。	C:\ユーザー\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダー Programs の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##UserLocalAppData##	特殊フォルダー LocalAppData の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特殊フォルダー Music の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特殊フォルダー - Pictures の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Pictures

トークン	説明	例
##UserVideos##	特殊フォルダー - Videos の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Videos
##UserDownloads##	特殊フォルダー - Downloads の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Downloads
##UserLinks##	特殊フォルダー - Links の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダー - Contacts の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
##commonprograms##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADサイト##	マシンがメンバーであるActive Directoryサイトを返します	NKG
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace

トークン	説明	例
		Environment Management Agent
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**詳細設定** > **UIエージェントのパーソナライズ** > **ヘルプデスクオプション** の下のメールテンプレートに含めることができます。含めると、エージェントのスクリーンキャプチャユーティリティで、スクリーンキャプチャの下にコメントフィールドが表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブ ディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するために、WEMは****の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザー組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは****の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active Directoryパスは、Active Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークンを使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブのパスで動的トークンを直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OUという環境変数を設定し、その値をに設定します。その後、ドライブを`\\Server\Share\%OU%\`としてマップできます。

注:

- OU構造で到達したいレベルに対応する数値で「0」を置き換えることができます。
- パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダー構造があることを確認してください。

フィルタリング目的でActive Directory属性を使用することもできます。**管理 > フィルタ > 条件 > フィルタ条件リスト**タブで、**追加**をクリックすると、新しいフィルタ条件ウィンドウを開くことができます。新しいフィルタ条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directoryグループの一致
- Active Directoryパスの一致
- Active Directoryサイトの一致

Active Directory属性の一致の場合、動的トークンはです。 Active Directoryグループの一致には動的トークンはありません。この条件タイプはグループメンバーシップをチェックするために使用されるためです。 Active Directoryパスの一致の場合、完全なLDAPパスの動的トークンは##UserLDAPPath##です。 Active Directoryサイトの一致の場合、動的トークンは##ADSite##です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親OUの指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` 内の

モーダル	説明	例
		`[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するには、WEMは `[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XMLファイル

XMLファイルを操作するには、WEMは `[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]` の値をXMLファイル内の特定のタグ値に置き換えます。XMLパスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INIファイル

.iniファイルを操作するには、WEMは `[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]` をキー値に置き換えます。INIパスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表に、テストされた値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを一覧表示します。

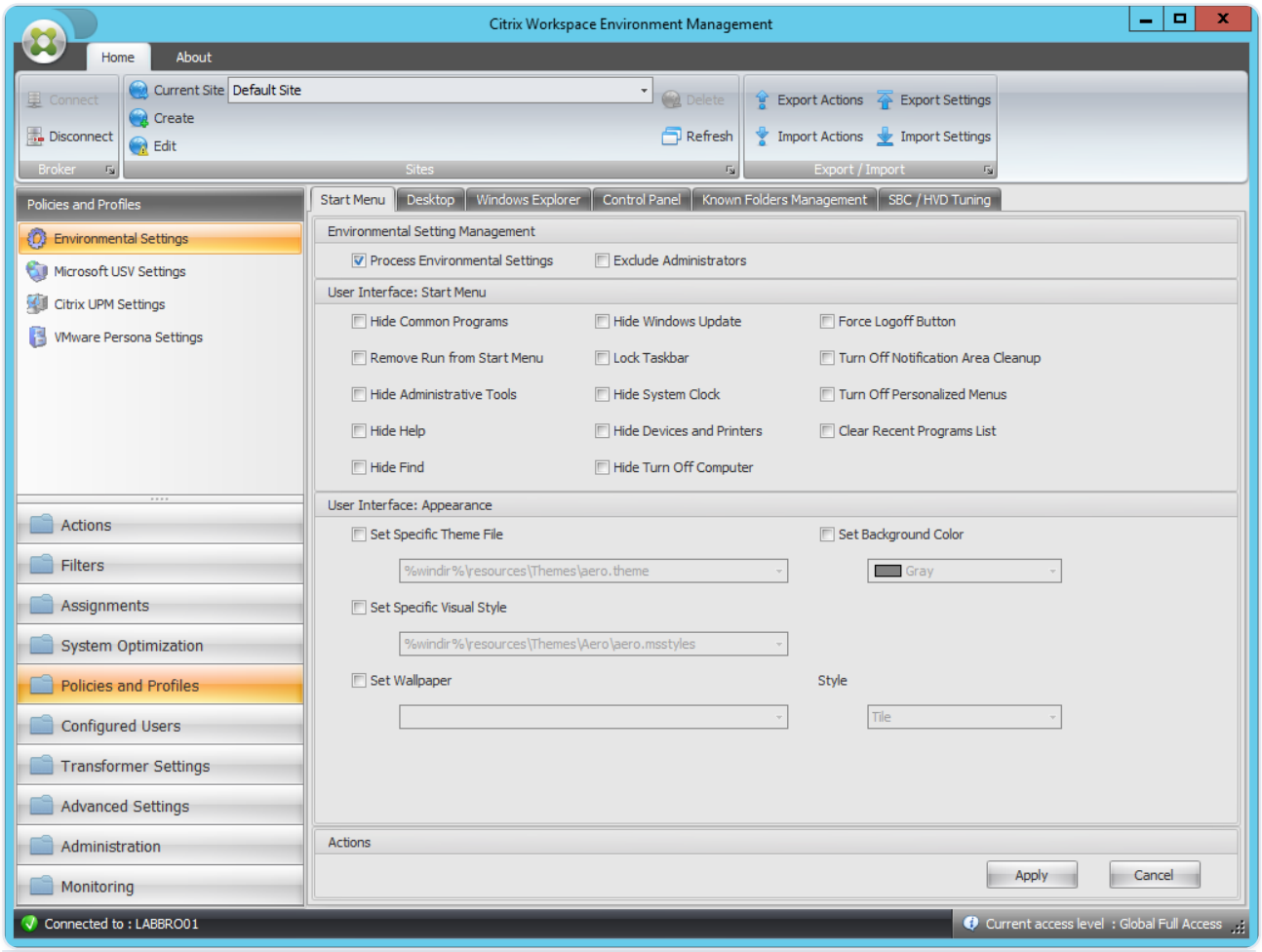
条件タイプ	テスト値	一致結果
コンピューター名の一致	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMIクエリ結果の一致	-	はい
XenApp®ファーム名の一致	-	はい
XenAppゾーン名の一致	-	はい
XenDesktop®ファーム名の一致	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory属性の一致	はい	はい
名前または値がリスト内にある	はい	はい
コンピューター名が一致しない	-	はい
クライアント名が一致しません	-	はい
環境変数が一致しません	いいえ	はい
レジストリ値が一致しません	はい	はい
WMIクエリ結果が一致しません	-	はい
XenAppファーム名が一致しません	-	はい
XenAppゾーン名が一致しません	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
XenDesktopファーム名が一致しません	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しません	-	はい
Active Directory属性が一致しません	はい	はい
名前または値がリストにありません	はい	はい
動的値が一致	はい	はい
動的値が一致しません	はい	はい
ファイルバージョンが一致	はい	はい
ファイルバージョンが一致しません	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい
ファイル/フォルダーが存在する	-	はい
ファイル/フォルダーが存在しない	-	はい

環境設定レジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management の環境設定に関連するレジストリ値について説明します。



共通プログラムを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoCommonGroups
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を削除する	
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATEを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

タスクバーをロック	
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_ShowPrinters
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoClose

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	インテリメニュー
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムリストをクリアする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	ThemeFile
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない

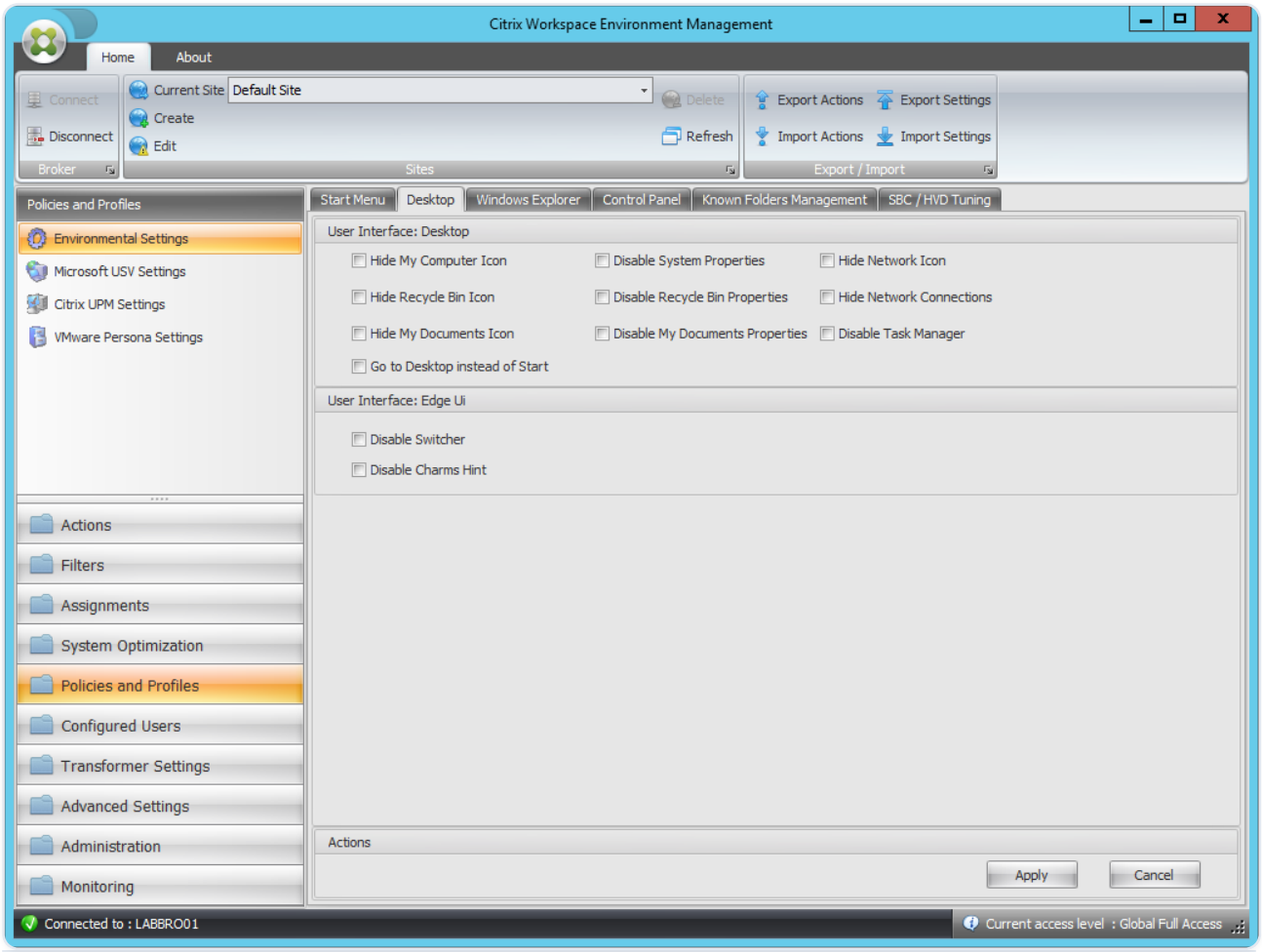
特定のテーマファイルを設定	
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Colors`
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	設定された色 (R G B)
無効な値	値が存在しないか、以前に設定された値の場合は0 0 0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	SetVisualStyle
値のタイプ	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ

壁紙を設定	
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しません
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	TileWallpaper
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値は存在しません
処理	ログオン時のサービス



マイコンピューターアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`

ごみ箱アイコンを非表示にする	
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートではなくデスクトップに移動	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage`
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableTaskMgr

タスクマネージャーを無効にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableTLcorner
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableCharmsHint
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

環境設定 Windows エクスプローラー(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-admin-console-environmental-settings-03.png)

レジストリ編集ツールへのアクセスを防止	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableRegistryTools
値の型	DWORD
有効な値	サイレントRegeditを無効にする？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する	
親キー	`HKCU\Software\Policies\System`
値の名前	DisableCMD
値の型	DWORD
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にするか？2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値のタイプ	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs`
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

WINDOWSセキュリティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

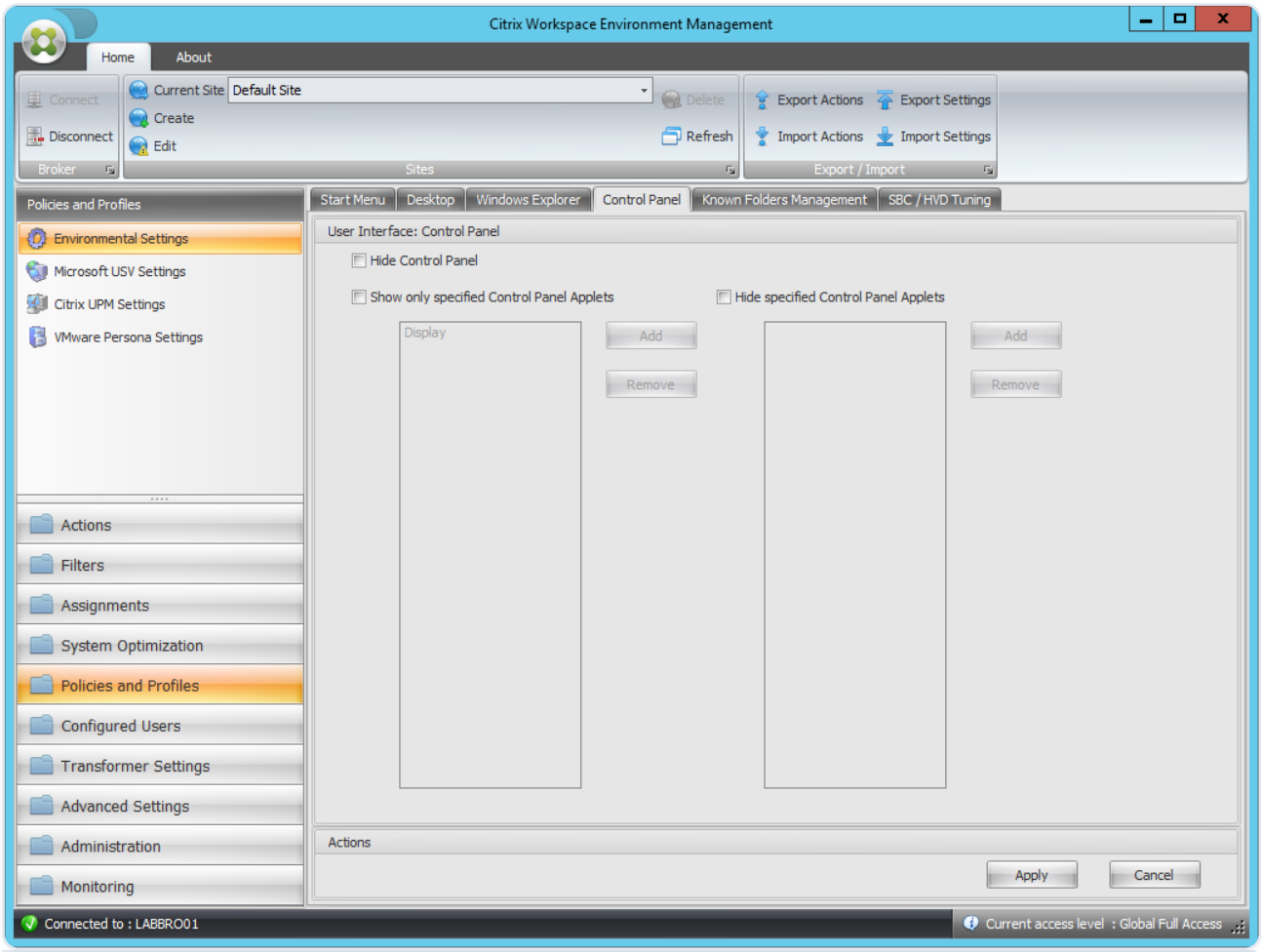
エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ビューコンテキストメニューなし
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	トレイコンテキストメニューなし
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoDrives

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値を削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス



コントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

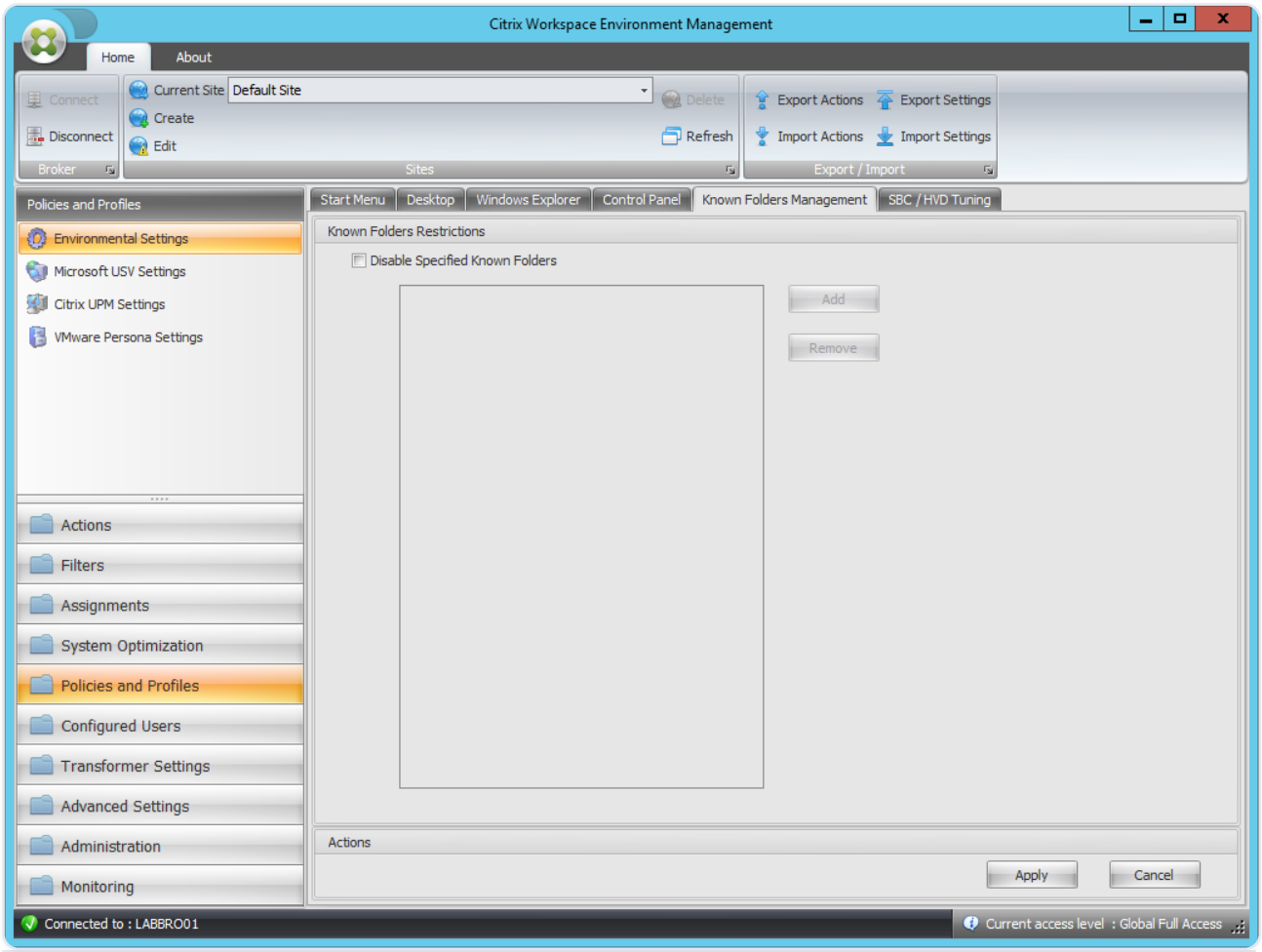
指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されている各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\RestrictCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD
有効な値	1

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

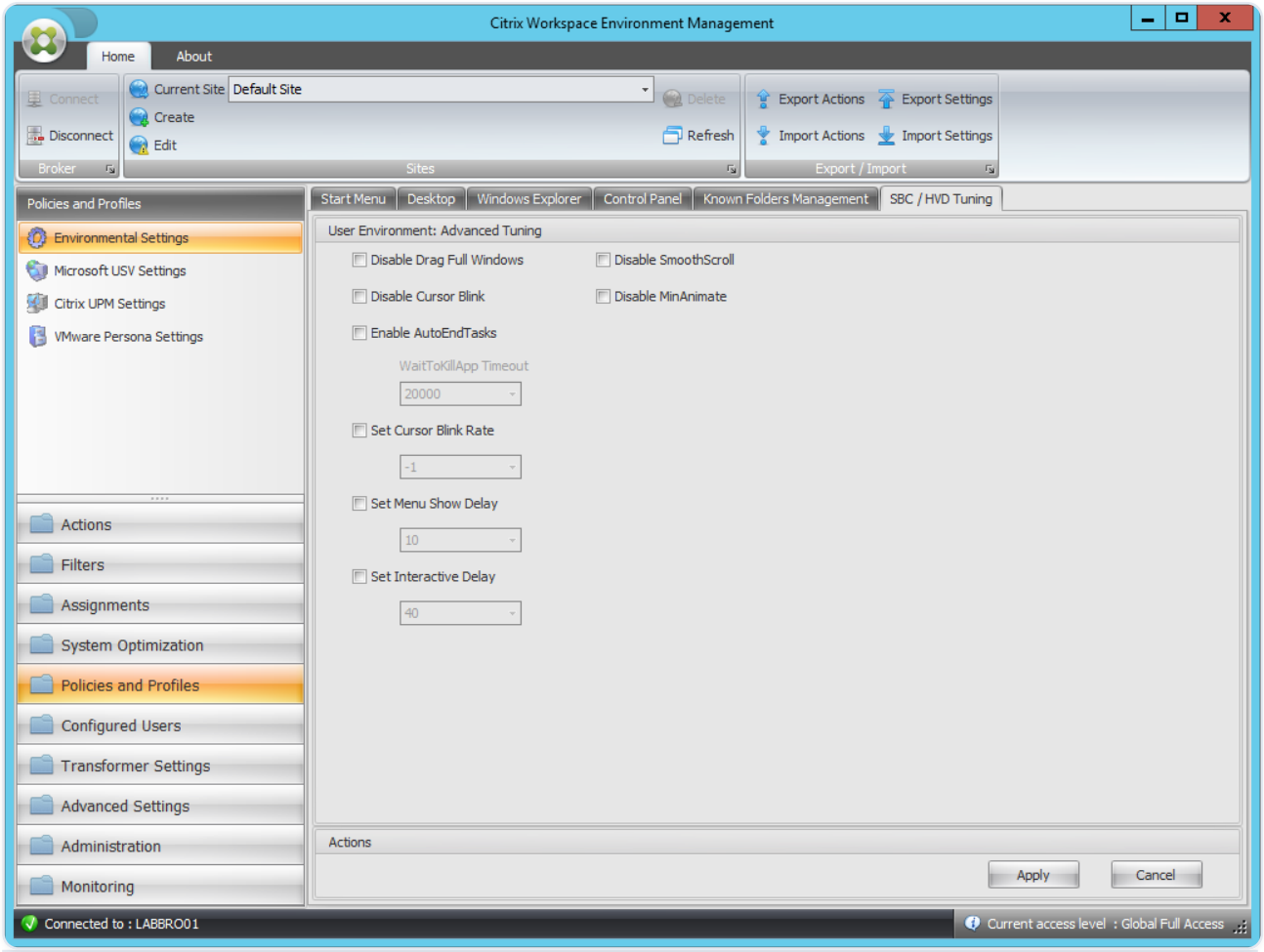
許可されていないアプレットごとに	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\DisallowCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス



指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer`
値の名前	DisableKnownFolders
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

無効なフォルダーごとに	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders`

無効なフォルダーごとに	
値の名前	無効なフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	Null / 削除済み
処理中	ログオン時のサービス



ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DragFullWindows
値の型	REG_SZ
有効な値	0

ドラッグフルウィンドウを無効にする	
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	カーソル点滅の無効化
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS を有効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	CursorBlinkRate
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MenuShowDelay
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

対話型遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	InteractiveDelay

対話型遅延の設定	
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLL を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATE の無効化	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成するために使用する次のフィルター条件が含まれています。これらの条件を管理コンソールで使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

次のフィルター条件を使用する場合は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合：
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」および「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	該当なし
予期される構文	該当なし
戻り値	真。

条件名	コンピューター名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Computername 複数テスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数でも機能します): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテスト値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	クライアント名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される値の型	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Clientname 複数テスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数でも機能します): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数のテスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数でも機能します): IpAddress* 範囲 (複数でも機能します): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数のテスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): ClientIpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2

条件名	クライアントIPアドレスの一致
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
予期される構文	Active Directoryサイト名。
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	スケジュール設定
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	曜日 (例: 月曜日)。
予期される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	環境変数の一致
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象変数の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象変数の予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合は False。

条件名	レジストリ値の一致
予期される値の型	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
予期される結果の型	文字列。テスト対象のレジストリエントリの予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	WMI クエリ結果の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>` を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザー国の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。
期待される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーのUI ISO言語名が指定された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	リストから選択。
予期される構文	該当なし
戻り値	ユーザーコンテキスト（公開デスクトップまたはアプリケーション）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	OSプラットフォームタイプ
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームタイプ（x64またはx86）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし

条件名	接続状態
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョン一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン。例: 6.5
予期される構文	該当なし
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名一致
予期される値の型	該当なし
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ファーム名 (バージョン 6.5 まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ゾーン名の一致
期待される値タイプ	該当なし
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Apps ゾーン名 (バージョン 6.5 まで)。例: Zone。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名 (バージョン 5 まで)。例: Farm。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ。例: Group。
予期される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
期待される値のタイプ	該当なし
期待される結果のタイプ	ドロップボックスから選択.
期待される構文	該当なし
戻り値	現在の Citrix Provisioning イメージモードが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	クライアント OS
期待される値のタイプ	該当なし

条件名	クライアント OS
期待される結果のタイプ	ドロップボックスから選択.
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directoryパスの名前。
予期される構文	単一名テスト: 厳密なLDAPパス照合 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数のエントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の照合
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory属性の予期される値。
期待される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る Nullでないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前または値がリストにある
期待される値の型	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
期待される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前/値の期待される値。
期待される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに入力値が見つかった場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	COMPUTERNAMEが一致しない
否定条件の動作	**ComputerName Match** を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ComputerName Match** を参照してください。

条件名	CLIENTNAME が一致しない
否定条件の動作	ClientName Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ClientName Match** を参照してください。

条件名	IP アドレスが一致しない
否定条件の動作	IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **IP Address Match** を参照してください。

条件名	クライアント IP アドレスが一致しない
否定条件の動作	Client IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合

条件名	クライアント IP アドレスが一致しない
	は false)。詳細については、条件 **Client IP Address Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの不一致
否定条件の動作	Active Directoryサイトの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**Active Directoryサイトの一致**」を参照してください。

条件名	環境変数の不一致
否定条件の動作	環境変数の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**環境変数の一致**」を参照してください。

条件名	レジストリ値の不一致
否定条件の動作	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**レジストリ値の一致**」を参照してください。

条件名	WMIクエリ結果の不一致
否定条件の動作	WMIクエリ結果の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**WMIクエリ結果の一致**」を参照してください。

条件名	ユーザー国一致なし
否定条件の動作	ユーザー国一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ユーザー国一致** を参照してください。

条件名	ユーザーUI言語一致なし
否定条件の動作	ユーザーUI言語一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ユーザーUI言語一致** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSバージョン一致なし
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsバージョン一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Appsバージョン一致** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名一致なし
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSゾーン名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Zone Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Zone Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPSファーム名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPSデスクトップグループ名不一致
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスが一致しない
否定条件の動作	Active Directory パスの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory パスの一致** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の不一致
否定条件の動作	Active Attribute パスの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Attribute パスの一致** を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	名前または値がリストにあるを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **名前または値がリストにある** を参照してください。

条件名	クライアントリモート OS の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予想される構文	該当なし

条件名	クライアントリモート OS の一致
戻り値	現在のリモートクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントリモートOS不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOS一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントリモートOS一致**を参照してください。

条件名	動的値の一致
予想される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
予想される結果の型	文字列。テストされた式の予想される値。
予想される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の評価結果値が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	動的な値の不一致
否定条件の動作	動的な値の一致を実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **動的な値の一致** を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし

条件名	トランスフォーマーモードの状態
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOS一致を実行し、逆の結果 (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse) を返します。詳細については、条件「**クライアントOS一致**」を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: グループのNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数のテスト (OR): Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテストされた値と一致する場合、Trueを返します。それ以外の場合はfalseです。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directory Group Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory Group Match** を参照してください。

条件名	ファイルバージョンの一致
予期される値の型	文字列。テストするファイルの完全なパスと名前。

条件名	ファイルバージョンの一致
	例: **C:\Test\TestFile.dll**
予期される結果の型	文字列。テスト対象ファイルの予期されるファイルバージョン値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	File Version Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **File Version Match** を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

重要：

フィルター条件タイプとして Published Resource Name を使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、アプリケーションのブラウザ名を **Matching Result** フィールドに入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、デスクトップの公開名を **Matching Result** フィールドに入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前 (Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS)。
予期される構文	単一の名前テスト: 公開リソース名 複数テスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	名前がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List manager ユーティリティによって生成された XML リストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに名前の一致がある場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「名前がリストにある」を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **名前がリストにある** を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ (ファイルまたはフォルダー) の完全パス。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「ファイル/フォルダーが存在する」を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ファイル/フォルダーが存在する** を参照してください。

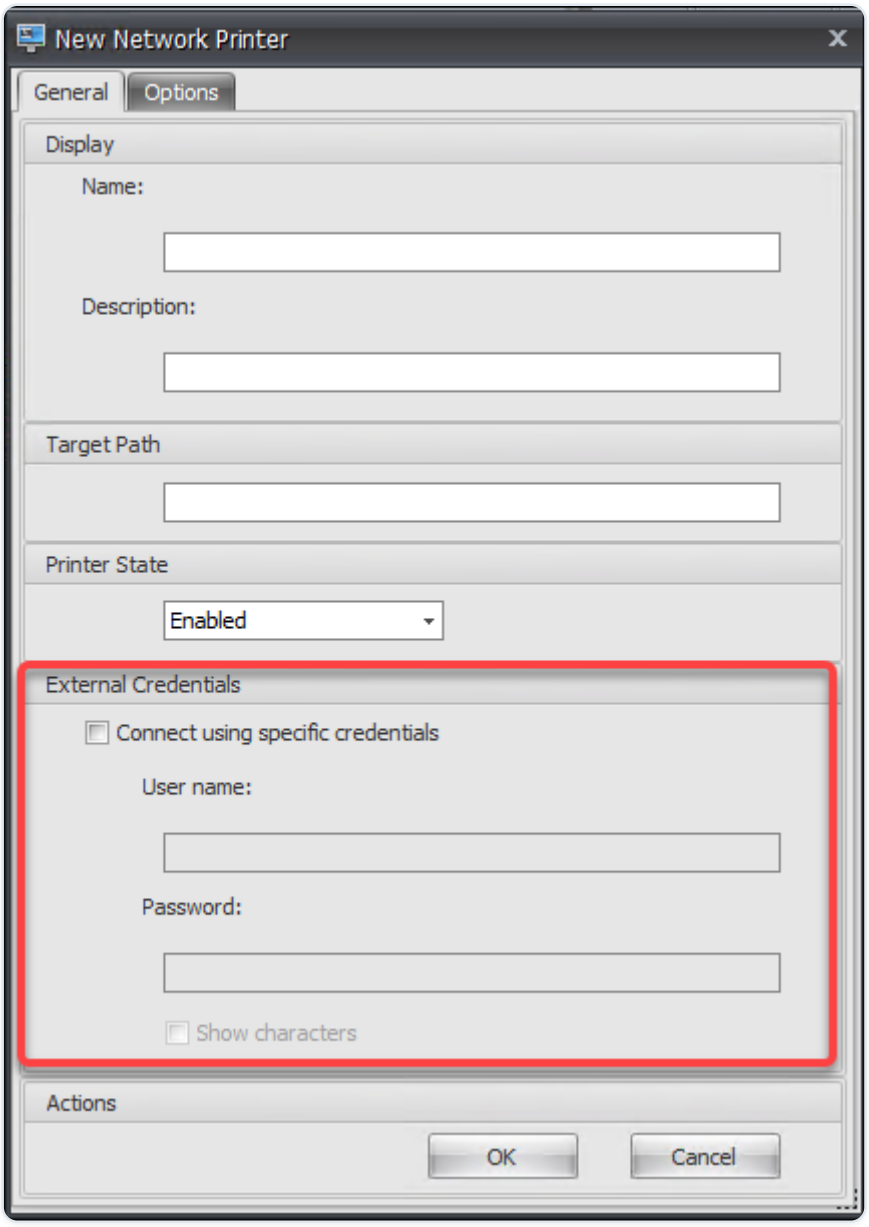
条件名	日時の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
予期される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在できます。
戻り値	実行日時が指定されたいずれかのエントリと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	日時不一致
否定条件の動作	DateTime Matchを実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **DateTime Match** を参照してください。

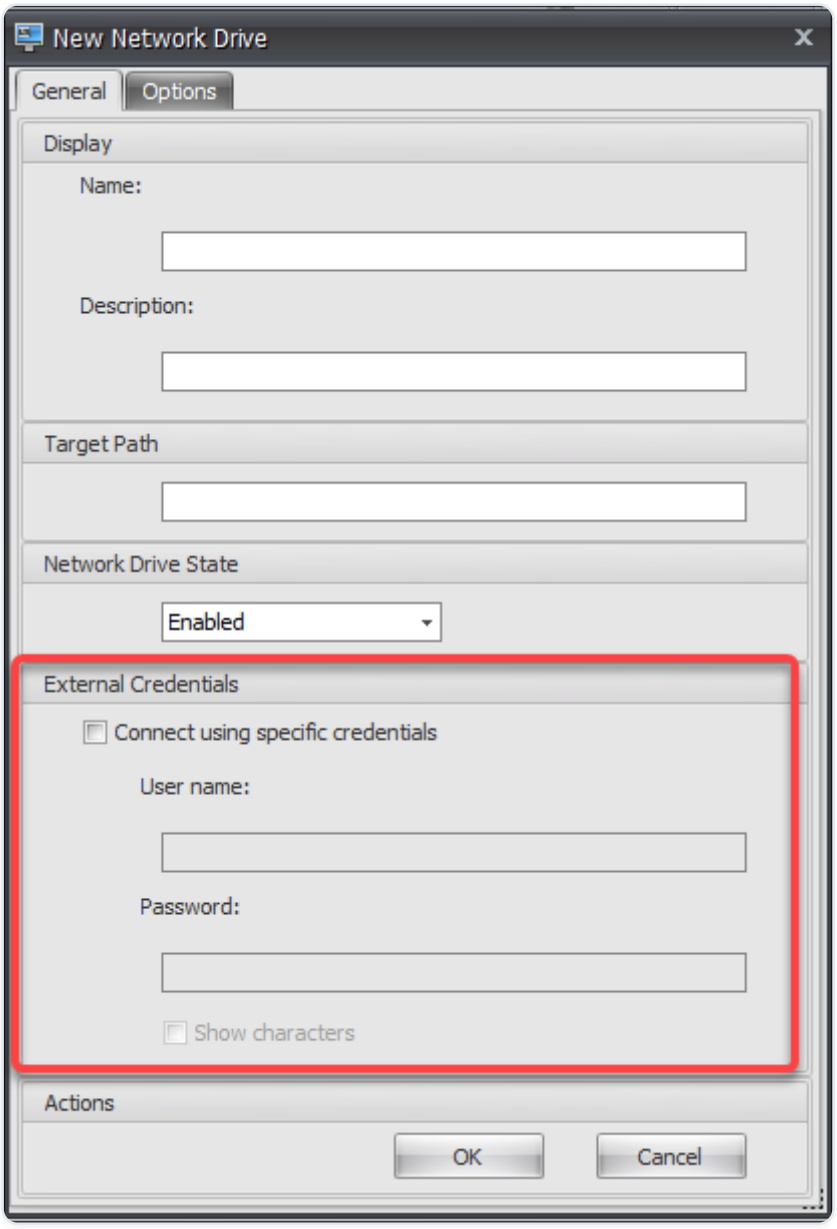
FIPS サポート

Workspace Environment Management™ (WEM) は FIPS 環境で実行できます。WEM の以下の構成は FIPS に関連しています。

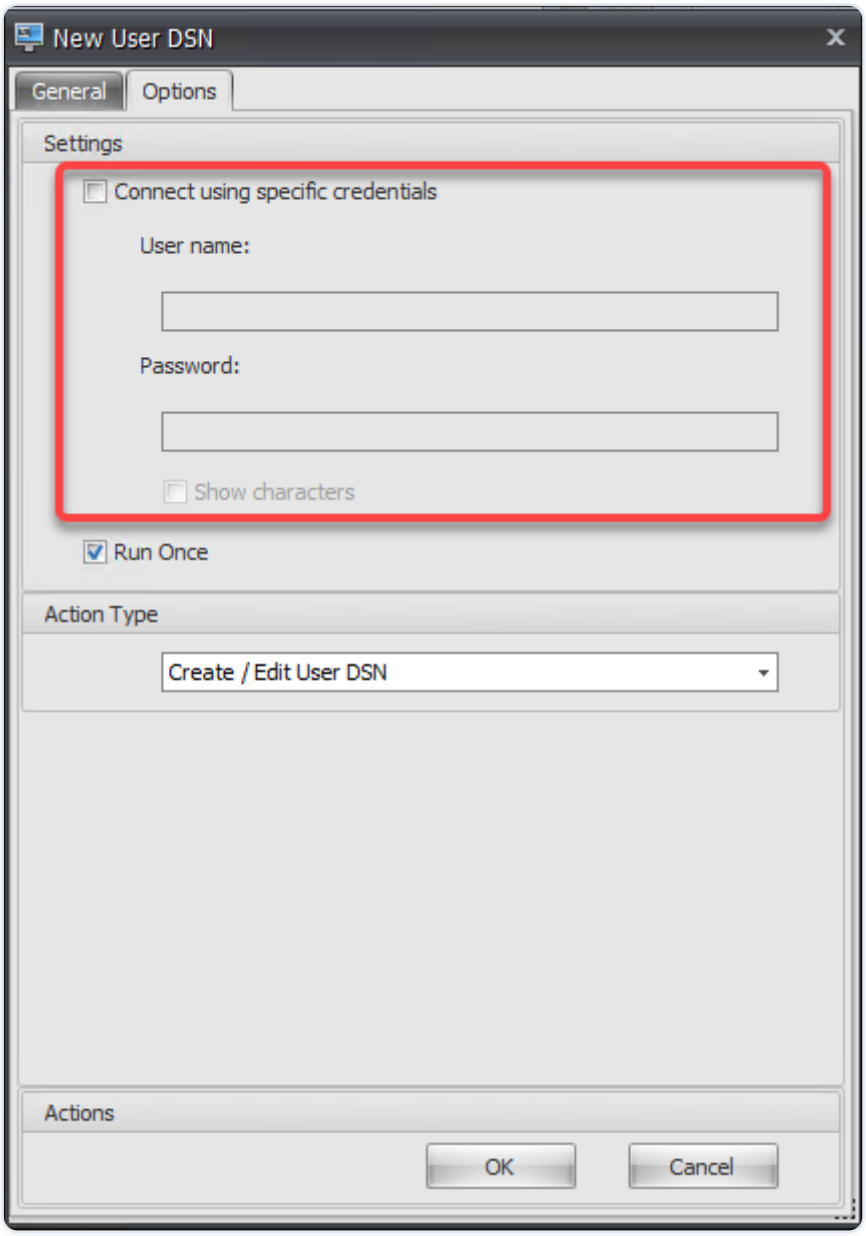
- プリンターの資格情報 (**管理コンソール > アクション > プリンター**):



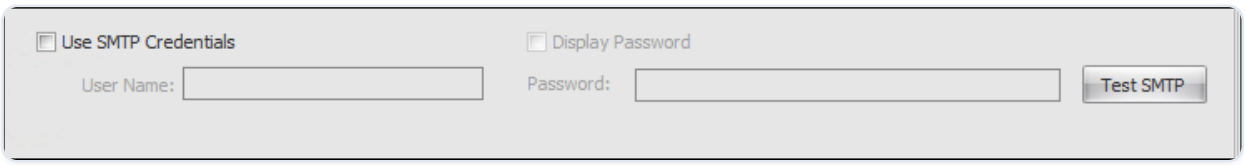
- ネットワークドライブの資格情報 (**管理コンソール > アクション > ネットワークドライブ**):



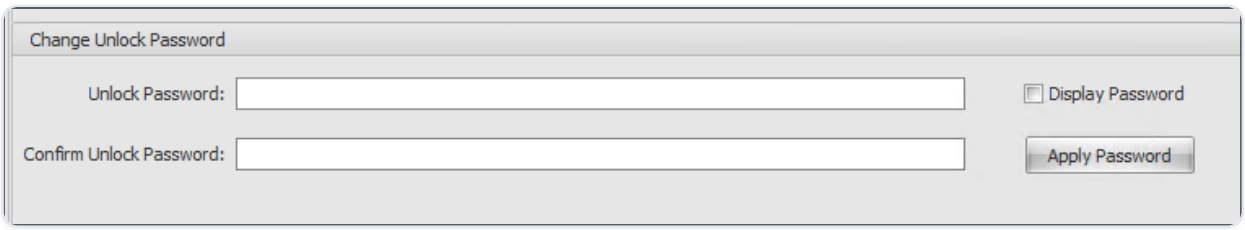
- ユーザー DSN の資格情報 (**管理コンソール > アクション > ユーザー DSN**):



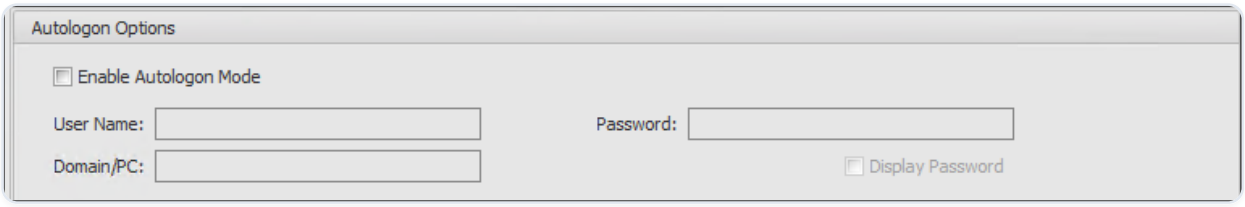
- SMTP の資格情報 (**管理コンソール > 詳細設定 > UI エージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**):



- パスワードロック解除設定 (**管理コンソール > Transformer 設定 > 全般 > 全般設定**):



- 自動ログオン資格情報 (**管理コンソール > Transformer 設定 > 詳細設定 > ログオン/ログオフと電源設定**):



FIPS 環境で WEM を実行する際は、以下の考慮事項に注意してください。

- WEM 2003以前の環境からエクスポートされた場合、以下の項目をWEM環境に復元することはできません。
  - アクション（プリンター、ネットワークドライブ、ユーザーDSN）およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定（エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定）
  - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEMをFIPSモードで実行する場合は、WEMインフラストラクチャサービスと管理コンソールをアップグレードする前に、以下の考慮事項に注意してください。

- 環境で *WEM 2006以降* が実行されている場合、最初に2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替えるか、*その逆* の方法も可能です。
- 環境で *WEM 2003以前* が実行されている場合、最初に2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS環境でWEMエージェントを実行するには、エージェントのバージョンが *2006以降* であることを確認してください。

Citrix ADC を使用した負荷分散

この記事では、すべてのアクティブな負荷分散構成で、2つ以上のインフラストラクチャサーバーを含むWorkspace Environment Management™ (WEM) サーバーグループの展開について説明します。この記事では、WEM管理コンソールおよびWEMエージェントからの受信要求を負荷分散するようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法の詳細を説明します。

Citrix ADCで、以下のWEMポートをリッスンできます。

- 管理ポート (デフォルトでは8284)
- エージェントサービスポート (デフォルトでは8286)
- キャッシュデータ同期ポート (デフォルトでは8288)

2つのインフラストラクチャサーバー (インフラストラクチャサーバー1とインフラストラクチャサーバー2) を含むWEMサーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します。

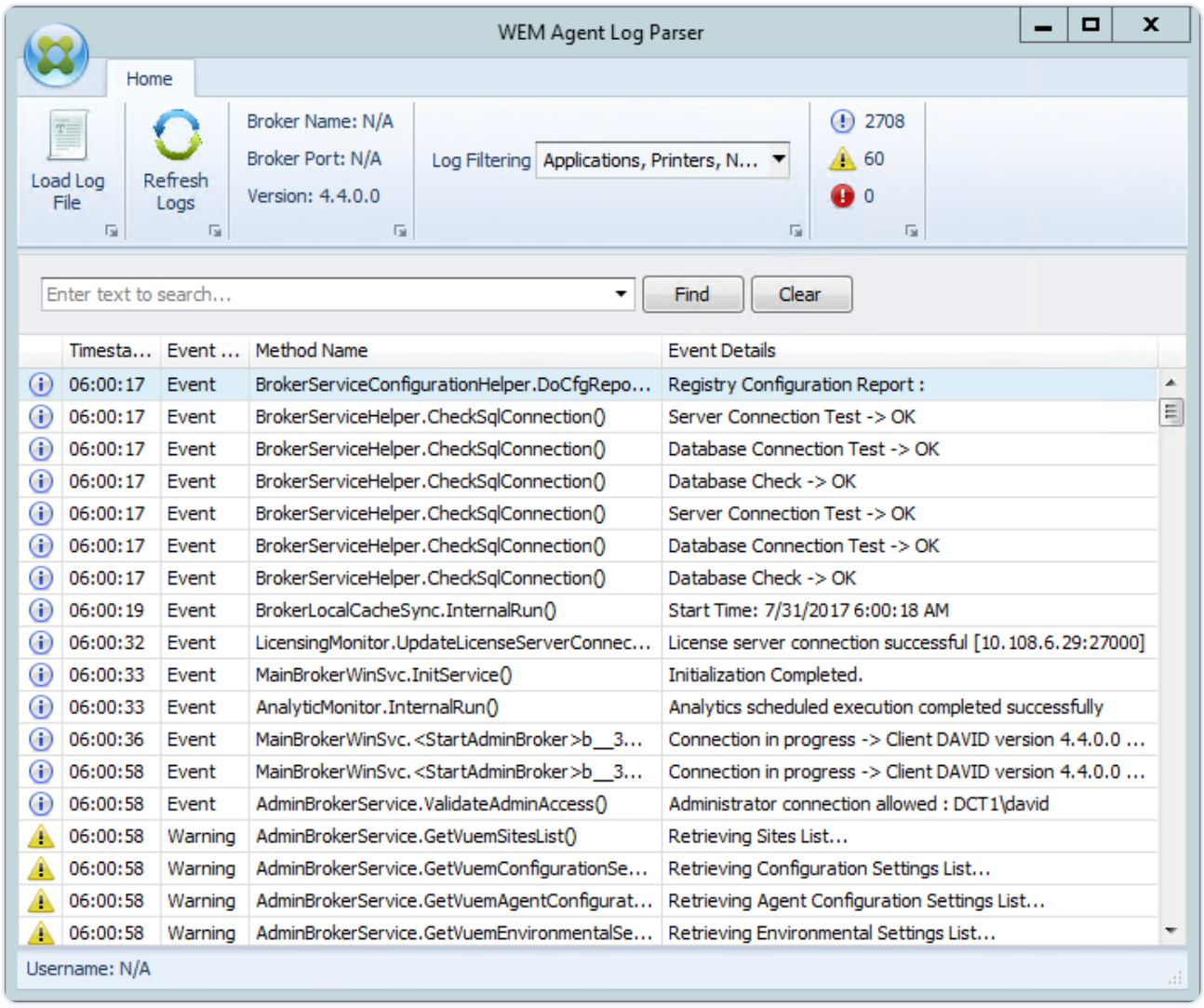
1. Citrix ADC管理GUIにログオンし、**Configuration** をクリックします。
2. **Traffic Management > Load Balancing > Servers > Add** に移動し、**Add** をクリックしてインフラストラクチャサーバー1を追加します。インフラストラクチャサーバー2を追加するには、この手順を繰り返します。
3. **Traffic Management > Load Balancing > Service Groups** に移動し、**Add** をクリックして *管理コンソールサービス* のサービスグループを作成します。
   - **プロトコル**。**TCP** を選択します。
   - **キャッシュの種類**。**SERVER** を選択します。
4. 「Load Balancing Service Group」ページで、**No Service Group Member** をクリックします。
5. 「Create Service Group Member」ページで、**Server Based** を選択し、右矢印をクリックして、インフラストラクチャサーバー1を選択します。インフラストラクチャサーバー2についても、手順3から5を繰り返します。
   - **ポート**。たとえば、管理コンソールには8284と入力します。
6. 「*エージェントサービス*」と「*キャッシュ同期サービス*」のサービスグループを作成するには、手順3〜5に従います。
   - **ポート**。「エージェントサービス」ポートには「8286」と入力します。「キャッシュデータ同期」ポートには「8288」と入力します。
7. **Traffic Management > Load Balancing > Virtual Servers** に移動し、**Add** をクリックして「*管理コンソールサービス*」の仮想サーバーを追加します。
   - **プロトコル**。「**TCP**」を選択します。
   - **IPアドレスタイプ**。「**IP Address**」を選択します。
   - **IPアドレス**。仮想IPを入力します。詳細については、「Citrix ADCが所有するIPアドレスの構成」を参照してください。
   - **ポート**。たとえば、管理コンソールには「8284」と入力します。

8. 「**負荷分散仮想サーバーサービスグループバインドなし**」をクリックします。
9. ページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択して、**Bind** をクリックします。
10. エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成するには、手順7～9に従います。

    - **ポート**。「エージェントサービス」ポートには「8286」と入力します。「キャッシュデータ同期」ポートには「8288」と入力します。

ログパーサー

Workspace Environment Managementには、エージェントのインストールディレクトリにあるログパーサーアプリケーションが含まれています。デフォルトの場所は - `c:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Agent Log Parser.exe` です。



WEM エージェントログパーサーを使用すると、任意のWorkspace Environment Management™ エージェントログファイルを開き、検索およびフィルター可能にすることができます。パーサー

は、イベント、警告、例外の合計数 (リボンの右上) を要約します。また、ログファイルに関する詳細 (最初に接続したインフラストラクチャサービスの名前とポート、およびエージェントのバージョンとユーザー名) も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ は、以下のポートを使用します。

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャサービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャサービス	TCP	8284	「管理ポート」。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャサービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。
エージェントキャッシュ同期プロセス	インフラストラクチャサービス	TCP	8288	「キャッシュデータ同期ポート」。Workspace Environment Management 1912以降に適用されます。Workspace

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するために使用するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrixライセンスサーバーポート」。Citrixライセンスサーバーがリッスンし、インフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポート。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrixライセンスサーバー内の専用Citrixコンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
監視サービス	インフラストラクチャサービス	TCP	8287	「WEM監視ポート」。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。

ログファイルを表示

Workspace Environment Management™ (WEM) に関連するログを収集および表示できます。これらのログは、自分で問題をトラブルシューティングしたり、Citrixテクニカルサポートに支援を求める際に提供したりするために使用します。次のログを収集できます。

- WEMエージェント
- WEMインフラストラクチャサービス
- WEM管理コンソール
- WEMデータベース
- WEM Webコンソール

エージェント関連のログ

WEMエージェントに関連するログを収集できます。WEMエージェントがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **WEMエージェントログ**
  - **Citrix WEM Agent Init.log**。CMDまたはUIモードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる初期化ログです。このログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントの起動に失敗した場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは*例外*として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMDまたはUIモードでエージェントの問題をトラブルシューティングできるプライマリログです。このログには、エージェントが処理した命令が一覧表示されます。現在ユーザーにアクションが割り当てられなかった場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは*例外*として表示されます。デフォルトで

は、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション** に移動し、**エージェントログの有効化** 設定を構成します。詳細を表示するには、**エージェントオプション** タブで **デバッグモード** を有効にします。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

コンピューター\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: AgentDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

値を1に設定するとログファイルが有効になり、0に設定すると無効になります。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動してください。既定では、ログ記録は無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**。Citrix WEM Agent Host Serviceに関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。既定では、このログファイルは`%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあります。ログ記録を有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで、関連する構成セットの**デバッグモード**を必ず有効にしてください。または、次のレジストリキーを構成してログ記録を有効にすることもできます。

  コンピューター\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェント ホスト

  名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

値を1に設定するとログファイルが有効になり、0に設定すると無効になります。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動してください。既定では、ログ記録は無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Windowsイベントログ**。Windowsイベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Agent Service**ペインで表示します。
- **Windows Communication Foundation (WCF) トレース**。WEMエージェントとWEMインフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログ記録を有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳しくは、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEMインフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEMインフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Windowsイベントログ**。Windowsイベントログに書き込まれる情報です。ログは、**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Infrastructure Service**ペインで表示します。
- **Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**。Citrix WEMインフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) に関する問題のトラブルシューティングに役立つログです。既定では、このログファイルは`%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。

b. **詳細設定**タブで、**デバッグモードを有効にする**を選択します。

c. **構成の保存**をクリックし、**はい**をクリックしてサービスを開始し、変更を適用します。

d. 「**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**」ウィンドウを閉じます。

- **WCFトレース**。WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation traces」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Citrix WEM Console Trace.log**。WEM管理コンソールの問題をトラブルシューティングできるログです。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。ログを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから「**WEM Administration Console**」を開き、「**Connect**」をクリックします。

  b. 「**New Infrastructure Server Connection**」ウィンドウで情報を確認し、「**Connect**」をクリックします。

  c. 「**About**」タブで「**Options**」をクリックし、「**Enable Debug Mode**」を選択します。

  d. 「**Apply**」をクリックして変更を適用します。

- **WCFトレース**。WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation traces」を参照してください。

WEMデータベースに関連するログ

WEMデータベースに関連するログを収集できます。WEMデータベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成またはアップグレードすると、ログが作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log**。WEMデータベースの問題をトラブルシューティングできるログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services` にあります。

WEM Webコンソールに関連するログ

WEM Webコンソールに関連するログを収集できます。WEM Webコンソール構成ユーティリティを使用してWebコンソールを構成すると、ログが作成されます。さらに、Webコンソールサービスが実行されているときにもログが作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Web Console Configuration Utility.log**。WEM Web コンソール構成ユーティリティに関する問題のトラブルシューティングを可能にするログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\ProgramData` にあります。
- **Citrix WEM Public API.log**。WEM Web コンソールサービスに関する問題のトラブルシューティングを可能にするログです。**Web コンソール構成**ユーティリティを使用して Web コンソールサービスを構成し、ログ記録を有効にする場合は、**コンソールログ記録を有効にする**オプションを有効にしてください。このログファイルは `C:\ProgramData` にあります。

ウィンドウズ コミュニケーション ファンデーション トレース

Windows Communication Foundation (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信
- WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信
- WEM 管理コンソールに関連する通信

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEM エージェントが WEM インフラストラクチャサービスと適切に通信しない場合は、VUEMUIAgent.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある VUEMUIAgent.exe.config ファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` と `</configSections>` マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、C ドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダを作成します。フォルダがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exe プロセスを終了します。
8. `C:\Trace` にある `vuemUIAgent-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

Citrix.Wem.Agent.Service.exe サービスの WCF トレースを表示することもできます。次の手順に従います。

1. WEM エージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了** を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM Agent Host Service を終了します。

4. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある Citrix.Wem.Agent.Service.exe.config ファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
5. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`</configSections>` マーカーの直後の4行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService-
Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM Agent Host Service という Windows サービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. `C:\Trace` にある `NorskaleAgentHostService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker Service の WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Citrix WEM Infrastructure Service を終了します。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services` にある Norskale Broker Service.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:
\trace\NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEM インフラストラクチャサービスマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Citrix WEM Infrastructure Service を開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信のトラブルシューティング

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale Administration Console.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM 管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM 管理コンソールを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Administration Console` にある Norskale Administration Console.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに追加します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog" />

            </listeners>
```

```
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. WEM管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace`で`WEMConsole-Traces.svclog`という名前のログファイルを表示します。

WEMヘルスチェックツール

WEMヘルスチェックツールは、WEMコンポーネントのステータスを確認し、WEM展開における構成の問題を特定して解決するのに役立つスタンドアロンツールです。
`Citrix.WEM.Health.Check.Tool`は、WEMエージェントおよびWEMインフラストラクチャサービスとともにインストールされます。このツールを使用するには、ローカル管理者権限が必要です。トラブルシューティングのためにログを収集するには、**デバッグモード**を有効にし、問題発生後にログを取得します。

ホーム

ホームページには、次の構成が含まれています。

- WEMエージェントとWEMインフラストラクチャサーバーの両方の構成。**名前**、**エージェントの種類**、**エージェントのバージョン**、および**参加の種類**を選択します。
- **参加**の種類に関する前提条件は、AD参加または非ドメイン参加のいずれかです。
- WEMエージェントとWEMインフラストラクチャサーバーに対してそれぞれ、**強制デバッグモード**または**デバッグモード**を有効にできます。
- **強制デバッグモード**を有効にすると、**管理**コンソールで指定された設定に関係なく、エージェントのデバッグモードがオンになります。
- WEMエージェントまたはWEMインフラストラクチャサーバーに変更をすぐに適用するには、それぞれ`Citrix WEM agent Host Service`と`VUEMUIAgent.exe`または`Citrix WEM Infrastructure Service`を再起動できます。

- **ログの取得**を使用すると、ログをパッケージとして圧縮フォルダーに取得して保存できます。その後、ローカルマシンに保存されたパッケージを確認できます。

インフラストラクチャサーバー

WEMインフラストラクチャサーバーの構成を確認するには、ツールを開き、インフラストラクチャサーバーの基本情報を確認します。

- インフラストラクチャサーバーの**デバッグモード**を有効にします。
- **チェック開始**ボタンをクリックして、インフラストラクチャサーバーの構成を確認します。
- **ログの取得**をクリックしてログを取得し、**レポートファイルを開く**をクリックして詳細レポートを表示し、**再チェック**をクリックして構成を再確認します。

ヘルスチェックレポートを生成するために、次のコンポーネントが考慮されます。

- Windows ファイアウォールの構成
- エージェントブローカーサービス
- キャッシュ同期サービス
- 管理サービス
- ライセンスサーバー

> **注:**
>
> - エージェントキャッシュが永続的な場所に存在することを確認してください。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。
> - 接続時間に基づいてディレクトリサービスのタイムアウトを設定することをお勧めします。

> WEMエージェントが期待どおりに機能するには、以下のサービスが必要です。サービスが実行されており、各サービスのスタートアップの種類が自動に設定されていることを確認してください。

- システムイベント通知サービス
- Citrix WEMエージェントホストサービス
- Citrix WEMユーザーログオンサービス

WEM ツールハブ

WEM Tool Hub は、Workspace Environment Management™ (WEM) 管理者の構成エクスペリエンスを簡素化することを目的としたツールのコレクションです。オンプレミス環境では、ユーザーはオンプレミスの Web コンソールからツールをダウンロードできます。

WEM Tool Hub を実行するための前提条件は次のとおりです。

- .NET Framework 4.7.1 以降
- Microsoft Edge WebView2 Runtime バージョン 98 以降
- ローカル管理者権限

現在、次のツールが利用可能です。

- アプリケーションアシスタント
- Windows 11 用スタートメニューコンフィギュレーター
- Windows ログオン分析
- ユーザーストア作成ツール
- ファイル情報ビューア
- ファイルの種類関連付けアシスタント
- プリンターアシスタント
- プロファイル移行ツール
- アプリケーションアクセス制御のルールジェネレーター

注:

- WEM Tool Hubはデータを保存しません。ツールを終了するとデータはクリアされます。潜在的なデータ損失を避けるため、作業を保存してください。
- WEM Tool HubからコピーしたデータをWebコンソールに貼り付けるには、ブラウザがデータのコピーを許可していることを確認してください。例: Microsoft Edgeの場合、**サイトのアクセス許可 > クリップボード > サイトがクリップボードにコピーされたテキストと画像を表示しようとしたときに確認する** オプションが有効になっていることを確認してください。

アプリケーションアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールでアプリケーションを追加する際に使用するアイコンおよびCitrix Workspace™リソースの構成情報を準備します。

ワークスペースリソース

> **注:**
>
> このツールを使用するには、Citrix Workspaceアプリがマシンにインストールされている必要があります。

> Webコンソールに「Citrix Workspaceリソース」タイプのアプリケーションを追加する場合、リソースを指定する必要があります。リソースの情報を取得するには、次の手順を完了します。

1. ストアURLまたはワークスペースURLを入力します。
2. **リソースの参照** をクリックして、リソースを参照します。リソースがカウントされ、一覧表示されます。
3. リストから対象のアプリケーションを選択し、その情報をコピーします。

Webコンソールで、**リソース情報の貼り付け** をクリックしてコピーした情報を貼り付けます。「アプリケーションの追加」を参照してください。

アイコン

Webコンソールでアプリケーションのアイコンを設定する際、新しいアイコンを追加できます。アイコンのデータを取得するには、次の手順を完了します。

1. **参照** をクリックして、アイコンを含むファイルを参照します。ファイル内のアイコンが読み込まれます。サポートされているファイルの種類: `.exe`、`.dll`、`.ico`。
2. アイコンを選択し、アイコンデータをコピーします。

Webコンソールで、**アイコンデータを貼り付け**をクリックして、コピーしたアイコンデータを貼り付けます。アプリケーションの追加を参照してください。

Windows 11用スタートメニュー構成ツール

このツールを使用して、Windows 11のスタートメニューレイアウトを構成し、管理コンソールでアクションとして割り当てることができるJSON形式の構成を生成できます。

Windows 11のスタートメニューレイアウトをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

1. WEM Tool Hubで**Windows 11用スタートメニュー構成ツール**をクリックします。**スタート**メニューの**ピン留め済み**セクションに追加するアプリケーションを選択し、必要に応じてレイアウトを配置します。
2. **構成を生成**をクリックし、結果をコピーします。
3. Webコンソールで、**新しいJSONオブジェクトの追加**をクリックし、**Windows 11のスタートメニュー構成**を選択します。**JSONオブジェクトの追加**ページに構成を貼り付け、**完了**をクリックします。
4. **割り当ての管理**ページで必要な割り当てターゲットを選択して、JSONファイル構成をユーザーに割り当て、**保存**をクリックします。

アプリケーションの追加

WEM Tool Hubを使用してアプリケーションを追加するには、次の手順を実行します。

1. **Windows 11用スタートメニュー構成ツール**ページで**アプリケーションの追加**をクリックします。
2. **アプリケーションの追加**ページで、スタートメニューに追加する必要なアプリケーションを選択して、**追加**をクリックします。
3. **ピン留め済み**レイアウトセクションで、必要に応じてアプリケーションをドラッグして、アプリケーションの順序を変更できます。
4. **構成を生成**をクリックし、構成が生成されたら**コピー**をクリックします。構成の生成中に、選択したレイアウトがスタートメニューに適用されます。

Windowsログオン分析

このツールを使用して、ログオン期間レポートを表示し、ログオン期間の最適化とトラブルシューティングに関するヒントを得ることができます。

完全なレポートを受け取るには、マシン上の関連するWindowsイベントログに対して**ログ収集を有効にする**必要があります。

- **Windowsログオン分析 > レポートの取得**をクリックして、**最新レポートの取得**ウィザードにアクセスします。
- ドロップダウンリストからオプションのいずれかを選択して時間範囲を選択し、**レポートの取得**をクリックします。デフォルトの範囲は**過去24時間**です。
- フェーズと説明は、次の表に基づいてチャート形式で表示されます。

次の表に、すべてのメトリック、サブメトリック、およびヒントを詳細に示します。

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
ログオン前	Windowsログオン前にかかった時間。	Citrix®ログオン前		
		HDX™接続		
認証	セッションへの認証を完了するまでにかかった時間。	Windows認証	**Windows Helloを使用する。** Windows Helloは、顔または指紋を使用してPCにサインインできる生体認証機能です。	
		VDA認証	**ネットワーク/Active Directoryの速度。**現在のマシンとActive Directory間のネットワーク通信が良好であることを確認してください。確認には、Dcdiag)などのツールを使用できます。	
			ユーザー名とパスワードの効率的な入力。ユーザー名とパスワードの入力が不正確または遅延すると、認証時間が全体的に	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
			延長される可能性があります。	
	セッションへの認証が完了するまでにかかった時間。	セッションの調停		
シトリックス RSOP	Citrix RSOP (Resultant Set of Policy) の完了にかかった時間。			
ユーザープロファイルの読み込み	ログオンするユーザーのプロファイル設定を読み込むのにかかった時間。	FSLogixLoadProfile (FSLogixプロファイルコンテナの読み込みにかかった時間)。	**ディスク容量の不足を確認し、空き容量を確保する。**ハードドライブがほぼ満杯の場合、PCのログインプロセスが遅くなる可能性があります。ハードドライブに十分な空き容量があることを確認してください。	
		UserProfile (Windowsユーザープロファイルファイルと設定の読み込みにかかった時間)。	**ProcMonツールを使用する。**詳細を分析するには、ProcMonツールを使用して、ユーザーログオン中のユーザープロファイル内のファイルI/Oをキャプチャします。	Windowsプロファイルデータ（プロファイルサイズ、ファイル/フォルダー数）、Tempフォルダーデータ（プロファイルサイズ、ファイル/フォルダー数）、上位10個の大きい

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
				ファイルリスト（サイズ50MB以上）、上位10個の大きいフォルダーリスト（サイズ100MB以上）
		SMBクライアント (リモート接続用のSMBクライアントの初期化にかかった時間)。		
		CitrixProfileMgmt	**Citrix Profile Management**。**Citrix Profile Management**を使用している場合は、コンテナベースのソリューションを使用するか、またはファイルベースのソリューションでプロファイルストリーミングを使用し、**フォルダミラーリングの高速化**が有効になっているフォルダに対してログオンプロセスを最適化できます。詳細については、(https://docs.citrix.com/	プロファイル管理ヘルスチェックレポート

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
			ja-jp/profile-management/current-release/how-to/improve-user-logon-performance.html)を参照してください。	
	ログオンするユーザーのプロファイル設定の読み込みにかかった時間。	Windowsログオンパッケージ		Windowsログオンパッケージ
		Citrixレイヤリングサービス		
グループポリシー処理	グループポリシー設定の処理にかかった時間。	グループポリシー グループポリシー スクリプト (非同期) グループポリシー CSE (非同期) グループポリシー スクリプト	**GPOキャッシュを無効にする。** `gpedit.msc` を実行し、パス **Computer Configuration > Administrative Templates > System > Group Policy** に移動します。その後、GPOキャッシュを無効にします。	
		WMIフィルター ログオン スケジュールタスク (非同期) シングルログオン ス	**GPOの数を減らす。**一度に処理されるGPOの数を減らします。グループポ	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		ケジュールタスク フォルダーリダイレクト	リシー処理は並行して行われますが、同時に処理できるGPOの数には制限があります。一度に処理されるGPOの数を減らすことで、グループポリシー処理を高速化できます。	
		CitrixWemTotalCitrixWemCheckingHostServiceStatusCitrixWemReadConfigurationCitrixWemStartupScriptedTask	**Citrix WEMを使用してグループポリシーを非同期で処理する**。Citrix WEMを使用してグループポリシーを非同期で処理すると、ユーザーログオン前にグループポリシーを処理でき、グループポリシー処理を高速化できます。詳細については、(https://docs.citrix.com/ja-jp/workspace-environment-management/2411/install-and-configure/agent-host.html#system-settings)を参	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
			照してください。	
		CitrixWemCache (同期) CitrixWemJsonFile CitrixWemMachineGroupPolicy CitrixWemUserGroupPolicy		
		グループポリシーオブジェクト		単一のグループポリシーオブジェクトリスト
プレシェル (UserInit)	`userinit.exe` から `explorer.exe` の起動までの時間。			
ログオンスクリプトの処理	ログオンスクリプトの実行にかかった時間。	UserLogonScript	**ログオンスクリプトを最適化します**。不要なコマンドを削除し、スクリプトのサイズを小さくすることで、ログオンスクリプトを最適化できます。	
			グループポリシー設定を使用します。グループポリシー設定は、ログオンスクリプトの代わりに使用できます。これらは管	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
			理が容易で、ログオンスクリプトよりも高速に処理できます。	
			Citrix WEM外部タスクを使用します。外部タスクを使用してログオンスクリプトを設定します。タスクの完了を待つかどうか、および待機タイムアウトの期間を指定できます。待機時間を制限することで、ユーザーログオンの高速化に役立ちます。外部タスクの詳細については、製品ドキュメントを参照してください。	
シェル起動	シェル起動の実行にかかった時間。	ActiveSetup FSLogixShellStart (FSLogixプロファイルコンテナの読み込み後にシェルを実行するのにかかった時間)。	**スタートアッププログラムを無効にします**。PCの電源を入れたときに自動的に起動するプログラムを無効にできます。Win11/Win10/Win Server 2022でスタートアッププログラムを無効にす	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
			るには、次の手順を実行します。**Windows + I** ショートカットを押して**設定**を開き、**アプリ > スタートアップ**を選択します。スタートアップ時に自動的にオンにすべきではないアプリやプログラムをオフに切り替えます。グローバルスタートアップフォルダから不要なプログラムを削除します: `%allusersprofile%\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\StartUp`。ユーザーのスタートアップフォルダから不要なプログラムを削除します: `%userprofile%\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Startup`。	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
		ShellStart (Windowsユーザープロファイルの読み込み後にシェルを実行するのにかかった時間)。AppxAssociations	**高速スタートアップを有効にする**。高速スタートアップ機能を使用すると、シャットダウン後にコンピューターをより速く起動できます。Windows 10で高速スタートアップを有効にするには、次の手順を実行します。**コントロールパネル**を**アイコン**表示で開き、**電源オプション**を選択します。サイドバーで電源ボタンの動作を選択します。利用可能なオプションのリストから、**高速スタートアップを有効にする**チェックボックスを選択します。	
		AppxLoadPackage(ログオン中に読み込まれたAppXパッケージ) SingleAppxLoadPackage	**Windows の視覚効果とパフォーマンスを調整する。** Windows の視覚効果とパフォーマンスを調整して、PC のログインプロ	

ベースメトリック	ベースメトリックの説明 (UI)	サブメトリック	ヒント	詳細
			セスを高速化できます。これを行うには、**マイコンピューター**を右クリックし、**プロパティ**を選択します。**システムの詳細設定**をクリックし、**パフォーマンス**の下にある**設定**ボタンをクリックします。ここで Windows の視覚効果とパフォーマンスを調整できます。	
	シェル起動の実行にかかった時間。	Windows ログオンパッケージ		Windows ログオンパッケージ

ユーザー ストア作成ツール

このツールを使用して、ツールを実行している現在のマシン、または別のマシンで、Citrix Profile Management を使用してユーザー ストアを作成します。ユーザー ストアのフォルダーパスと共有名を指定できます。ユーザー ストアが作成されると、ユーザー ストアへのパスの推奨構成が提供され、**Profile Management** 設定で直接使用できます。

現在のマシンにユーザー ストアを作成する

現在のマシンにユーザー ストアを作成するには、次の手順を実行します。

1. ユーザー ストアの場所として設定する**フォルダーパス**を指定します。フォルダーが作成され、指定されたユーザーおよびグループと共有されます。
2. フォルダーが既に存在する場合は、**停止して通知する**または**既存のフォルダーを使用する**を選択します。

3. 必要に応じて、ファイル共有の名前を指定します。デフォルトでは、フォルダーの名前が共有名として使用されます。
4. 同じ名前の共有が既に存在する場合は、**停止して通知する**または**既存のアイテムの共有を停止して名前を使用する**を選択します。
5. **追加**をクリックして、このユーザー ストアを使用するユーザーとグループを選択します。これにより、ユーザーとグループを選択するためのネイティブ AD セレクターが開きます。
6. 指定された場所から**ユーザーまたはグループ**オブジェクトの種類を選択します。
7. ネイティブ AD セレクターの**選択するオブジェクト名を入力してください**フィールドにオブジェクト名を追加し、**OK**をクリックします。
8. **ユーザー ストアの作成**をクリックします。

別のマシンにユーザー ストアを作成する

別のマシンにユーザー ストアを作成するには、次の手順を実行します。

1. マシン名を指定し、指定されたマシンでローカル管理者権限を持つドメイン ユーザーの資格情報を入力します。マシンで PowerShell リモート処理が有効になっていることを確認してください。
2. ユーザー ストアの場所として設定する**フォルダー パス**を指定します。フォルダーが作成され、指定されたユーザーとグループと共有されます。
3. フォルダーが既に存在する場合は、**停止して通知する**または**既存のフォルダーを使用する**を選択します。
4. 必要に応じて、ファイル共有の名前を指定します。既定では、フォルダーの名前が共有名として使用されます。
5. 同じ名前の共有が既に存在する場合は、**停止して通知する**または**既存のアイテムの共有を停止して名前を使用する**を選択します。
6. **追加**をクリックして、このユーザー ストアを使用するユーザーとグループを選択します。これにより、ユーザーとグループを選択するためのネイティブ AD セレクターが開きます。
7. 指定された場所から**ユーザーまたはグループ**オブジェクトの種類を選択します。
8. ネイティブ AD セレクターの**選択するオブジェクト名を入力してください**フィールドにオブジェクト名を追加し、**OK**をクリックします。
9. **ユーザー ストアの作成**をクリックします。

エラー

関連セクションに以下のエラーメッセージが表示されます。

- ユーザー資格情報が正しくありません
- ユーザー権限が不十分です
- フォルダーはすでに存在します
- 共有名が使用中です

上記以外のエラーメッセージが表示された場合は、ページ下部の「**エラーが発生しました。詳細を以下で確認してください**」というタイトルのエラー詳細を表示できます。

別のユーザー ストアを作成するには、**別のユーザー ストアを作成**をクリックします。この選択により、すべての入力がクリアされ、リセットされた状態で開始ページにリダイレクトされます。

ファイル情報ビューア

WEM Tool Hub を使用して、パス、発行元、ハッシュ値などのデータをすばやく取得し、Web コンソールで実行可能ルールを構成できるようになりました。このプロセスには、次の手順が含まれます。

- **WEM Tool Hub** > **すべてのツール** > **ファイル情報ビューア**を選択します。
- 関連情報を取得するファイルまたはフォルダーを選択します。
- パス情報、発行元情報、ファイルハッシュなどの基準のいずれかからデータをコピーします。
- データを「**Windows インストーラーの作成**」ルールページに貼り付けます。

ファイルタイプ関連付けアシスタント

このツールを使用して、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加するために、FTA を構成するために必要な情報を取得します。

ファイルの種類関連付けアシスタントを選択すると、WEM Tool Hub の**ファイルの種類関連付けアシスタント**ページに移動します。次の手順を実行して、FTA を構成できます。

- ファイル名拡張子を入力すると、入力した文字で始まる一致するファイル名拡張子のオプションから選択できます。
- 入力した拡張子に関連付けられた**ProgID**があるか、およびその**ProgID**にレジストリで関連付けられたアクションがあるかを確認します。
- **参照**をクリックして、入力した**ProgID**が登録されているすべてのアプリケーションを一覧表示します。
- 関連付けるアプリケーションを構成します。

- **アクションのカスタマイズ**を選択して、**開く**、**編集**、**印刷**のアクションを実行することもできます。
- **コピー**ボタンをクリックして、構成済みの FTA データをコピーできます。

詳細については、「ファイルの種類関連付け」を参照してください。

プリンターアシスタント

このツールを使用して、プリントサーバーからプリンターのリストを取得し、管理コンソールで割り当て可能なアクションとして追加できます。

ネットワークプリントサーバーからプリンターを追加する場合、プリンター情報を追加する必要があります。プリンター情報を取得するには、次の手順を実行します。

1. プリントサーバーの完全な名前を入力します。
2. 特定の資格情報を使用してプリントサーバーに接続するかどうかを指定します。
3. **接続**をクリックしてプリンターリストを表示します。
4. リストから1つ以上のプリンターを選択し、プリンター情報をコピーします。

Webコンソールで、**プリンター情報の貼り付け**をクリックして、コピーした情報を貼り付けます。「印刷サーバーからプリンターを追加する」を参照してください。

プロファイル移行ツール

このツールを使用して、他のプロファイルをCitrixコンテナベースのプロファイルソリューションに移行します。 プロセスには次の手順が含まれます。

1. 次のいずれかのソースプロファイルを選択します。
   - **FSLogixプロファイルコンテナ**
   - **Citrixファイルベースソリューション**
   - **ローカルマシン**

   > **注:**
   >
   > ローカルマシンを選択した場合、**プロファイル移行ツール**がローカルマシンプロファイルのデフォルト構成を取得するため、手順2はスキップしてください。

2. ソースプロファイルの場所を構成します。

- **ファイル共有**: **参照**をクリックして、必要なソースファイル共有の場所を選択するか、直接場所を入力します。
- **サブパス**: デフォルトのコンテナフォルダーを使用しない場合は、サブパスを入力します。

> **注:**
>
> **FSLogixプロファイルコンテナ**では、2つの異なるフォルダーパターンがサポートされており、`%SID%_%USERNAME%`がデフォルトのフォルダーパターンです。

3. ターゲットCitrixユーザーストアの場所を構成します。
   - **ファイル共有**: **参照**をクリックして、必要なターゲットファイル共有の場所を選択するか、直接場所を入力します。
   - **サブパス**: 必要なターゲットサブパスを入力します。
4. 「**アクセスを確認**」をクリックして、現在のCitrixアカウントまたは代替アカウントがソースファイル共有への読み取りアクセス権とターゲットファイル共有へのフルアクセス権を持っているかどうかを確認します。現在のCitrixアカウントにアクセス権がない場合は、「**代替資格情報を使用**」チェックボックスを選択して、代替ユーザー名とパスワードを入力します。
5. プロファイルを移行するユーザーとグループを指定します。ユーザーまたはグループが指定されていない場合、ソースロケーション内のすべてのプロファイルが移行されます。
6. ソースプロファイルの**OSバージョン**を選択します。
7. 「**移行を開始**」をクリックします。

プロファイル移行ツールは、一度に1つのプロファイルを移行します。移行を停止する場合は、「**停止**」をクリックします。この操作により、現在のプロファイルの移行が完了し、残りのプロファイルの移行が停止します。「**選択したものを再試行**」をクリックして、移行を再試行できます。それ以外の場合は、別の移行を実行するには、「**別の移行を実行**」をクリックします。

失敗した場合は、「**ログを表示**」をクリックしてエラーログを確認できます。「**選択したものを再試行**」をクリックして、失敗したプロファイルの移行を再試行するオプションがあります。

アプリケーションアクセス制御のルールジェネレーター

このツールを使用して、次のルールを作成します。

- **非表示**ルール。ファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーへのユーザーアクセスを制御します。

- **リダイレクト**ルール。ユーザーのファイル、フォルダー、レジストリ値、およびキーをリダイレクトします。

これらのルールは、Citrix Profile Management を介して実装されます。一般的な使用例は次のとおりです。

- マシンにインストールされているアプリケーションへのユーザーアクセスを制御します。関連するユーザーに対してアプリケーションを非表示にするかどうかを制御します。
- データローミングを実装します。ユーザープロファイル以外のデータをファイル共有にリダイレクトし、ユーザーがどのマシンにサインインしても同じデータにアクセスできるようにします。
- データ保護を強化します。重要なデータを代替の場所または値にリダイレクトし、不正アクセスから保護します。
- ユーザーエクスペリエンスをカスタマイズします。特定の要件に基づいてアプリケーションエクスペリエンスを調整します。

次の操作を実行できます。

- ルールを作成する
- ファイルからルールをインポートする
- ルールの生データを生成する
- ルールを編集する
- ルールを削除する
- アプリケーションルールをテストする

アプリケーションアクセス制御のルールを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで をクリックし、 または を選択します。
2. ページで、次の設定を構成します。
    - 。ルールを識別するための名前を指定します。
    - 。ターゲットオブジェクトを追加します。ターゲットオブジェクトには、非表示にするアプリケーションに関連するファイル、フォルダー、レジストリを指定できます。現在のマシンにインストールされているアプリケーションと、各アプリケーションに関連付けられているオブジェクトをスキャンするには、 をクリックします。
    - 。ファイル、フォルダー、レジストリをリダイレクトできます。リダイレクトごとに、ソースパスと宛先パスを指定します。

注:

- 特定のCitrixおよびWindowsサービスが依存するアイテムのパスを追加することはできません。追加すると、それらのサービスが正常に動作しなくなる可能性があります。これらのパスの完全なリストについては、「Paths not allowed to be added」を参照してください。

3. ページで、ルールを割り当てるユーザー、コンピューター（組織単位）、およびプロセスを追加します。AADユーザーまたはグループとNDJマシンを取得する方法の詳細については、「AAD/NDJ object selector」を参照してください。

   a. ユーザー、マシン、またはプロセスから割り当てタイプを選択します。

   b. **適用先**セクションで、割り当てオブジェクトを指定します。オブジェクトが選択されていない場合、ルールはその割り当てタイプのすべてのオブジェクトに適用されます。

   c. 除外を指定するには、**除外**セクションに移動し、必要な割り当てオブジェクトを追加します。

   d. 必要に応じて、別の割り当てタイプに対して手順aからcを繰り返します。

注:

- 割り当てが指定されていない場合、このルールは常にターゲットオブジェクトに適用されます。
- 割り当てには、ユーザー、コンピューター、プロセスの3つのカテゴリがあります。カテゴリ内の項目間では *OR* 演算子が使用され、カテゴリ間では *AND* 演算子が使用されます。
- ドメインに参加していないマシンまたはAzure Active Directoryに参加しているマシンでツールを実行している場合、ユーザーとコンピューターを追加することはできません。
- 複数のプロセスを一括で追加できます。プロセス名（.exe拡張子を含む）を改行で区切って入力します。

4. 完了したら、**完了**をクリックします。

ルールの生データを生成するには、次の手順を実行します。

1. 目的のルールを選択するか、**すべて選択**をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーで**生データを生成**をクリックします。選択したルールの生データが生成されます。
3. **生データを生成**ウィンドウで、後で復元するために生データをファイルに保存するか、生データをクリップボードにコピーします。

> **注:**
>
> - ルールを展開する方法に応じて、WEM管理コンソールでルールを追加するとき、またはプロファイル管理ポリシーの**アプリアクセス制御**を構成するときに、生データを使用します。
> - 生データをファイルに保存した後、そのファイルからルールを復元できます。そのためには、アクションバーの**インポート**を使用します。

4. 完了したら、**完了**をクリックします。

テスト環境または本番環境に展開する前に、ローカルマシンでアプリのアクセス制御ルールを検証できます。

アプリルールをテストするには、次の手順を実行します。

1. 目的のルールを選択するか、**すべて選択**をクリックしてすべてのルールを選択します。
2. アクションバーで**テスト**をクリックします。

   - **ローカルマシンに展開**をクリックして、選択したルールをローカルマシンに展開し、ルールが期待どおりに機能しているかを確認します。ポップアップウィンドウで「展開」をクリックしてアクションを確定します。

> **注:**
>
> アプリルールをテストしている間、ルールは現在のユーザーにのみ影響します。

   - **ローカルマシンから展開済みルールをクリア**をクリックして、展開済みのアプリアクセス制御ルールをローカルマシンからクリアします。

追加できないパス

特定のCitrixおよびWindowsサービスが依存する項目について、以下のパスとその親パスを追加することはできません。 プロファイル管理関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager`
- `HKLM:\SOFTWARE\Policies\Citrix\UserProfileManager`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\UserProfileManager`

WEM関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Norskale`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale`
- `HKLM:\SOFTWARE\Policies\Norskale`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\WEM`
- `HKLM:\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale`

Virtual Delivery Agent (VDA) 関連のレジストリ:

- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent`
- `HKLM:\SOFTWARE\Citrix\VirtualDesktopAgent`
- `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent`
- `HKLM:\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Uninstall\Citrix Virtual Desktop Agent`

Windows関連のレジストリ:

- `HKCU:`:
- `HKEY_CURRENT_USER`
- `HKU:`:
- `HKEY_USERS`

WindowsおよびCitrixサービス関連のフォルダー:

- `c:\windows\system32`

- `\Citrix\User Profile Manager\`
- `\Citrix\Workspace Environment Management Agent\`
- `\Citrix\XenDesktopVdaSetup\`
- `\%windir\%\system32`

アプリアクセスルールをAADユーザー/グループおよびNDJマシンに割り当てる

AADユーザーまたはグループおよびNDJマシンにアプリアクセスルールを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. Webコンソールから**AAD/NDJオブジェクトセレクター**をクリックします。
2. **AAD/NDJオブジェクトセレクター**を使用して、目的のAADユーザーとNDJマシンを追加します。
3. ユーザーまたはマシンデータをコピーします。
4. **WEM Tool Hub** > **Rule Generator for App Access Control**に移動し、新しいアプリルールを作成します。
5. **Assignments**ページに移動し、データを貼り付けます。
6. **Done**をクリックして、アプリアクセスコントロールルールを作成します。
7. アプリアクセスコントロールルールをコピーします。
8. Webコンソール > **configure set** > **Profile Management settings** > **App access control**に移動し、そこにデータを貼り付けます。

クイックアクセス用のローカルアプリケーションを追加する

この機能を使用すると、ローカルアプリケーションをWEM Tool Hubに追加して、すばやくアクセスできます。追加されたアプリケーションは、個人データの一部と見なされます。Profile Management環境を使用中にマシンを切り替えても、データは保持されます。

アプリケーションを追加するには、WEM Tool Hubの右上隅にあるプラス記号をクリックし、アプリケーションに移動します。一度に複数のアプリケーションを追加できます。

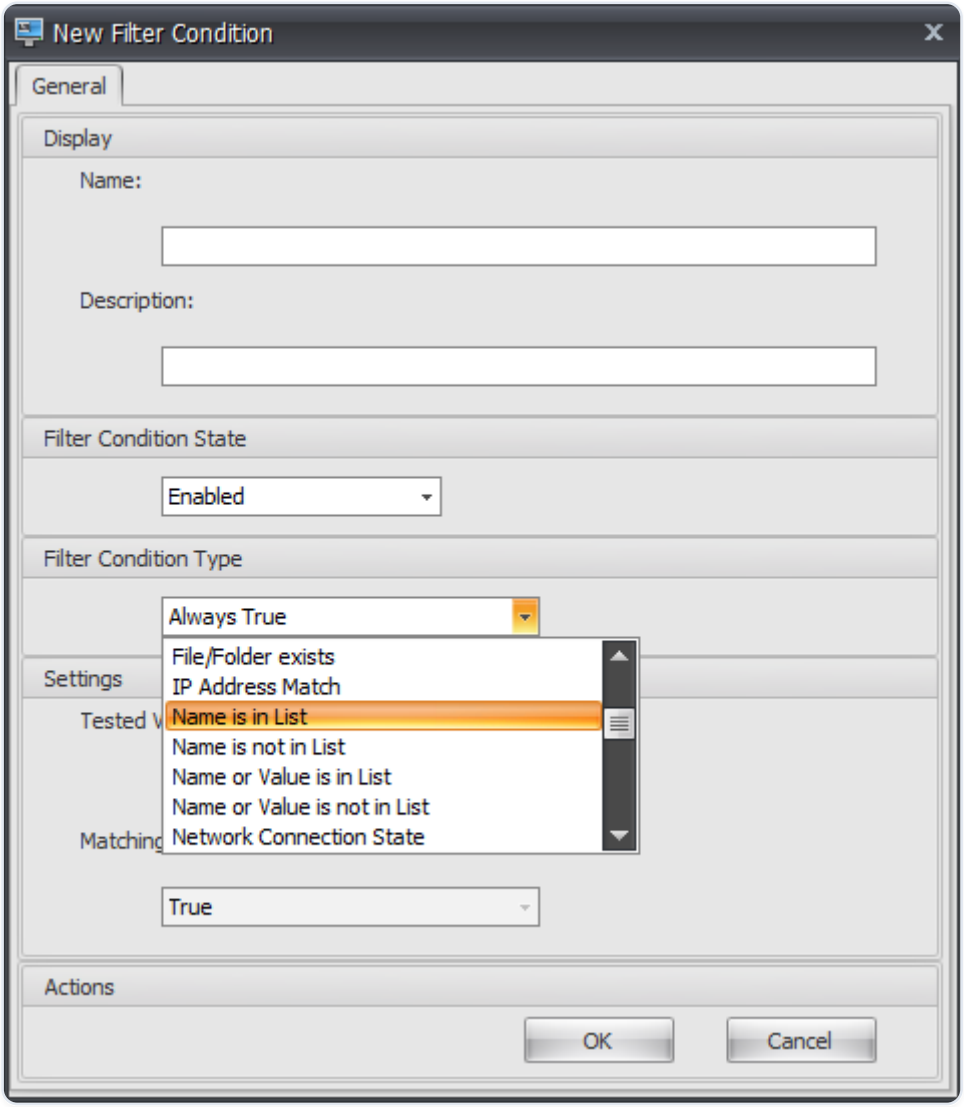
追加されたアプリケーションは、WEM Tool Hubにタイルとして表示されます。タイルをクリックすると、アプリケーションをすばやく起動できます。

> **注:**
>
> 追加したアプリケーションを削除するには、ゴミ箱アイコンをクリックします。

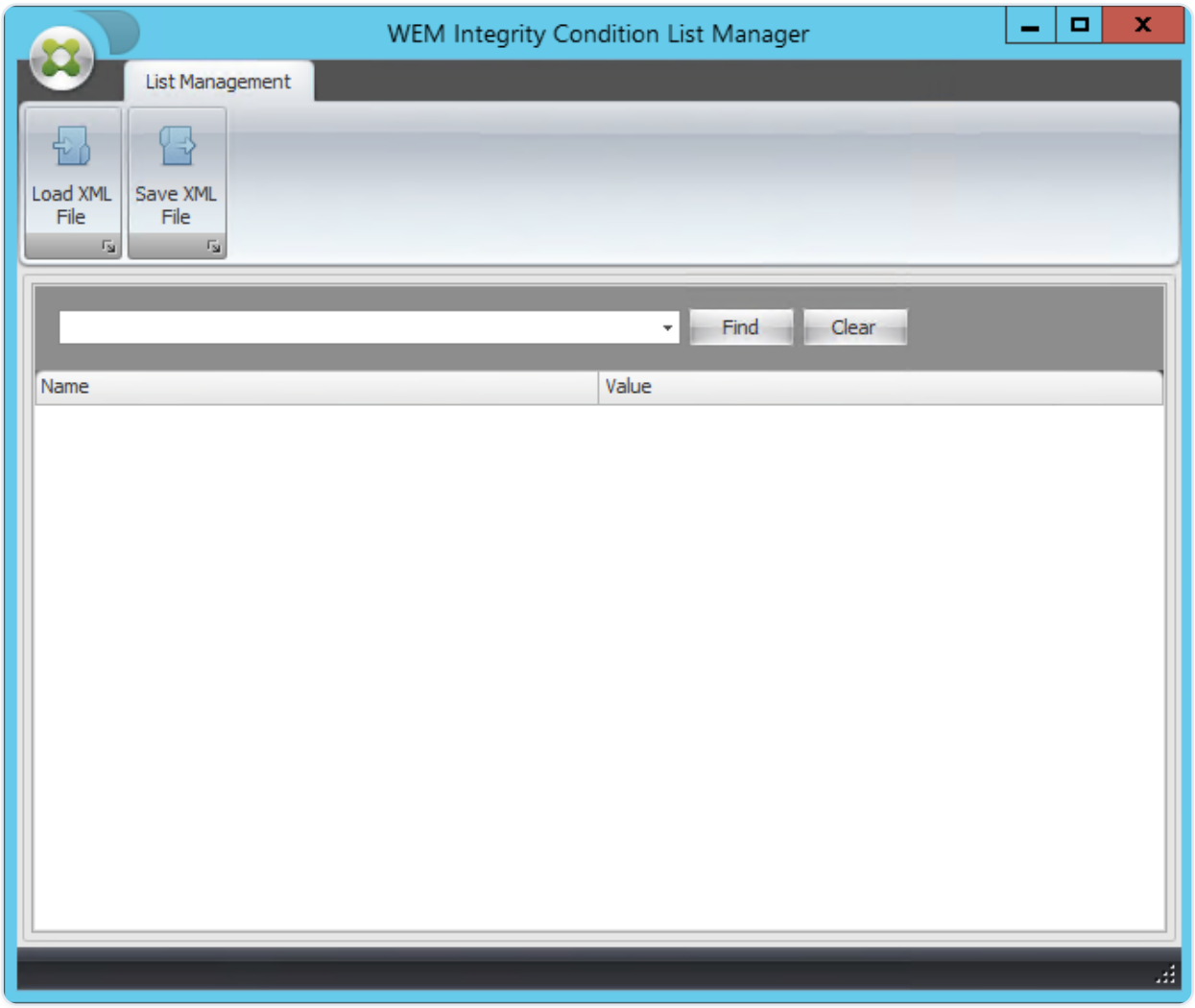
WEM整合性条件リストマネージャー

WEM整合性条件リストマネージャーは、フィルタリング目的のXMLファイルの作成に役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルター条件タイプで使用されます: **名前がリストにある**、**名前がリストにない**、**名前または値がリストにある**、および **名前または値がリストにない**。管理コンソールでのこれらの条件の使用方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

この記事では、WEM整合性条件リストマネージャーを使用してフィルタリング目的のXMLファイルを作成する方法について説明します。たとえば、**名前がリストにある**と組み合わせてWEM整合性条件リストマネージャーを使用してアクションをフィルター処理するとします。

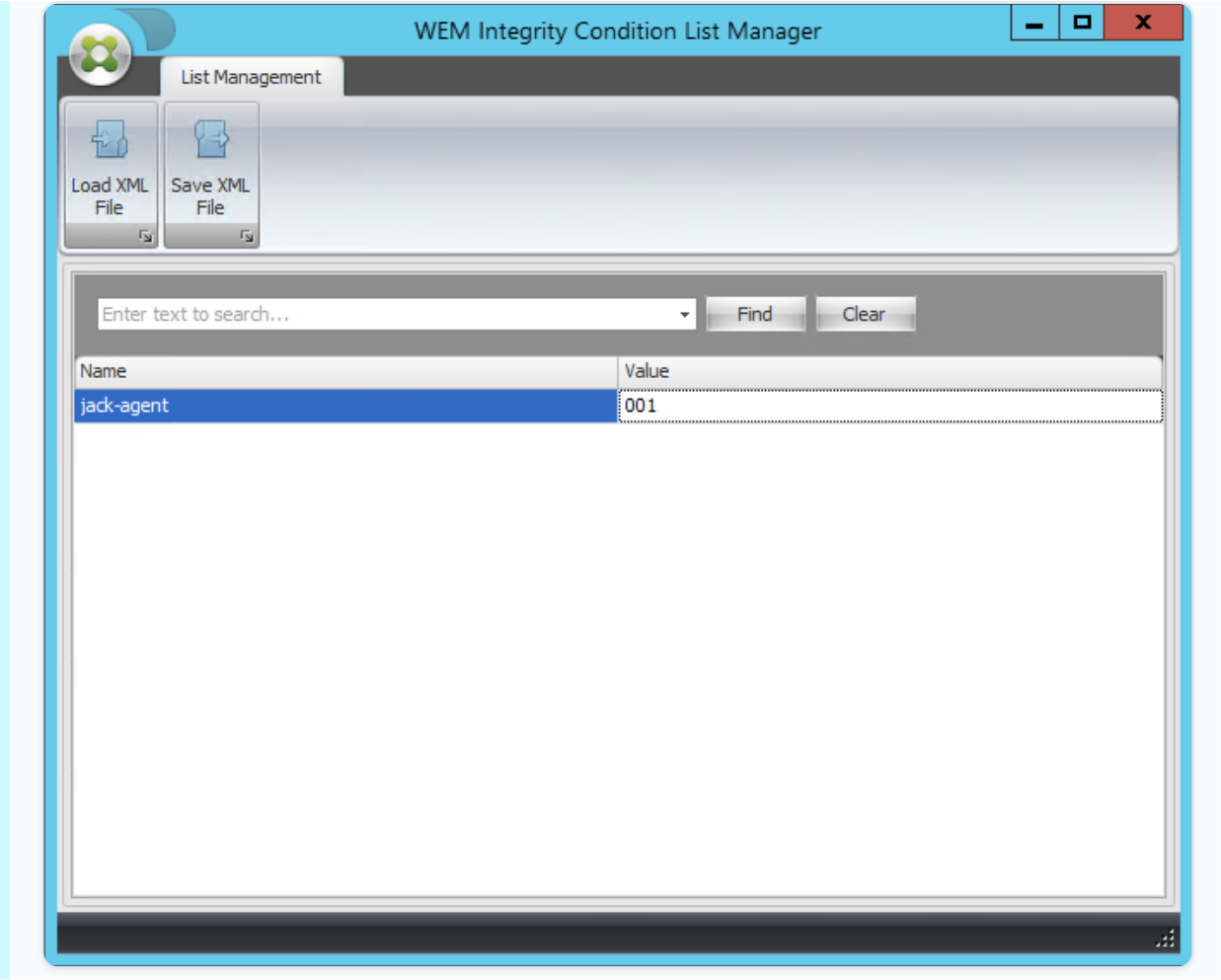


1. WEM整合性条件リストマネージャーを開きます。

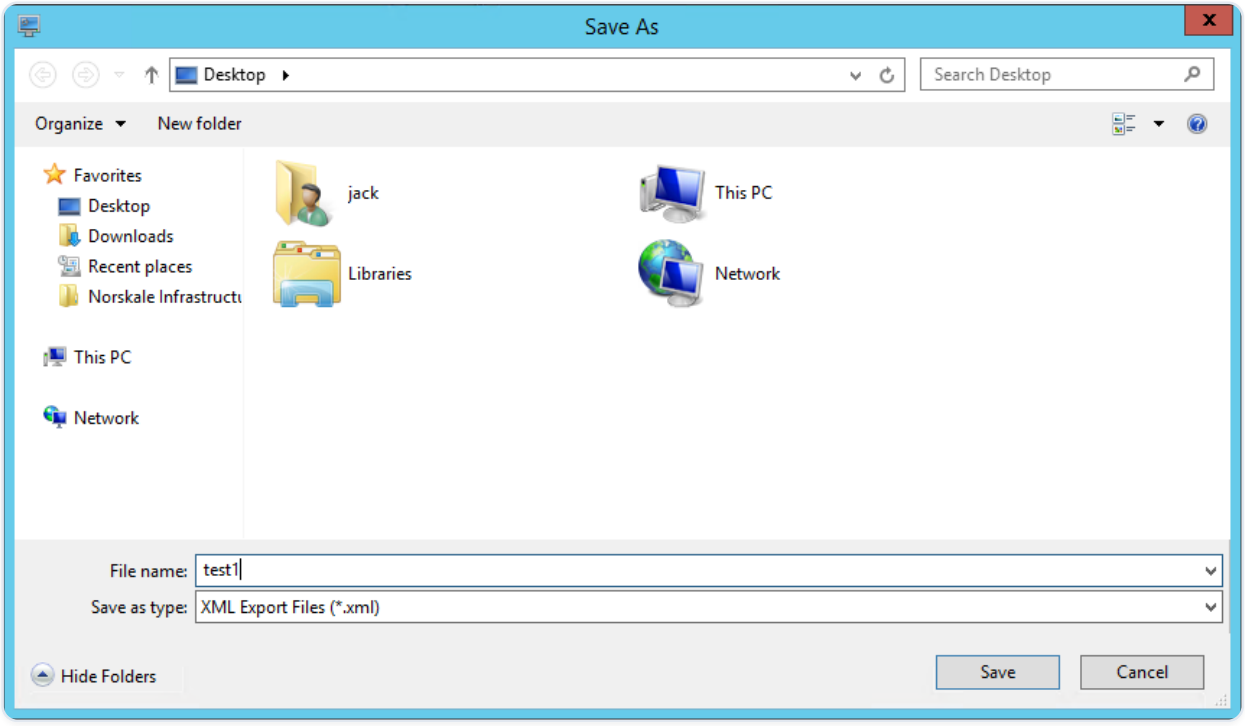


2. 空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。
3. **名前**フィールドに名前を入力します。

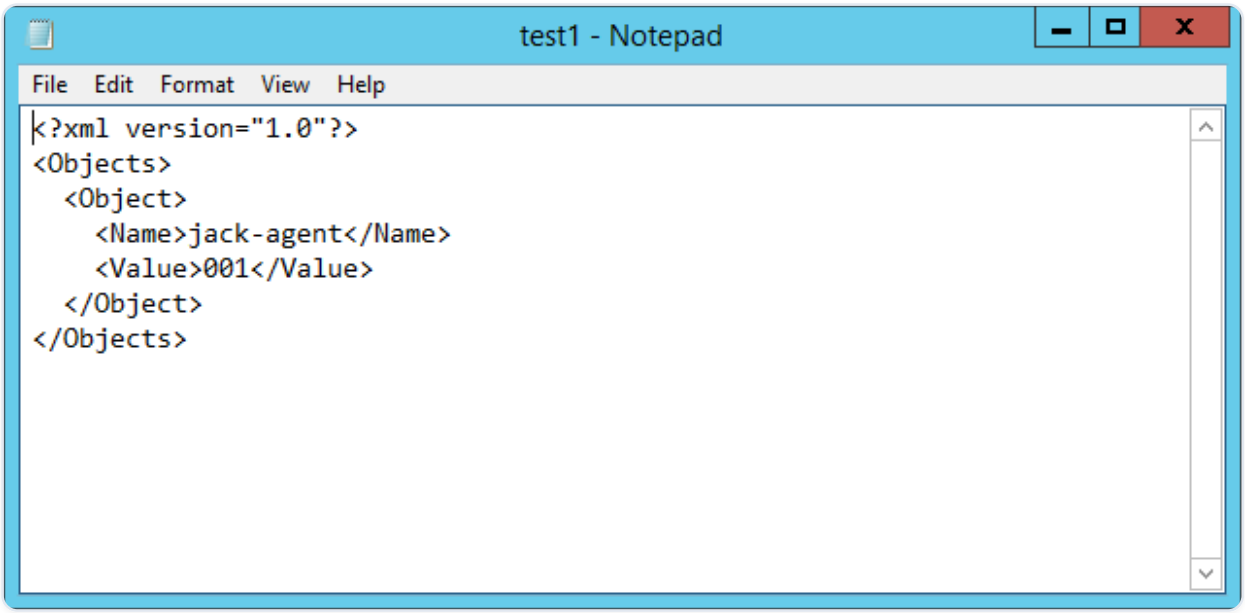
> **注:**
>
> WEMエージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力します。



4. **XMLファイルの保存**をクリックし、目的のフォルダーを参照して、**保存**をクリックします。



5. 保存したXMLファイルを開き、提供した情報が正しく保存されていることを確認します。



6. 保存したXMLファイルをエージェントホスト上のフォルダーにコピーします。

> **注:**
>
> この機能は、XMLファイルを管理コンソールマシンに保存した場合、動作しません。

7. **Administration Console \> Filters \> Conditions \> Filter Condition List**タブに移動し、**Add**をクリックします。

   管理コンソール 1(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-integrity-condition-list-manager-06.png)

8. 情報を入力し、**OK**をクリックします。

   新しいフィルター条件(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-integrity-condition-list-manager-07.png)

> **注:**
>
> - **フィルター条件タイプ。名前がリストにある**を選択します。
> - **XMLリストファイル**: `C:\Users\<user1>\Desktop\test1.xml` (エージェントホスト上のファイルアドレス)
> - **テスト値**。WEM整合性条件リストマネージャーの**名前**フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマ

> シン（エージェントホスト）の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」を使用する必要があります。動的トークンの使用方法の詳細については、「動的トークン」を参照してください。

9. **Administration Console \> Filters \> Rules \> Filter Rule List**タブに移動し、**Add**をクリックします。

   管理コンソール 2(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-integrity-condition-list-manager-08.png)

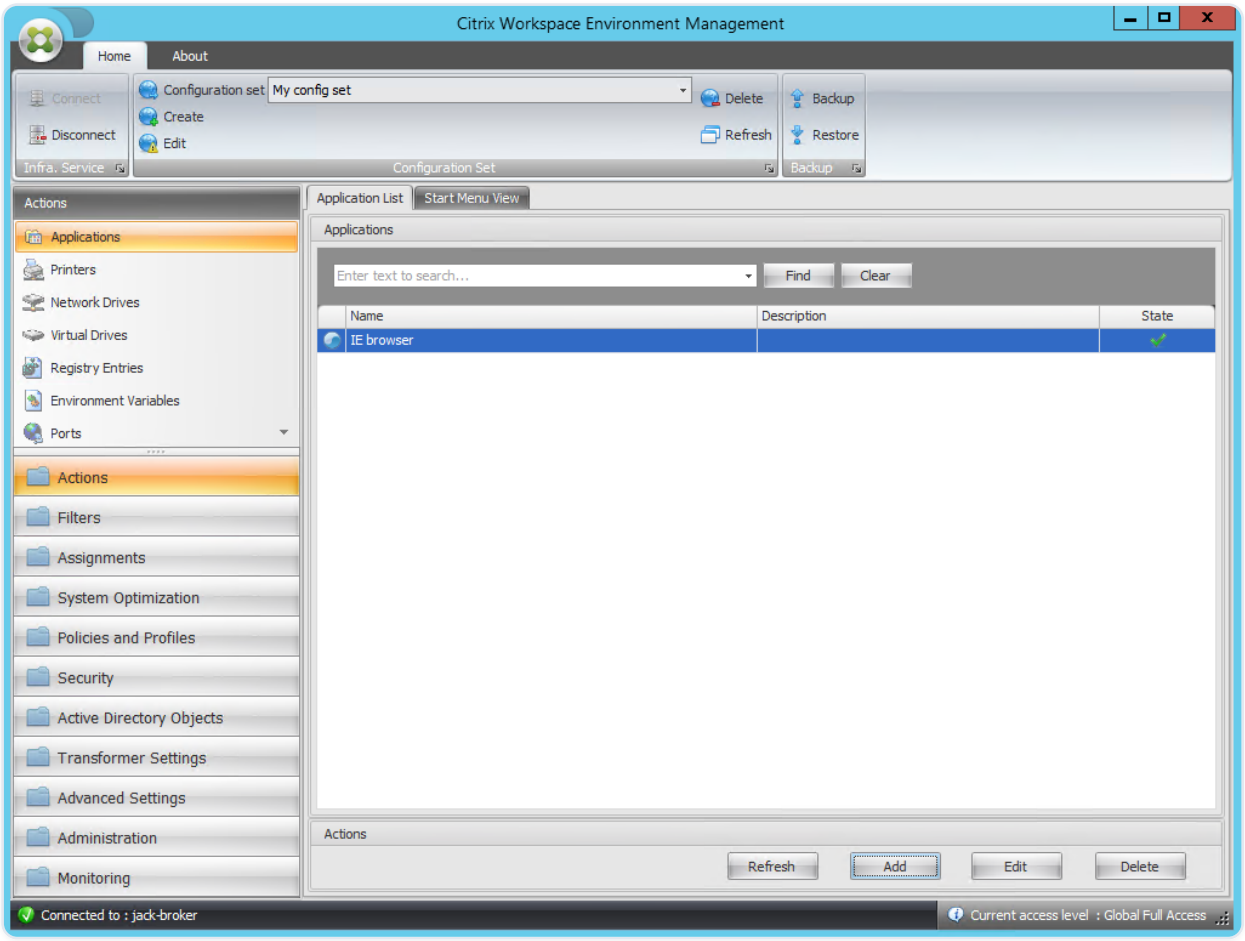
10. **名前**フィールドにフィルター名を入力します。

    新しいフィルター規則 1(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-integrity-condition-list-manager-09.png)

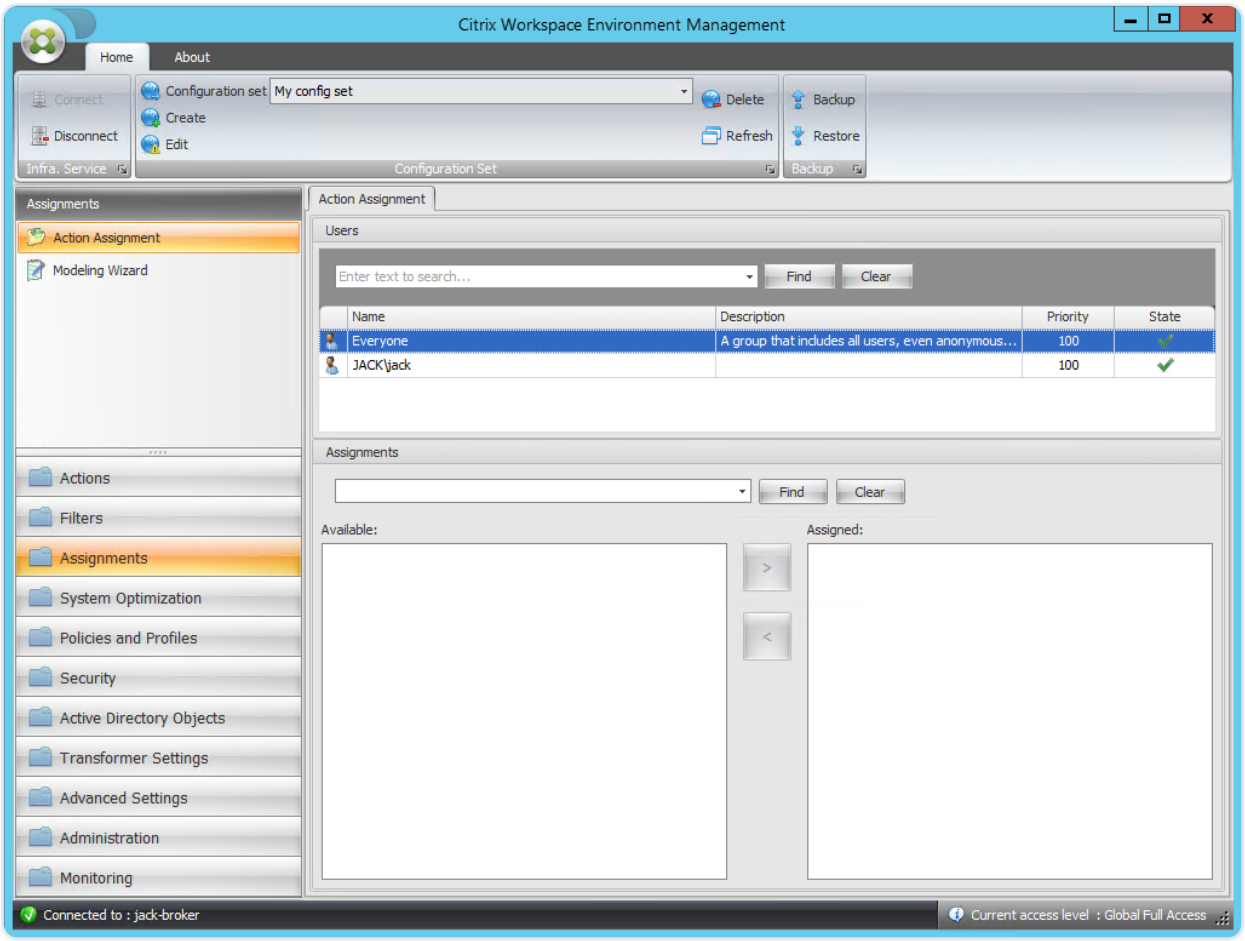
11. 設定済みの条件を**利用可能**ペインから**構成済み**ペインに移動し、**OK**をクリックします。

    新しいフィルター規則 2(/en-us/workspace-environment-management/2411/media/wem-integrity-condition-list-manager-10.png)

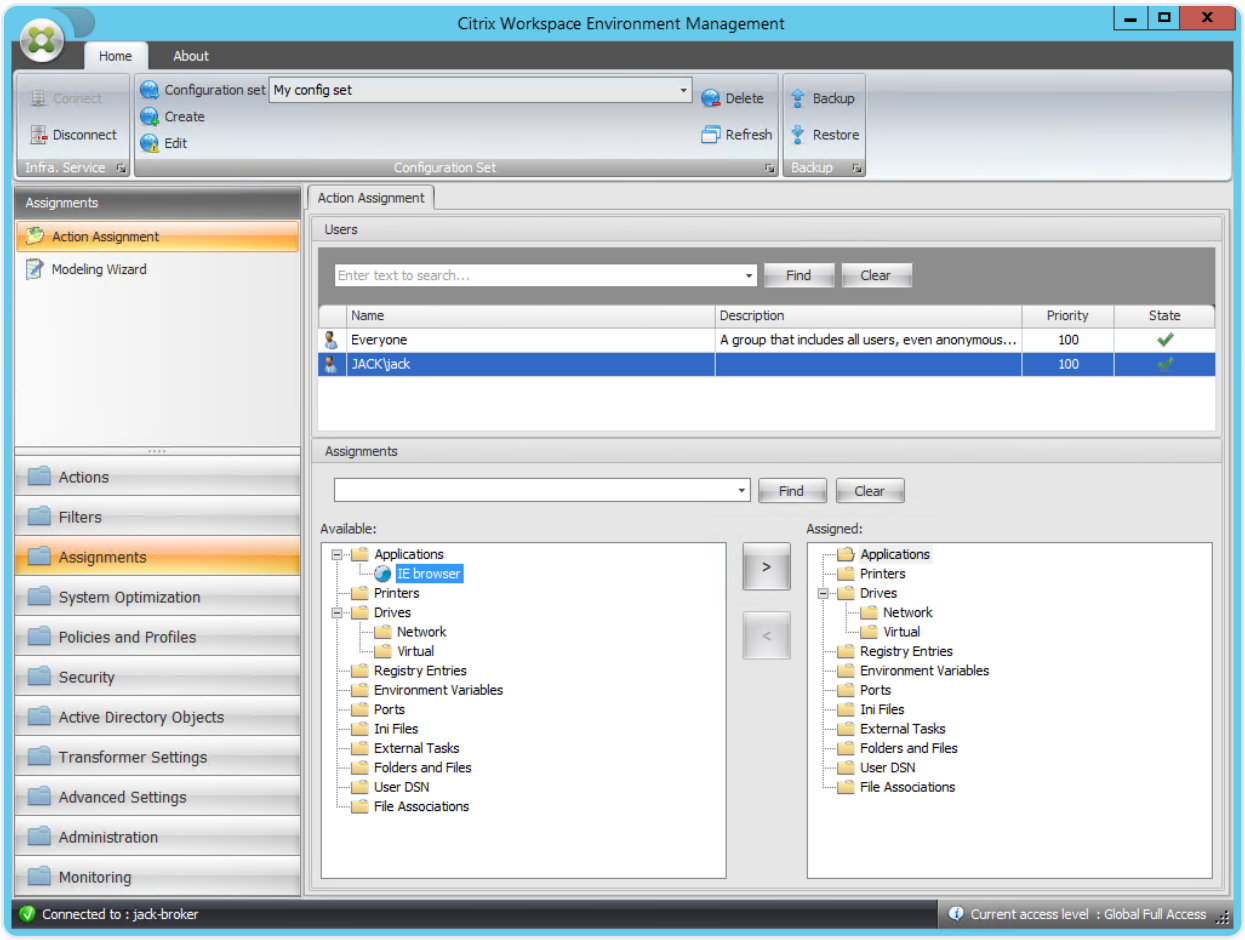
12. **Administration Console \> Actions \> Applications \> Application List**タブに移動し、アプリケーションを追加します。



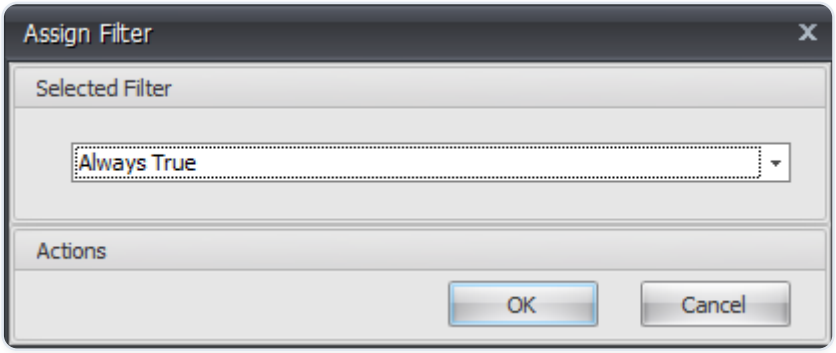
13. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。



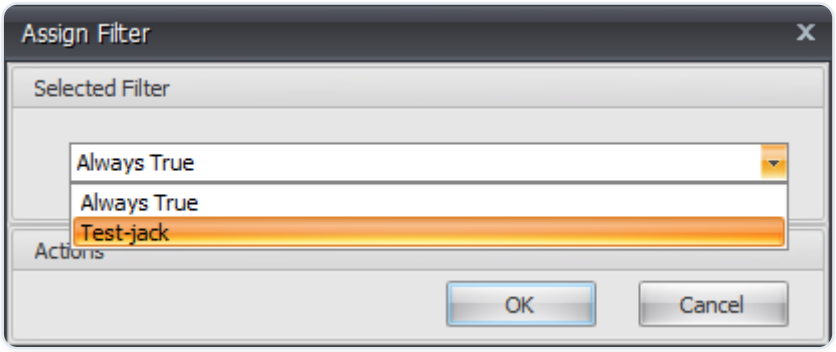
14. 目的のユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします（この例では、エージェントホストを選択します）。



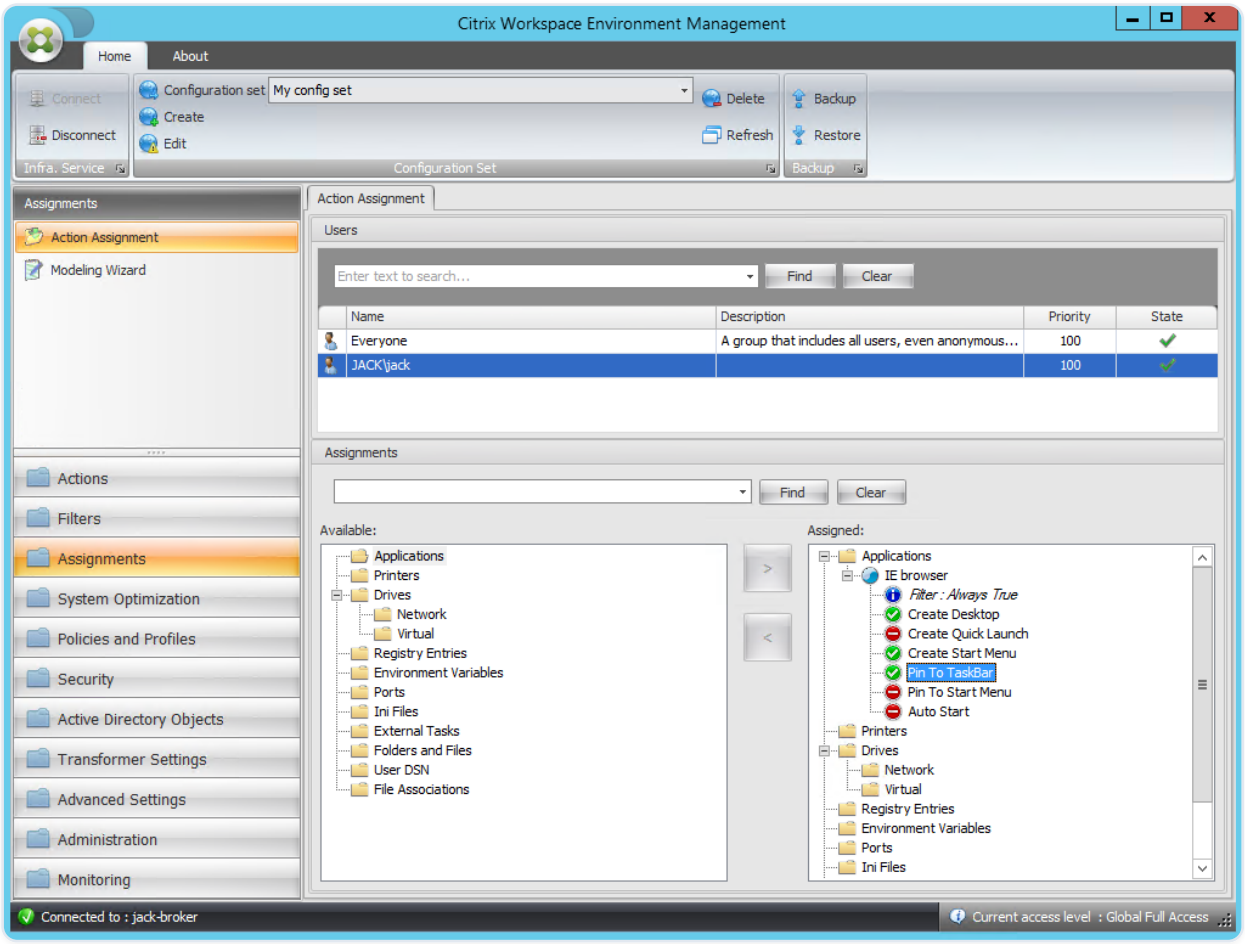
15. **利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインにアプリケーションを移動します。



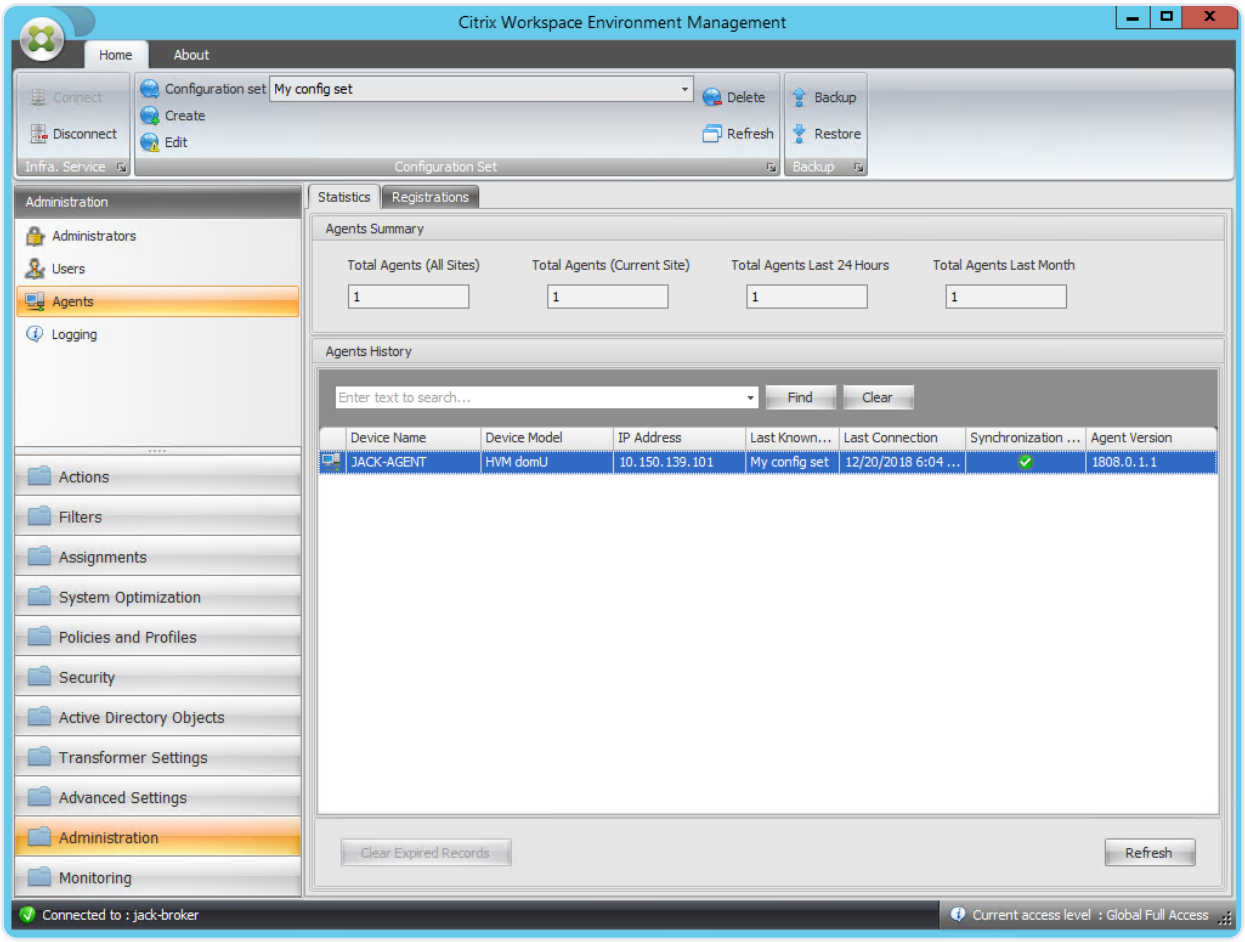
16. フィルターを選択し、**OK**をクリックします。



17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします（この例では、**デスクトップの作成**と**タスクバーにピン留め**を有効にします）。

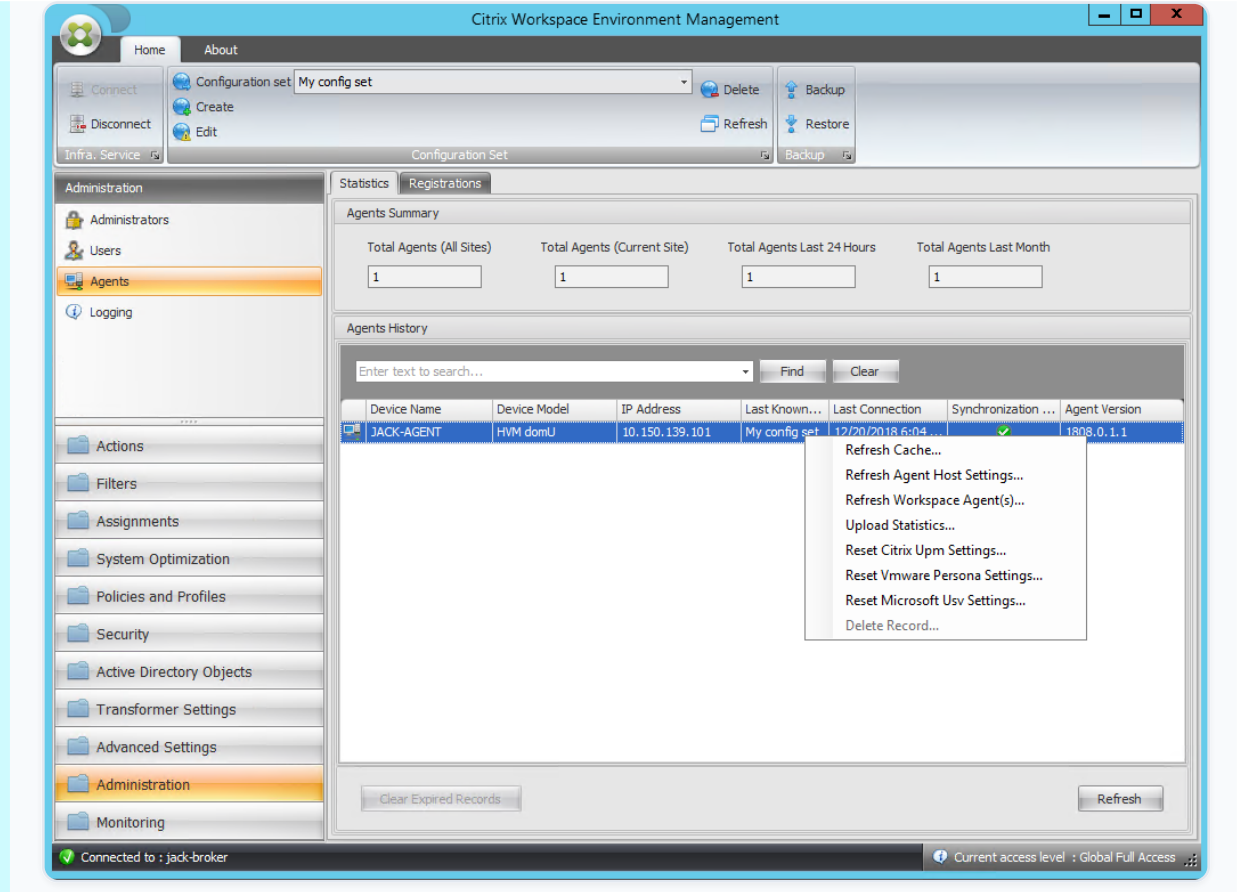


18. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。

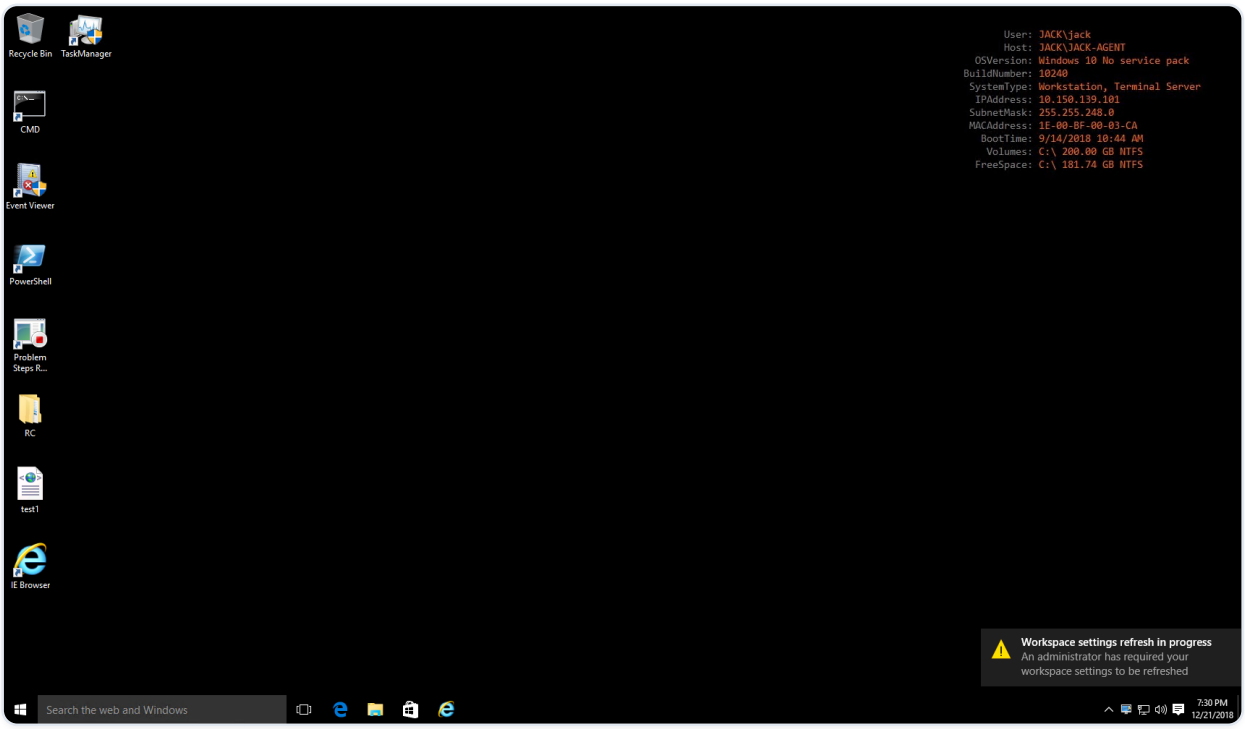


19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

> **注:**
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動し、Citrix WEM Agent を更新することもできます。



20. 構成された条件が機能することを確認するために、エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられました。デスクトップに作成され、タスクバーにピン留めされました。

XMLプリンターリストの構成

Workspace Environment Management™には、XMLプリンターリストファイルを使用してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XMLプリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで**アクションの種類**オプションを**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**に設定して、プリンターアクションを作成します。

> **注:**
>
> 特定のWindows資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされます。

XMLプリンターリストファイルの構造

XMLファイルはUTF-8でエンコードされており、次の基本的なXML構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...

    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連デバイスは、次の種類のオブジェクトで表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>

               ...

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

デバイスの各ブロックは、特定のクライアントまたはコンピューター名と一致している必要があります。**\<Key>タグには関連する名前が含まれます。\<Value>タグには、指定されたクライアントに割り当てられたプリンターと一致するVUEMUserAssignedPrinter**オブジェクトのリストが含まれます。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

            <Key>DEVICE1</Key>

            <Value>

                <VUEMUserAssignedPrinter>

             ...

                </VUEMUserAssignedPrinter>

            </Value>

        </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMUserAssignedPrinterタグの構文

構成された各プリンターは、次の属性を使用して**\<VUEMUserAssignedPrinter>**タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>。これは、構成されたプリンターのWorkspace Environment Managementプリンター**ID**です。各プリンターは異なるIDを持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management管理コンソールで構成されたXMLプリンターリストアクションも、独自のIDを持つプリンターアクションであり、XMLリストで個別に構成されたプリンターのIDとは異なる必要があります。

\<IdSite>。関連するWorkspace Environment ManagementサイトのサイトIDが含まれます。これは既存のサイトのIDと一致する必要があります。

\<State>。プリンターの状態を指定します。1はアクティブ、0は無効です。

\<ActionType>。常に0である必要があります。

\<UseExtCredentials>。0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>。1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>。常に1である必要があります。

\<RevisionId>。常に1である必要があります。プリンターのプロパティが後で変更された場合、この値を1増やしてエージェントホストに通知し、プリンターアクションが再処理されるようにします。

\<Name>。これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白に**できません**。

\<Description>。これは、Workspace Environment Management Agent Hostによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にできます。

\<DisplayName>。これは使用されておらず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>。これはプリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>。接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>。接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>。これには詳細設定が含まれています。いかなる方法でも**変更しないでください**。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/
Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復をアクティブにするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、強調表示された**0**の値を**1**に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター**DEVICE1**に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNCパス`\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series`上の**HP LaserJet 2200 Series** (デフォルトプリンター)
- UNC パス `\\server.example.net\Canon C5531i Series` 上の **Canon C5531i Series** プリンター

また、クライアントまたはコンピューター DEVICE2 に、1つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- UNC パス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series` 上の **HP LaserJet 2200 Series** プリンター

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>
```

```
            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>1</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>
```

```
      <Value>
            <VUEMUserAssignedPrinter>
                <IdPrinter>2</IdPrinter>
                <IdSite>1</IdSite>
                <State>1</State>
                <ActionType>0</ActionType>
                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>
                <isDefault>0</isDefault>
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
                <RevisionId>1</RevisionId>
                <Name>Canon C5531i Series</Name>
                <Description />
                <DisplayName />
                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>
                <ExtLogin />
                <ExtPassword />
                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>
            </VUEMUserAssignedPrinter>
```

```
        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE2</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
```

```
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。